

**令和2年度
市政世論調査結果報告書**

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で51回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居住意向について」「越谷市への愛着度と魅力配信について」「越谷市の伝統的手工芸品について」「市内の公共交通について」「景観（風景）について」「地域医療体制について」「人権全般に関する意識について」「男女共同参画について」「自殺防止について」「自治基本条例について」「多文化共生のまちづくりについて」「マイナンバー制度について」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「広報について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

令和2年11月

越谷市長 高橋 努

目 次

第 1 章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第 2 章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第 3 章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 越谷市への愛着度と魅力配信について	17
3. 越谷市の伝統的手工芸品について	17
4. 市内の公共交通について	17
5. 景観（風景）について	18
6. 地域医療体制について	18
7. 人権全般に関する意識について	18
8. 男女共同参画について	19
9. 自殺防止について	19
10. 自治基本条例について	19
11. 多文化共生のまちづくりについて	20
12. マイナンバー制度について	20
13. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	20
14. 広報について	20
15. 越谷市の施策について	21

第4章 調査結果の詳細	23
1. 暮らしや居住意向について.....	25
(1) 暮らしやすいと感じるまち.....	25
(2) 現在の暮らし向き.....	27
(3) 居住意向.....	33
(4) 転居意向の理由.....	39
(5) 越谷市に住み暮らすことを勧めたいか.....	45
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について.....	47
(1) 越谷市への愛着.....	47
(2) 愛着がある理由.....	49
(3) 越谷市の誇れるもの.....	51
3. 越谷市の伝統的手工芸品について.....	53
(1) 越谷市の伝統的手工芸品の認知度.....	53
(2) 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み.....	56
4. 市内の公共交通について.....	58
(1) 公共交通の利用有無.....	58
(2) 公共交通の満足度.....	60
5. 景観（風景）について.....	62
(1) 景観（風景）の満足度.....	62
(2) 行政に望むこと.....	64
6. 地域医療体制について.....	66
(1) 地域医療体制の認知度.....	66
(2) 医療機関の情報の入手方法.....	69
(3) 夜間や休日における急病の対応.....	71
7. 人権全般に関する意識について.....	73
(1) 基本的人権の意識.....	73
(2) 人権意識の変化.....	75
(3) 関心のある人権問題.....	77
(4) 人権侵害を感じたこと.....	79
(5) 人権侵害を感じた内容.....	81

8. 男女共同参画について	83
(1) 各分野での男女平等	83
(2) 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか	86
(3) LGBTなどの人たちのために必要な取組み	88
(4) 男女共同参画施設が今後力を入れること	90
9. 自殺防止について	92
(1) 自殺（自死）したいと考えたこと	92
(2) 自殺（自死）したいと考えた理由	94
(3) 自殺（自死）について相談する相手	96
(4) 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度	98
(5) 自殺防止に最も効果的な対策	100
10. 自治基本条例について	102
(1) 「越谷市自治基本条例」の認知度	102
(2) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	104
(3) 市政に参加する方法	106
(4) 関心のあるまちづくりの分野	108
(5) 越谷市のまちづくりのためにできること	110
11. 多文化共生のまちづくりについて	112
(1) 外国人市民とのつき合い	112
(2) 外国人市民との関係で困った経験	114
(3) 「多文化共生」という言葉の認知度	116
(4) 「多文化共生のまち」づくりのために、市が力を入れるべきこと	118
12. マイナンバー制度について	120
(1) マイナンバーカードの保有率	120
(2) マイナンバーカードの利用目的	122
(3) マイナンバーカードの取得予定	124
(4) マイナンバー制度に期待すること	126
13. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	128
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	128
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	130
(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果	132
(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	134
(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）	136
(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）	138
(7) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）	140

14. 広報について	142
(1) 市政情報を得ているもの	142
(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの	144
(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想	146
(4) 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点	148
(5) 広報こしがや「季刊版」の感想	149
(6) 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点	151
15. 越谷市の施策について	152
(1) よくなってきたと感じるもの	152
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	155
(3) 自由回答	158
第5章 調査票	163

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (6) 調査期間：令和2年6月19日～令和2年7月3日

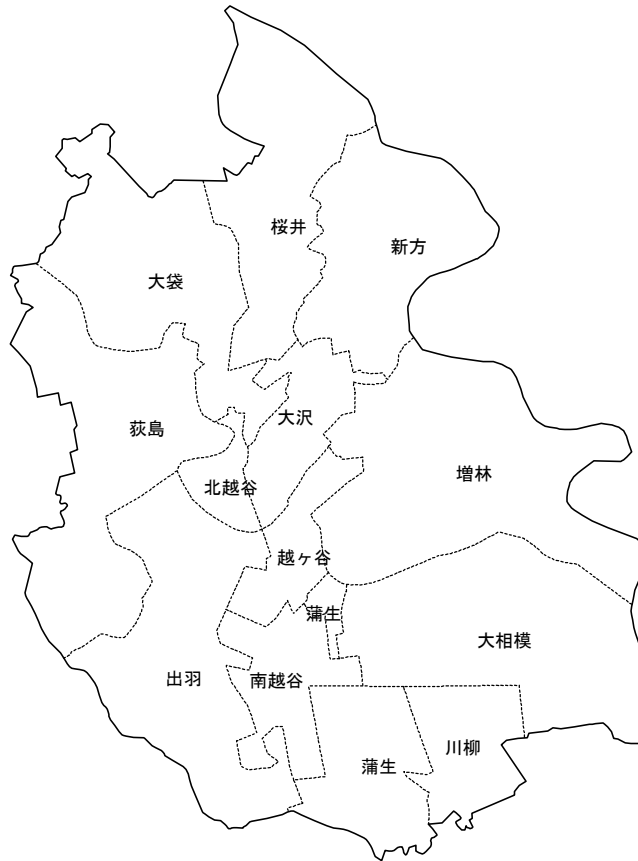
3. 回収状況

	票数	回収率
配布数	5,000	
回収数	2,925	58.5%
有効回収数	2,925	58.5%

4. 調査項目

調査項目
(1) 基本属性（問1～問7）
(2) 暮らしや居留意向について（問8～問11）
(3) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問12～問13）
(4) 越谷市の伝統的手工芸品について（問14～問15）
(5) 市内の公共交通について（問16～問17）
(6) 景観（風景）について（問18～問19）
(7) 地域医療体制について（問20～問22）
(8) 人権全般に関する意識について（問23～問26-2）
(9) 男女共同参画について（問27～問30）
(10) 自殺防止について（問31～問34）
(11) 自治基本条例について（問35～問38）
(12) 多文化共生のまちづくりについて（問39～問42）
(13) マイナンバー制度について（問43～問44）
(14) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問45～問46）
(15) 広報について（問47～問50-2）
(16) 越谷市の施策について（問51～問52）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b : 信頼度95%の標本誤差

N : 母集団のサイズ

n : 有効回収数 (=2,925)

P : サンプルの回答比率

ただし、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

回答比率 (P) 基数 (n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±0.9%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.3%	±1.4%
2,925	±0.8%	±1.1%	±1.4%	±1.7%	±1.8%	±1.8%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

(小数点以下第2位を四捨五入)

7. 集計結果の有意性について

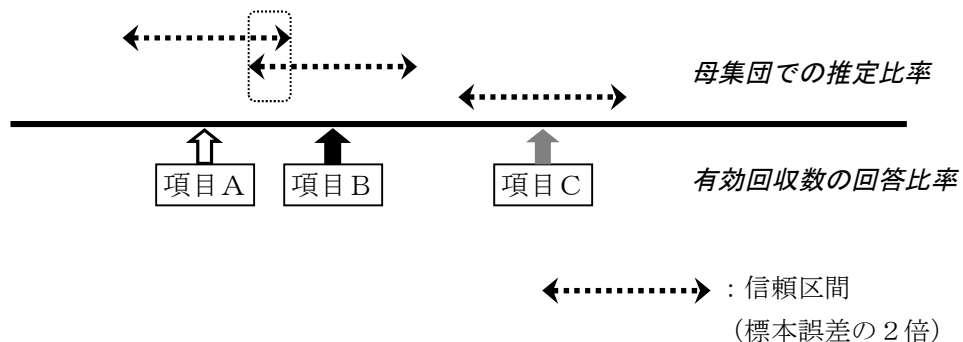
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,925票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は±1.8%となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差±1.8%分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 1.8\%$ (=48.2%~51.8%) という一定の幅を持った値（信頼区間）として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が3.6%（標本誤差の2倍）以上でなければ意味をなさない（有意性を持たない）ものとなる（下図参照）。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票程度の回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において±9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の本標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,925票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間（今回の調査の場合は3.6%程度）未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

＜項目Bは項目Aよりも有意に高いとはいえない場合＞



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 複数の選択肢を合計した『〇〇〇』の数値は算出したものであり、図表中の選択肢の数値の合計と一致しない場合がある。
- (7) 図表中の「-」は該当者なしを表す。
- (8) 割合の表記については、下記のとおり。

例 40%台

表記	約4割(4割)	4割強	4割半ば	5割弱	約5割(5割)
範囲	39.0~41.9% (40.0%)	42.0~43.9%	44.0~46.9%	47.0~48.9%	49.0~51.9% (50.0%)

- (9) 文中の「若年層」「中年層」「高齢層」については、下記の年齢層を示す。

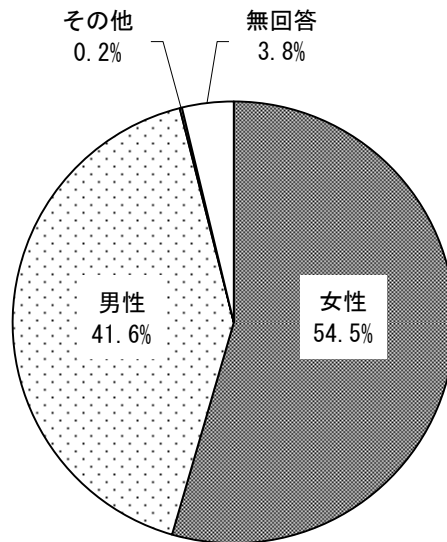
表記	若年層	中年層	高齢層
年齢層	18~29歳	40~49歳	60~69歳
	30~39歳	50~59歳	70歳以上

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

1. 性別

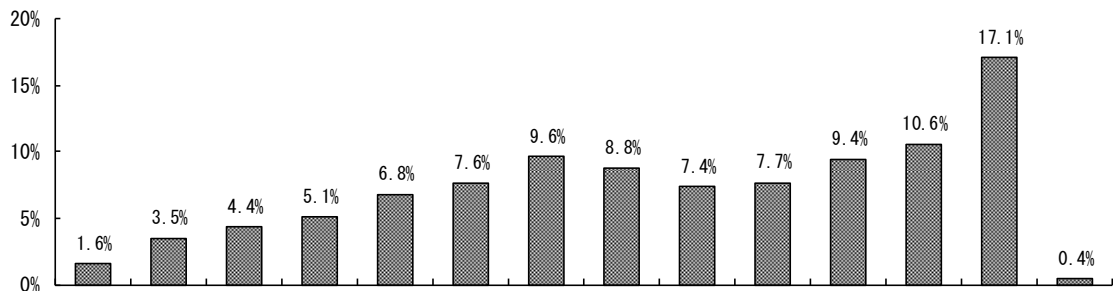
問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)



(n=2, 925)

2. 年代

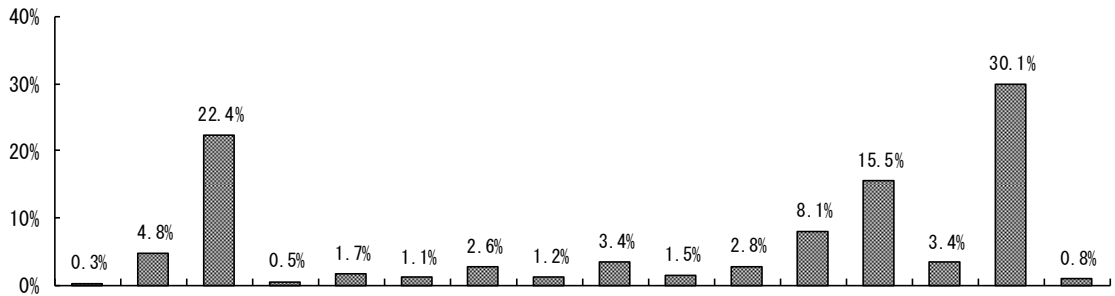
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18歳以下	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	75歳以上	無回答
合計	2,925(人)	46	102	128	149	199	223	282	256	216	225	276	310	500	13	
	100.0(%)	1.6	3.5	4.4	5.1	6.8	7.6	9.6	8.8	7.4	7.7	9.4	10.6	17.1	0.4	
女性	1,594(人)	27	55	75	94	110	129	152	136	120	115	153	181	242	5	
	100.0(%)	1.7	3.5	4.7	5.9	6.9	8.1	9.5	8.5	7.5	7.2	9.6	11.4	15.2	0.3	
男性	1,216(人)	18	47	47	53	84	90	122	112	91	107	118	120	203	4	
	100.0(%)	1.5	3.9	3.9	4.4	6.9	7.4	10.0	9.2	7.5	8.8	9.7	9.9	16.7	0.3	
その他	5(人)	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0(%)	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無回答	110(人)	1	0	2	1	5	4	8	8	5	3	5	9	55	4	
	100.0(%)	0.9	0.0	1.8	0.9	4.5	3.6	7.3	7.3	4.5	2.7	4.5	8.2	50.0	3.6	

3. 職業

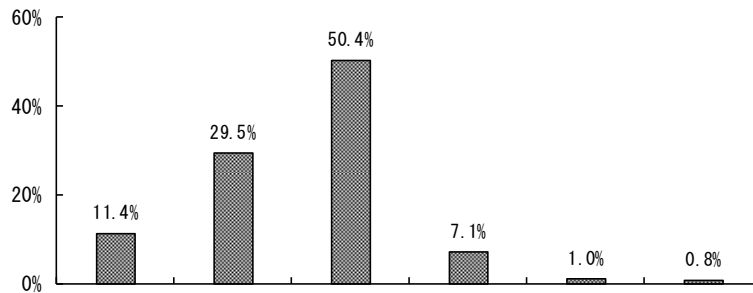
問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	(アルバイト含む)	その他	無職 (年金生活を含む)	無回答
合計	2,925(人)	9	139	654	15	49	32	77	34	99	44	82	236	454	98	879	24
	100.0(%)	0.3	4.8	22.4	0.5	1.7	1.1	2.6	1.2	3.4	1.5	2.8	8.1	15.5	3.4	30.1	0.8

4. 世帯の状況

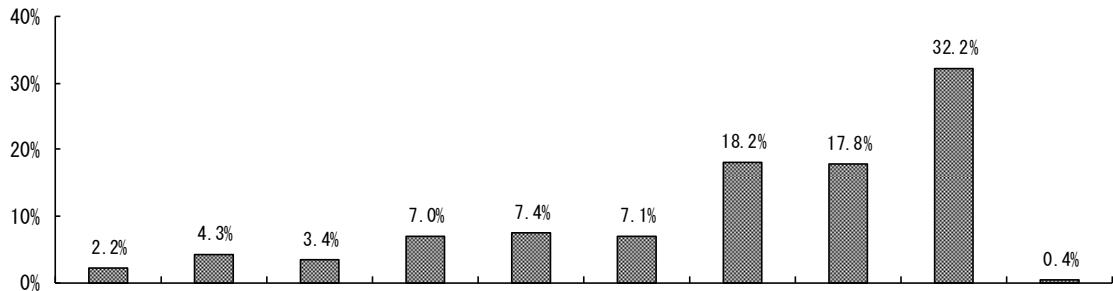
問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	単身世帯 (ひとり暮らし)	一世帯世帯 (夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)	二世帯世帯 (親子など)	三世帯世帯 (親と子と孫など)	その他	無回答
合計	2,925(人)	332	862	1473	207	29	22
	100.0(%)	11.4	29.5	50.4	7.1	1.0	0.8

5. 居住年数

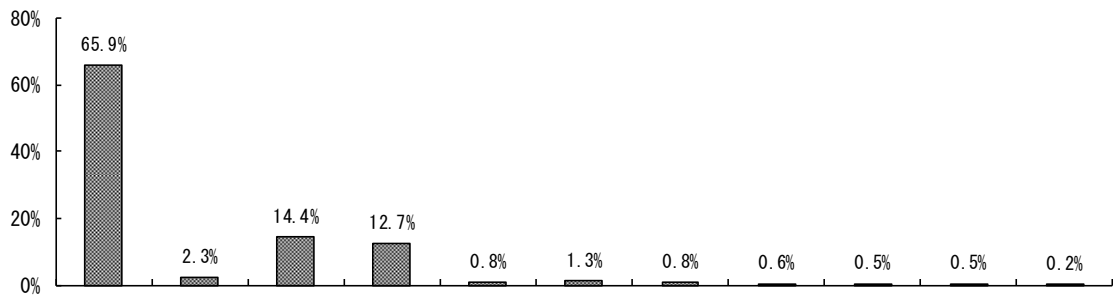
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



	調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40年以上	無回答
合計	2,925(人) 100.0(%)	63 2.2	126 4.3	100 3.4	204 7.0	217 7.4	207 7.1	532 18.2	522 17.8	942 32.2	12 0.4

6. 居住形態

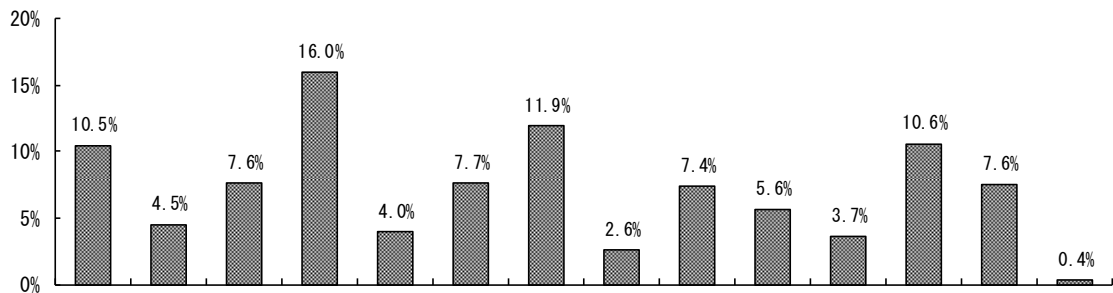
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	民間賃貸マンション・アパート	公団・公社等分譲マンション	公団・公社等賃貸マンション	社宅・官舎	間借り・下宿・寮・寄宿舎	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	2,925(人) 100.0(%)	1929 65.9	67 2.3	420 14.4	372 12.7	23 0.8	39 1.3	22 0.8	17 0.6	14 0.5	16 0.5	6 0.2

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,925(人)	306	133	223	468	116	224	348	76	216	165	107	310	222	11
	100.0(%)	10.5	4.5	7.6	16.0	4.0	7.7	11.9	2.6	7.4	5.6	3.7	10.6	7.6	0.4

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

越谷市における暮らし向きについては、6割強が『満足』（「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」の合計）と回答しており、『定住意向』（「ずっと住み続けたい」と「どちらかと言えば住み続けたい」の合計）は7割半ばとなっている（図表 1-2-1、図表 1-3-1）。“暮らしやすいと感じるまち”を形成する要件としては、「災害に強く犯罪が少ない安全性の高いまち」、「都心へのアクセスがよく交通の利便性が高いまち」が性・年齢を問わず過半数に求められている。また、「レジャー施設や商業施設、飲食店等が充実するなど娯楽性が高いまち」も若年層を中心に多くなっており、特に女性 18～29 歳において、越谷市に住むことを『勧めたい』（「大いに勧めたい」、「勧めたい」、「どちらかという勧めたい」の合計）が8割強と高くなっている（図表 1-1-2、図表 1-5-2）。一方、逆にこれらの要求が満たされない場合、転居意向を高める要因となっており、今年度は「交通の便が悪いので」転居を考える割合（2割弱）が最も多くなっている（図表 1-4-1）。

2. 越谷市への愛着度と魅力配信について

越谷市に『愛着がある』割合（「とても愛着がある」、「愛着がある」、「やや愛着がある」の合計）は約7割を占めている（図表 2-1-1）。愛着がある理由は、「交通の利便性がよく、都内等に近い」が、高齢層を中心に7割台を占め、男性 30 歳代を除く全年代で最多となっている。また、若年層を中心に5割半ば～6割強を占める「ショッピング施設や商店街が豊富」、高齢層が4割半ば～5割半ばを占める「自然（水辺空間、農地等）」が多く残されている」など、年代毎に傾向が異なる（図表 2-2-2）。一方、越谷市の誇れるものについては、上位2項目の「イオンレイクタウン」（6割半ば）と「南越谷阿波踊り」（約4割）を除き、それ以外の項目は約2割～1割未満となっている（図表 2-3-1）。

3. 越谷市の伝統的手工芸品について

越谷市の伝統的手工芸品のうち、「越谷手焼きせんべい」と「越谷だるま」は認知度が6割を超え、前者は購入経験も3割半ばと5品目中最も高くなっている。また、「越谷ひな人形」も認知度が5割を超えるが、「越谷甲冑」（3割強）と「越谷桐箱・桐工芸品」（約4割）は認知度が5割未満となっている。「越谷だるま」を除く4品目は40歳代以下で認知度が5割未満と低くなっている（図表 3-1-1、図表 3-1-2）。

越谷市に期待される取組みとして、4割弱が「技術の継承（後継者の育成）」をあげている。それに加え、「見学・体験などの受入れ」（3割強）、「デザイン性に優れた新商品の開発」（3割弱）なども求められている（図表 3-2-1）。

4. 市内の公共交通について

公共交通を『よく利用している』割合（「常に利用している」と「よく利用している」の合計）は、鉄道が4割強を占め、約1割のバス、1割未満のタクシーに比べ多くなっている。また、鉄道の利用者は若年層の女性、若年層～中年層の男性が多いのに対し、バス、タクシーは比較的高齢層の利用者が多くなっている（図表 4-1-1、図表 4-1-2）。

満足度についても、鉄道が8割を超えるのに対し、バスとタクシーは5～6割と差が生じている（図表 4-2-1）。

5. 景観（風景）について

地区の景観に『満足』している割合（「満足している」と「十分とはいえないが、おおむね満足している」の合計）は7割弱となっており、1割半ばの『不満』（「やや不満である」と「とても不満である」の合計）を大きく上回っている。特に若年層で景観への評価が高い一方、男性50歳代は『不満』を感じる割合が高くなっている（図表 5-1-1、図表 5-1-2）。

行政に対しては、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（約5割）と「目標や基本方針を住民に示す」（4割強）ことが求められており、前者は若年層～中年層の女性、後者は高齢層を中心に多くなっている（図表 5-2-1、図表 5-2-2）。

6. 地域医療体制について

越谷市の地域医療体制に関し、「越谷市夜間急患診療所」と「休日当番医制度」については、認知度が7割以上となっている。また、「埼玉県救急電話相談（#7119）」も約5割に認知されているが、「埼玉県A I 救急相談」の認知度は1割強にとどまっている。「埼玉県A I 救急相談」を除く3項目については、特に若年層の認知度が低くなっている（図表 6-1-1、図表 6-1-2）。

医療機関に関する情報の入手先として、インターネット（5割強）、広報こしがや『お知らせ版』（4割弱）、越谷市公式ホームページ（約3割）の利用者が多くなっている。利用者の年齢によって活用する手段には差異があり、インターネットは若年層～中年層、広報こしがや『お知らせ版』は高齢層、越谷市公式ホームページは中年層の利用者が多くなっている（図表 6-2-1、図表 6-2-2）。

また、夜間や休日における急病時の対応については、若年層を中心に翌日まで我慢する割合が過半数を占めている。一方、高齢層では救急車を呼ぶ割合が多くなっており、70歳以上は男女とも2割以上を占めている（図表 6-3-1、図表 6-3-2）。

7. 人権全般に関する意識について

基本的人権が『尊重されている』と考える割合（「十分尊重されている」と「やや尊重されている」の合計）は6割半ばとなっている（図表 7-1-1）。

人権侵害を感じたことが「ない」割合は約6割であり、若年層の女性を中心に、一人ひとりの人権意識が10年前と比較して『高くなっている』と考える割合（「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」の合計）も4割半ばとなっている（図表 7-4-1、図表 7-2-1、図表 7-2-2）。

一方、全体の約2割は「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」など、何らかの人権侵害を受けている（図表 7-4-1、図表 7-5-1）。また、女性60歳代に対するドメスティック・バイオレンス（約2割）、女性30歳代に対するセクシュアル・ハラスメント（2割半ば）やストーカー行為（2割弱）など、特定の層に集中した人権侵害も発生している（図表 7-5-2）。

関心のある人権問題としては、「インターネット上における人権問題」（4割半ば）を筆頭に、「高齢者の人権問題」（3割半ば）、「障がい者の人権問題」（3割半ば）など、複数の項目が並立している。関心の対象は性・年齢によって差異があり、「高齢者の人権問題」は高齢層、女性、子どもの人権問題は女性の関心が高いなどの傾向もみられる（図表 7-3-1、図表 7-3-2）。

8. 男女共同参画について

「家庭の中」、「教育の中」における男女平等については、4割弱が「平等になっている」と回答しており、「平等になっていない」を上回っている。一方、「職場の中」、「社会通念や風潮」、「法律や制度上」における男女平等について、「平等になっている」と考えるのは2割未満であり、「平等になっていない」（約3割～4割半ば）を下回っている（図表 8-1-1）。5項目とも男性の方が女性より「平等になっている」と考える割合が多く、「家庭の中」、「教育の中」、「法律や制度上」については、差が1割を超えている。また、「家庭の中」については、女性が6年齢区分中半数で「平等になっていない」が「平等になっている」を上回るのに対し、男性は30歳代を除き「平等になっている」が多いなど、男女の間で平等への評価に差がある項目もみられる（図表 8-1-2）。

一方、1日の生活で希望どおりの時間配分ができているかについては、全体の6割弱が『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答している。しかし、男性30歳代、40歳代については『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）の回答が過半数となっている（図表 8-2-1、図表 8-2-2）。

男女共同参画施設の役割として、今後力を入れることは「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」となることが5割弱で最も多くなっている。（図表 8-4-1）。

また、LGBTなど性的少数者への取組みとしては、「学校教育の充実」（5割弱）と「法令の制定や制度の見直し」（約4割）を求める意見が多くなっている。前者は特に女性の若年層で7割台を占めている（図表 8-3-1、図表 8-3-2）。

9. 自殺防止について

自殺したいと考えたことについては、約8割がないとする一方、2割弱があると回答している。特に30歳代以下の女性は、考えたことがある割合が約3割～3割強と多くなっている（図表 9-1-1、図表 9-1-2）。理由は「家庭問題」が多くの年齢で最多となっているが、女性18～29歳は「学校問題」が3割半ばを占めるなど、年齢による差異もみられる（図表 9-2-1、図表 9-2-2）。

一方、自殺防止策としては「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」、「健康や病気に係る相談」がそれぞれ2割台となっており、突出する項目はない（図表 9-5-1）。

また、悩みを「誰にも相談しないと思う」割合が4割半ば、自殺に関する市の相談窓口の認知度は1割半ばとなっている（図表 9-3-1、図表 9-4-1）。

10. 自治基本条例について

越谷市自治基本条例の認知度『知っている』（「よく知っている」と「まあまあ知っている」の合計）は1割弱となっている（図表 10-1-1）。条例を知ったきっかけは、「広報こしがや」が約8割と突出している。また、「越谷市公式ホームページ」が女性30歳代、男性40歳代で3割半ばとやや多いものの、それ以外の項目は少なくなっている（図表 10-2-1、図表 10-2-2）。

また、市政への参加方法としては「アンケート」が4割強、まちづくりへの関与としては「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」が約5割で最も多くなっている。

一方、女性18～29歳で「ボランティア活動に参加する」が4割半ばを占めるなど、性・年齢による差異もみられる（図表 10-3-1、図表 10-5-1、図表 10-5-2）。

関心のある分野としては「暮らしの安全・安心に関すること」が7割弱で特に多く、「福祉に関すること」、「健康づくりや医療に関すること」も4割台となっている（図表 10-4-1）。

11. 多文化共生のまちづくりについて

外国人市民とのつき合いについては、「近くに住んでいない、または近くに住んでいるかどうかわからない」が約7割、「近くに住んでいるが、つきあいはない」が1割強となっている。多文化共生という言葉が『聞いたことがある』割合（「聞いたことがあり、意味も理解している」と「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」の合計）は約6割となっているが、実際に外国人と交流をもっているのは1割強にとどまっている（図表 11-3-1、図表 11-1-1）。

また、「多文化共生のまち」づくりに必要なこととして、「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」が約6割と突出しており、「外国人市民に対して、日本語の学習を支援する」など4項目も3割台を占めている（図表 11-4-1）。

12. マイナンバー制度について

マイナンバーカードを「持っている」割合は3割弱、今後マイナンバーカードを「取得する予定である」割合は2割半ばとなっている（図表 12-1-1、図表 12-3-1）。

マイナンバーカードの利用目的は「身分証明・本人確認」、「各種申請手続き」がそれぞれ3割半ば～4割弱を占めているが、女性は「使ったことがない」も3割強となっている（図表 12-2-1、図表 12-2-2）。また、50歳代以下では「いろいろな手続きがインターネットでできる」ことを期待する割合が多くなっている。一方、高齢層を中心に全体の約4割が「特に期待することはない」と回答している（図表 12-4-2）。

13. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

スポーツ・レクリエーションを『週に1回以上』行っている割合（「週に3回以上」と「週に1～2回程度」の合計）は4割半ば、『月に1回以上』行っている割合（『週に1回以上』と「月に1～3回程度」の合計）は約6割となっている（図表 13-1-1）。目的は「運動不足解消」、「健康、体力維持・増進」、「気分転換・気晴らし」がいずれの年齢でも多く、全体の5割は活動により「運動不足が解消した」と回答している（図表 13-2-2、図表 13-3-1）。

一方、活動を行っていない理由としては「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割半ばと突出して多く、特に30歳代、40歳代を中心とする年代でその傾向が強くなっている（図表 13-4-1、図表 13-4-2）。

また、今後行ってみたいと思う活動としては、「ウォーキング」が約4割、「軽い体操」が約3割となっている（図表 13-5-1）。野外活動については、「ハイキング」が50歳代、60歳代を中心に2割半ば～3割半ばを占める一方、「特になし」も多くなっている。（図表 13-6-2）。また、競技的スポーツは、「バドミントン」が若年層の女性で3割弱～3割強と多くなっている一方、「特になし」は男女とも70歳以上で約4割～約5割を占めている（図表 13-7-2）。

14. 広報について

市政情報を入手する手段としては「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が7割弱と突出して多くなっている。若年層を中心に「越谷市公式ホームページ」も1割強～約2割に活用されているが、それ以外の項目は殆どが1割未満となっている（図表 14-1-1、図表 14-1-2）。

広報こしがやは『お知らせ版』、『季刊版』とも『わかりやすい』という評価（「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」の合計）が6割半ば～7割強を占め、『わかりにくい』（「わかりにくいところがある」と「わかりにくい」の合計）は1割未満となっている（図表 14-3-1）。

一方、課題（わかりにくい点）としては、『お知らせ版』、『季刊版』とも紙面構成やレイアウトの改善を求める意見が多くなっている。また、『季刊版』については、『お知らせ版』との違いがわからないなどの意見も寄せられている（図表 14-4-1、図表 14-6-1）。

15. 越谷市の施策について

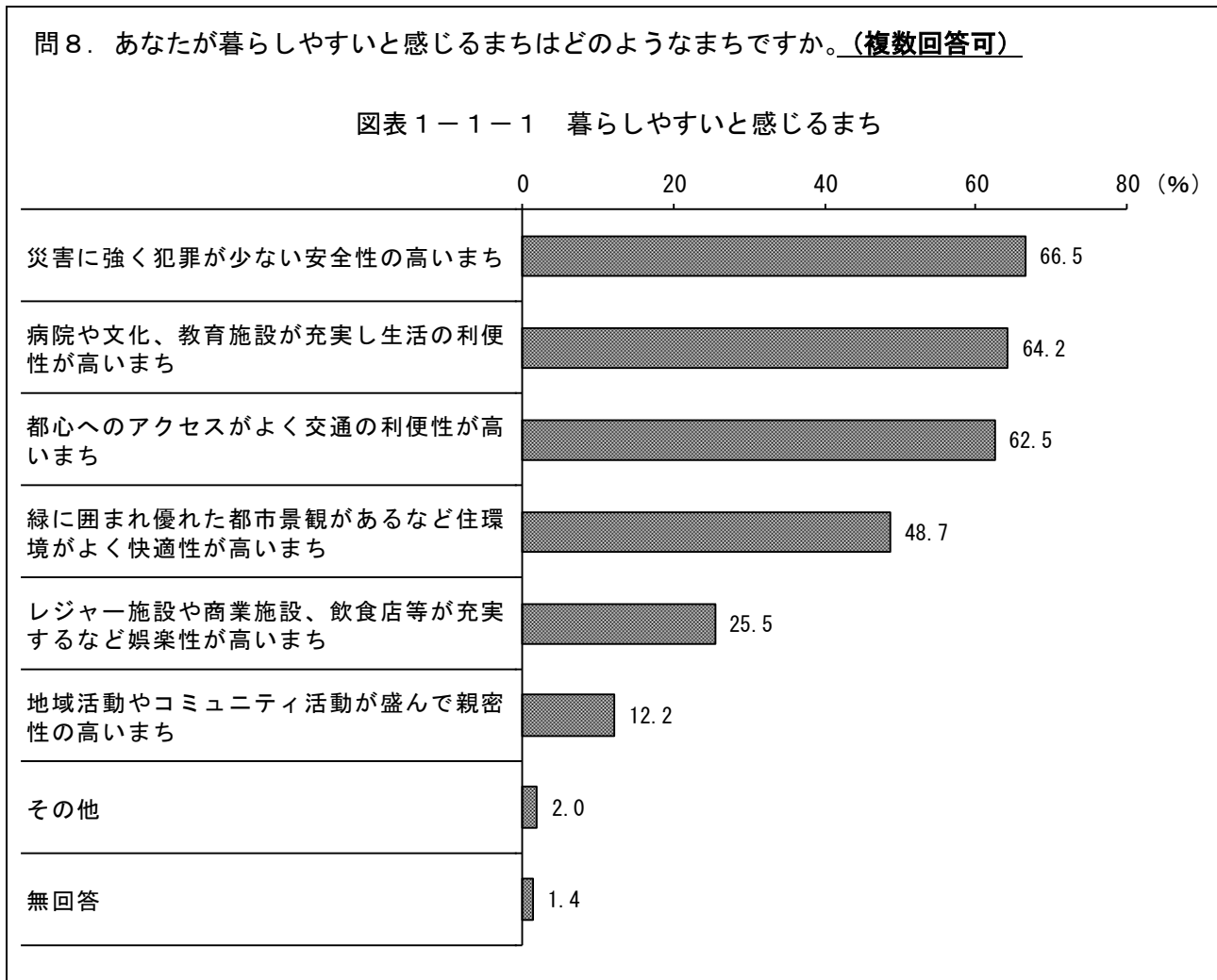
越谷市の施策で「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が3割強で多くなっている（図表 15-1-1）。一方、「特に力を入れるべきだと思われるもの」については、「水害や地震などの災害対策」が3割半ばで最多となっているが、年代、居住地区によっては「防犯対策」、「バス路線等公共交通網の充実」などを求める意見も多くなっている（図表 15-2-1、図表 15-2-2、図表 15-2-3）。

第4章 調査結果の詳細

1. 暮らしや居住意向について

(1) 暮らしやすいと感じるまち

◇「災害に強く犯罪が少ない安全性の高いまち」が最も多く、6割半ば



暮らしやすいと感じるまちについて聞いたところ、「災害に強く犯罪が少ない安全性の高いまち」(66.5%)が最も多く、次いで「病院や文化、教育施設が充実し生活の利便性が高いまち」(64.2%)、「都心へのアクセスがよく交通の利便性が高いまち」(62.5%)、「緑に囲まれ優れた都市景観があるなど住環境がよく快適性が高いまち」(48.7%)、「レジャー施設や商業施設、飲食店等が充実するなど娯楽性が高いまち」(25.5%)の順となっている。

性別でみると、「病院や文化、教育施設が充実し生活の利便性が高いまち」は女性（69.8%）が男性（59.2%）より 10.6 ポイント、「災害に強く犯罪が少ない安全性の高いまち」は女性（70.8%）が男性（62.9%）より 7.9 ポイント、「都心へのアクセスがよく交通の利便性が高いまち」は女性（65.4%）が男性（58.9%）より 6.6 ポイント上回っている。

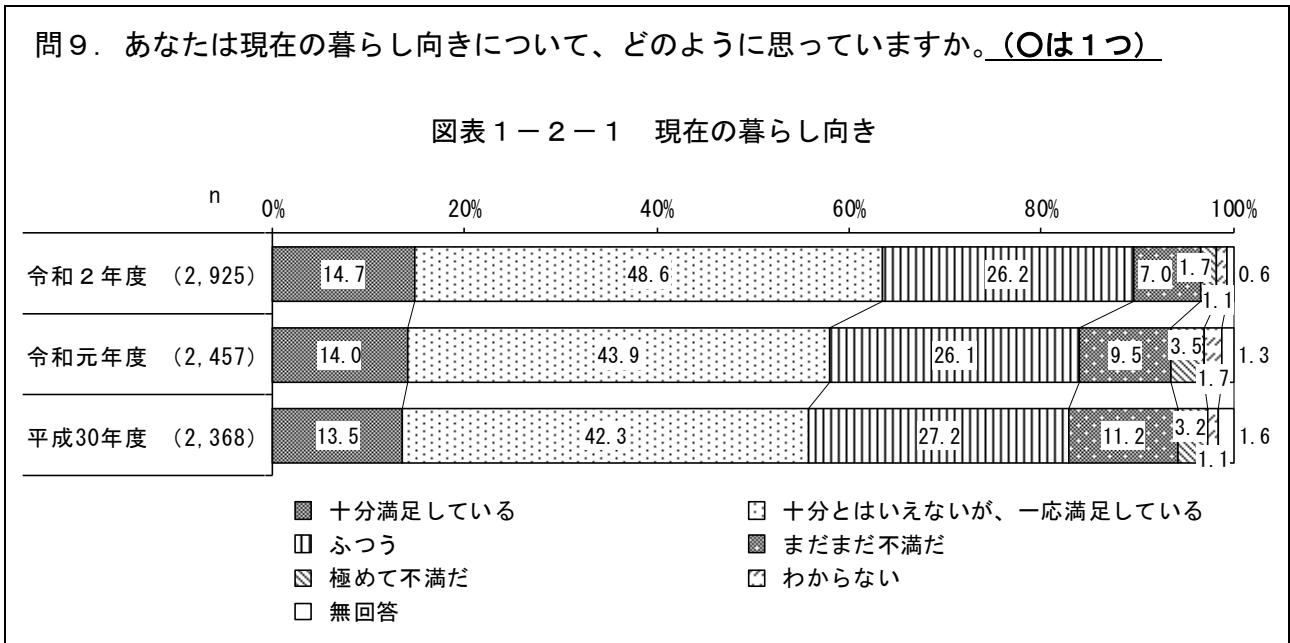
性・年齢別でみると、「災害に強く犯罪が少ない安全性の高いまち」、「病院や文化、教育施設が充実し生活の利便性が高いまち」は女性 40 歳代～50 歳代（前者は 76.5%、78.5%、後者は 74.7%、76.6%）、「都心へのアクセスがよく交通の利便性が高いまち」は女性 18～29 歳（73.9%）で全体を 1 割以上上回っている。また、「緑に囲まれ優れた都市景観があるなど住環境がよく快適性が高いまち」は女性 60 歳代（58.6%）と男性 50 歳代（58.6%）で 6 割弱と多いのに対し、「レジャー施設や商業施設、飲食店等が充実するなど娯楽性が高いまち」は男女ともに 18～29 歳（男性 47.3%、女性 51.0%）・30 歳代（男性 43.1%、女性 36.3%）の若年層で 3 割半ばから 5 割と多くなっている。

図表 1-1-2 性・年齢別 暮らしやすいと感じるまち

		(%)							
	調査数 (人)	災害に 強く 犯罪が 少ない 安全	病院や 文化、 教育 施設が 充実	都心へ のアク セスが よく 交通	緑に 囲まれ 優れた 都市景 観が	レジャー 施設や 商業 施設、 飲食	地域 活動や コミュニ ティ 活動	その他	無 回答
全体	2,925	66.5	64.2	62.5	48.7	25.5	12.2	2.0	1.4
女性全体	1,594	70.8	69.8	65.4	49.7	25.9	11.4	1.4	1.3
18～29歳	157	70.7	63.7	73.9	37.6	51.0	8.9	1.3	-
30～39歳	204	70.6	71.6	69.6	50.0	36.3	11.3	3.4	-
40～49歳	281	76.5	74.7	64.4	48.4	34.9	9.6	1.1	0.7
50～59歳	256	78.5	76.6	71.9	55.5	24.2	10.9	0.8	-
60～69歳	268	69.8	71.3	61.9	58.6	17.2	11.2	1.5	0.7
70歳以上	423	62.9	63.1	59.6	45.6	12.1	13.9	1.2	4.0
男性全体	1,216	62.9	59.2	58.9	48.9	26.1	13.2	2.6	0.7
18～29歳	112	62.5	46.4	67.0	34.8	47.3	8.0	2.7	-
30～39歳	137	61.3	61.3	57.7	41.6	43.1	9.5	2.2	-
40～49歳	212	57.5	53.8	66.0	44.3	30.7	9.0	2.8	0.5
50～59歳	203	70.9	60.1	59.6	58.6	33.5	15.3	2.0	0.5
60～69歳	225	63.6	64.0	60.0	53.8	15.1	16.0	2.2	1.3
70歳以上	323	61.6	62.2	50.8	50.2	10.8	15.8	3.4	1.2

(2) 現在の暮らし向き

◇『満足』が6割強



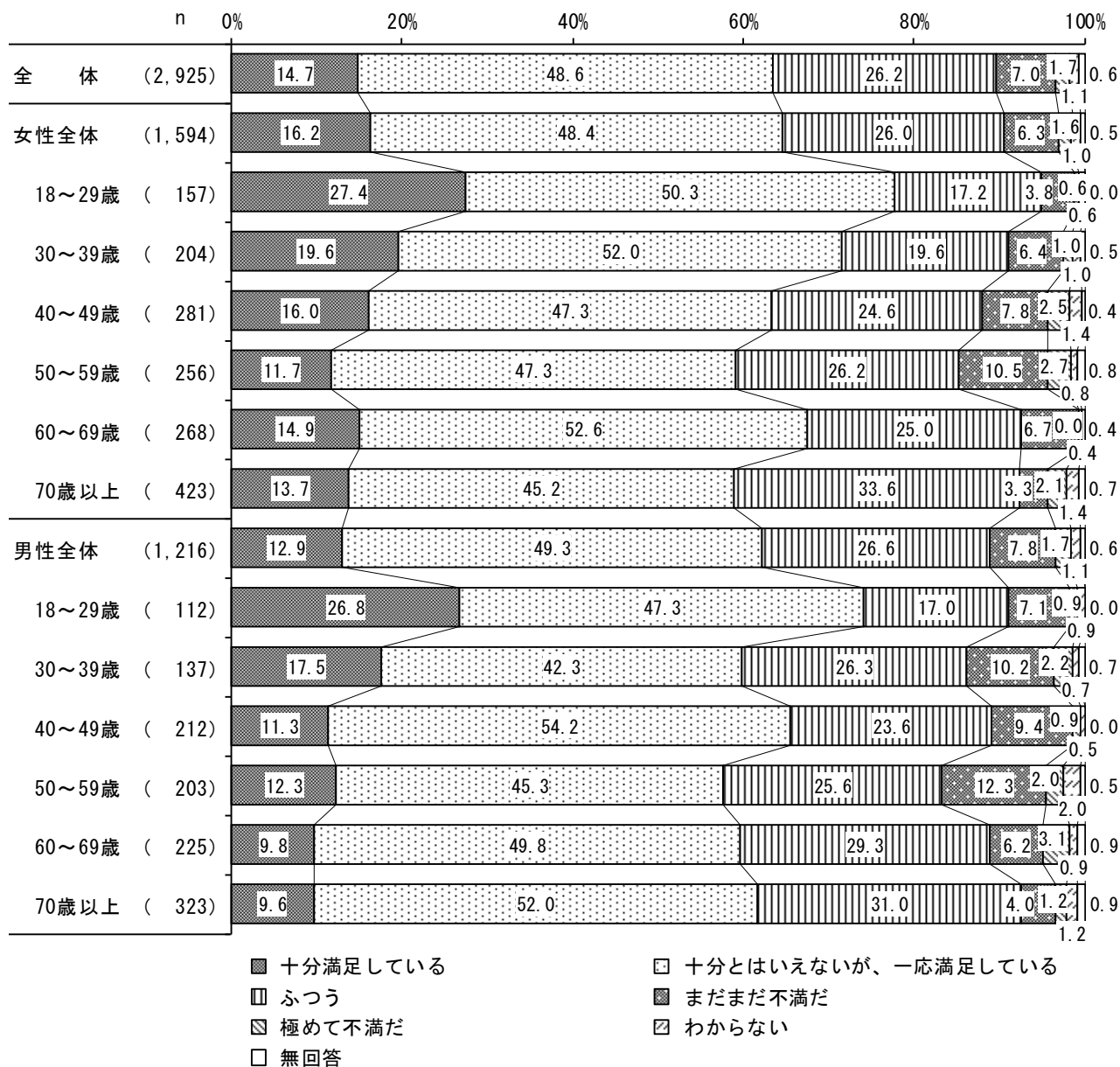
現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(48.6%)が最も多く、次いで「ふつう」(26.2%)、「十分満足している」(14.7%)、「まだまだ不満だ」(7.0%)、「極めて不満だ」(1.7%)となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(63.4%)は6割強、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(8.7%)は1割弱となっている。

過去2回の調査と比較すると、『満足』は増加傾向にあり、令和元年度調査(57.9%)と比べ5.4ポイント増加している。一方、『不満』は減少傾向にあり、令和元年度調査(13.0%)と比べ4.3ポイント減少している。

性別でみると、大きな差はみられない。

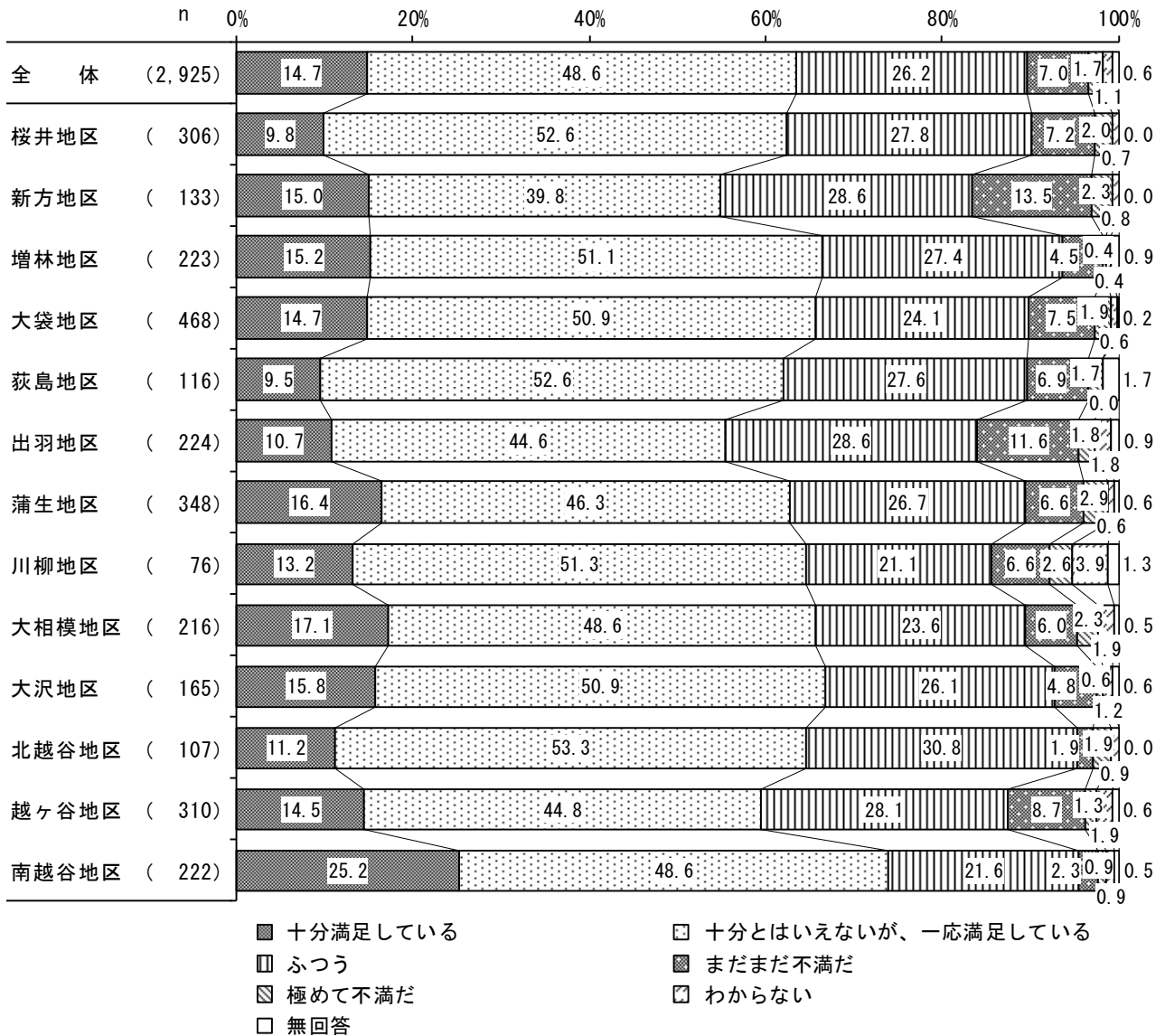
性・年齢別でみると、『満足』は女性 18～29 歳・30 歳代 (77.7%、71.6%)、男性 18～29 歳 (74.1%) で7割を超え、若年層で多くなる傾向にある。一方、50 歳代は男性 (57.6%)、女性 (59.0%) ともに6割を下回っており、男性は全体より 5.8 ポイント少なくなっている。

図表 1-2-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は南越谷地区（73.9%）が最も多く、全体を10.5ポイント上回っている。一方、新方地区（54.9%）、出羽地区（55.4%）、越ヶ谷地区（59.4%）は6割を下回り、新方地区は『不満』（15.8%）が全体を7.1ポイント上回っている。

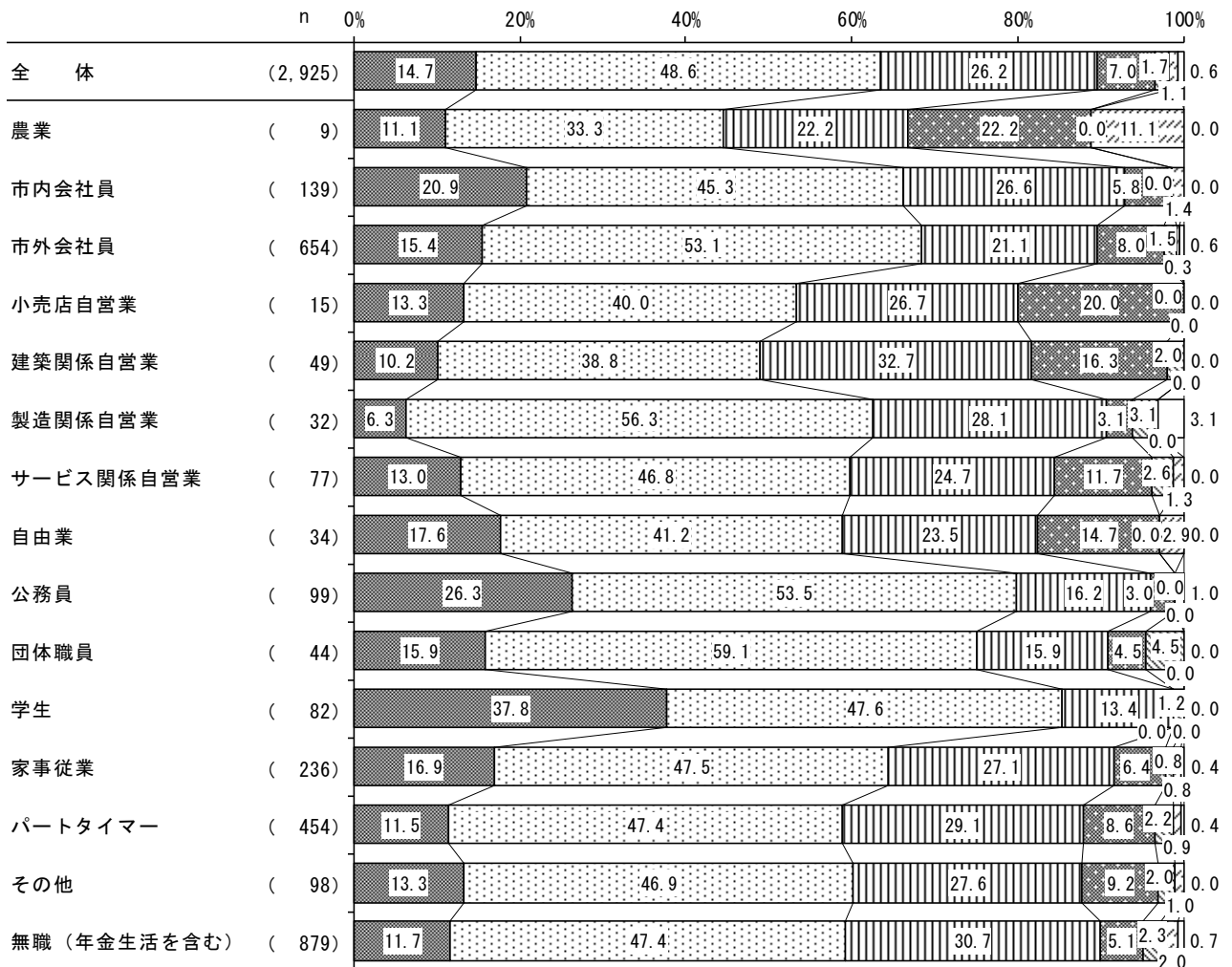
図表1-2-3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別でみると、『満足』は学生（85.4%）が最も多く、公務員（79.8%）、団体職員（75.0%）も全体を1割以上上回っている。一方、建築関係自営業（49.0%）は『満足』が5割未満となっており、『不満』（18.4%）が全体を9.7ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

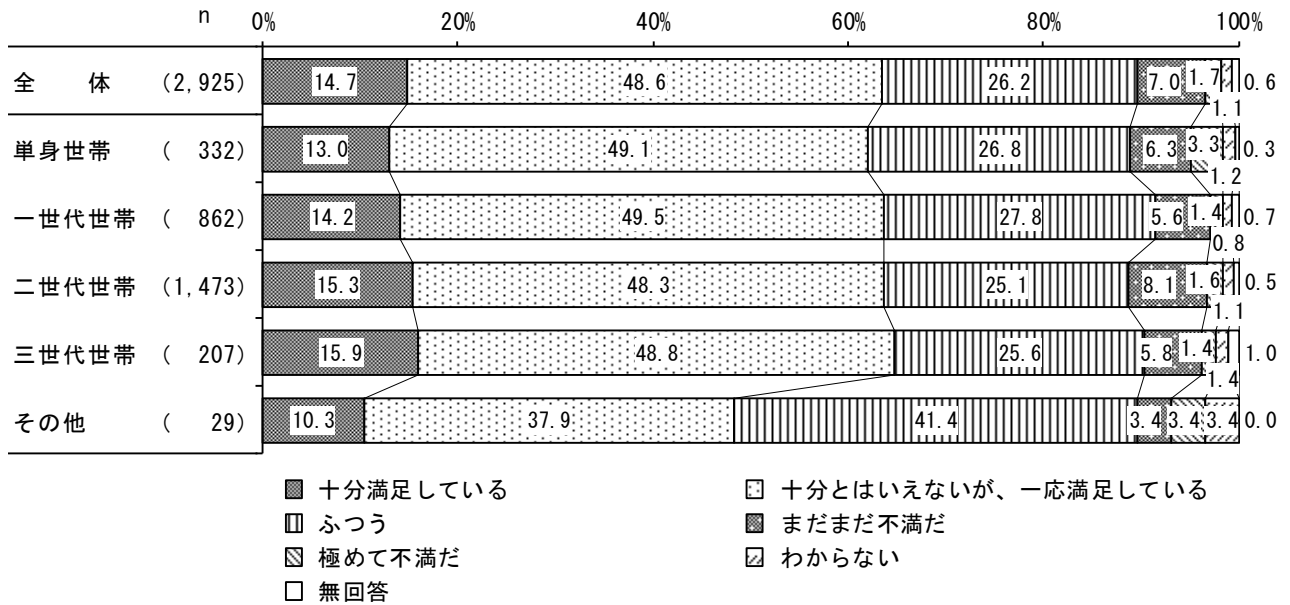
図表1-2-4 職業別 現在の暮らし向き



- 十分満足している
- 十分とはいえないが、一応満足している
- ふつう
- まだまだ不満だ
- 極めて不満だ
- わからない
- 無回答

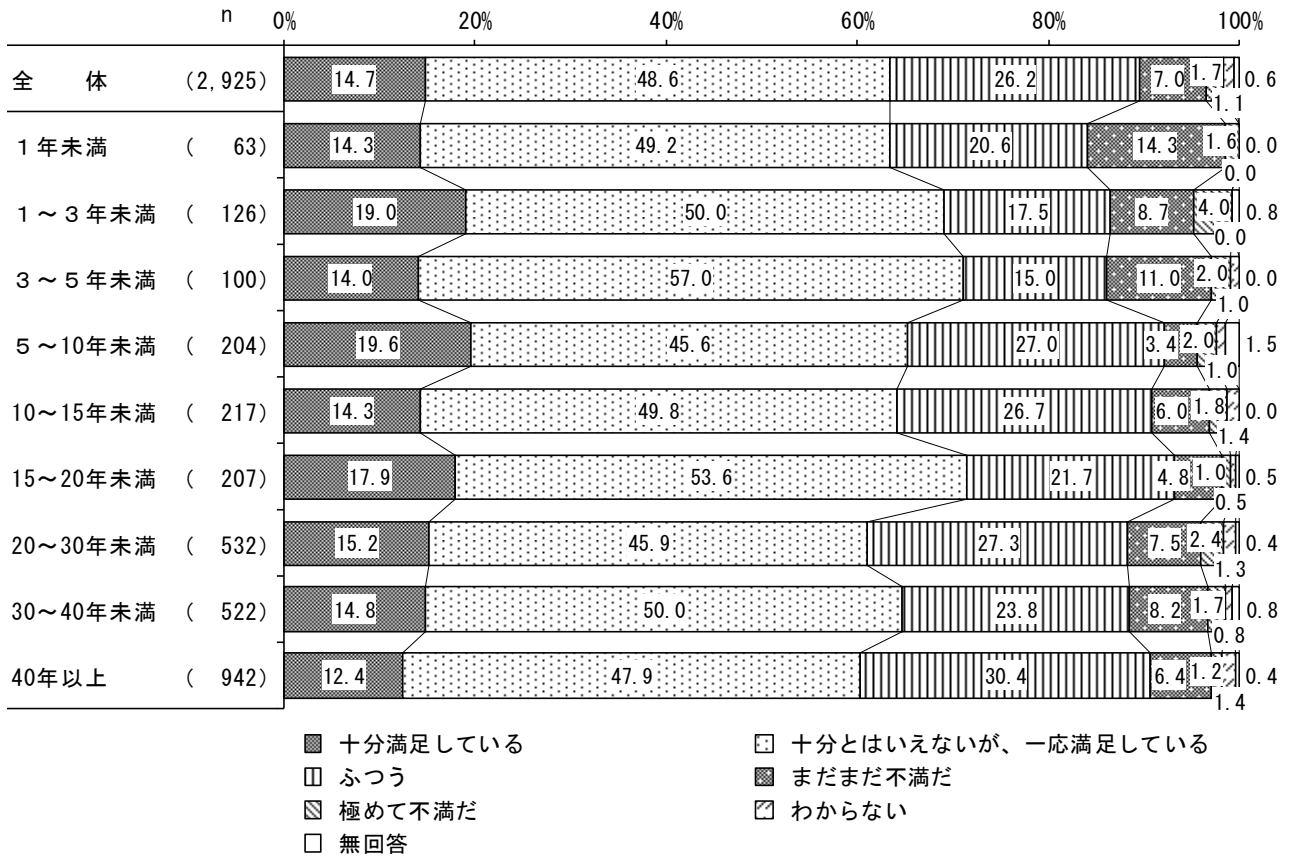
世帯状況別でみると、『満足』は三世帯世帯（64.7%）が最も多くなっているが、大きな差はみられない。

図表1-2-5 世帯状況別 現在の暮らし向き



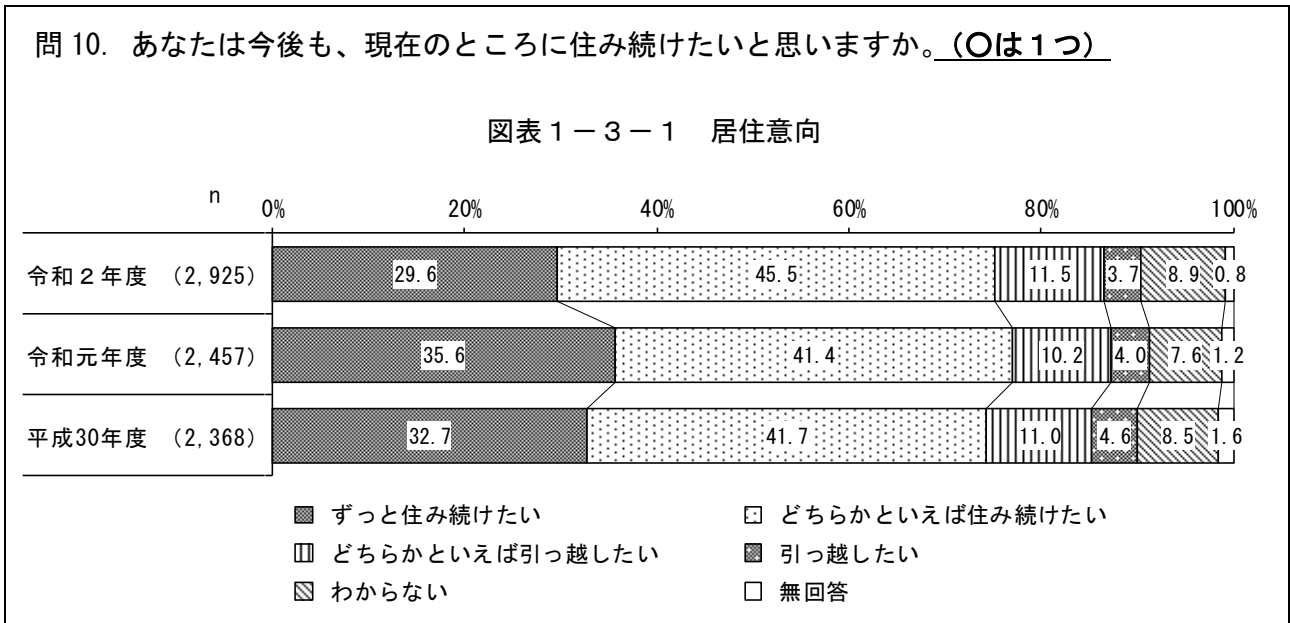
居住年数別でみると、『満足』は15～20年未満（71.5%）が最も多く、3～5年未満（71.0%）も7割を超えている。一方、1年未満は『満足』（63.5%）はほぼ全体と変わらないが、『不満』（15.9%）が全体を7.2ポイント上回っている。

図表1-2-6 居住年数別 現在の暮らし向き



(3) 居住意向

◇『定住意向』が7割半ば



今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(45.5%)が最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」(29.6%)、「どちらかといえば引っ越したい」(11.5%)、「引っ越したい」(3.7%)となっている。「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』(75.1%)は7割半ば、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(15.2%)は1割半ばとなっている。

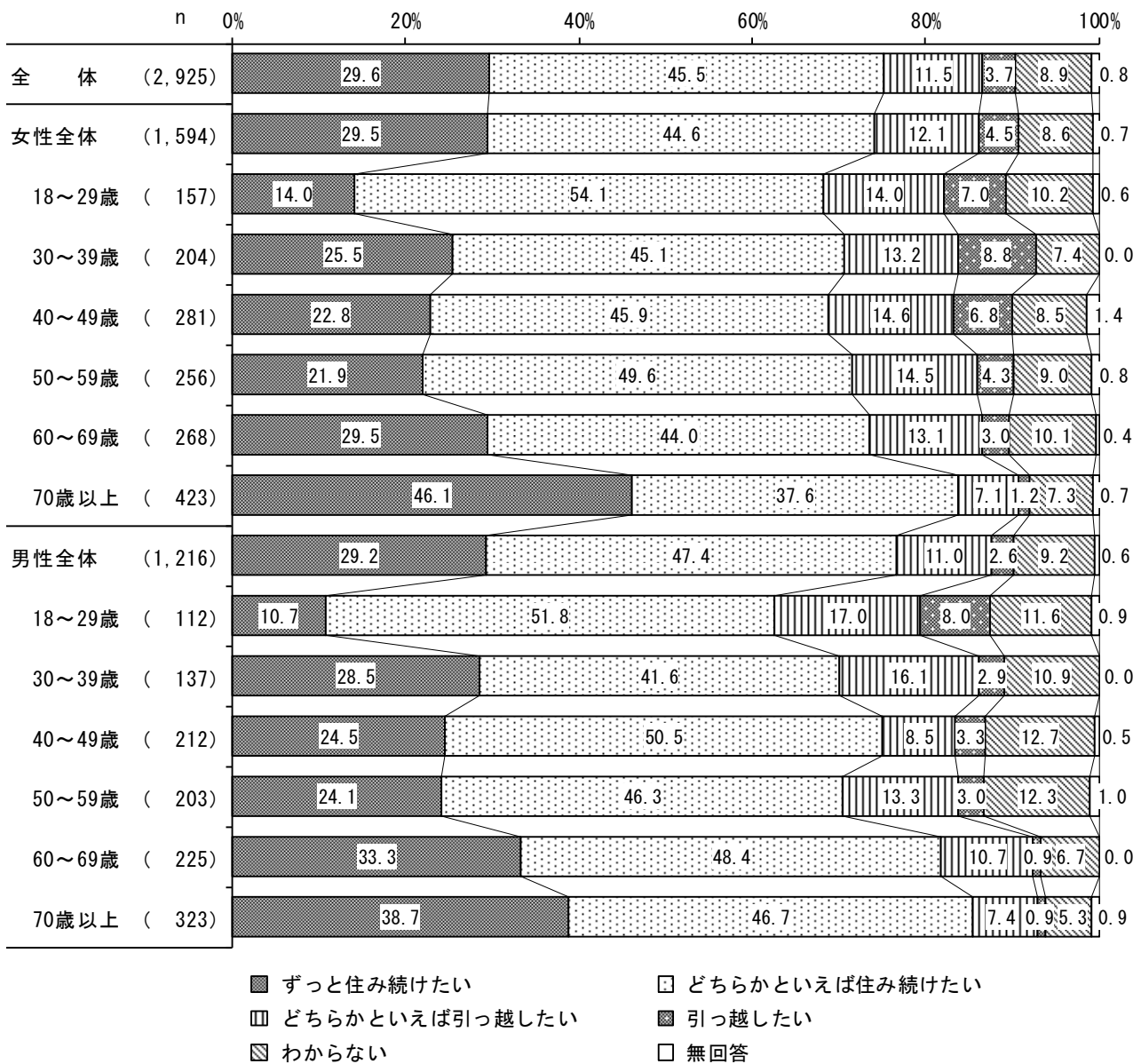
過去の調査と比較すると、『定住意向』は令和元年度調査(77.0%)と比べ1.9ポイント減少、『転居意向』は令和元年度調査(14.2%)と比べ1.0ポイント増加している。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『定住意向』は女性70歳以上で83.7%、男性70歳以上で85.4%と、男女とも70歳以上が8割を超え最も多くなっている。また、男性60歳代（81.8%）も約8割となっている。

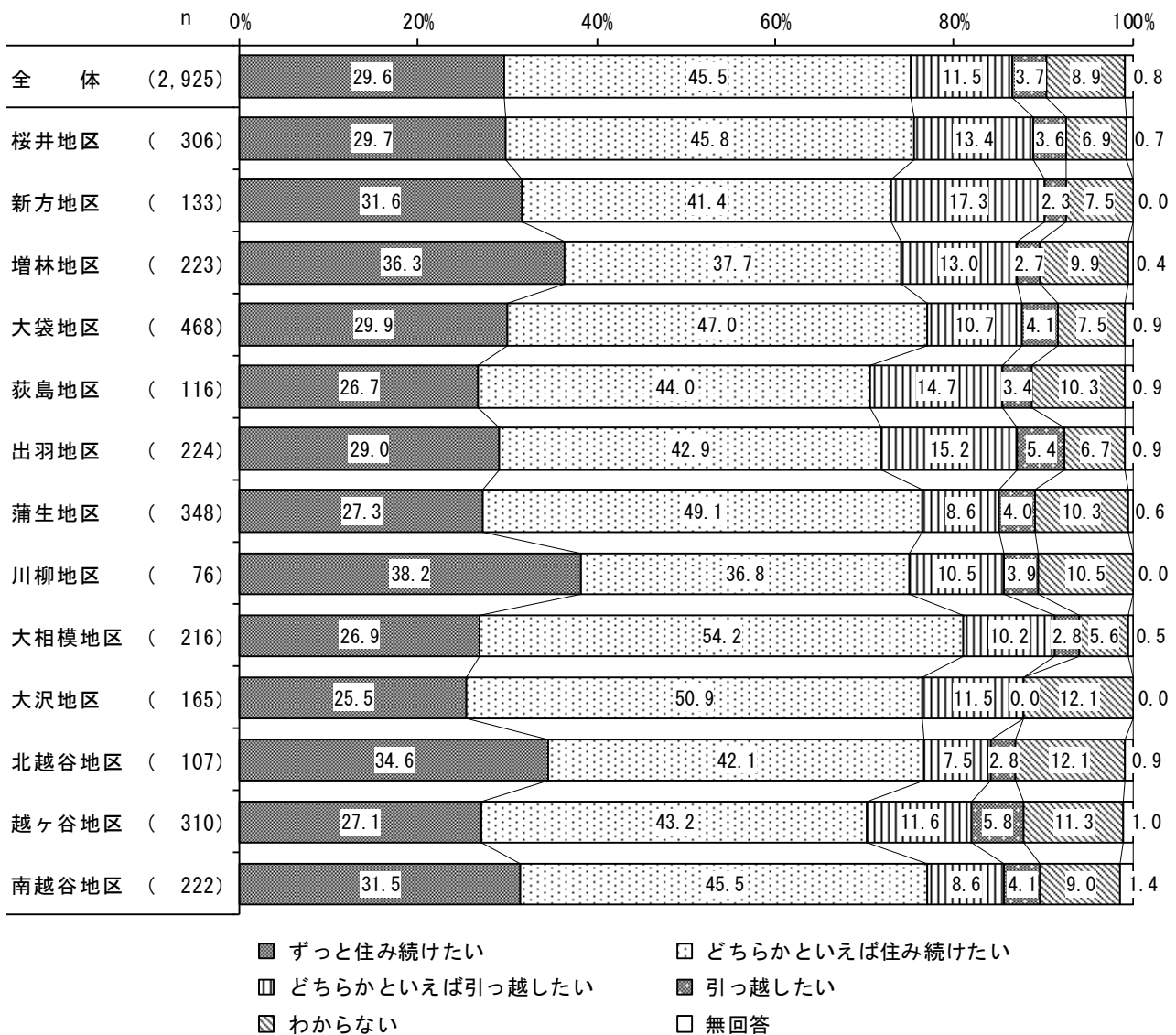
一方、男性18～29歳（62.5%）は『定住意向』が全体を12.6ポイント下回り、女性18～29歳（68.2%）、女性40歳代（68.7%）も7割未満となっている。これらの層は『転居意向』がそれぞれ25.0%、21.0%、21.4%といずれも2割を超えている。

図表1-3-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別でみると、『定住意向』は全ての地区で7割以上となっており、大相模地区（81.0%）は約8割となっている。一方『転居意向』は出羽地区（20.5%）が全体を5.3ポイント上回り最も多く、新方地区（19.5%）が続いている。

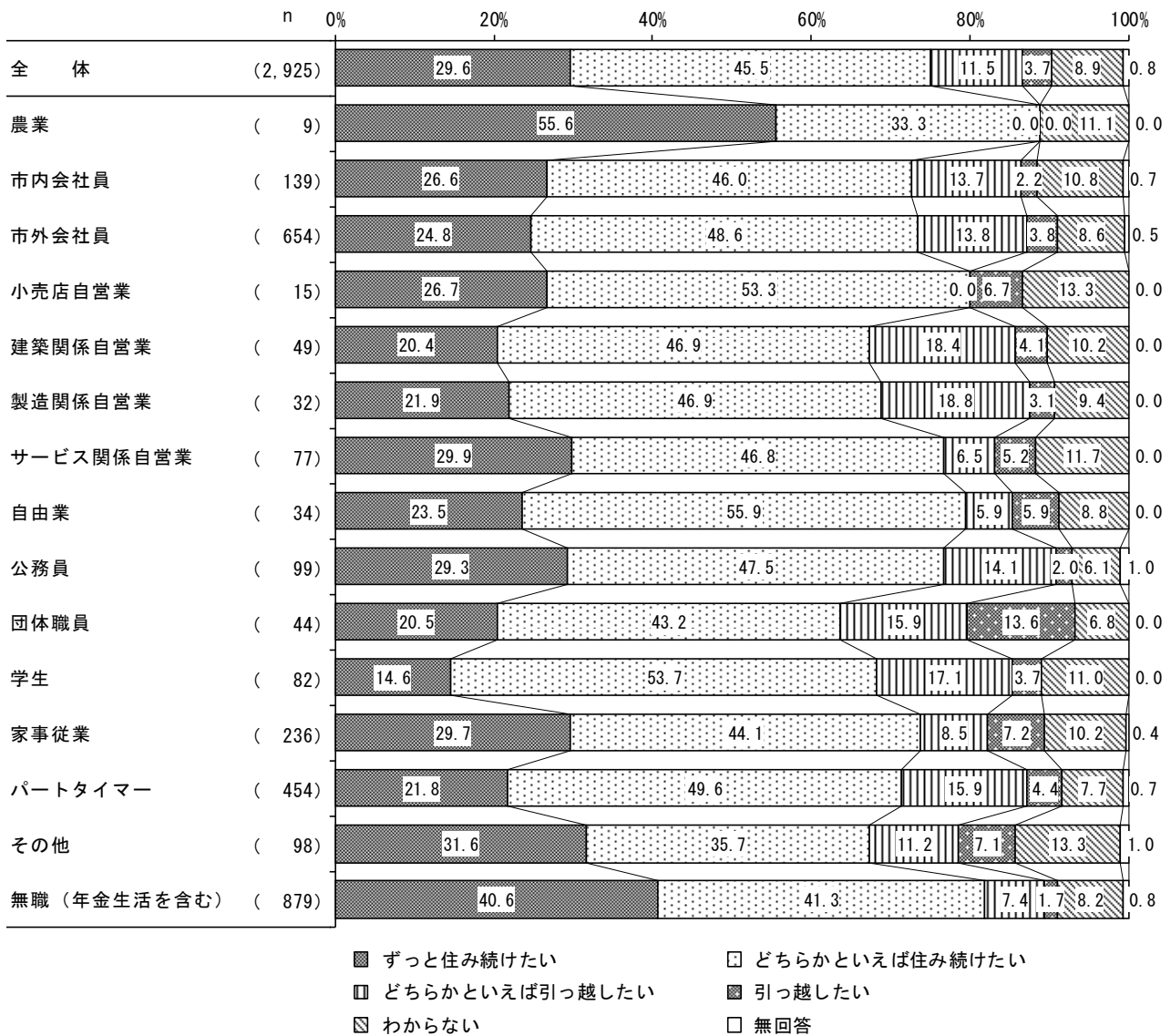
図表1-3-3 居住地区別 居住意向



職業別で見ると、『定住意向』は無職（81.9%）で8割以上となっている。一方、団体職員（63.6%）は『定住意向』が全体を11.5ポイント下回り、建築関係自営業（67.3%）、学生（68.3%）、製造関係自営業（68.8%）も7割未満となっている。また、『転居意向』は団体職員（29.5%）、建築関係自営業（22.4%）、製造関係自営業（21.9%）、学生（20.7%）、パートタイマー（20.3%）で2割を超えている。

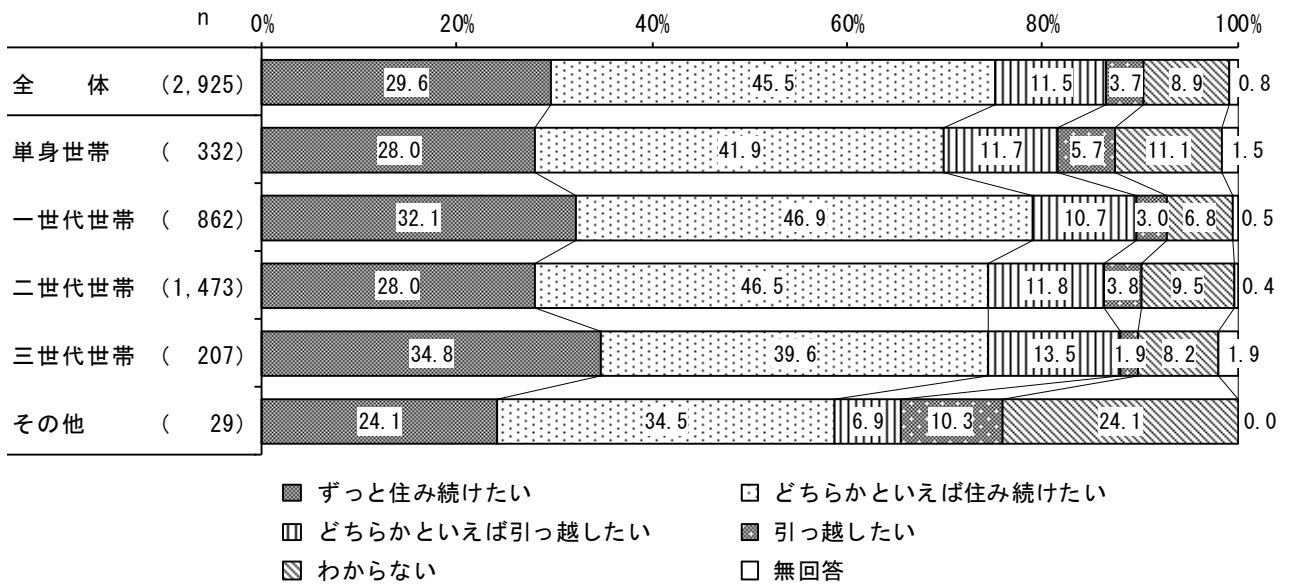
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-4 職業別 居住意向



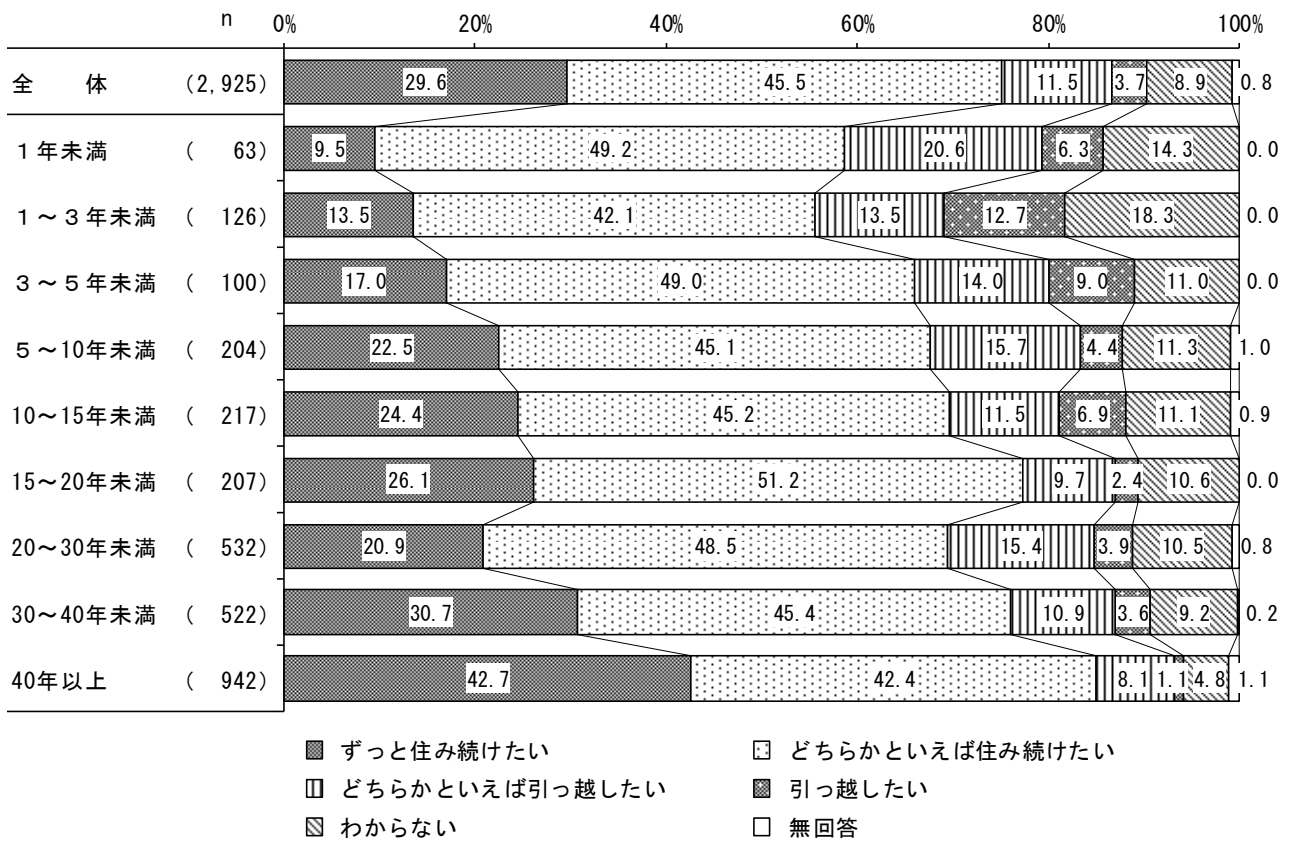
世帯状況別でみると、『定住意向』は一世代世帯（79.0%）が最も多く、最も少ない単身世帯（69.9%）を9.1ポイント上回っている。二世帯世帯（74.5%）、三世帯世帯（74.4%）は全体と同水準となっている。

図表 1-3-5 世帯状況別 居留意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上(85.0%)が最も多く、15~20年未満(77.3%)、30~40年未満(76.1%)も7割以上となっているが、20~30年未満(69.4%)は全体を5.7ポイント下回っている。一方、『転居意向』は10年未満で2割以上を占めており、1年未満(27.0%)、1~3年未満(26.2%)は全体を1割以上上回っている。

図表1-3-6 居住年数別 居住意向

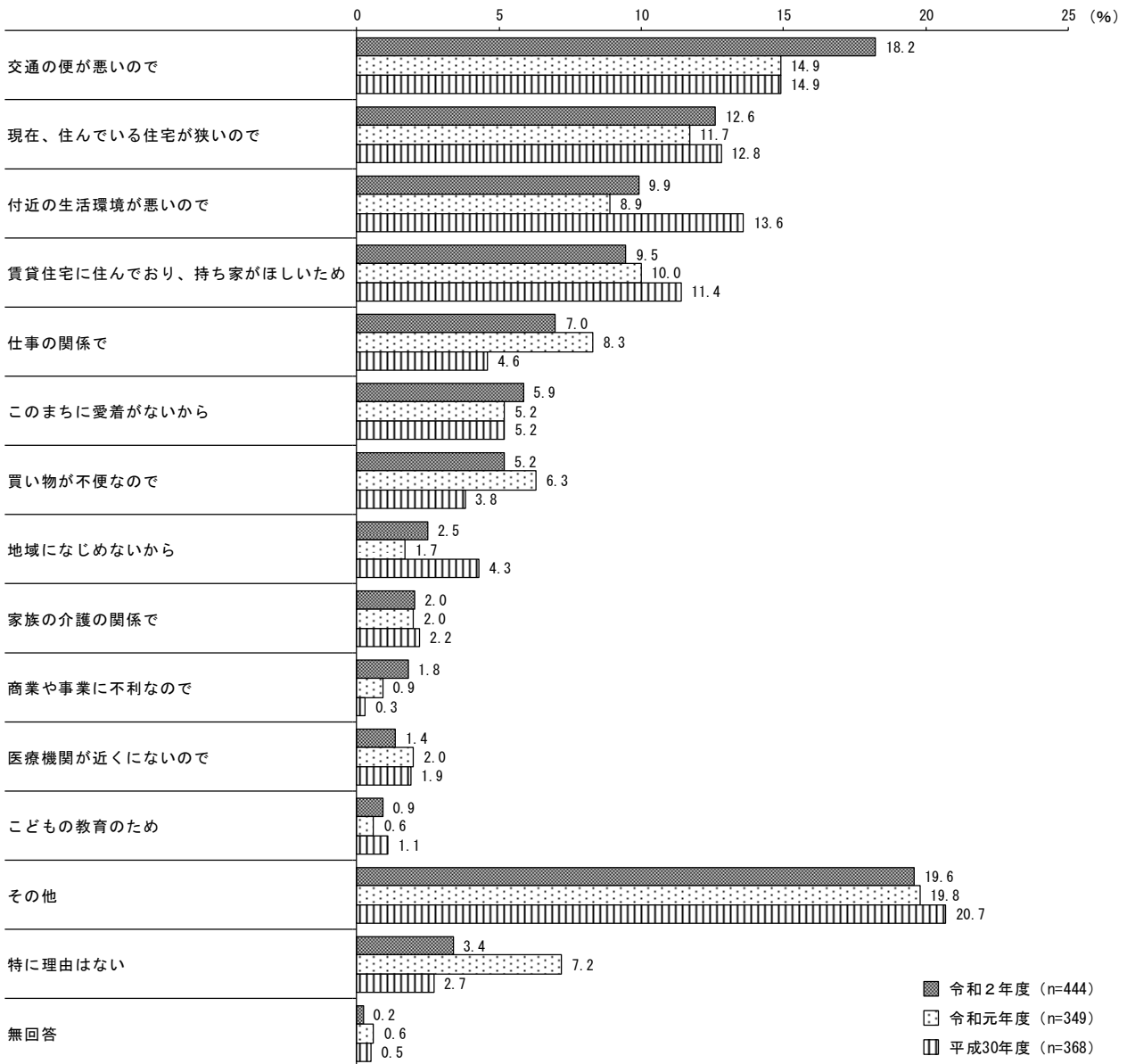


(4) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が最も多く、2割弱

問10-2. 問10で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

図表1-4-1 転居意向の理由



『転居意向』のある 444 人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」(18.2%) が最も多く、次いで「現在、住んでいる住宅が狭いので」(12.6%)、「付近の生活環境が悪いので」(9.9%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(9.5%)、「仕事の関係で」(7.0%) の順となっている。

過去の調査と比較すると、「交通の便が悪いので」は令和元年度調査(14.9%)と比べ3.3ポイント増加している。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「付近の生活環境が悪いので」は男性（14.5%）で1割半ばを占め、女性（7.5%）を7.0ポイント上回っている。また、「このまちに愛着がないから」も男性（8.4%）が女性（4.2%）を上回っている。

性・年齢別でみると、「交通の便が悪いので」は女性18～29歳（24.2%）、40歳代～50歳代（23.3%、25.0%）、男性50歳代（21.2%）で2割を超えている。また、「仕事の関係で」は女性18～29歳（36.4%）で3割半ばを占め、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は女性40歳代（25.0%）、「付近の住宅環境が悪いので」は男性50歳代（24.2%）で多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-4-2 性・年齢別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	ほしい住宅に住んでおり、持ち家が	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	医療機関が近くにない	こどもの教育のため	その他	特に理由はない	無回答
全体	444	18.2	12.6	9.9	9.5	7.0	5.9	5.2	2.5	2.0	1.8	1.4	0.9	19.6	3.4	0.2
女性全体	265	18.9	13.2	7.5	10.2	8.3	4.2	6.0	2.6	3.0	1.1	1.9	1.1	18.9	2.6	0.4
18～29歳	33	24.2	-	-	15.2	36.4	3.0	6.1	-	-	3.0	-	-	-	12.1	-
30～39歳	45	13.3	6.7	4.4	20.0	13.3	4.4	6.7	-	-	4.4	-	6.7	20.0	-	-
40～49歳	60	23.3	25.0	6.7	8.3	6.7	-	1.7	1.7	5.0	-	1.7	-	18.3	1.7	-
50～59歳	48	25.0	14.6	12.5	10.4	-	4.2	2.1	4.2	4.2	-	4.2	-	18.8	-	-
60～69歳	43	7.0	11.6	9.3	7.0	-	7.0	11.6	7.0	7.0	-	-	-	30.2	-	2.3
70歳以上	35	20.0	14.3	11.4	-	-	8.6	11.4	2.9	-	-	5.7	-	20.0	5.7	-
男性全体	166	16.9	12.0	14.5	9.0	5.4	8.4	3.0	2.4	0.6	2.4	0.6	0.6	19.9	4.2	-
18～29歳	28	14.3	14.3	3.6	10.7	14.3	3.6	7.1	-	-	3.6	-	-	25.0	3.6	-
30～39歳	26	15.4	11.5	3.8	23.1	7.7	3.8	3.8	3.8	-	3.8	-	3.8	11.5	7.7	-
40～49歳	25	16.0	12.0	16.0	8.0	4.0	8.0	4.0	-	4.0	-	-	-	20.0	8.0	-
50～59歳	33	21.2	12.1	24.2	9.1	6.1	12.1	-	-	-	3.0	-	-	12.1	-	-
60～69歳	26	7.7	7.7	26.9	3.8	-	19.2	3.8	3.8	-	3.8	-	-	23.1	-	-
70歳以上	27	22.2	14.8	11.1	-	-	3.7	-	7.4	-	-	3.7	-	29.6	7.4	-

居住地区別でみると、「交通の便が悪いので」は大袋地区（21.7%）、「付近の生活環境が悪いので」は出羽地区（19.6%）で約2割を占めている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-4-3 居住地区別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買物が不便なので	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	医療機関が近くにない	こどもの教育のため	その他	特に理由はない	無回答
全 体	444	18.2	12.6	9.9	9.5	7.0	5.9	5.2	2.5	2.0	1.8	1.4	0.9	19.6	3.4	0.2
桜井地区	52	17.3	13.5	15.4	5.8	7.7	3.8	3.8	11.5	1.9	1.9	1.9	-	9.6	5.8	-
新方地区	26	50.0	11.5	-	3.8	3.8	-	3.8	-	-	-	-	-	19.2	7.7	-
増林地区	35	17.1	11.4	8.6	11.4	8.6	5.7	8.6	2.9	-	-	-	5.7	17.1	2.9	-
大袋地区	69	21.7	13.0	11.6	8.7	2.9	8.7	4.3	1.4	4.3	1.4	-	-	17.4	2.9	1.4
荻島地区	21	28.6	4.8	9.5	-	4.8	4.8	9.5	-	-	-	4.8	-	19.0	14.3	-
出羽地区	46	19.6	6.5	19.6	13.0	2.2	4.3	8.7	2.2	2.2	2.2	2.2	-	15.2	2.2	-
蒲生地区	44	9.1	15.9	6.8	15.9	9.1	2.3	2.3	-	4.5	4.5	2.3	-	27.3	-	-
川柳地区	11	36.4	9.1	-	-	18.2	-	-	-	9.1	-	-	-	27.3	-	-
大相模地区	28	21.4	14.3	10.7	7.1	7.1	3.6	-	3.6	3.6	-	7.1	3.6	17.9	-	-
大沢地区	19	-	-	10.5	26.3	5.3	10.5	5.3	-	-	10.5	-	-	26.3	5.3	-
北越谷地区	11	9.1	18.2	-	-	9.1	-	-	-	-	-	-	9.1	45.5	9.1	-
越ヶ谷地区	54	13.0	13.0	9.3	5.6	7.4	13.0	9.3	-	-	1.9	-	-	27.8	-	-
南越谷地区	28	3.6	28.6	3.6	17.9	17.9	7.1	3.6	3.6	-	-	-	-	10.7	3.6	-

第4章 調査結果の詳細

職業別でみると、パートタイマーは「交通の便が悪いので」(19.6%)、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(19.6%)が約2割となっており、「付近の生活環境が悪いので」(16.3%)も全体を6.4ポイント上回っている。また、市外会社員は「仕事の関係で」(15.7%)が8.7ポイント、無職は「買い物が不便なので」(11.3%)が6.1ポイントそれぞれ全体を上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-4-4 職業別 転居意向の理由

	調査数(人)	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	医療機関が近くにない	こどもの教育のため	その他	特に理由はない	無回答
全 体	444	18.2	12.6	9.9	9.5	7.0	5.9	5.2	2.5	2.0	1.8	1.4	0.9	19.6	3.4	0.2
農業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	22	18.2	27.3	4.5	-	-	18.2	9.1	-	-	-	-	-	18.2	4.5	-
市外会社員	115	16.5	11.3	8.7	13.0	15.7	5.2	4.3	-	2.6	1.7	0.9	0.9	15.7	3.5	-
小売店自営業	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建築関係自営業	11	18.2	-	18.2	18.2	-	18.2	-	9.1	-	9.1	-	-	-	9.1	-
製造関係自営業	7	14.3	14.3	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	28.6	-	-
サービス関係自営業	9	33.3	22.2	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-	-	11.1	-	-
自由業	4	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
公務員	16	12.5	-	-	18.8	25.0	6.3	-	6.3	-	12.5	-	6.3	12.5	-	-
団体職員	13	30.8	15.4	-	15.4	-	7.7	-	-	7.7	7.7	-	-	15.4	-	-
学生	17	17.6	5.9	-	5.9	17.6	-	5.9	-	-	11.8	-	-	17.6	17.6	-
家事従業	37	18.9	13.5	10.8	10.8	2.7	5.4	5.4	5.4	2.7	-	-	2.7	18.9	2.7	-
パートタイマー	92	19.6	19.6	16.3	5.4	2.2	2.2	3.3	4.3	3.3	-	2.2	-	21.7	-	-
その他	18	33.3	5.6	-	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6	-	-	-	-	16.7	5.6	-
無職(年金生活を含む)	80	13.8	7.5	10.0	7.5	-	7.5	11.3	2.5	1.3	-	3.8	-	28.8	5.0	1.3

世帯状況別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は単身世帯（19.0%）が6.4ポイント、三世帯世帯（18.8%）が6.2ポイントそれぞれ全体を上回っている。また、単身世帯は「買い物が不便なので」（10.3%）、一世代世帯は「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」（17.8%）が多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-4-5 世帯状況別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	医療機関が近くにない	こどもの教育のため	その他	特に理由はない	無回答
全 体	444	18.2	12.6	9.9	9.5	7.0	5.9	5.2	2.5	2.0	1.8	1.4	0.9	19.6	3.4	0.2
単身世帯	58	13.8	19.0	6.9	1.7	10.3	5.2	10.3	1.7	-	3.4	-	-	25.9	1.7	-
一世代世帯	118	17.8	7.6	9.3	17.8	0.8	8.5	4.2	5.9	1.7	0.8	2.5	-	20.3	1.7	0.8
二世帯世帯	230	19.6	13.0	11.7	7.8	9.1	4.3	4.3	1.3	3.0	1.3	0.9	1.7	17.0	4.8	-
三世帯世帯	32	15.6	18.8	6.3	6.3	9.4	6.3	6.3	-	-	3.1	3.1	-	21.9	3.1	-
その他	5	40.0	-	-	-	-	20.0	-	-	-	-	-	-	40.0	-	-

第4章 調査結果の詳細

居住年数別で見ると、「交通の便が悪いので」は1～3年未満(21.2%)、40年以上(22.1%)、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は10～15年未満(27.5%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は1～3年未満(27.3%)で2割以上となっている。また、「付近の生活環境が悪いので」は40年以上(15.1%)、「仕事の関係で」は20～30年未満(13.6%)、「このまちに愛着がないから」は10～15年未満(12.5%)、「こどもの教育のため」は5～10年未満(7.3%)で多くなっている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表1-4-6 居住年数別 転居意向の理由

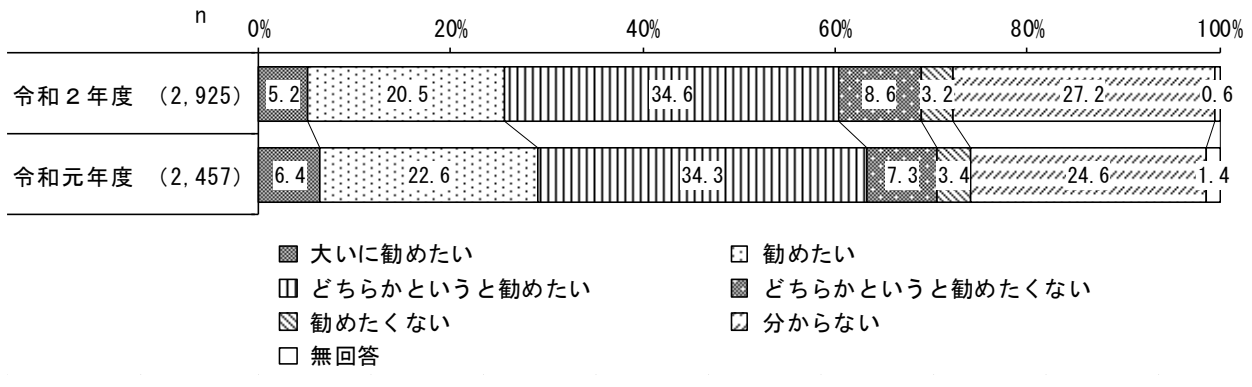
	調査数(人)	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	医療機関が近くにない	こどもの教育のため	その他	特に理由はない	無回答
全体	444	18.2	12.6	9.9	9.5	7.0	5.9	5.2	2.5	2.0	1.8	1.4	0.9	19.6	3.4	0.2
1年未満	17	17.6	11.8	17.6	23.5	5.9	-	5.9	-	5.9	-	-	-	11.8	-	-
1～3年未満	33	21.2	6.1	-	27.3	6.1	9.1	6.1	-	-	3.0	-	-	21.2	-	-
3～5年未満	23	4.3	4.3	13.0	13.0	8.7	8.7	13.0	13.0	-	-	4.3	4.3	13.0	-	-
5～10年未満	41	17.1	14.6	7.3	17.1	9.8	2.4	4.9	-	-	4.9	2.4	7.3	9.8	2.4	-
10～15年未満	40	12.5	27.5	10.0	10.0	5.0	12.5	-	-	2.5	2.5	-	-	15.0	2.5	-
15～20年未満	25	20.0	12.0	-	8.0	8.0	-	-	-	-	4.0	-	-	40.0	8.0	-
20～30年未満	103	18.4	10.7	8.7	6.8	13.6	5.8	7.8	1.0	1.9	1.9	1.9	-	17.5	3.9	-
30～40年未満	76	19.7	13.2	11.8	3.9	3.9	5.3	1.3	3.9	2.6	1.3	1.3	-	25.0	6.6	-
40年以上	86	22.1	11.6	15.1	3.5	1.2	5.8	7.0	4.7	3.5	-	1.2	-	20.9	2.3	1.2

(5) 越谷市に住み暮らすことを勧めたいか

◇『勧めたい』が約6割

問 11. **皆さんに伺います。**あなたは越谷市に住み暮らすことを知人等にどのくらい勧めたいですか。(〇は1つ)

図表 1-5-1 越谷市に住み暮らすことを勧めたいか



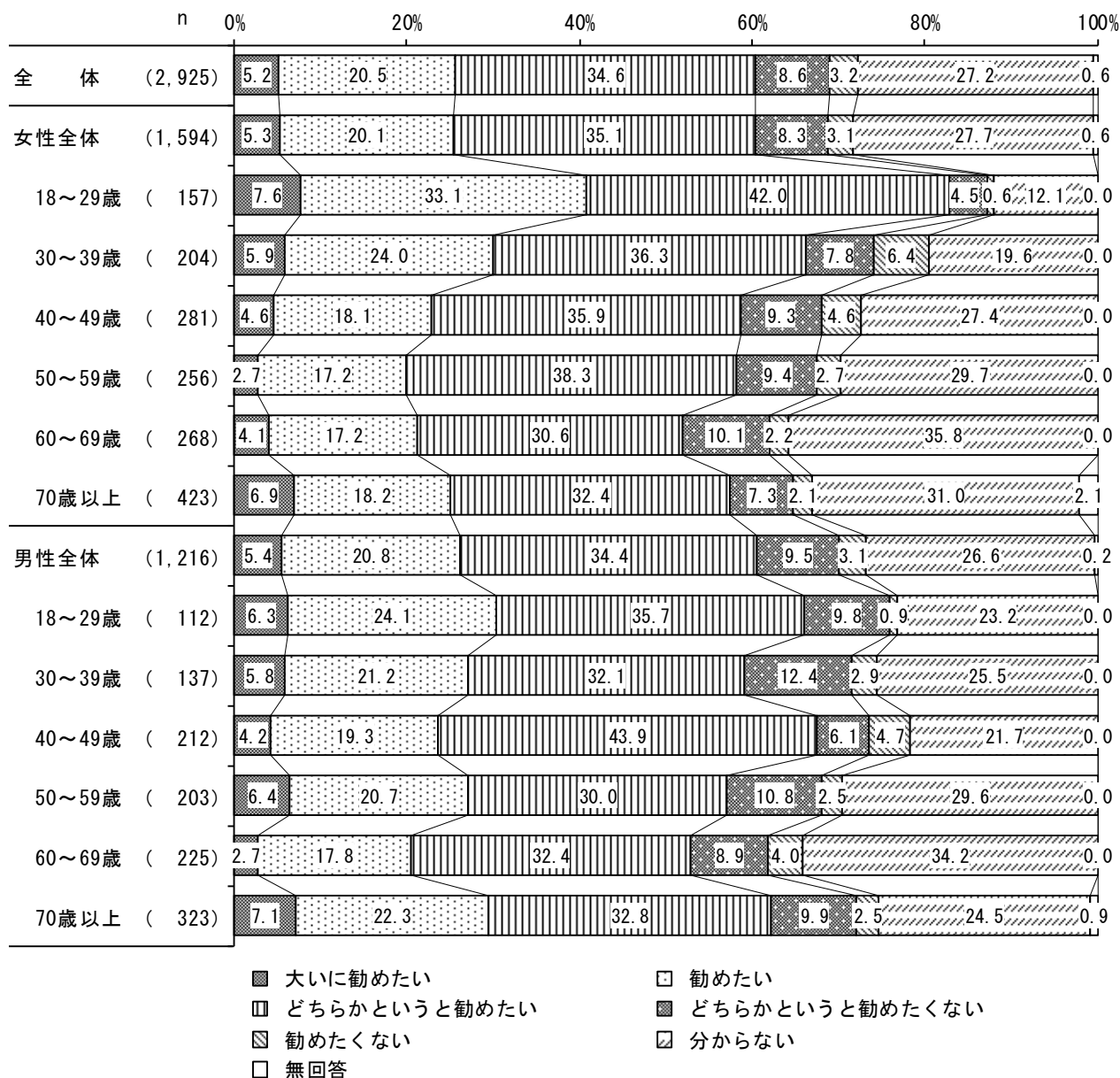
越谷市に住み暮らすことを勧めたいか聞いたところ、「どちらかという勧めたい」(34.6%)が最も多く、次いで「勧めたい」(20.5%)、「どちらかという勧めたくない」(8.6%)、「大いに勧めたい」(5.2%)、「勧めたくない」(3.2%)となっている。「大いに勧めたい」、「勧めたい」、「どちらかという勧めたい」を合わせた『勧めたい』(60.3%)は約6割、「どちらかという勧めたくない」と「勧めたくない」を合わせた『勧めたくない』(11.9%)は約1割となっている。

過去の調査と比較すると、『勧めたい』は令和元年度調査(63.3%)と比べ3.0ポイント減少、『勧めたくない』は令和元年度調査(10.7%)と比べ1.2ポイント増加している。

性別でみると、『勧めたい』は男性（60.6%）と女性（60.4%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『勧めたい』は女性18～29歳（82.8%）が全体を22.5ポイント上回り、特に多くなっている。また、女性30歳代（66.2%）、男性18～29歳（66.1%）、男性40歳代（67.5%）も『勧めたい』が全体を5ポイント以上上回っている。一方、60歳代は女性（51.9%）、男性（52.9%）とも『勧めたい』が少なく、「分からない」が3割を超えている。

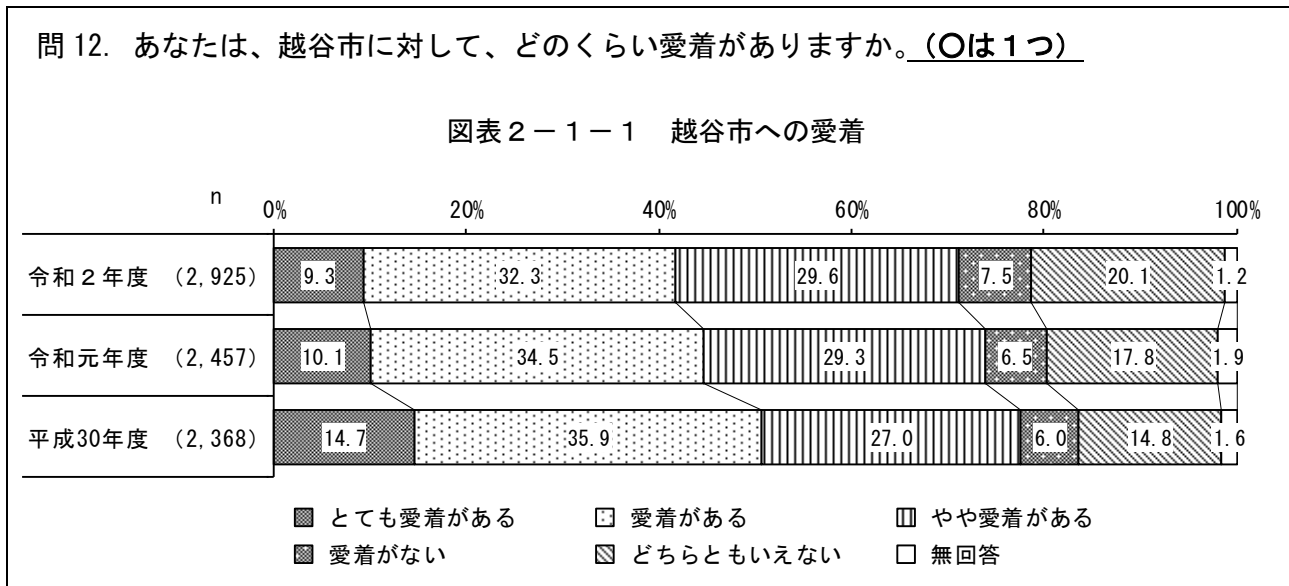
図表1-5-2 性・年齢別 越谷市に住み暮らすことを勧めたいか



2. 越谷市への愛着度と魅力配信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が約7割



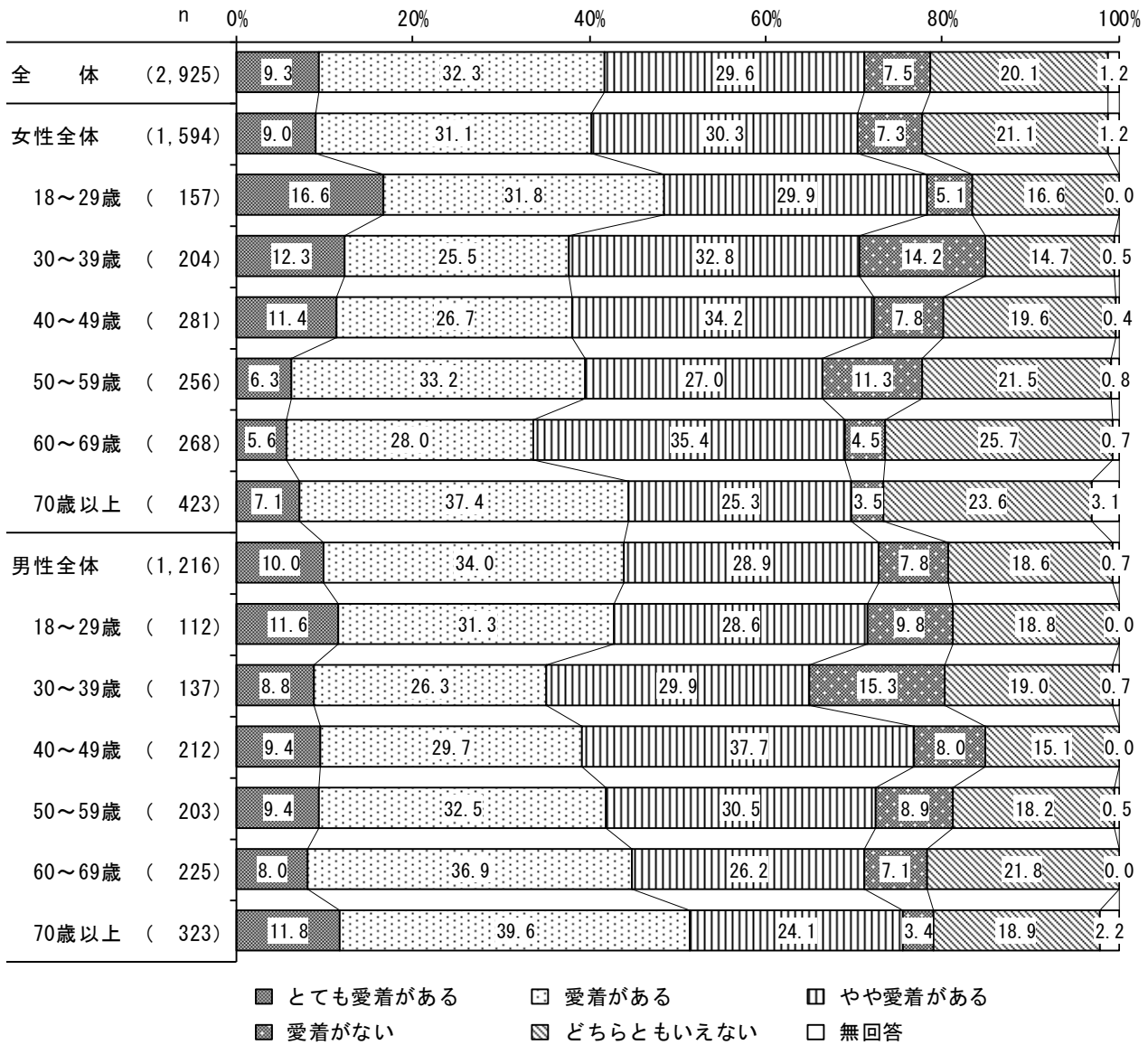
越谷市への愛着については、「愛着がある」(32.3%)が最も多く、次いで「やや愛着がある」(29.6%)、「どちらともいえない」(20.1%)、「とても愛着がある」(9.3%)、「愛着がない」(7.5%)となっている。「とても愛着がある」、「愛着がある」、「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(71.2%)は約7割となっている。

過去2回の調査と比較すると、『愛着がある』は減少傾向にあり、令和元年度調査(73.9%)と比べ2.7ポイント減少している。一方、「どちらともいえない」「愛着がない」は増加傾向にあり、令和元年度調査と比べそれぞれ2.3ポイント、1.0ポイント増加している。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『愛着がある』は女性18～29歳（78.3%）が最も多く、男性40歳代（76.9%）、男性70歳以上（75.5%）が続いている。男性は30歳代（65.0%）を除き『愛着がある』が7割以上となっているが、女性は50歳代以上（66.4%、69.0%、69.7%）で『愛着がある』が7割を下回っている。

図表2-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着

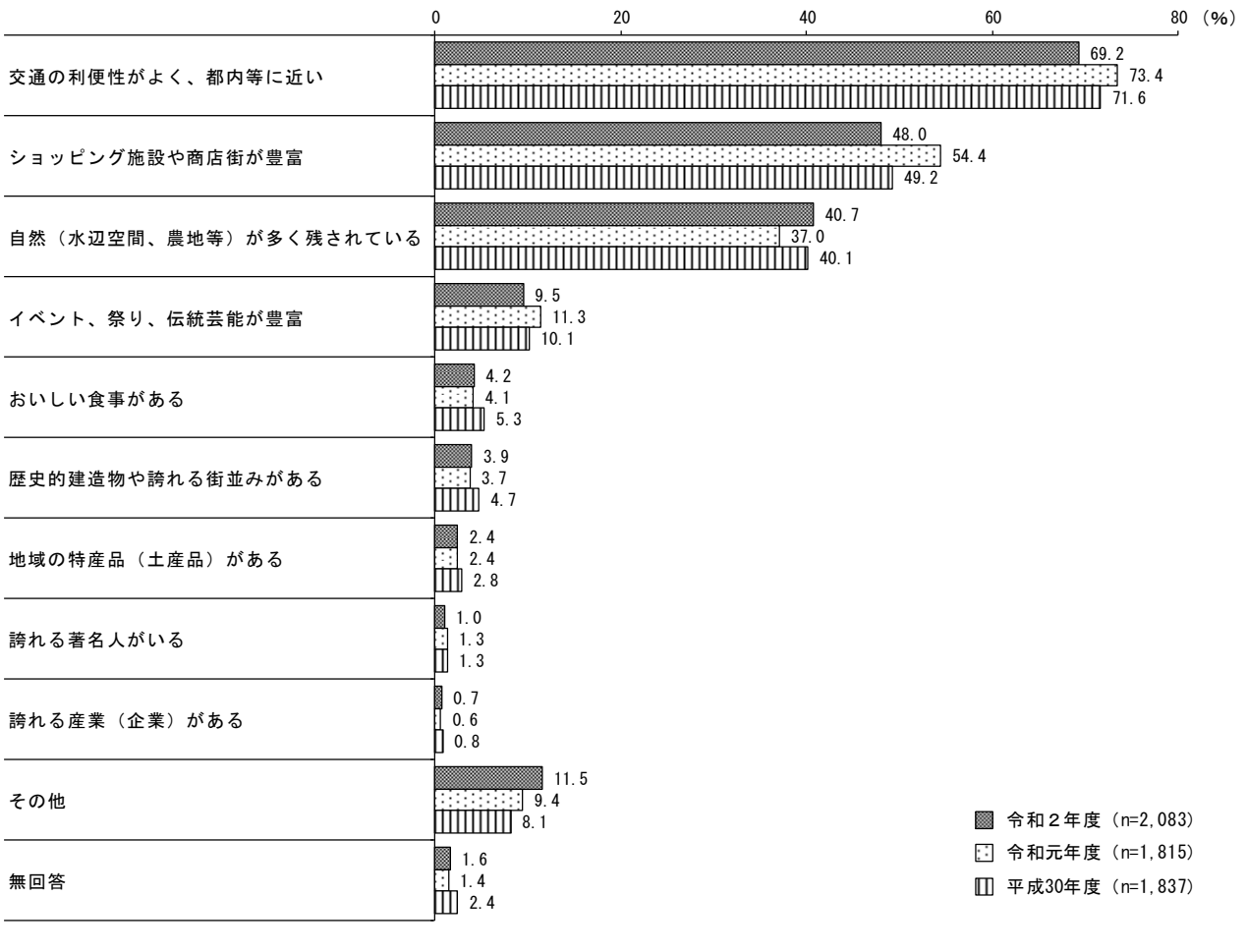


(2) 愛着がある理由

◇「交通の利便性がよく、都内等に近い」が最も多く、約7割

問12-2. 問12で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
(複数回答可)

図表2-2-1 愛着がある理由



越谷市に対して『愛着がある』と回答した2,083人に、愛着がある理由を聞いたところ、「交通の利便性がよく、都内等に近い」(69.2%)が最も多く、次いで「ショッピング施設や商店街が豊富」(48.0%)、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」(40.7%)、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」(9.5%)、「おいしい食事がある」(4.2%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、上位3項目は共通であるが、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」が令和元年度調査(37.0%)と比べ3.7ポイント増加する一方、「交通の利便性がよく、都内等に近い」「ショッピング施設や商店街が豊富」はそれぞれ4.2ポイント、6.4ポイント減少している。

性別でみると、「ショッピング施設や商店街が豊富」は女性（50.8%）が男性（45.1%）を5.7ポイント上回っている。「交通の利便性がよく、都内等に近い」についても、女性（70.8%）が男性（67.4%）を3.4ポイント上回っている。一方、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は男性（44.0%）の方が女性（39.2%）より4.8ポイント多くなっている。

性・年齢別でみると、「交通の利便性がよく、都内等に近い」は男性30歳代（55.1%）を除く年齢で最多となっている。特に女性50歳代以上（75.9%、76.2%、74.2%）、男性60歳代以上（76.3%、70.9%）で7割を超えている。「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」についても、男性70歳以上（56.1%）を筆頭に60歳代の高年齢層が多くなっている。一方、「ショッピング施設や商店街が豊富」は男女とも18～29歳・30歳代の若年層で多くなる傾向にあり、女性18～29歳（62.6%）は全体を14.6ポイント上回っている。また、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」は男性30歳代（14.6%）、「おいしい食事がある」は女性18～29歳（9.8%）で多くなっている。

図表2-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

	調査数（人）	等交通の利便性がよく、都内に近い	がショッピング施設や商店街が豊富	が自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	がイベント、祭り、伝統芸能が豊富	おいしい食事がある	み歴史的建造物や誇れる街並みがある	ある地域の特産品（土産品）が	誇れる著名人がいる	誇れる産業（企業）がある	その他	無回答
全体	2,083	69.2	48.0	40.7	9.5	4.2	3.9	2.4	1.0	0.7	11.5	1.6
女性全体	1,123	70.8	50.8	39.2	10.2	4.7	4.7	2.9	1.2	0.7	12.4	1.6
18～29歳	123	68.3	62.6	22.0	9.8	9.8	4.1	-	2.4	0.8	13.8	-
30～39歳	144	62.5	57.6	32.6	11.1	6.9	2.8	2.1	2.1	1.4	17.4	1.4
40～49歳	203	64.5	57.1	36.0	10.3	4.4	7.4	3.0	0.5	1.0	17.7	-
50～59歳	170	75.9	54.1	36.5	13.5	4.7	4.7	4.1	1.8	-	12.9	2.4
60～69歳	185	76.2	47.0	45.4	7.6	3.2	4.3	4.9	-	0.5	10.3	2.2
70歳以上	295	74.2	38.6	49.5	9.8	2.7	4.4	2.7	1.0	0.7	6.4	2.7
男性全体	886	67.4	45.1	44.0	8.9	3.4	3.0	1.9	0.8	0.6	10.5	1.2
18～29歳	80	68.8	56.3	22.5	8.8	7.5	5.0	5.0	1.3	1.3	16.3	1.3
30～39歳	89	55.1	57.3	32.6	14.6	5.6	2.2	2.2	3.4	-	14.6	1.1
40～49歳	163	63.8	46.0	36.8	7.4	5.5	0.6	2.5	0.6	0.6	11.0	1.8
50～59歳	147	62.6	40.1	44.9	10.2	3.4	3.4	-	-	-	14.3	1.4
60～69歳	160	76.3	43.1	49.4	7.5	1.3	3.1	1.3	0.6	0.6	8.1	0.6
70歳以上	244	70.9	41.0	56.1	8.2	0.8	4.1	2.0	0.4	0.8	6.1	1.2

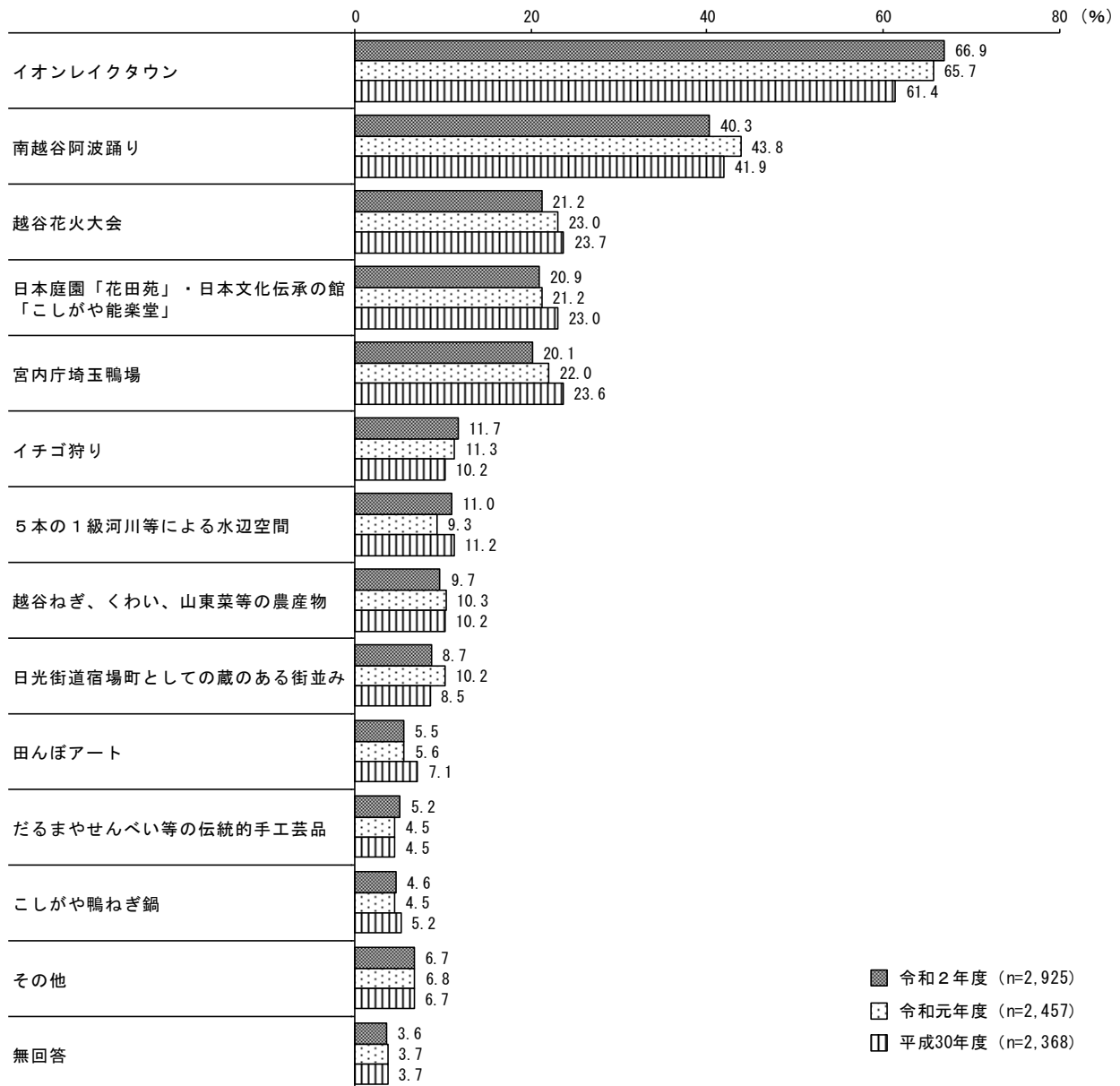
(3) 越谷市の誇れるもの

◇「イオンレイクタウン」が最も多く、6割半ば

問13. 皆さんに伺います。越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。

(複数回答可)

図表2-3-1 越谷市の誇れるもの



越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」(66.9%)が最も多く、次いで「南越谷阿波踊り」(40.3%)、「越谷花火大会」(21.2%)、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」(20.9%)、「宮内庁埼玉鴨場」(20.1%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「イオンレイクタウン」は増加傾向にあり、令和元年度調査(65.7%)と比べ1.2ポイント増加している。一方、「南越谷阿波踊り」、「越谷花火大会」、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」、「宮内庁埼玉鴨場」は減少傾向にあり、中でも「南越谷阿波踊り」は令和元年度調査(43.8%)と比べ3.5ポイント減少している。

性別でみると、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」は女性（25.8%）が男性（14.7%）を11.1ポイント上回っている。また、「南越谷阿波踊り」（女性42.7%、男性37.6%）、「イチゴ狩り」（女性13.7%、男性9.3%）も女性が多くなっている。一方、「5本の1級河川等による水辺空間」は男性（13.4%）が女性（9.2%）を4.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「イオンレイクタウン」は男女とも全ての年齢で5割以上となっており、女性18～29歳（91.1%）で約9割を占めるなど、特に若い年齢で増加する傾向にある。一方、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」、「宮内庁埼玉鴨場」は女性を中心に高齢層で多くなる傾向にあり、前者は女性60歳代以上（30.6%、35.5%）、後者は女性70歳以上（30.0%）でいずれも3割以上となっている。また、「南越谷阿波踊り」は女性18～29歳（48.4%）で5割弱を占めるのに対し、男性18～29歳（26.8%）は2割半ばにとどまっている。

図表2-3-2 性・年齢別 越谷市の誇れるもの

	調査数（人）	イオンレイクタウン	南越谷阿波踊り	越谷花火大会	日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」	宮内庁埼玉鴨場	イチゴ狩り	5本の1級河川等による水辺空間	産物 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物	街並み 日光街道宿場町としての蔵のある街並み	田んぼアート	芸品 だるまやせんべい等の伝統的手工芸品	こしがや鴨ねぎ鍋	その他	無回答
全体	2,925	66.9	40.3	21.2	20.9	20.1	11.7	11.0	9.7	8.7	5.5	5.2	4.6	6.7	3.6
女性全体	1,594	68.4	42.7	22.4	25.8	21.1	13.7	9.2	9.7	9.4	6.3	5.6	5.1	6.4	3.3
18～29歳	157	91.1	48.4	26.1	14.0	6.4	15.3	2.5	9.6	5.1	4.5	5.1	2.5	2.5	0.6
30～39歳	204	77.0	43.1	22.5	13.7	6.4	20.1	2.9	5.9	4.9	4.4	4.9	4.9	7.8	2.5
40～49歳	281	73.3	45.2	17.4	18.1	18.1	19.9	7.1	9.6	10.0	7.1	5.7	7.8	9.3	2.5
50～59歳	256	69.9	41.0	22.3	29.7	23.4	13.7	4.3	10.2	5.9	3.5	5.5	7.0	7.8	3.5
60～69歳	268	66.4	42.2	21.6	30.6	28.4	10.8	12.7	12.7	9.0	5.6	3.7	3.0	5.6	2.2
70歳以上	423	53.4	40.0	24.8	35.5	30.0	7.6	16.8	9.2	15.1	9.5	7.3	4.5	5.0	5.9
男性全体	1,216	66.6	37.6	19.8	14.7	18.7	9.3	13.4	10.2	8.1	4.9	4.8	4.4	7.2	3.4
18～29歳	112	86.6	26.8	21.4	5.4	5.4	11.6	3.6	7.1	3.6	6.3	7.1	8.0	4.5	-
30～39歳	137	75.9	45.3	24.1	10.2	5.1	10.9	4.4	8.0	2.2	5.1	5.8	4.4	6.6	2.9
40～49歳	212	74.1	40.1	17.9	9.4	19.3	13.7	5.7	12.3	5.7	3.8	2.4	5.7	6.1	1.9
50～59歳	203	67.0	37.4	18.7	14.8	23.6	8.4	15.8	10.3	10.3	6.4	3.4	4.4	8.4	2.0
60～69歳	225	61.8	36.0	19.1	15.1	18.7	6.2	16.4	9.3	9.8	4.4	4.9	1.8	9.3	5.3
70歳以上	323	53.9	37.5	19.2	22.9	25.7	7.7	22.3	11.5	11.5	4.6	5.9	4.3	6.5	5.3

3. 越谷市の伝統的手工芸品について

(1) 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

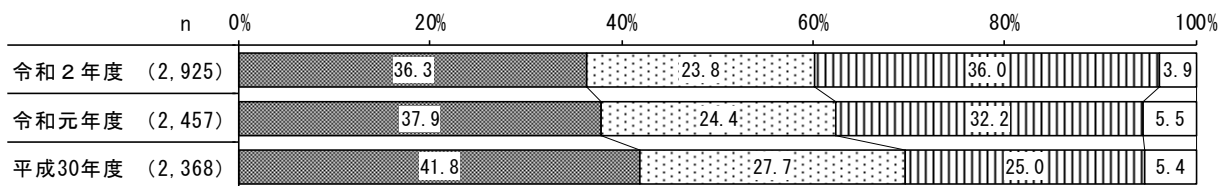
◇認知度は「越谷だるま」が7割弱、購入経験は「越谷手焼きせんべい」が3割半ば

問 14. 越谷市に以下のような伝統的手工芸品があることを知っていますか。また、以下の伝統的手工芸品のうち、買ったことがあるものはありますか。

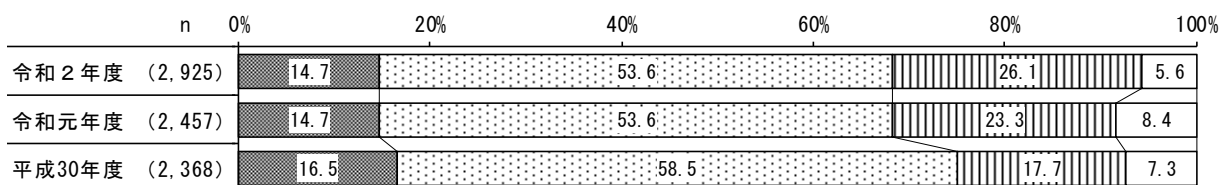
(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)

図表3-1-1 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

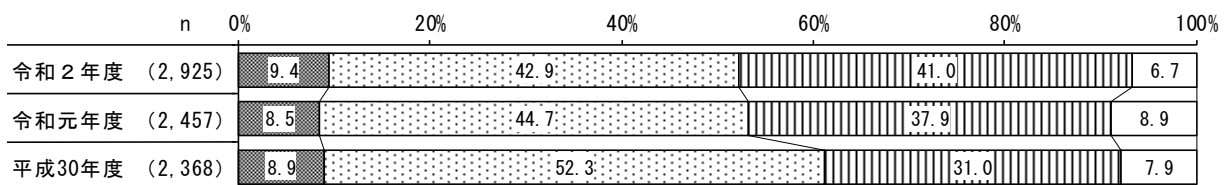
ア 越谷手焼きせんべい



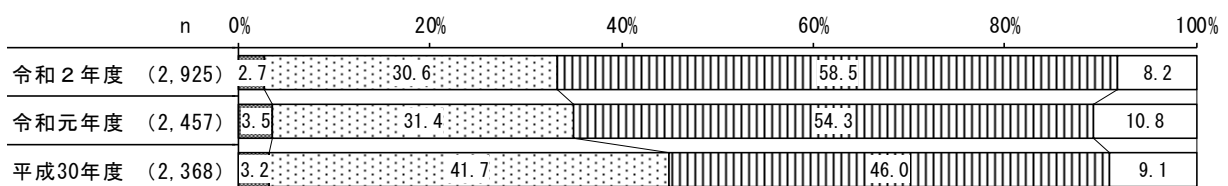
イ 越谷だるま



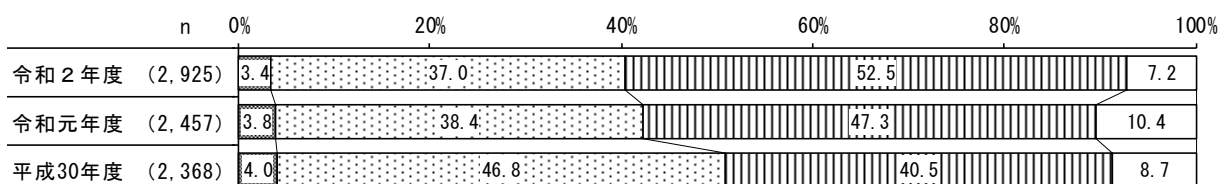
ウ 越谷ひな人形



エ 越谷甲冑



オ 越谷桐箱・桐工芸品



■ 買ったことがある □ 知っているが買ったことはない
 ▨ 知らない □ 無回答

第4章 調査結果の詳細

越谷市の伝統的手工芸品について、「買ったことがある」と「知っているが買ったことはない」を合わせた『知っている』では、「イ 越谷だるま」(68.3%)が7割弱と最も多く、次いで「ア 越谷手焼きせんべい」(60.1%)、「ウ 越谷ひな人形」(52.3%)、「オ 越谷桐箱・桐工芸品」(40.3%)、「エ 越谷甲冑」(33.3%)の順となっている。また、「買ったことがある」では、「ア 越谷手焼きせんべい」(36.3%)が3割半ばと最も多く、次いで「イ 越谷だるま」(14.7%)、「ウ 越谷ひな人形」(9.4%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、全ての項目で『知っている』は減少傾向にあり、「エ 越谷甲冑」は令和元年度以降、「オ 越谷桐箱・桐工芸品」は本年度過半数が「知らない」と回答している。

「ア 越谷手焼きせんべい」について性別で見ると、『知っている』は女性(62.7%)が男性(56.6%)を6.1ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、男女とも30歳代以上では年齢が上がるにつれ『知っている』が増加する傾向にあり、女性60歳以上(76.5%、78.5%)、男性70歳以上(73.7%)で7割以上となっている。これらの層は「買ったことがある」(50.4%、57.4%、53.3%)も5割を超えている。一方、30歳代は女性(40.2%)、男性(39.4%)とも『知っている』が全体を約2割下回っている。

「イ 越谷だるま」について性別で見ると、『知っている』は女性(71.0%)が男性(65.9%)を5.1ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性30歳代~60歳代、男性30歳代以上では年齢が上がるにつれ『知っている』が増加する傾向にあり、女性50歳以上(78.5%、79.1%、74.7%)、男性70歳以上(72.8%)で7割以上となっている。女性70歳以上は「買ったことがある」(21.0%)が2割を超えている。一方、30歳代は女性(53.4%)、男性(52.6%)とも『知っている』が全体を1割以上下回っている。

「ウ 越谷ひな人形」について性別で見ると、『知っている』は女性(55.1%)が男性(48.4%)を6.7ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性30歳代~60歳代、男性30歳代以上では年齢が上がるにつれ『知っている』が増加する傾向にあり、女性60歳以上(66.8%、65.5%)、男性70歳以上(61.0%)で6割以上となっている。女性70歳以上は「買ったことがある」(20.1%)が約2割となっている。一方、女性30歳代(35.3%)、男性18~29歳・30歳代~40歳代(42.0%、32.8%、41.5%)は『知っている』が全体を1割以上下回っている。

「エ 越谷甲冑」について性別で見ると、『知っている』は女性(35.0%)が男性(31.3%)を3.7ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性30歳代~60歳代、男性40歳代以上では年齢が上がるにつれ『知っている』が増加する傾向にあり、女性50歳以上(40.6%、48.5%、45.9%)、男性70歳以上(43.0%)で4割以上となっている。一方、女性18~29歳・30歳代(17.2%、16.2%)、男性18~29歳・30歳代~40歳代(23.2%、21.9%、21.2%)は『知っている』が全体を1割以上下回っており、「買ったことがある」は男女全ての年齢で1割未満となっている。

「オ 越谷桐箱・桐工芸品」について性別でみると、『知っている』は女性（42.2%）が男性（38.2%）を4.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性30歳代以上、男性18歳以上では年齢が上がるにつれ『知っている』が増加する傾向にあり、女性60歳代以上（54.5%、56.0%）、男性70歳以上（50.2%）で5割以上となっている。一方、男女とも18～29歳（26.8%：同率）、30歳代（男性27.0%、女性23.0%）、40歳代（男性27.4%、女性28.8%）は『知っている』が全体を1割以上下回っており、「買ったことがある」は男女全ての年齢で1割未満となっている。

図表3-1-2 性・年齢別 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

(%)

	調査数（人）	ア 越谷手焼きせんべい				イ 越谷だるま				ウ 越谷ひな人形			
		買ったことがある	買知ったことはない	知らない	無回答	買ったことがある	買知ったことはない	知らない	無回答	買ったことがある	買知ったことはない	知らない	無回答
全体	2,925	36.3	23.8	36.0	3.9	14.7	53.6	26.1	5.6	9.4	42.9	41.0	6.7
女性全体	1,594	37.8	25.0	33.5	3.8	16.4	54.6	23.7	5.3	10.5	44.5	38.5	6.4
18～29歳	157	21.0	27.4	51.0	0.6	16.6	45.9	36.9	0.6	2.5	43.9	51.6	1.9
30～39歳	204	15.7	24.5	59.3	0.5	10.8	42.6	45.6	1.0	3.4	31.9	63.7	1.0
40～49歳	281	21.4	27.0	50.5	1.1	16.7	52.3	30.2	0.7	7.5	37.7	54.1	0.7
50～59歳	256	38.3	27.0	34.4	0.4	16.0	62.5	21.5	-	6.6	51.2	41.0	1.2
60～69歳	268	50.4	26.1	21.6	1.9	13.1	66.0	18.3	2.6	12.3	54.5	29.5	3.7
70歳以上	423	57.4	21.0	9.9	11.6	21.0	53.7	8.0	17.3	20.1	45.4	15.1	19.4
男性全体	1,216	33.6	22.9	40.0	3.5	13.1	52.8	29.8	4.4	7.6	40.7	45.9	5.8
18～29歳	112	20.5	25.9	53.6	-	14.3	50.0	35.7	-	2.7	39.3	58.0	-
30～39歳	137	16.8	22.6	60.6	-	8.8	43.8	47.4	-	2.2	30.7	67.2	-
40～49歳	212	20.8	25.9	53.3	-	12.7	46.7	40.1	0.5	4.2	37.3	57.5	0.9
50～59歳	203	27.6	23.2	47.8	1.5	13.3	53.7	32.5	0.5	6.9	36.0	55.2	2.0
60～69歳	225	39.6	22.2	35.6	2.7	12.0	57.8	28.0	2.2	8.4	45.3	41.8	4.4
70歳以上	323	53.3	20.4	16.1	10.2	15.5	57.3	13.0	14.2	13.9	47.1	22.3	16.7

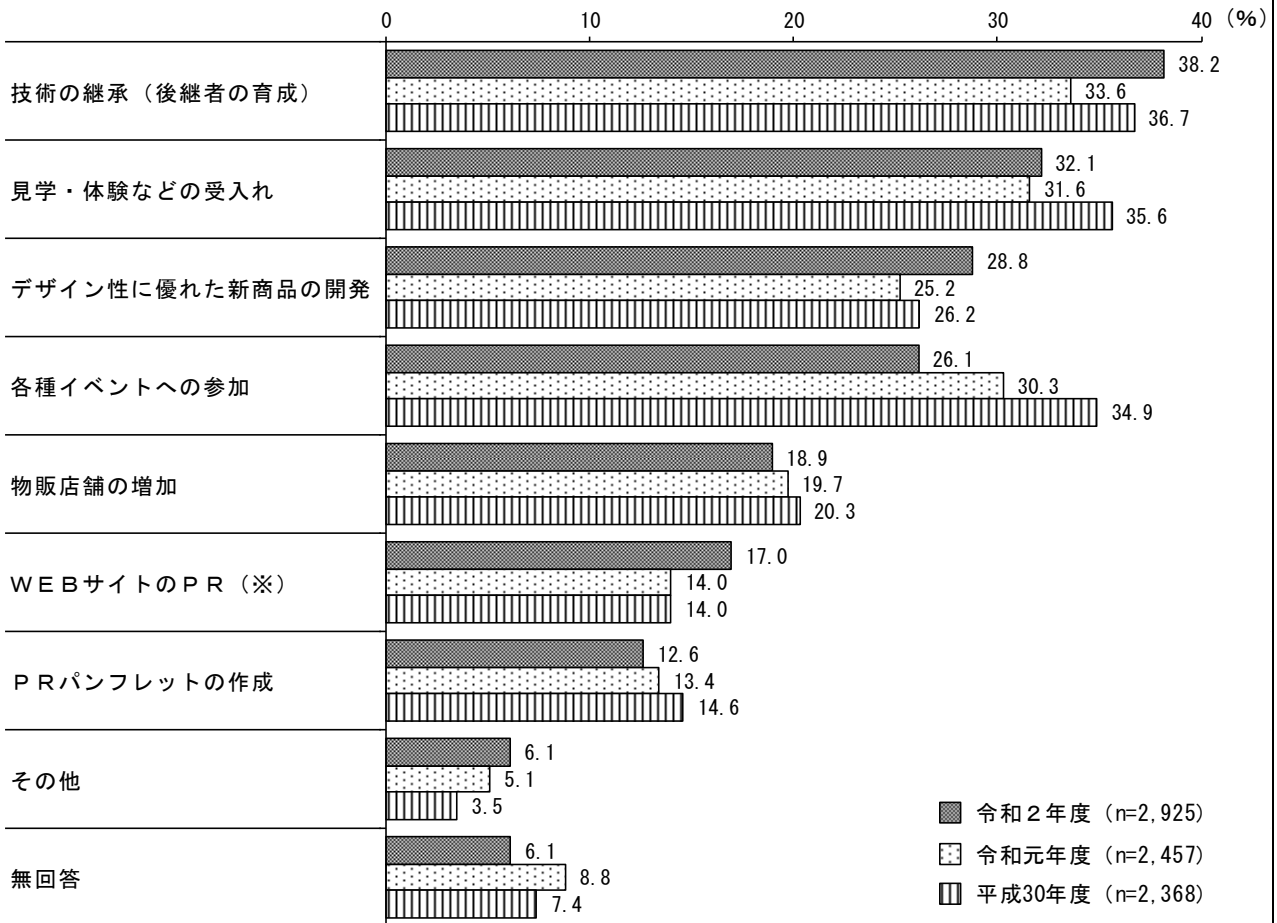
	調査数（人）	エ 越谷甲冑				オ 越谷桐箱・桐工芸品			
		買ったことがある	買知ったことはない	知らない	無回答	買ったことがある	買知ったことはない	知らない	無回答
全体	2,925	2.7	30.6	58.5	8.2	3.4	37.0	52.5	7.2
女性全体	1,594	3.1	31.9	56.9	8.1	3.3	38.9	50.6	7.3
18～29歳	157	-	17.2	80.3	2.5	1.3	25.5	71.3	1.9
30～39歳	204	0.5	15.7	82.8	1.0	-	23.0	76.0	1.0
40～49歳	281	2.1	22.4	73.3	2.1	0.4	28.5	69.4	1.8
50～59歳	256	0.8	39.8	58.2	1.2	1.2	44.9	53.1	0.8
60～69歳	268	4.9	43.7	47.4	4.1	4.1	50.4	41.0	4.5
70歳以上	423	6.4	39.5	29.8	24.3	8.3	47.8	22.2	21.7
男性全体	1,216	2.4	28.9	62.0	6.7	3.4	34.8	56.2	5.7
18～29歳	112	1.8	21.4	76.8	-	1.8	25.0	73.2	-
30～39歳	137	0.7	21.2	78.1	-	1.5	25.5	73.0	-
40～49歳	212	0.9	20.3	77.4	1.4	1.4	25.9	71.7	0.9
50～59歳	203	1.5	26.1	70.0	2.5	3.0	30.5	65.0	1.5
60～69歳	225	2.7	34.2	59.6	3.6	5.3	42.2	50.7	1.8
70歳以上	323	4.6	38.4	36.8	20.1	5.0	45.2	31.3	18.6

(2) 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み

◇「技術の継承（後継者の育成）」が最も多く、4割弱

問15. 今後、越谷市伝統的手工芸品についてどのような取組みを期待しますか。(複数回答可)

図表3-2-1 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み



(※) 平成28年度調査の選択肢は「WEBサイトの開設」

越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組みについては、「技術の継承（後継者の育成）」（38.2%）が最も多く、次いで「見学・体験などの受入れ」（32.1%）、「デザイン性に優れた新商品の開発」（28.8%）、「各種イベントへの参加」（26.1%）、「物販店舗の増加」（18.9%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査と比べ、「技術の継承（後継者の育成）」（令和元年度 33.6%）は4.6ポイント、「デザイン性に優れた新商品の開発」（令和元年度 25.2%）は3.6ポイント増加している。

一方、「各種イベントへの参加」は減少傾向にあり、令和元年度調査（30.3%）と比べ4.2ポイント減少している。

性別でみると、「WEBサイトのPR」は男性（20.3%）が女性（15.2%）を5.1ポイント上回っている。一方、「見学・体験などの受入れ」（女性35.7%、男性28.0%）、「デザイン性に優れた新商品の開発」（女性31.7%、男性25.4%）は女性の方が多くなっている。

性・年齢別でみると、「技術の継承（後継者の育成）」は女性50歳代～60歳代（45.3%、40.3%）と男性40歳代～60歳代（40.1%、42.9%、41.3%）、「見学・体験などの受入れ」は女性30歳代～40歳代（42.6%、44.5%）、「デザイン性に優れた新商品の開発」は女性18～29歳（45.9%）で4割を超えている。また、「各種イベントへの参加」は女性30歳代～50歳代（34.8%、32.7%、31.6%）、男性40歳代（31.1%）で3割を超えている。

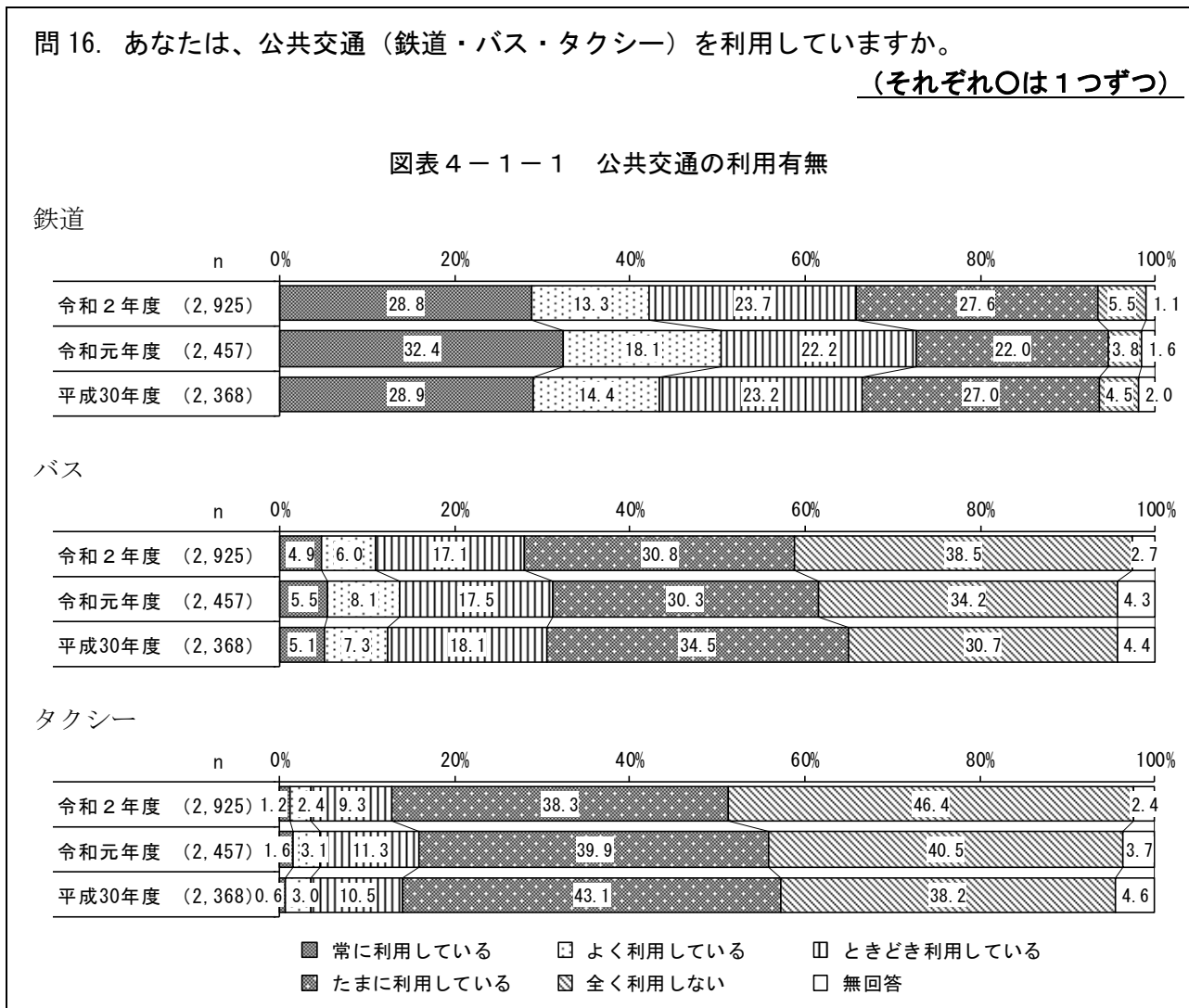
図表3-2-2 性・年齢別 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み

	調査数（人）	技術の継承（後継者の育成）	見学・体験などの受入れ	デザイン性に優れた新商品の開発	各種イベントへの参加	物販店舗の増加	WEBサイトのPR	PRパンフレットの作成	その他	無回答
全体	2,925	38.2	32.1	28.8	26.1	18.9	17.0	12.6	6.1	6.1
女性全体	1,594	38.4	35.7	31.7	27.9	19.8	15.2	11.7	4.7	6.0
18～29歳	157	35.7	30.6	45.9	26.8	23.6	14.6	8.9	3.2	1.9
30～39歳	204	31.9	42.6	35.3	34.8	18.1	20.1	7.4	5.9	3.4
40～49歳	281	34.5	44.5	35.2	32.7	14.6	19.6	8.2	5.0	2.5
50～59歳	256	45.3	39.1	30.5	31.6	18.4	22.3	8.6	7.0	2.7
60～69歳	268	40.3	31.0	31.3	24.3	26.1	16.4	17.2	3.0	5.2
70歳以上	423	39.7	29.1	23.2	21.5	19.9	5.2	15.4	4.3	13.5
男性全体	1,216	38.8	28.0	25.4	24.3	17.8	20.3	13.8	7.4	5.4
18～29歳	112	33.9	25.0	34.8	22.3	24.1	25.0	8.9	6.3	2.7
30～39歳	137	32.8	27.7	27.0	24.1	13.9	24.8	9.5	8.8	5.1
40～49歳	212	40.1	34.0	27.4	31.1	20.8	20.3	10.8	4.7	2.8
50～59歳	203	42.9	27.1	25.6	25.1	17.7	29.6	10.8	9.4	3.0
60～69歳	225	41.3	29.8	23.1	21.3	14.2	21.8	16.0	9.3	3.6
70歳以上	323	37.8	24.8	21.4	22.3	17.6	10.2	19.8	6.5	11.1

4. 市内の公共交通について

(1) 公共交通の利用有無

◇鉄道は「常に利用している」が3割弱、バスは「全く利用しない」が4割弱、タクシーは「全く利用しない」が4割半ば



鉄道の利用については、「常に利用している」(28.8%)が最も多く、次いで「たまにご利用している」(27.6%)、「ときどき利用している」(23.7%)、「よく利用している」(13.3%)、「全く利用しない」(5.5%)の順となっている。

バスの利用については、「全く利用しない」(38.5%)が最も多く、次いで「たまにご利用している」(30.8%)、「ときどき利用している」(17.1%)、「よく利用している」(6.0%)、「常に利用している」(4.9%)の順となっている。

タクシーの利用については、「全く利用しない」(46.4%)が最も多く、次いで「たまにご利用している」(38.3%)、「ときどき利用している」(9.3%)、「よく利用している」(2.4%)、「常に利用している」(1.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、バスとタクシーを「全く利用しない」割合は増加傾向にあり、令和元年度調査(バス34.2%、タクシー40.5%)と比べそれぞれ4.3ポイント、5.9ポイント増加している。

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性（35.3%）が女性（24.2%）を11.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は女性18～29歳（63.1%）が6割強で最も多くなっているが、女性30歳代（33.3%）は3割強、女性40歳代以上（25.6%、27.3%、14.9%、8.0%）は3割未満と年齢が上がるにつれ減少する傾向にある。一方、男性は18～29歳・30歳代～50歳代（47.3%、41.6%、44.8%、47.8%）で「常に利用している」が4割台、60歳代（37.8%）も4割弱を占め、女性に比べ幅広い年齢で多くなっている。また、「全く利用しない」は男女とも全ての年齢で1割未満となっている。

バスの利用について性別でみると、「常に利用している」は女性（4.8%）と男性（4.7%）がほぼ同率となっている。また、「常に利用している」と「よく利用している」を合わせた『よく利用している』についても、女性（11.4%）と男性（10.1%）の間に大きな差はみられない。一方、「全く利用しない」は男性（42.8%）が女性（35.9%）を6.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『よく利用している』は70歳以上が女性（16.1%）、男性（14.2%）とも最も多くなっている。一方、「全く利用しない」は男性18～29歳・30歳代（52.7%、54.0%）で5割以上、女性18～29歳・30歳代（45.2%、42.2%）と男性40歳代～60歳代（49.1%、45.3%、46.2%）で4割以上を占めている。

タクシーの利用について性別でみると、「常に利用している」は女性（1.1%）と男性（1.1%）が同率となっており、『よく利用している』は女性（3.2%）、男性（3.6%）とも1割未満となっている。「全く利用しない」は男性（48.3%）と女性（46.0%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『よく利用している』は70歳以上が女性（6.9%）、男性（6.5%）とも最も多くなっているが、全ての年齢で1割未満となっている。一方、「全く利用しない」は男女とも若年層で多くなる傾向にあり、男性18～29歳（69.6%）で約7割、女性18～29歳（58.6%）で6割弱となっている。

図表4-1-2 性・年齢別 公共交通の利用有無

	調査数（人）	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全体	2,925	28.8	13.3	23.7	27.6	5.5	1.1	4.9	6.0	17.1	30.8	38.5	2.7	1.2	2.4	9.3	38.3	46.4	2.4
女性全体	1,594	24.2	13.7	26.2	29.7	5.3	0.9	4.8	6.5	17.9	32.2	35.9	2.5	1.1	2.1	9.5	39.0	46.0	2.3
18～29歳	157	63.1	13.4	7.6	12.7	3.2	-	5.7	7.0	13.4	26.1	45.2	2.5	-	3.2	7.6	28.0	58.6	2.5
30～39歳	204	33.3	11.3	19.6	29.9	5.4	0.5	3.9	5.4	14.7	32.4	42.2	1.5	0.5	2.5	7.8	31.9	56.4	1.0
40～49歳	281	25.6	11.0	24.9	34.2	3.9	0.4	3.6	4.3	17.1	34.9	39.9	0.4	0.7	0.7	6.4	35.6	55.9	0.7
50～59歳	256	27.3	10.9	25.8	32.4	3.5	-	5.5	5.5	12.5	38.3	37.5	0.8	0.4	1.2	7.4	41.0	48.8	1.2
60～69歳	268	14.9	16.0	35.8	27.6	5.2	0.4	2.2	6.7	25.0	34.0	31.0	1.1	0.4	0.7	10.1	45.5	41.8	1.5
70歳以上	423	8.0	17.0	31.7	32.6	8.0	2.6	7.1	9.0	20.8	27.7	29.1	6.4	3.1	3.8	14.2	43.5	30.5	5.0
男性全体	1,216	35.3	13.1	19.7	25.1	5.8	1.1	4.7	5.4	15.5	28.9	42.8	2.7	1.1	2.5	8.4	37.5	48.3	2.2
18～29歳	112	47.3	25.0	13.4	10.7	3.6	-	2.7	3.6	18.8	19.6	52.7	2.7	-	4.5	4.5	18.8	69.6	2.7
30～39歳	137	41.6	10.9	9.5	29.2	8.0	0.7	5.1	4.4	8.8	25.5	54.0	2.2	-	1.5	2.9	35.0	59.1	1.5
40～49歳	212	44.8	11.3	14.2	24.1	4.7	0.9	1.9	6.6	14.6	25.9	49.1	1.9	-	3.3	8.5	31.6	54.7	1.9
50～59歳	203	47.8	10.3	13.8	22.7	5.4	-	5.4	1.5	13.3	32.0	45.3	2.5	-	1.0	8.4	38.4	50.2	2.0
60～69歳	225	37.8	8.0	25.8	22.7	4.4	1.3	6.2	4.9	12.0	28.9	46.2	1.8	0.9	2.2	6.7	43.6	45.8	0.9
70歳以上	323	12.4	16.4	28.8	32.5	7.7	2.2	5.6	8.7	21.4	33.1	26.9	4.3	3.4	3.1	13.3	44.3	32.2	3.7

(2) 公共交通の満足度

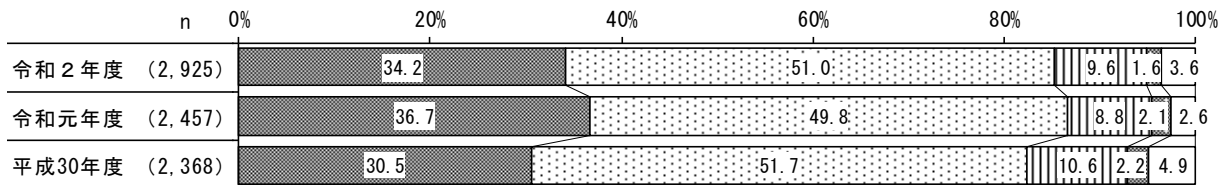
◇『満足』は鉄道が8割半ば、バスが5割半ば、タクシーが6割強

問17. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。

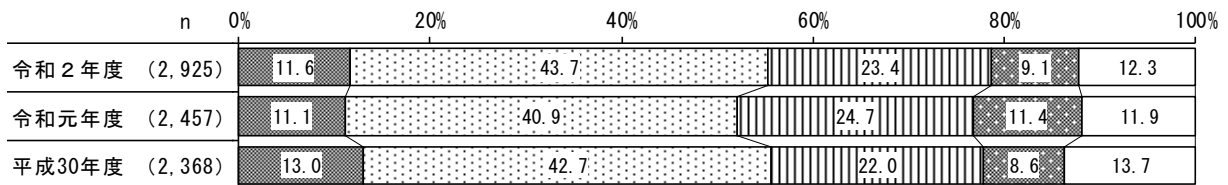
(それぞれ〇は1つずつ)

図表4-2-1 公共交通の満足度

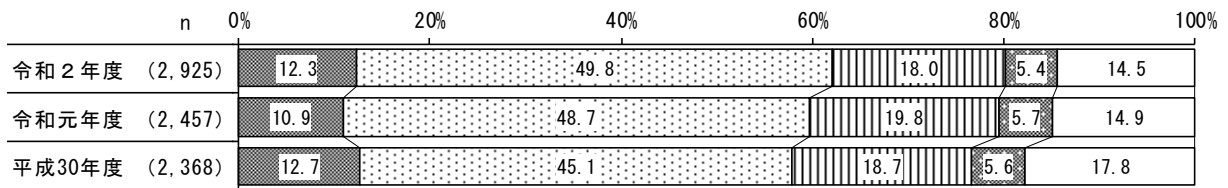
鉄道



バス



タクシー



とても満足している
 やや満足している
 やや不満である
 とても不満である
 無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(34.2%)と「やや満足している」(51.0%)を合わせた『満足』(85.2%)は8割半ばとなっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(11.6%)と「やや満足している」(43.7%)を合わせた『満足』(55.3%)は5割半ばとなっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(12.3%)と「やや満足している」(49.8%)を合わせた『満足』(62.1%)は6割強となっている。

過去2回の調査と比較すると、タクシーは『満足』が増加傾向にあり、令和元年度調査(59.6%)に比べ2.5ポイント増加している。また、バスも『満足』が令和元年度調査(52.0%)に比べ3.3ポイント増加している。

鉄道の満足度について性別で見ると、『満足』は女性（85.6%）、男性（85.1%）とも8割半ばとなっている。また、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた『不満』は女性（10.8%）、男性（11.7%）とも約1割となっており、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、女性は『満足』が全ての年齢で8割台となっている。男性は60歳代（90.2%）で『満足』が最も高く、30歳代（78.8%）で最も低くなっている。

バスの満足度について性別で見ると、『満足』は女性（54.0%）、男性（56.7%）とも5割半ばとなっている。『不満』は女性（33.8%）が男性（30.8%）を3.0ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、女性は『満足』が全ての年齢で5割台となっている。男性は18～29歳（62.5%）で『満足』が6割強を占めている。一方、『不満』は女性30歳代～40歳代（39.7%、39.1%）と男性30歳代（38.0%）で全体を5ポイント以上上回る一方、男女とも60歳代以上は少なくなっている。

タクシーの満足度について性別で見ると、『満足』は女性（63.8%）が男性（59.7%）を4.1ポイント上回っている。一方、『不満』は男性（26.2%）が女性（21.3%）より4.9ポイント多くなっている。

性・年齢別で見ると、『満足』は18～29歳で女性（69.4%）、男性（72.3%）とも最も多くなっている。一方『不満』は女性30歳代（28.4%）、男性30歳代～50歳代（30.7%、34.0%、33.5%）で高くなっており、男性30歳代～50歳代は3割以上を占めている。

図表4-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

(%)

	調査数（人）	鉄道					バス					タクシー				
		とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全体	2,925	34.2	51.0	9.6	1.6	3.6	11.6	43.7	23.4	9.1	12.3	12.3	49.8	18.0	5.4	14.5
女性全体	1,594	32.6	53.1	9.2	1.6	3.6	11.4	42.7	24.6	9.2	12.2	12.5	51.3	16.6	4.7	14.9
18～29歳	157	24.8	61.1	12.7	0.6	0.6	8.9	51.0	24.2	6.4	9.6	16.6	52.9	19.1	4.5	7.0
30～39歳	204	26.0	55.4	14.7	2.9	1.0	6.9	43.6	31.9	7.8	9.8	10.3	47.1	22.1	6.4	14.2
40～49歳	281	31.7	53.4	11.0	1.8	2.1	10.3	40.9	28.8	10.3	9.6	14.2	50.5	18.5	4.6	12.1
50～59歳	256	34.4	51.2	10.9	2.3	1.2	7.8	46.1	26.2	9.8	10.2	9.0	54.3	17.2	7.0	12.5
60～69歳	268	36.2	51.1	8.6	0.4	3.7	14.6	42.9	21.6	9.0	11.9	9.7	51.5	18.7	4.5	15.7
70歳以上	423	35.9	50.8	3.5	1.4	8.3	15.4	38.3	19.1	9.9	17.3	14.7	51.5	9.9	2.8	21.0
男性全体	1,216	36.3	48.8	10.0	1.6	3.2	11.6	45.1	22.5	8.3	12.6	11.9	47.8	20.1	6.2	14.1
18～29歳	112	34.8	49.1	12.5	3.6	-	12.5	50.0	19.6	8.0	9.8	13.4	58.9	11.6	6.3	9.8
30～39歳	137	29.2	49.6	18.2	0.7	2.2	9.5	42.3	27.0	10.9	10.2	9.5	46.7	22.6	8.0	13.1
40～49歳	212	28.8	51.4	15.6	1.9	2.4	9.9	45.3	25.5	10.4	9.0	12.7	42.9	26.4	7.5	10.4
50～59歳	203	40.9	43.3	11.3	3.4	1.0	13.3	41.4	26.6	6.4	12.3	14.3	39.9	24.6	8.9	12.3
60～69歳	225	40.0	50.2	6.2	0.9	2.7	10.2	48.4	20.4	8.4	12.4	8.9	52.0	19.1	5.8	14.2
70歳以上	323	39.3	48.9	4.0	0.6	7.1	13.3	44.3	18.6	6.8	17.0	12.7	49.8	15.5	2.8	19.2

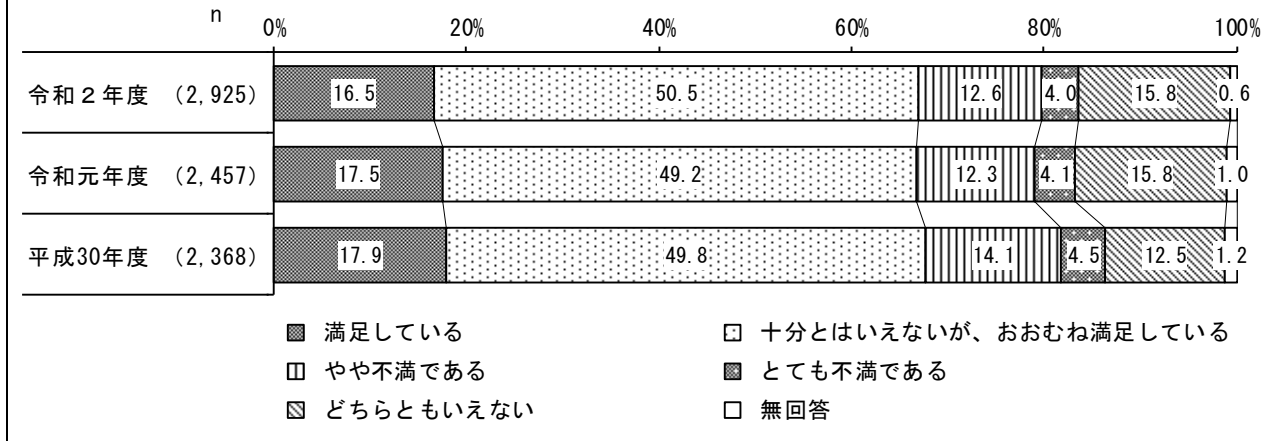
5. 景観（風景）について

（1）景観（風景）の満足度

◇『満足』が7割弱

問 18. あなたは、お住まいの地区の景観（風景）に満足していますか。（○は1つ）

図表5-1-1 景観（風景）の満足度



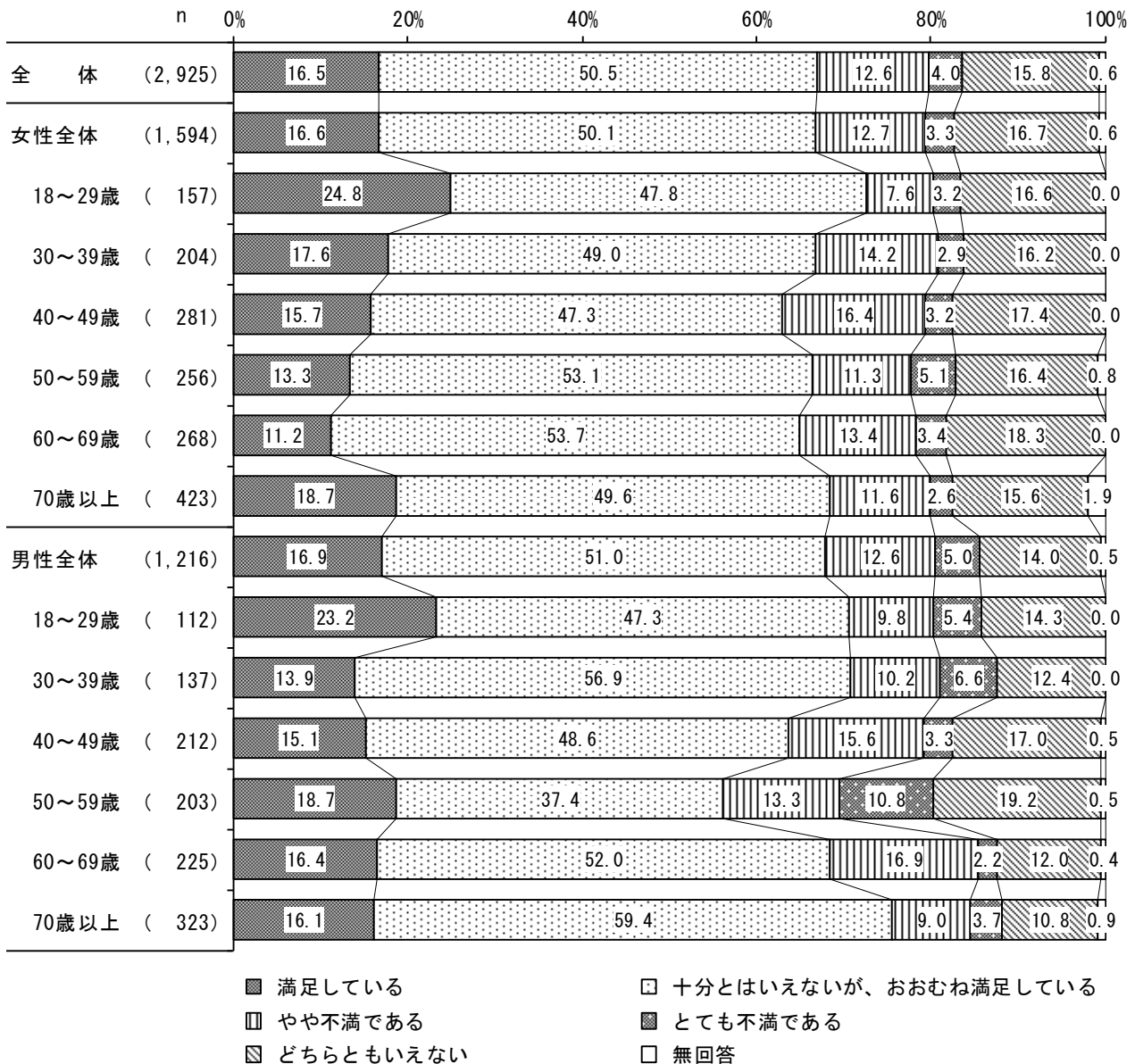
住まいの地区の景観（風景）については、「満足している」（16.5%）と「十分とはいえないが、おおむね満足している」（50.5%）を合わせた『満足』（67.0%）は7割弱、「やや不満である」（12.6%）と「とても不満である」（4.0%）を合わせた『不満』（16.6%）は1割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、概ね令和元年度と同様の傾向となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

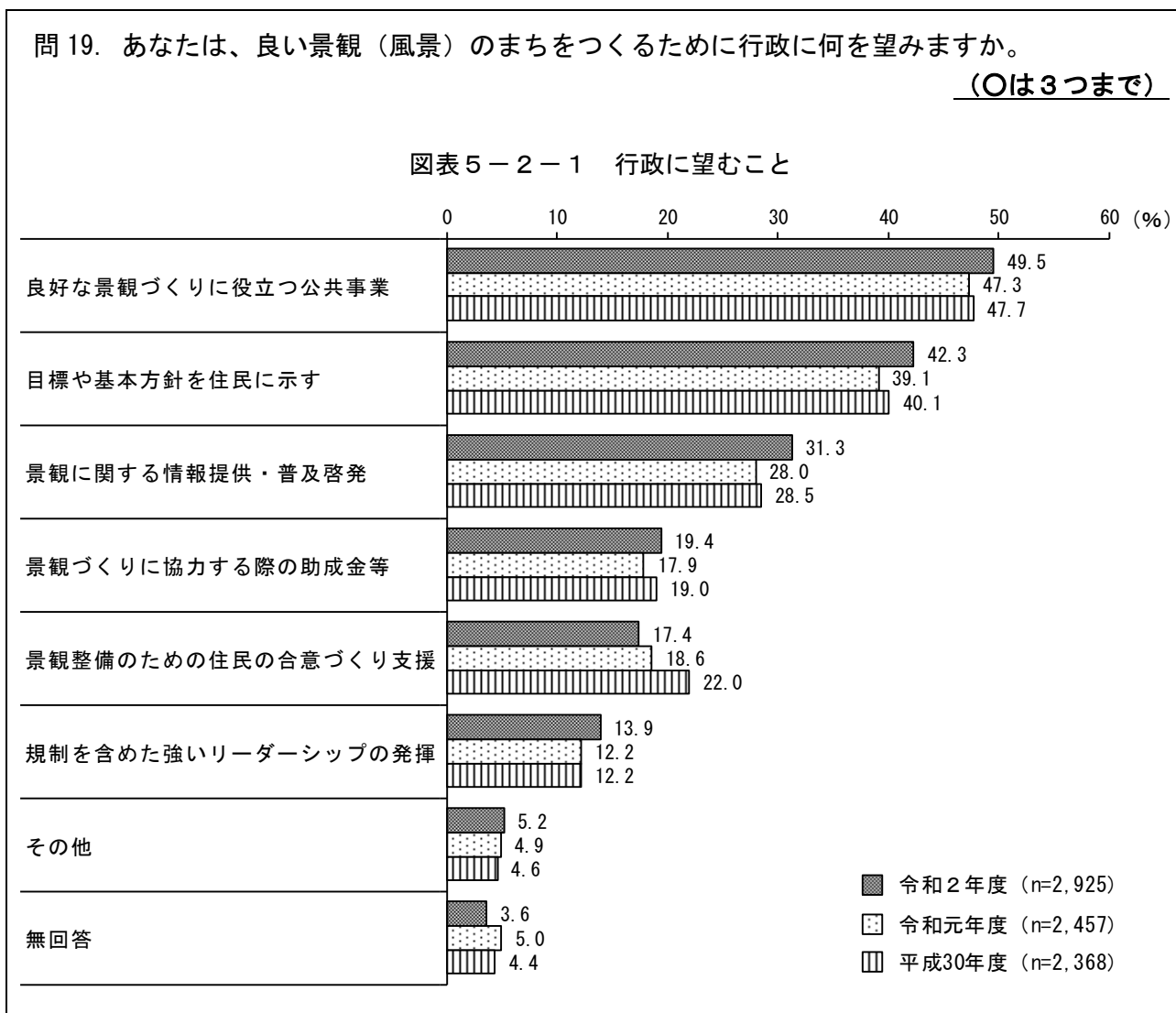
性・年齢別でみると、『満足』は女性18～29歳(72.6%)、男性18～29歳・30歳代(70.5%、70.8%)、男性70歳以上(75.5%)で7割を超えている。一方、男性50歳代は『満足』(56.2%)が全体を約1割下回り、『不満』(24.1%)が最も多くなっている。

図表5-1-2 性・年齢別 景観(風景)の満足度



(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、約5割



良い景観（風景）のまちをつくるため、行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（49.5%）が最も多く、次いで「目標や基本方針を住民に示す」（42.3%）、「景観に関する情報提供・普及啓発」（31.3%）、「景観づくりに協力する際の助成金等」（19.4%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」（17.4%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「景観整備のための住民の合意づくり支援」は減少傾向にある。それ以外の項目は令和元年度を上回っており、「景観に関する情報提供・普及啓発」（令和元年度28.0%）は3.3ポイント、「目標や基本方針を住民に示す」（令和元年度39.1%）は3.2ポイントそれぞれ増加している。

性別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は女性（51.7%）が男性（47.8%）を3.9ポイント上回っている。一方、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性（16.9%）が女性（11.6%）より5.3ポイント多くなっている。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は女性18～29歳（57.3%）で6割弱と最も多く、その他の年齢層でも4割半ばから5割半ばとなっている。一方、70歳以上は男女とも「目標や基本方針を住民に示す」（女性49.4%、男性47.4%）が「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（女性48.2%、男性46.1%）を上回り、最も多くなっている。また、「景観に関する情報提供・普及啓発」は女性50歳代～60歳代（31.6%、38.1%）と男性40歳代以上（32.5%、36.5%、38.7%、31.6%）で3割を超え、「景観づくりに協力する際の助成金等」は男性18～29歳代・30歳代（25.0%、27.0%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」は男性60歳代（23.1%）でそれぞれ全体を5ポイント以上上回っている。

図表5-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数（人）	良好な景観づくりに役立つ公共事業	目標や基本方針を住民に示す	啓発に関する情報提供・普及	景観づくりに協力する際の助成金等	景観整備のための住民の合意づくり支援	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	その他	無回答
全体	2,925	49.5	42.3	31.3	19.4	17.4	13.9	5.2	3.6
女性全体	1,594	51.7	41.6	30.4	19.8	15.7	11.6	4.8	4.3
18～29歳	157	57.3	36.3	25.5	21.0	17.8	10.2	2.5	1.3
30～39歳	204	52.9	39.7	28.9	20.6	13.2	16.2	6.9	2.0
40～49歳	281	56.6	32.0	28.5	22.4	13.9	9.6	3.9	2.8
50～59歳	256	52.3	39.5	31.6	22.3	18.0	14.8	5.9	2.0
60～69歳	268	47.8	45.9	38.1	20.1	19.8	11.2	5.6	1.9
70歳以上	423	48.2	49.4	29.1	15.4	13.7	9.2	4.0	10.4
男性全体	1,216	47.8	43.8	32.4	19.1	19.0	16.9	5.8	2.3
18～29歳	112	48.2	40.2	20.5	25.0	16.1	9.8	8.0	1.8
30～39歳	137	49.6	40.9	28.5	27.0	16.8	19.0	4.4	2.9
40～49歳	212	50.5	44.3	32.5	22.2	16.5	16.5	3.8	1.9
50～59歳	203	46.8	40.4	36.5	18.7	15.3	15.8	9.4	0.5
60～69歳	225	46.7	44.4	38.7	15.6	23.1	15.1	4.0	2.2
70歳以上	323	46.1	47.4	31.6	14.2	22.0	20.4	5.9	3.7

6. 地域医療体制について

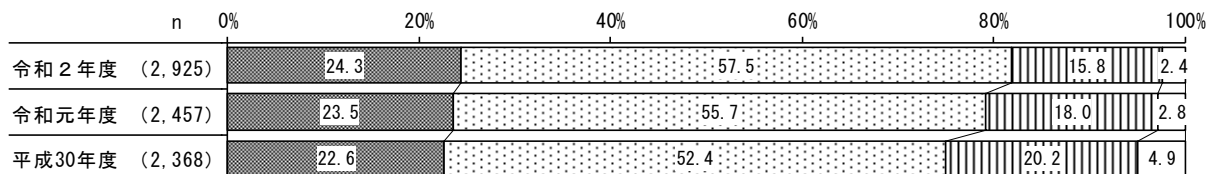
(1) 地域医療体制の認知度

◇認知度は「越谷市夜間急患診療所」が約8割

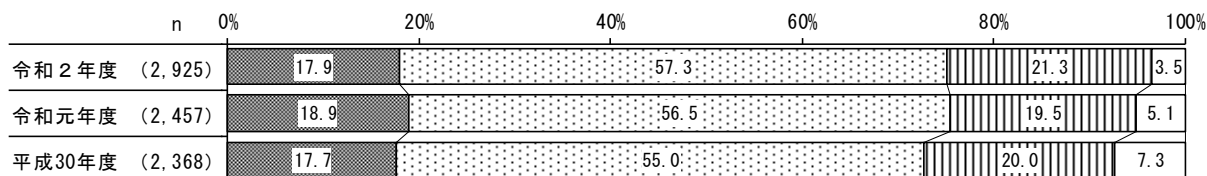
問 20. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度・埼玉県救急電話相談（#7119）・埼玉県A I 救急相談」を知っていますか。（ア～エ それぞれ横に〇は1つつづ）

図表6-1-1 地域医療体制の認知度

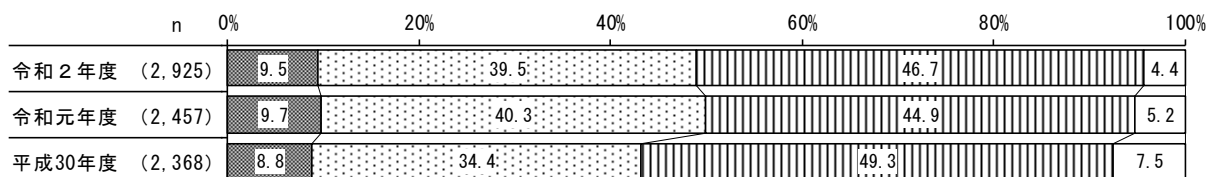
ア 越谷市夜間急患診療所



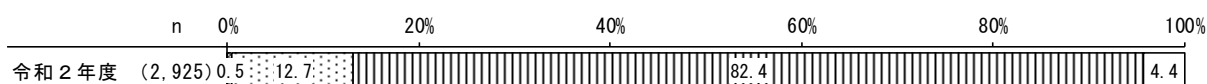
イ 休日当番医制度



ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）



エ 埼玉県A I 救急相談（※）



■ 利用したことがある □ 利用したことはないが知っている
 □ 知らない □ 無回答

（※）「エ 埼玉県A I 救急相談」は令和2年度新規項目

地域医療体制の認知度については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「ア 越谷市夜間急患診療所」(81.8%)が最も多く、次いで「イ 休日当番医制度」(75.2%)、「ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）」(49.0%)、「エ 埼玉県A I 救急相談」(13.2%)となっている。また、「利用したことがある」では、「ア 越谷市夜間急患診療所」(24.3%)が2割半ば、「イ 休日当番医制度」(17.9%)が2割弱、「ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）」(9.5%)が約1割、「エ 埼玉県A I 救急相談」(0.5%)が1割未満となっている。

過去2回の調査と比較すると、「ア 越谷市夜間急患診療所」を『知っている』割合は増加傾向にあり、令和元年度調査(79.2%)に比べ2.6ポイント増加している。

「ア 越谷市夜間急患診療所」について性別でみると、『知っている』は女性(84.9%)が男性(78.9%)を6.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性40歳代(90.4%)と女性60歳代(90.7%)で約9割を占めている。一方、18~29歳は女性(58.6%)、男性(56.3%)とも『知っている』が5割台であり、「知らない」(女性41.4%、男性43.8%)が4割以上となっている。また、男性30歳代(71.5%)も『知っている』が全体を約1割下回っている。

「イ 休日当番医制度」について性別でみると、『知っている』は女性(79.2%)が男性(70.8%)を8.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性50歳代~60歳代(90.2%、91.4%)で9割以上、女性40歳代(84.3%)、女性70歳以上(82.3%)、男性60歳代(83.1%)で8割以上を占めている。一方、18~29歳は女性(33.8%)、男性(38.4%)とも『知っている』が3割台であり、「知らない」(女性66.2%、男性61.6%)が6割以上となっている。また、男性30歳代(55.5%)も『知っている』が全体を約2割下回っている。

「ウ 埼玉県救急電話相談(＃7119)」について性別でみると、『知っている』は女性(53.8%)が男性(43.5%)を10.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性30歳代(60.3%)で約6割、女性40歳代以上(59.8%、55.9%、59.7%、51.3%)で5割以上を占めている。一方、男性は全ての年齢で5割未満となっており、18~29歳・30歳代~60歳代(73.2%、54.7%、52.4%、56.2%、54.7%)で「知らない」が過半数を占めている。また、18~29歳は女性(29.3%)、男性(26.8%)とも『知っている』が2割台であり、全体を約2割~2割強下回っている。

「エ 埼玉県A I救急相談」について性別でみると、『知っている』は男性(14.6%)と女性(12.2%)の間に大きな差はみられない。一方、「知らない」は女性(83.9%)、男性(81.7%)とも8割以上を占めている。

性・年齢別でみると、『知っている』は70歳以上で女性(14.9%)、男性(17.3%)とも最も多くなっているが、いずれも2割未満となっている。一方、「知らない」は男女とも18~29歳・30歳代~60歳代で8割以上となっており、女性18~29歳・30歳代(92.4%、90.7%)は9割を超えている。

図表6-1-2 性・年齢別 地域医療体制の認知度

(%)

	調査数(人)	ア 越谷市夜間急患診療所				イ 休日当番医制度			
		利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない	無回答	利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない	無回答
全体	2,925	24.3	57.5	15.8	2.4	17.9	57.3	21.3	3.5
女性全体	1,594	25.0	60.0	13.0	2.1	20.4	58.8	17.8	3.1
18～29歳	157	21.7	36.9	41.4	-	8.3	25.5	66.2	-
30～39歳	204	27.9	57.4	14.7	-	18.6	52.5	28.4	0.5
40～49歳	281	40.6	49.8	9.3	0.4	32.7	51.6	14.9	0.7
50～59歳	256	31.3	56.6	11.7	0.4	34.4	55.9	9.0	0.8
60～69歳	268	16.0	74.6	7.5	1.9	20.5	70.9	7.8	0.7
70歳以上	423	16.1	69.5	8.3	6.1	9.0	73.3	7.8	9.9
男性全体	1,216	23.8	55.0	18.9	2.2	15.1	55.7	26.1	3.1
18～29歳	112	17.0	39.3	43.8	-	6.3	32.1	61.6	-
30～39歳	137	21.2	50.4	28.5	-	10.9	44.5	44.5	-
40～49歳	212	34.0	48.6	17.5	-	23.6	43.9	31.6	0.9
50～59歳	203	24.6	57.6	16.7	1.0	20.2	55.2	23.2	1.5
60～69歳	225	25.3	60.4	12.9	1.3	17.3	65.8	15.1	1.8
70歳以上	323	19.2	61.6	12.4	6.8	9.6	69.7	11.8	9.0

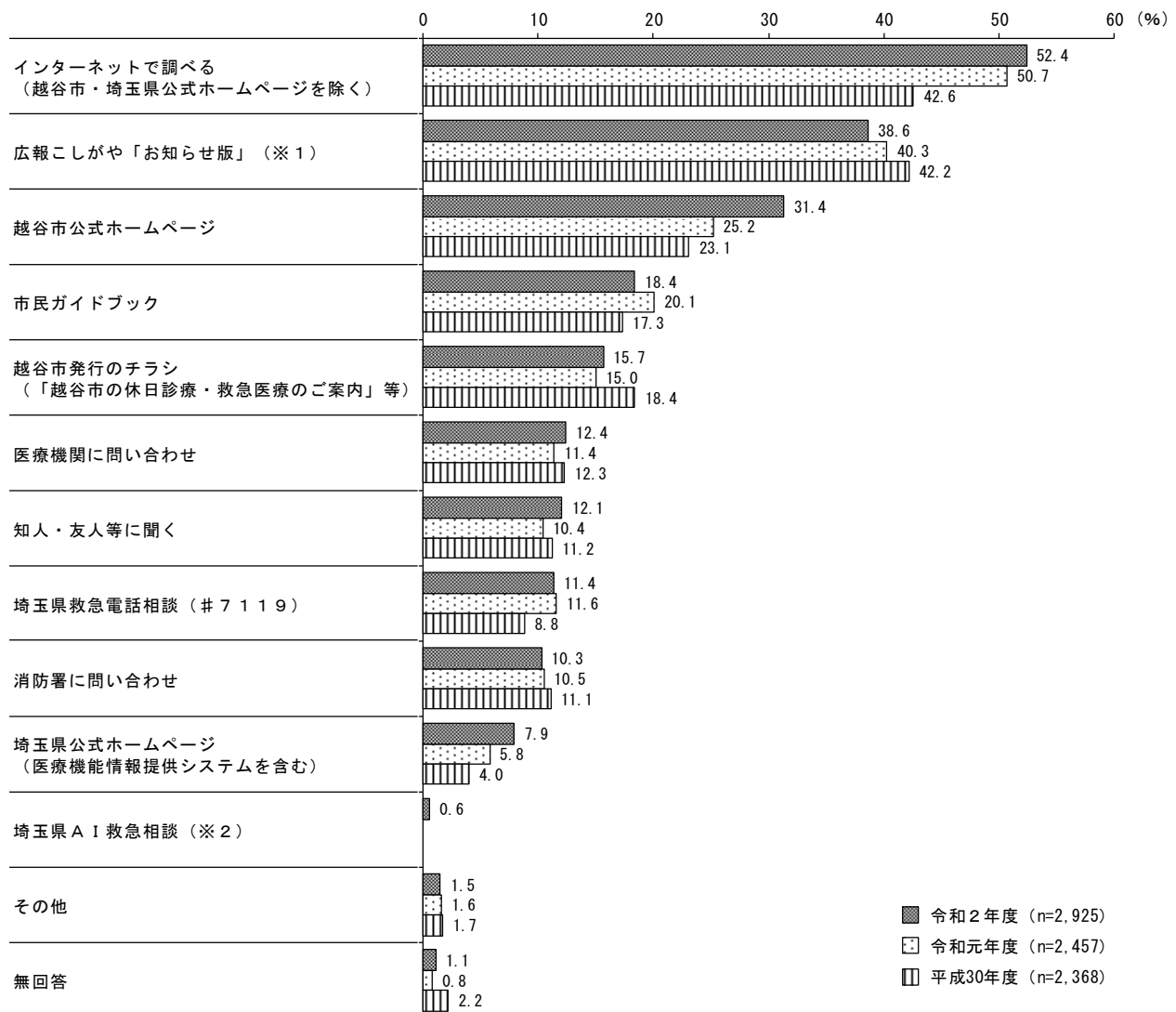
	調査数(人)	ウ 埼玉県救急電話相談(＃7119)				エ 埼玉県A I 救急相談			
		利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない	無回答	利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない	無回答
全体	2,925	9.5	39.5	46.7	4.4	0.5	12.7	82.4	4.4
女性全体	1,594	11.3	42.5	42.6	3.6	0.5	11.7	83.9	3.9
18～29歳	157	5.1	24.2	70.7	-	0.6	7.0	92.4	-
30～39歳	204	23.5	36.8	39.2	0.5	-	8.8	90.7	0.5
40～49歳	281	20.3	39.5	39.5	0.7	1.8	10.7	86.8	0.7
50～59歳	256	10.9	44.9	43.4	0.8	-	14.1	85.2	0.8
60～69歳	268	7.8	51.9	38.8	1.5	-	11.2	86.9	1.9
70歳以上	423	4.3	47.0	37.4	11.3	0.5	14.4	72.8	12.3
男性全体	1,216	7.7	35.8	52.5	3.9	0.5	14.1	81.7	3.6
18～29歳	112	3.6	23.2	73.2	-	0.9	12.5	86.6	-
30～39歳	137	13.1	32.1	54.7	-	-	14.6	85.4	-
40～49歳	212	16.0	30.7	52.4	0.9	0.5	13.7	84.9	0.9
50～59歳	203	6.4	36.0	56.2	1.5	-	14.3	84.7	1.0
60～69歳	225	4.4	39.1	54.7	1.8	-	12.0	86.2	1.8
70歳以上	323	4.3	42.7	40.9	12.1	1.2	16.1	71.5	11.1

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が最も多く、5割強

問 21. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(複数回答可)

図表 6-2-1 医療機関の情報の入手方法



(※1) 平成30年度調査の選択肢は「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」

(※2) 「埼玉県 A I 救急相談」は令和2年度新規項目

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」(52.4%) が最も多く、次いで「広報こしがや『お知らせ版』」(38.6%)、「越谷市公式ホームページ」(31.4%)、「市民ガイドブック」(18.4%)、「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」(15.7%) の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」、「越谷市公式ホームページ」は増加傾向にあり、令和元年度調査と比べそれぞれ1.7ポイント、6.2ポイント増加している。一方、「広報こしがや『お知らせ版』」は減少傾向にある。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』」は女性（41.7%）が男性（34.7%）を7.0ポイント上回っている。「越谷市公式ホームページ」（女性33.8%、男性29.9%）、「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」（女性17.4%、男性13.5%）、「埼玉県救急電話相談（#7119）」（女性13.2%、男性8.7%）についても、女性が男性より多くなっている。

性・年齢別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は男女とも若年層で多くなる傾向にあり、18～29歳は女性（84.7%）、男性（83.0%）とも8割以上を占めている。一方、60歳代（女性41.8%、男性47.6%）は4割台、70歳以上（女性18.2%、男性20.4%）は2割弱～約2割と高齢層では少なくなっている。「越谷市公式ホームページ」についても、70歳以上（女性11.3%、男性14.6%）で利用者が少なくなっている。それに対し、「広報こしがや『お知らせ版』」は高齢層で利用者が多く、女性60歳代以上（52.2%、60.0%）、男性70歳以上（53.3%）で過半数を占めているが、18～29歳（女性8.3%、男性7.1%）は男女とも1割未満となっている。「市民ガイドブック」、「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」についても、高齢層で多くなっている。また、「知人・友人に聞く」は18～29歳で女性（21.7%）、男性（19.6%）とも約2割を占め、他の年齢に比べ多くなっている。

図表6-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

(%)

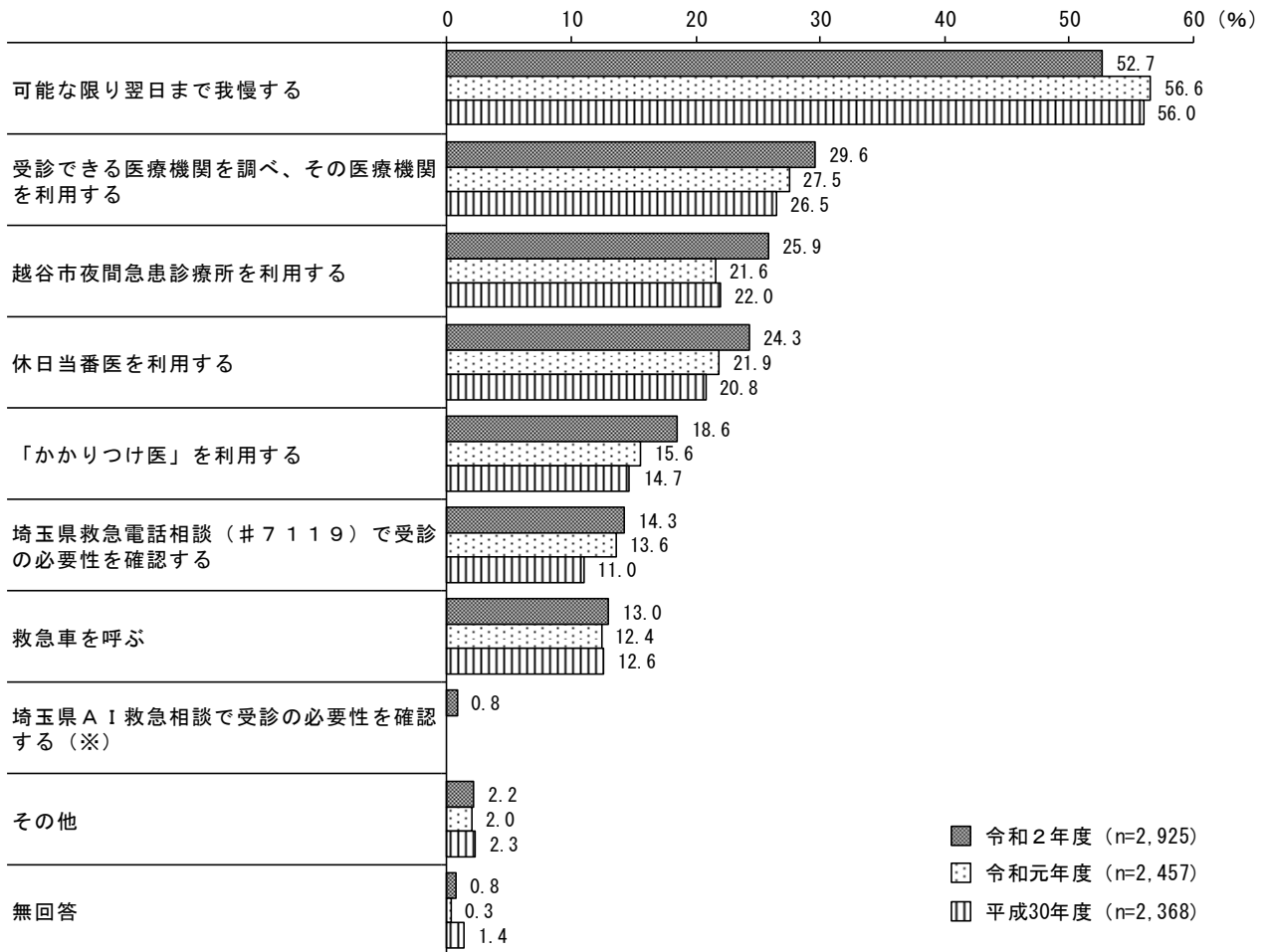
	調査数（人）	インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）	広報こしがや「お知らせ版」	越谷市公式ホームページ	市民ガイドブック	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	医療機関に問い合わせ	知人・友人等に聞く	埼玉県救急電話相談（#7119）	消防署に問い合わせ	埼玉県公式ホームページ（医療機能情報提供システムを含む）	埼玉県A1救急相談	その他	無回答
全体	2,925	52.4	38.6	31.4	18.4	15.7	12.4	12.1	11.4	10.3	7.9	0.6	1.5	1.1
女性全体	1594	52.6	41.7	33.8	18.2	17.4	12.0	12.7	13.2	9.9	8.2	0.6	1.3	0.9
18～29歳	157	84.7	8.3	35.7	6.4	4.5	14.0	21.7	6.4	2.5	15.9	1.3	1.9	-
30～39歳	204	78.4	25.0	49.0	11.8	12.7	8.3	9.3	16.7	1.5	10.8	-	1.0	-
40～49歳	281	70.1	34.5	45.9	11.0	15.7	6.8	8.5	10.7	4.6	12.5	1.1	1.1	0.4
50～59歳	256	60.5	41.8	51.6	13.3	11.3	12.5	10.2	12.1	13.7	9.4	0.4	0.4	-
60～69歳	268	41.8	52.2	26.5	23.5	20.5	12.7	13.4	14.2	12.3	4.9	0.7	1.5	0.4
70歳以上	423	18.2	60.0	11.3	30.0	27.7	15.6	14.7	15.8	16.5	2.4	0.2	1.7	2.8
男性全体	1216	53.9	34.7	29.9	18.7	13.5	12.5	11.3	8.7	9.7	8.1	0.5	1.9	0.9
18～29歳	112	83.0	7.1	24.1	4.5	1.8	16.1	19.6	1.8	1.8	11.6	0.9	0.9	0.9
30～39歳	137	75.2	16.8	31.4	13.1	7.3	12.4	11.7	11.7	5.8	11.7	-	0.7	1.5
40～49歳	212	72.2	25.9	40.6	9.9	9.0	7.5	10.4	8.0	3.8	13.7	0.5	1.4	-
50～59歳	203	64.5	32.5	43.3	10.3	7.9	8.4	7.4	7.4	7.4	10.3	-	0.5	0.5
60～69歳	225	47.6	42.2	31.6	27.1	18.7	15.1	6.7	8.4	10.2	5.3	-	2.7	0.4
70歳以上	323	20.4	53.3	14.6	31.0	22.9	15.5	14.2	11.5	18.9	2.2	1.2	3.4	1.9

(3) 夜間や休日における急病の対応

◇「可能な限り翌日まで我慢する」が最も多く、5割強

問 22. あなたは、夜間や休日に発熱や腹痛等、比較的軽度と思われる症状になったとき、
どのように対応しますか。(複数回答可)

図表 6-3-1 夜間や休日における急病の対応



(※)「埼玉県 A I 救急相談で受診の必要性を確認する」は令和2年度新規項目

夜間や休日における急病の対応については、「可能な限り翌日まで我慢する」(52.7%)が最も多く、次いで「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」(29.6%)、「越谷市夜間急患診療所を利用する」(25.9%)、「休日当番医を利用する」(24.3%)、「『かかりつけ医』を利用する」(18.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「可能な限り翌日まで我慢する」は令和元年度調査(56.6%)と比べ3.9ポイント減少したが、過半数を占めている。それ以外の項目は令和元年度を上回っており、「越谷市夜間急患診療所を利用する」は4.3ポイント、「『かかりつけ医』を利用する」は3.0ポイントそれぞれ増加している。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「可能な限り翌日まで我慢する」は女性（56.2%）が男性（49.0%）を7.2ポイント上回っている。「越谷市夜間急患診療所を利用する」（女性 27.9%、男性 23.8%）、「休日当番医を利用する」（女性 26.3%、男性 22.1%）、「埼玉県救急電話相談（#7119）で受診の必要性を確認する」（女性 15.9%、男性 12.3%）についても、女性が男性より多くなっている。

性・年齢別でみると、「可能な限り翌日まで我慢する」は女性18～29歳・30歳代～50歳代（63.7%、65.2%、65.1%、61.7%）と男性18～29歳（60.7%）で6割以上、女性60歳代（51.5%）と男性30歳代～50歳代（59.9%、51.9%、54.2%）で5割以上を占めている。また、「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」、「休日当番医を利用する」は女性40歳代～60歳代（前者は36.7%、37.1%、34.7%、後者は29.9%、34.4%、31.3%）で全体を5ポイント以上上回っている。一方、「救急車を呼ぶ」は70歳以上で女性（24.3%）、男性（26.0%）とも全体を1割以上上回っており、「『かかりつけ医』を利用する」も特に男性70歳以上（26.3%）で多くなっている。

図表6-3-2 性・年齢別 夜間や休日における急病の対応

	調査数（人）	可能な限り翌日まで我慢する	受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する	越谷市夜間急患診療所を利用する	休日当番医を利用する	「かかりつけ医」を利用する	埼玉県救急電話相談（#7119）で受診の必要性を確認する	救急車を呼ぶ	埼玉県A I 救急相談で受診の必要性を確認する	その他	無回答
全体	2,925	52.7	29.6	25.9	24.3	18.6	14.3	13.0	0.8	2.2	0.8
女性全体	1,594	56.2	31.2	27.9	26.3	17.1	15.9	11.7	0.7	2.0	0.7
18～29歳	157	63.7	25.5	15.9	7.6	24.2	7.6	6.4	-	5.7	-
30～39歳	204	65.2	33.8	25.0	18.6	14.2	17.6	4.4	-	2.9	-
40～49歳	281	65.1	36.7	26.0	29.9	15.7	14.9	3.9	1.1	0.7	0.7
50～59歳	256	61.7	37.1	30.5	34.4	11.7	9.8	6.6	1.6	1.6	-
60～69歳	268	51.5	34.7	34.0	31.3	13.4	22.8	13.8	-	1.5	-
70歳以上	423	42.8	22.7	29.8	26.7	22.5	18.2	24.3	0.9	1.7	2.1
男性全体	1,216	49.0	28.8	23.8	22.1	19.2	12.3	14.6	0.9	2.5	0.3
18～29歳	112	60.7	30.4	8.9	7.1	19.6	3.6	9.8	1.8	5.4	-
30～39歳	137	59.9	31.4	13.9	13.1	20.4	10.2	8.8	-	1.5	-
40～49歳	212	51.9	30.7	23.6	20.8	14.2	12.3	9.0	0.9	1.9	-
50～59歳	203	54.2	30.0	26.6	27.1	16.7	10.3	9.4	0.5	3.9	0.5
60～69歳	225	45.3	33.3	30.7	24.9	15.1	15.6	13.8	1.3	0.9	-
70歳以上	323	37.8	22.0	26.6	27.2	26.3	15.5	26.0	0.9	2.5	0.9

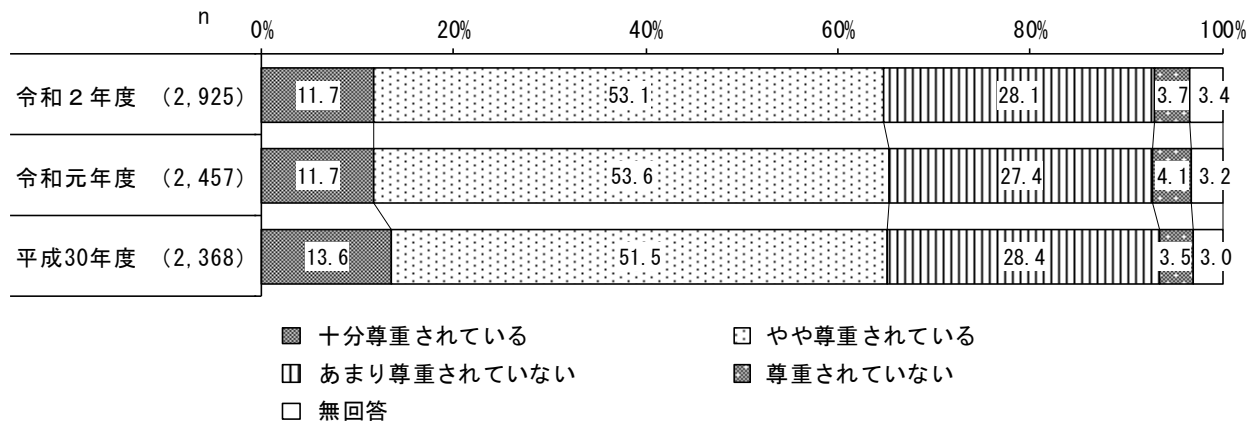
7. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が6割半ば

問 23. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(〇は1つ)

図表 7-1-1 基本的人権の意識



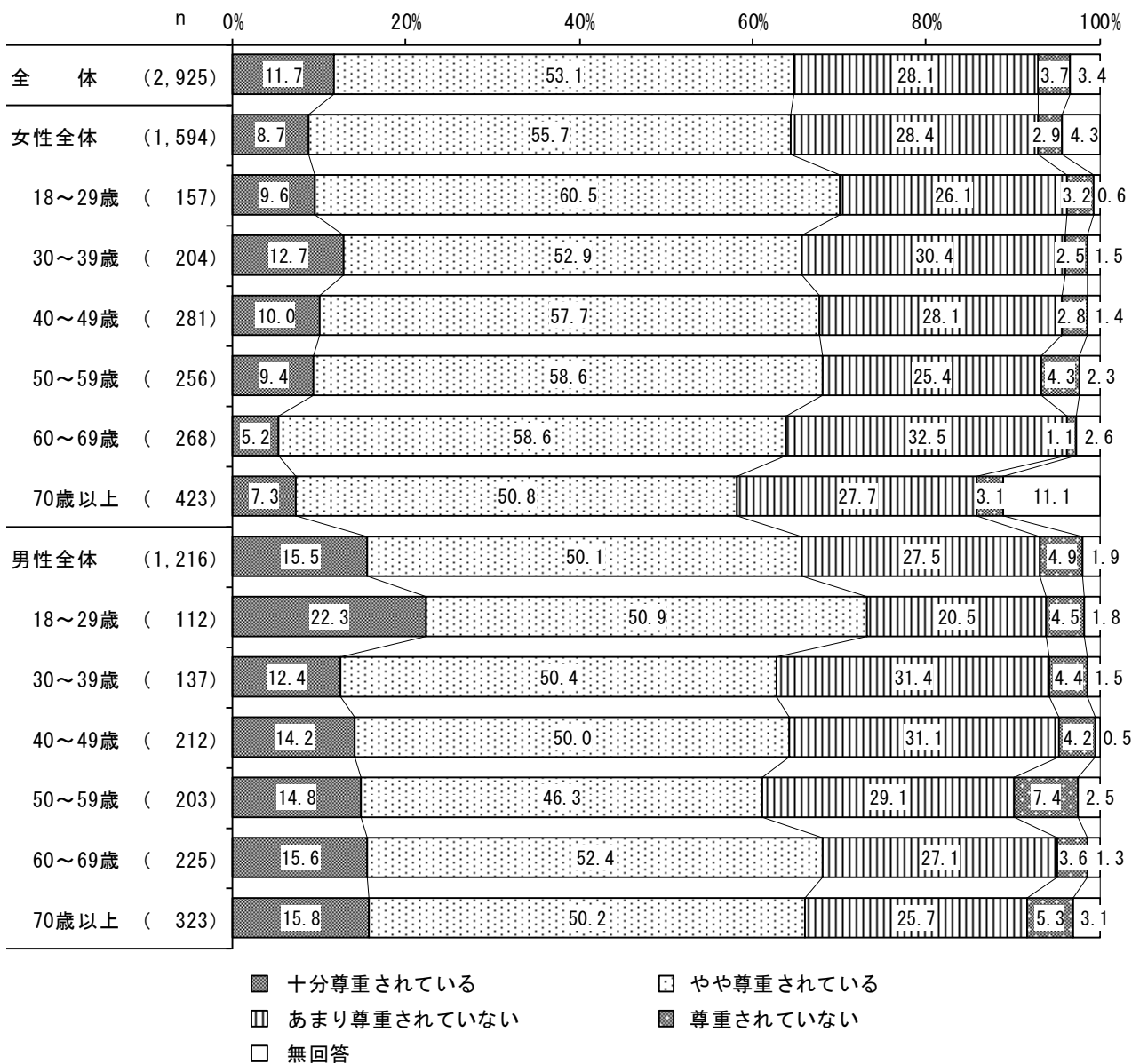
今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(53.1%)が最も多く、「十分に尊重されている」(11.7%)を合わせた『尊重されている』(64.8%)は6割半ばとなっている。一方、「あまり尊重されていない」(28.1%)と「尊重されていない」(3.7%)を合わせた『尊重されていない』(31.9%)は約3割となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『尊重されている』は18～29歳で女性（70.1%）、男性（73.2%）とも7割を超え、最も多くなっている。一方、女性70歳以上（58.2%）は『尊重されている』が6割を下回っている。

図表7-1-2 性・年齢別 基本的人権の意識

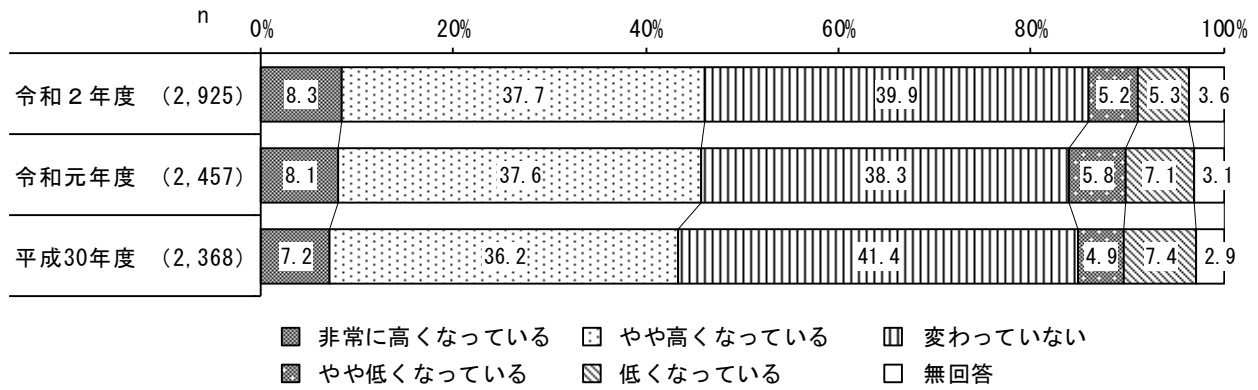


(2) 人権意識の変化

◇『高くなっている』が4割半ば

問24. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(〇は1つ)

図表7-2-1 人権意識の変化



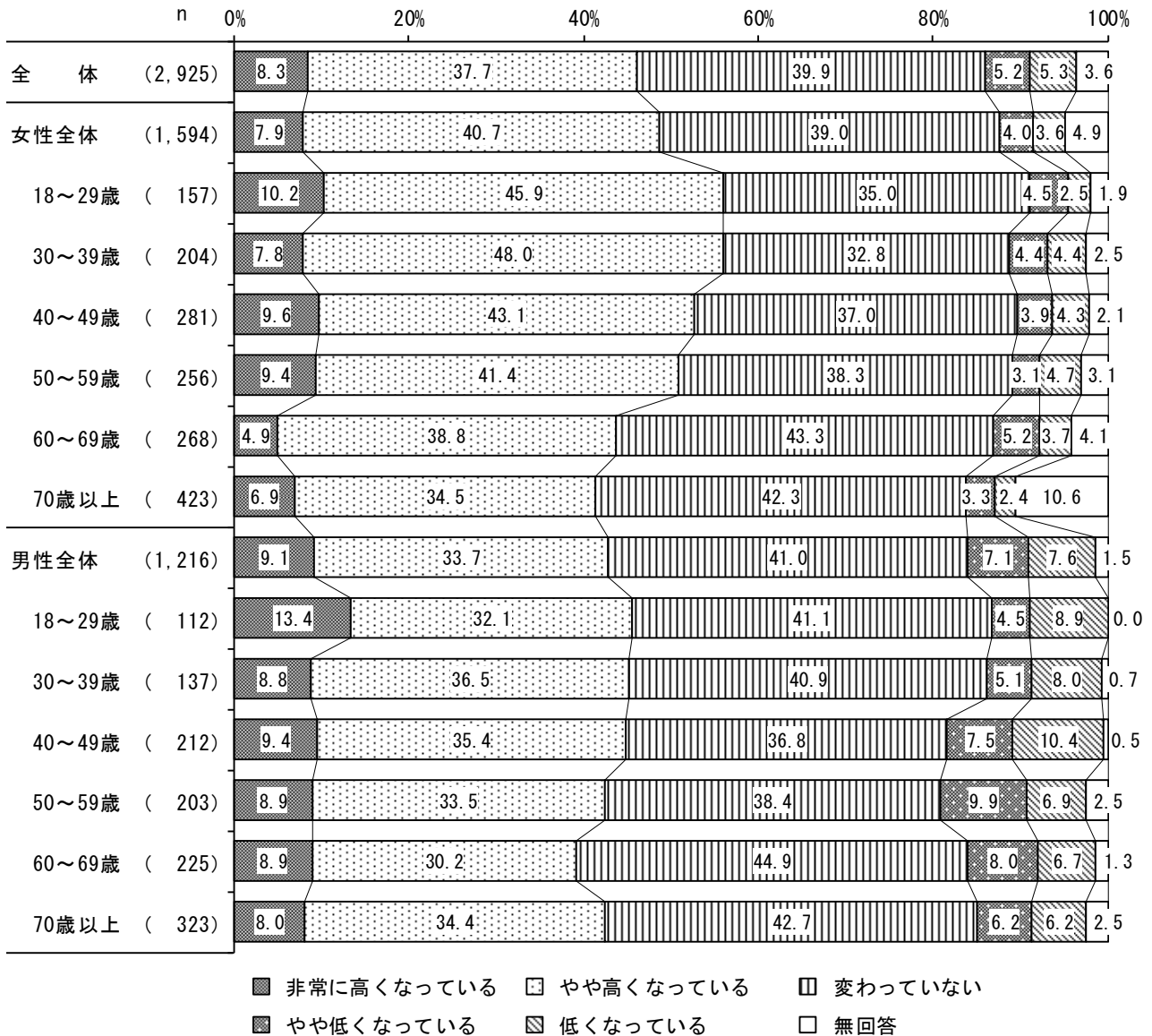
10年前と比べた人権意識の変化については、「変わっていない」(39.9%)が最も多く、次いで「やや高くなっている」(37.7%)、「非常に高くなっている」(8.3%)、「低くなっている」(5.3%)、「やや低くなっている」(5.2%)となっている。「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』(46.1%)は4割半ばとなっている。一方、「やや低くなっている」と「低くなっている」を合わせた『低くなっている』(10.5%)は約1割となっている。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査と比べ、『高くなっている』はほぼ同水準であるが、『低くなっている』(令和元年度12.9%)は2.4ポイント減少している。

性別でみると、『高くなっている』は女性（48.6%）が男性（42.8%）を5.8ポイント上回っている。一方、『低くなっている』は男性（14.6%）が女性（7.5%）を7.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『高くなっている』は女性18～29歳・30歳代～50歳代（56.1%、55.9%、52.7%、50.8%）で5割を超えている。一方、男性60歳代（39.1%）は『高くなっている』が全体を7.0ポイント下回り、最も少なくなっている。

図表7-2-2 性・年齢別 人権意識の変化

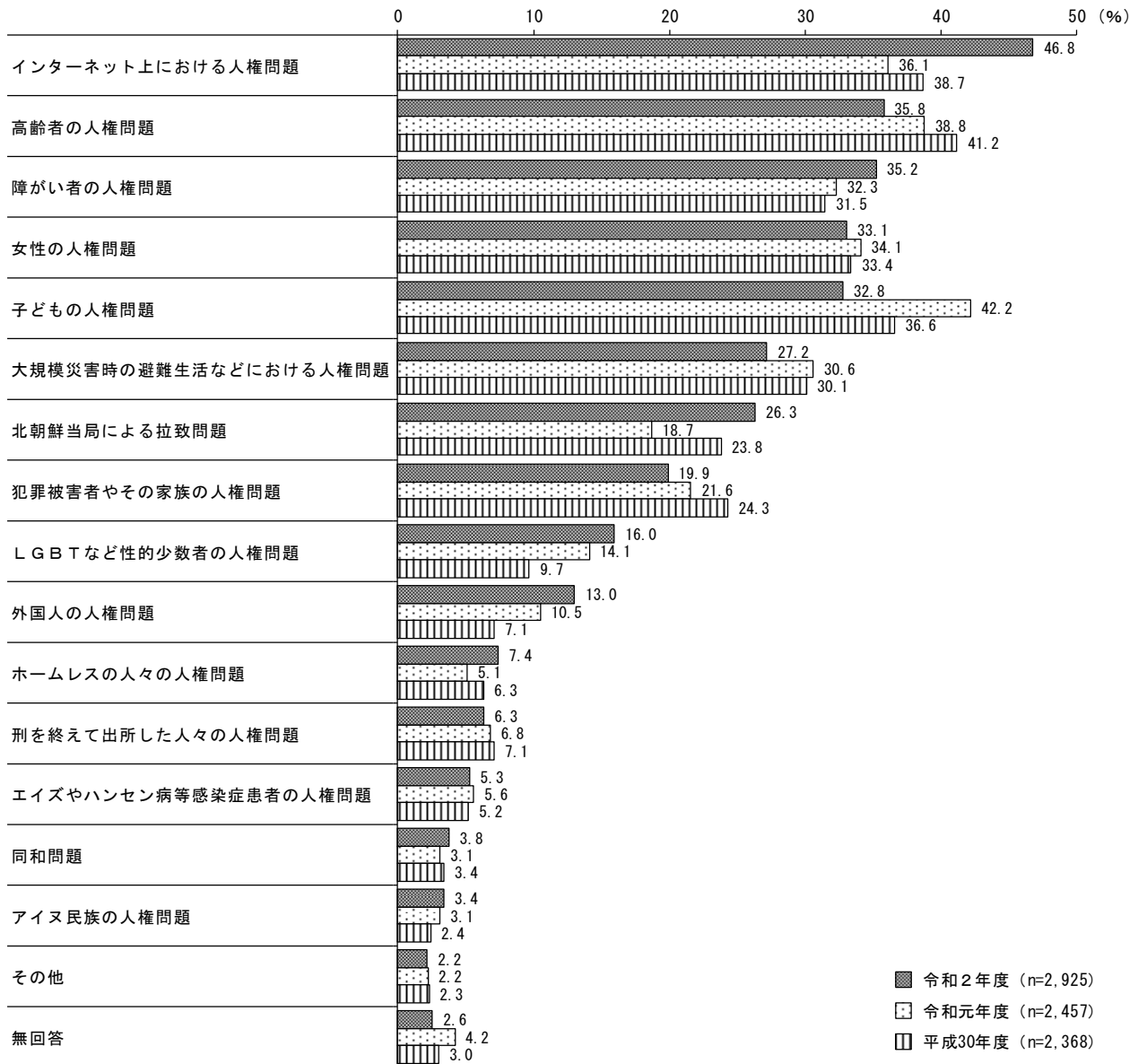


(3) 関心のある人権問題

◇「インターネット上における人権問題」が最も多く、4割半ば

問 25. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(複数回答可)

図表 7-3-1 関心のある人権問題



関心のある人権問題については、「インターネット上における人権問題」(46.8%)が最も多く、次いで「高齢者の人権問題」(35.8%)、「障がい者の人権問題」(35.2%)、「女性の人権問題」(33.1%)、「子どもの人権問題」(32.8%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査と比べ「インターネット上における人権問題」は10.7ポイント、「北朝鮮当局による拉致問題」は7.6ポイントそれぞれ増加している。一方、「高齢者の人権問題」、「犯罪被害者やその家族の人権問題」は減少傾向にあり、「子どもの人権問題」は令和元年度調査(42.2%)と比べ9.4ポイント減少している。

性別でみると、「女性の人権問題」は女性(42.0%)が男性(22.2%)を19.8ポイント上回っている。「子どもの人権問題」(女性35.9%、男性29.4%)、「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」(女性29.7%、男性24.3%)、「LGBTなど性的少数者の人権問題」(女性18.9%、男性12.7%)についても、女性が男性より多くなっている。

性・年齢別でみると、「インターネット上における人権問題」は女性18～29歳・30歳代～50歳代(63.1%、58.8%、58.7%、62.1%)、男性18～29歳・30歳代～60歳代(58.9%、66.4%、58.5%、56.7%、52.4%)で5割を超え、各年齢で最も多くなっているが、70歳以上は女性(22.7%)、男性(22.0%)とも2割強と少なくなっている。一方、女性60歳代以上、男性70歳以上は「高齢者の人権問題」が最も多くなっている。また、「障がい者の人権問題」は女性18～29歳(41.4%)、女性60歳代(42.5%)、男性60歳代(46.7%)、「子どもの人権問題」は女性30歳代(50.5%)、「北朝鮮当局による拉致問題」は男性70歳以上(40.6%)で特に多くなっている。「女性の人権問題」、「LGBTなど性的少数者の人権問題」は特に若年層の女性で多くなる傾向にあり、女性18～29歳・30歳代(前者は61.1%、57.8%、後者は45.2%、36.3%)はそれぞれ全体を20ポイント以上上回っている。

図表7-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

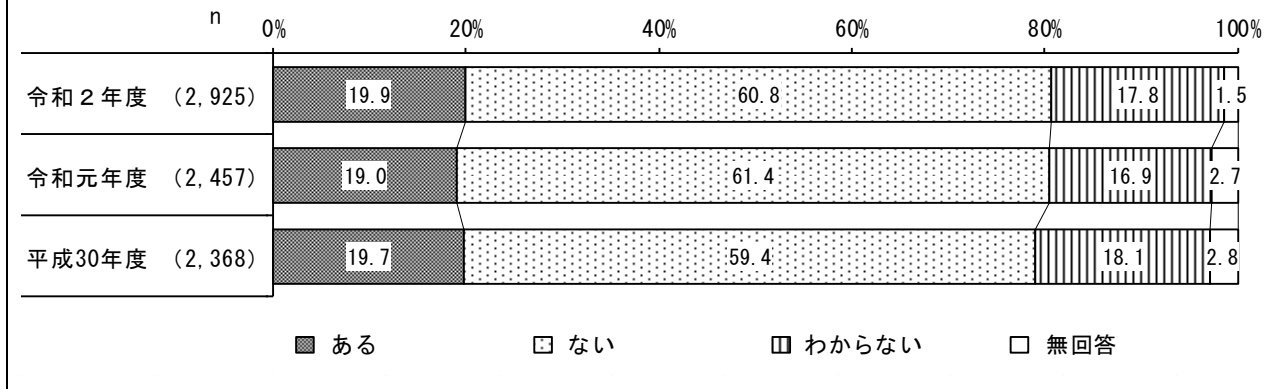
	調査数(人)	インターネット上における人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	女性の人権問題	子どもの人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	LGBTなど性的少数者の人権問題	外国人の人権問題	ホームレスの人々の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	エイズやハンセン病等感染患者の人権問題	同和問題	アイヌ民族の人権問題	その他	無回答
全体	2,925	46.8	35.8	35.2	33.1	32.8	27.2	26.3	19.9	16.0	13.0	7.4	6.3	5.3	3.8	3.4	2.2	2.6
女性全体	1,594	47.1	36.4	35.8	42.0	35.9	29.7	25.8	20.2	18.9	12.7	6.6	6.6	5.8	3.1	3.5	1.3	2.9
18～29歳	157	63.1	21.0	41.4	61.1	38.9	19.7	12.7	22.3	45.2	29.9	10.2	7.0	8.9	3.8	5.1	0.6	-
30～39歳	204	58.8	20.1	30.9	57.8	50.5	25.5	19.6	23.5	36.3	17.2	6.9	6.4	4.9	3.9	5.9	2.0	0.5
40～49歳	281	58.7	19.2	33.8	46.3	35.2	27.8	18.9	23.5	23.8	14.6	5.3	6.4	6.8	2.5	4.6	1.8	1.8
50～59歳	256	62.1	31.3	37.5	43.8	37.9	29.3	24.2	24.2	17.6	9.4	6.6	5.5	5.1	3.5	2.3	2.0	2.7
60～69歳	268	41.0	45.9	42.5	36.2	36.9	31.7	33.2	19.0	8.6	10.4	5.6	7.8	5.2	4.5	3.4	1.5	1.1
70歳以上	423	22.7	58.6	31.9	26.7	26.2	35.2	35.0	14.2	5.0	6.4	6.6	6.9	5.2	1.9	1.9	0.2	7.3
男性全体	1,216	48.2	33.7	35.7	22.2	29.4	24.3	26.9	19.7	12.7	13.7	8.3	5.8	4.8	4.7	3.2	3.1	1.7
18～29歳	112	58.9	7.1	25.0	19.6	23.2	17.9	7.1	20.5	24.1	21.4	8.0	8.0	6.3	5.4	1.8	5.4	0.9
30～39歳	137	66.4	16.8	27.7	27.0	34.3	20.4	10.9	19.0	24.8	16.1	4.4	6.6	4.4	2.9	1.5	3.6	1.5
40～49歳	212	58.5	23.1	35.8	24.1	31.1	23.6	25.5	21.7	15.1	13.7	10.4	5.7	3.8	4.2	3.8	2.4	0.9
50～59歳	203	56.7	26.1	35.5	23.2	28.1	26.1	23.2	18.2	15.8	13.8	9.4	6.4	5.4	6.9	3.9	4.9	1.5
60～69歳	225	52.4	41.8	46.7	24.0	33.3	29.3	31.6	20.9	8.0	13.3	7.1	5.8	6.7	4.9	4.4	1.8	2.7
70歳以上	323	22.0	56.7	35.0	17.6	26.3	23.8	40.6	18.3	3.1	9.9	9.0	4.0	3.4	4.0	2.5	2.5	2.2

(4) 人権侵害を感じたこと

◇「ある」が約2割

問 26. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表7-4-1 人権侵害を感じたこと



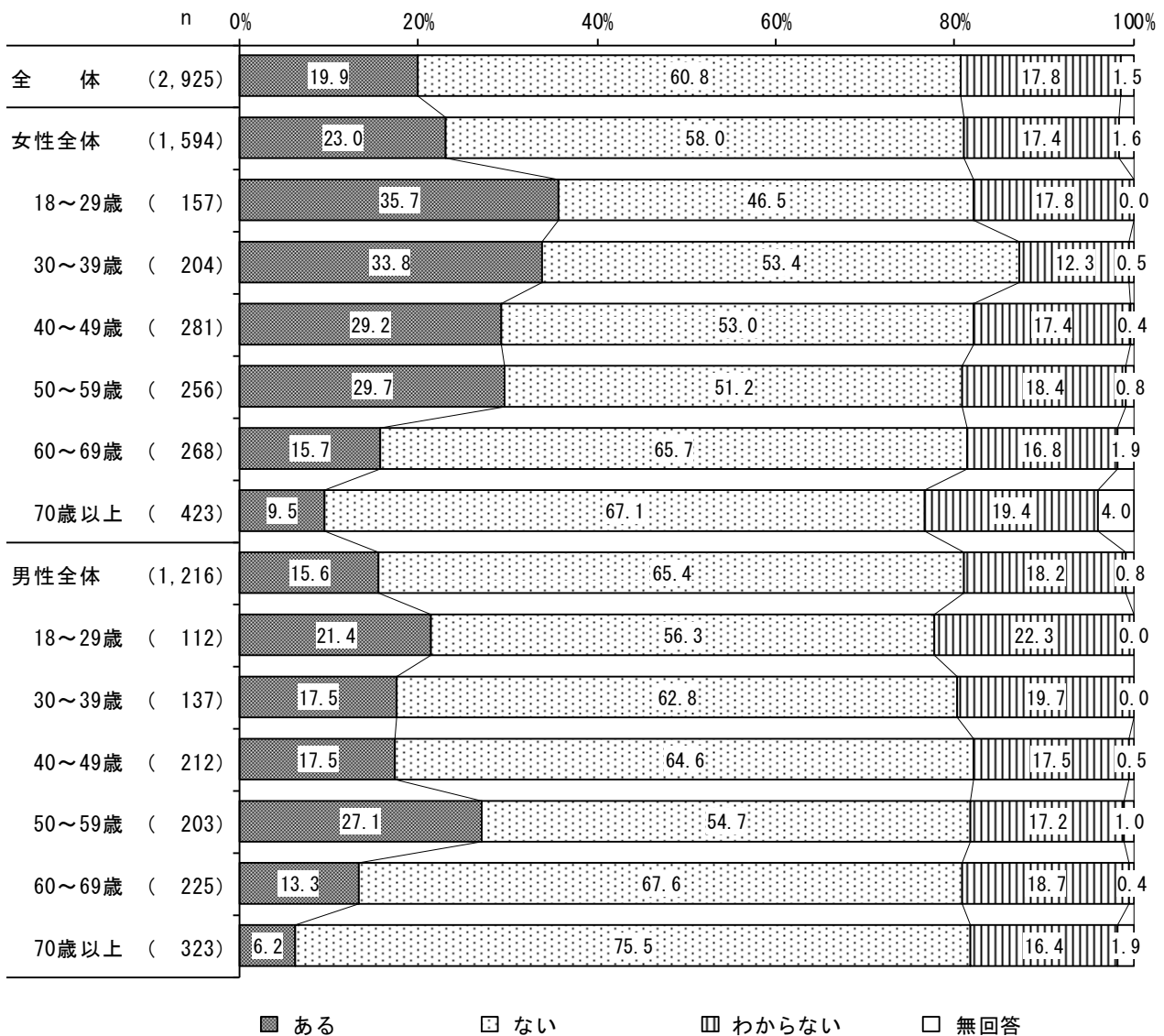
日常生活の中で人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(19.9%)が約2割、「ない」(60.8%)が約6割となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「ある」は女性（23.0%）が男性（15.6%）を7.4ポイント上回っている。一方、「ない」は男性（65.4%）が女性（58.0%）より7.4ポイント多くなっている。

性・年齢別でみると、女性は年齢が下がるにつれ「ある」が多くなる傾向にあり、18～29歳・30歳代（35.7%、33.8%）で3割以上、40歳代～50歳代（29.2%、29.7%）で約3割となっている。一方、男性は50歳代（27.1%）で「ある」が最も多く、18～29歳（21.4%）が続いている。また、60歳代以上は男女とも「ある」が2割未満となっている。

図表7-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと

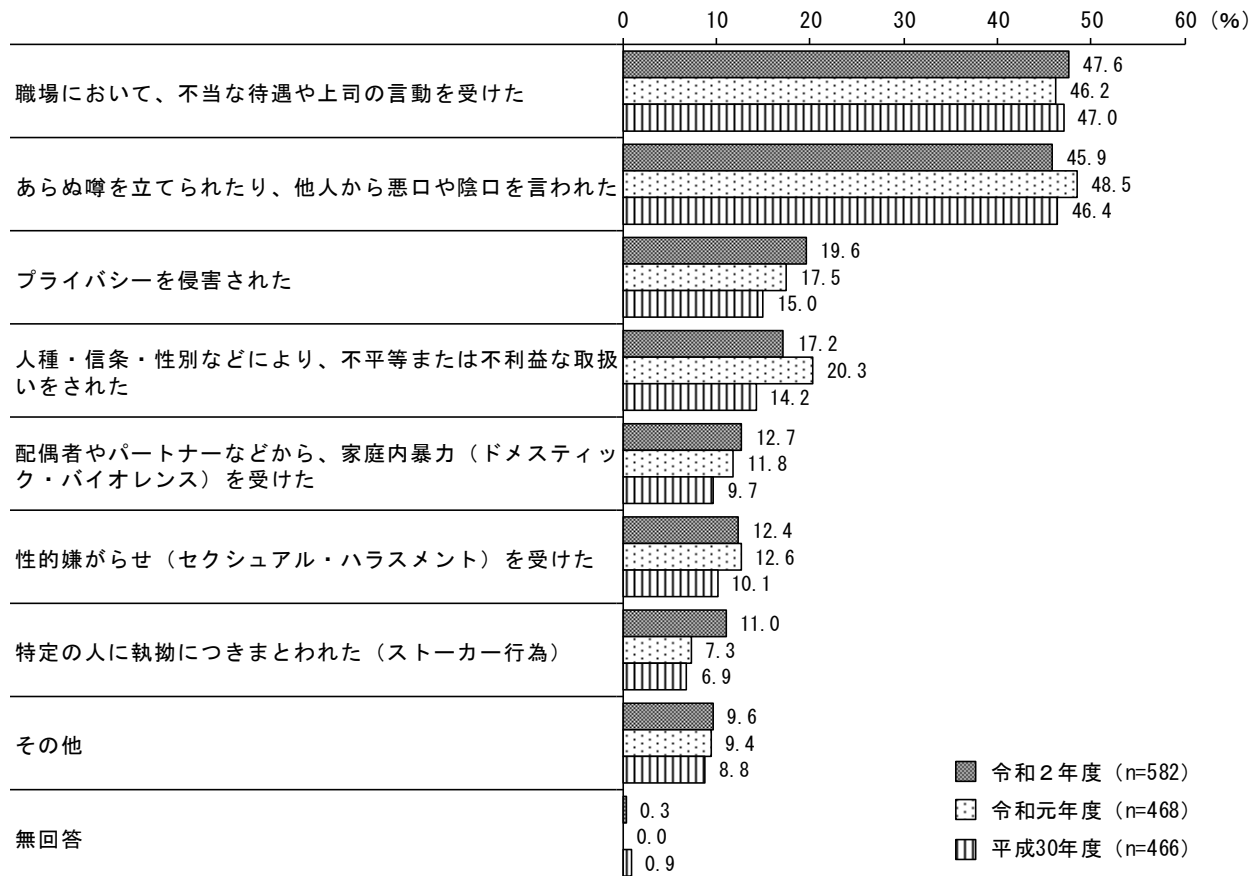


(5) 人権侵害を感じた内容

◇「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が最も多く、5割弱

問 26-2. **問 26 で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。**（複数回答可）

図表 7-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した 582 人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」（47.6%）が最も多く、次いで「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」（45.9%）、「プライバシーを侵害された」（19.6%）、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」（17.2%）、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」（12.7%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」と「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は4割半ばから5割弱の間で推移している。また、「プライバシーを侵害された」、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」、「特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為）」は増加傾向となっている。一方、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」は令和元年度調査（20.3%）に比べ3.1ポイント減少している。

第4章 調査結果の詳細

性別でみると、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は女性（16.9%）が男性（3.2%）を13.7ポイント上回っている。「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」、「特定の人に執拗につきまともわれた（ストーカー行為）」についても、女性（前者は15.0%、後者は13.1%）が男性（前者は7.9%、後者は6.3%）より多くなっている。一方、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性（54.7%）が女性（44.7%）を10.0ポイント上回っており、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」についても、男性（50.5%）が女性（43.3%）より多くなっている。

性・年齢別でみると、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性40歳代～60歳代（62.2%、69.1%、60.0%）で6割を超え、女性30歳代（50.7%）、女性50歳代（53.9%）も5割以上となっている。また、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は女性18～29歳（57.1%）、女性50歳代（55.3%）、男性50歳代（52.7%）で5割以上、「プライバシーを侵害された」は女性18～29歳（32.1%）と男性60歳代（30.0%）で3割以上となっている。一方、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は女性30歳代（26.1%）を筆頭に女性18～29歳・30歳代～40歳代（19.6%、26.1%、19.5%）で全体を5ポイント以上上回っており、女性30歳代は「特定の人に執拗につきまともわれた（ストーカー行為）」（17.4%）も多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表7-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

	調査数（人）	職場の言動を受けて、不当な待遇や上司	からぬ噂を立てられたり、他人	プライバシーを侵害された	不平等または不利益な取り扱いを	人種・信条・性別などに	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	配偶者やパートナーなどから、	性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	特定の人に執拗につきまともられた（ストーカー行為）	その他	無回答
全体	582	47.6	45.9	19.6	17.2	12.7	12.4	11.0	9.6	0.3		
女性全体	367	44.7	43.3	19.6	18.5	15.0	16.9	13.1	11.7	0.3		
18～29歳	56	41.1	57.1	32.1	23.2	8.9	19.6	12.5	7.1	-		
30～39歳	69	50.7	34.8	21.7	26.1	14.5	26.1	17.4	14.5	-		
40～49歳	82	47.6	36.6	13.4	13.4	13.4	19.5	11.0	6.1	-		
50～59歳	76	53.9	55.3	18.4	19.7	17.1	15.8	14.5	9.2	-		
60～69歳	42	31.0	38.1	21.4	11.9	21.4	7.1	9.5	21.4	-		
70歳以上	40	30.0	35.0	12.5	15.0	17.5	5.0	12.5	20.0	2.5		
男性全体	190	54.7	50.5	18.9	13.7	7.9	3.2	6.3	5.3	0.5		
18～29歳	24	33.3	58.3	25.0	20.8	16.7	12.5	20.8	4.2	-		
30～39歳	24	62.5	50.0	12.5	12.5	4.2	-	-	4.2	4.2		
40～49歳	37	62.2	40.5	16.2	21.6	10.8	-	2.7	-	-		
50～59歳	55	69.1	52.7	16.4	9.1	5.5	1.8	3.6	7.3	-		
60～69歳	30	60.0	36.7	30.0	16.7	3.3	6.7	10.0	6.7	-		
70歳以上	20	10.0	75.0	15.0	-	10.0	-	5.0	10.0	-		

8. 男女共同参画について

(1) 各分野での男女平等

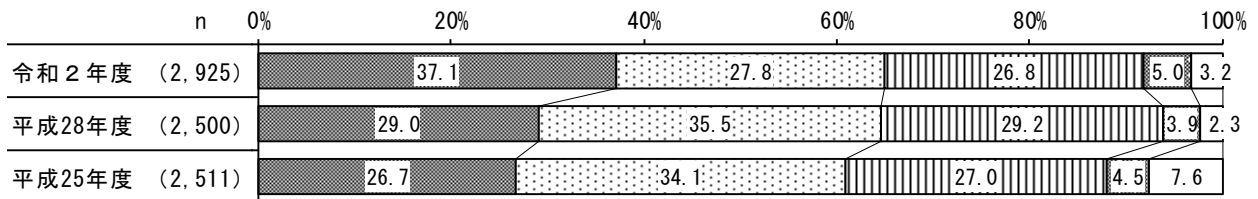
◇「平等になっている」は「家庭の中で」と「教育の中で」が4割弱

問 27. 次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。

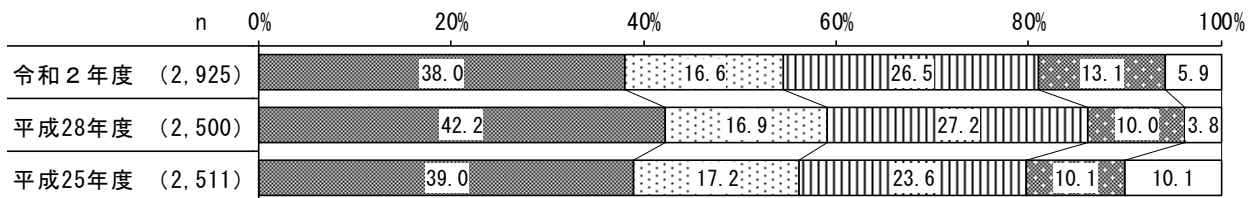
(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 8-1-1 各分野での男女平等

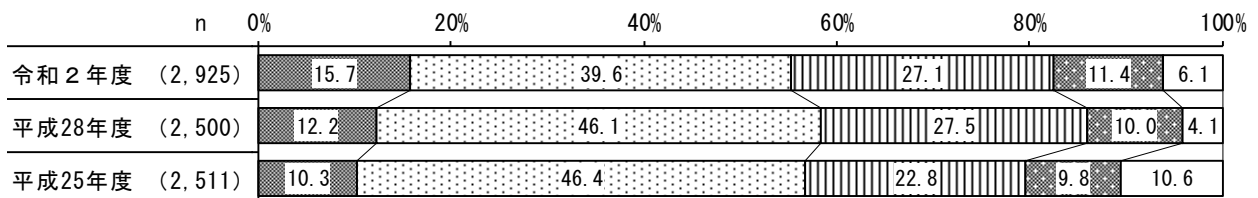
ア 家庭の中で



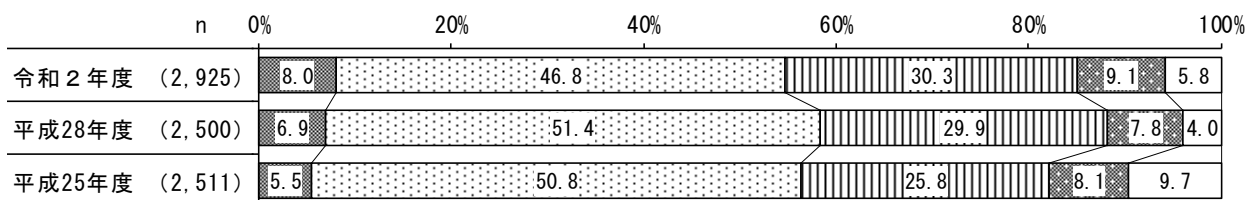
イ 教育の中で



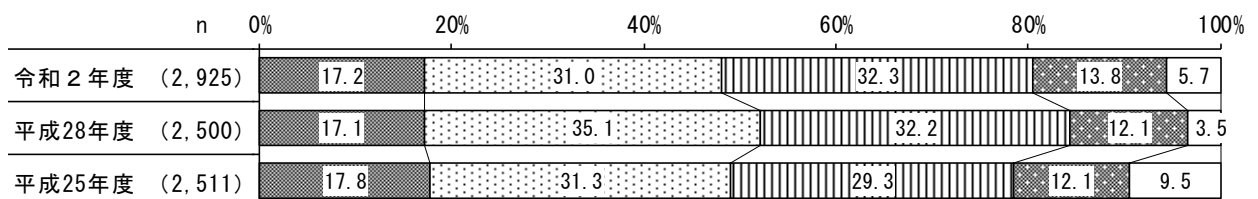
ウ 職場の中で



エ 社会通念や風潮において



オ 法律や制度上で



平等になっている
 平等になっていない
 どちらともいえない
 わからない
 無回答

第4章 調査結果の詳細

男女平等の考えについては、「平等になっている」は「イ 教育の中で」(38.0%)が4割弱、一方、「平等になっていない」は「エ 社会通念や風潮において」(46.8%)が4割半ばで最も多くなっている。過去の調査と比較すると、「平等になっている」は「ア 家庭の中で」(37.1%)が平成28年度調査(29.0%)と比べ8.1ポイント、「ウ 職場の中で」(15.7%)が平成28年度調査(12.2%)と比べ3.5ポイントそれぞれ増加している。一方、「平等になっていない」はすべての項目で平成28年度調査と比べ減少している。

「ア 家庭の中で」について性別で見ると、「平等になっている」は男性(44.7%)が女性(31.4%)を13.3ポイント上回っている。また、男性は「平等になっている」が「平等になっていない」(20.1%)を24.6ポイント上回る一方、女性は「平等になっていない」(33.7%)が「平等になっている」より2.3ポイント多くなっている。

性・年齢別で見ると、男性は「平等になっている」が30歳代(28.5%)を除き4割以上を占める一方、女性は18~29歳(40.1%)と40歳代(24.9%)を除き3割台となっている。また、男性30歳代(29.9%)、女性30歳代~50歳代(45.6%、42.7%、33.6%)は「平等になっていない」が「平等になっている」を上回っている。

「イ 教育の中で」について性別で見ると、「平等になっている」は男性(44.6%)が女性(33.3%)を11.3ポイント上回っている。また、男女とも「平等になっている」が「平等になっていない」を上回っているが、男性は「平等になっている」が「平等になっていない」(14.9%)を29.7ポイント上回り、女性より差が大きくなっている。

性・年齢別で見ると、女性は「平等になっている」が18~29歳・30歳代~50歳代(38.2%、39.7%、34.9%、34.8%)で3割台、60歳代以上(29.5%、29.1%)で2割台となっている。男性は「平等になっている」が18~29歳(54.5%)で5割半ば、30歳代(37.2%)で4割弱、それ以外の年齢で4割台となっている。男女ともすべての年齢で「平等になっている」が「平等になっていない」を上回っている。

「ウ 職場の中で」について性別で見ると、「平等になっている」は男性(20.2%)が女性(12.4%)を7.8ポイント上回っている。また、男女とも「平等になっていない」が「平等になっている」を上回っているが、女性は「平等になっていない」(42.1%)が「平等になっている」を29.7ポイント上回り、男性より差が大きくなっている。

性・年齢別で見ると、「平等になっている」は女性18~29歳(22.3%)と男性18~29歳(25.0%)、男性50歳代~60歳代(21.7%、20.4%)で2割台となる一方、女性60歳代以上(8.6%、6.1%)は1割未満となっている。また、「平等になっていない」は女性30歳代(51.0%)で約5割を占め、70歳以上を除く女性と男性30歳代~50歳代で4割以上となっている。男女ともすべての年齢で「平等になっていない」が「平等になっている」を上回っている。

「エ 社会通念や風潮において」について性別で見ると、「平等になっている」は男性(11.2%)が女性(5.6%)を5.6ポイント上回っている。また、男女とも「平等になっていない」が「平等になっている」を3割以上上回っている。

性・年齢別で見ると、「平等になっている」は女性すべての年齢で、男性は30歳代(8.0%)、50歳代~60歳代(7.4%、7.1%)で1割未満となっている。また、「平等になっていない」は70歳以上を除き、女性は5割以上、男性は4割以上を占めている。男女ともすべての年齢で「平等になっていない」が「平等になっている」を上回っている。

「オ 法律や制度上で」について性別で見ると、「平等になっている」は男性(25.4%)が女性(11.0%)を14.4ポイント上回っている。また、男女とも「平等になっていない」が「平等になっている」を上回っているが、女性は「平等になっていない」(31.9%)が「平等になっている」を20.9ポイント上回っており、男性より差が大きくなっている。

性・年齢別で見ると、女性は「平等になっている」が30歳代～40歳代(9.8%、9.3%)で1割未満、それ以外の年齢で1割台となっている。一方、男性は18～29歳(34.8%)で3割半ば、それ以外の年齢で2割台となっている。また、女性がすべての年齢で「平等になっていない」が「平等になっている」を上回る一方、男性18～29歳と男性70歳以上は「平等になっている」が「平等になっていない」より多くなっている。

図表8-1-2 性・年齢別 各分野での男女平等

(%)

性・年齢別	調査数(人)	ア 家庭の中で					イ 教育の中で					ウ 職場の中で				
		い平等になって	いな等になって	いどちらとも	わからぬ	無回答	い平等になって	いな等になって	いどちらとも	わからぬ	無回答	い平等になって	いな等になって	いどちらとも	わからぬ	無回答
全体	2,925	37.1	27.8	26.8	5.0	3.2	38.0	16.6	26.5	13.1	5.9	15.7	39.6	27.1	11.4	6.1
女性全体	1,594	31.4	33.7	27.7	4.1	3.1	33.3	18.0	29.2	14.1	5.4	12.4	42.1	27.2	12.4	5.8
18～29歳	157	40.1	29.9	25.5	3.8	0.6	38.2	20.4	30.6	10.2	0.6	22.3	45.9	21.0	9.6	1.3
30～39歳	204	33.8	45.6	19.1	1.0	0.5	39.7	23.5	25.5	11.3	-	14.7	51.0	29.9	3.9	0.5
40～49歳	281	24.9	42.7	27.8	3.9	0.7	34.9	18.5	32.4	13.2	1.1	14.6	48.0	29.9	6.0	1.4
50～59歳	256	32.8	33.6	28.1	3.9	1.6	34.8	20.7	30.5	11.7	2.3	16.4	41.0	34.8	5.9	2.0
60～69歳	268	31.3	31.0	31.0	3.7	3.0	29.5	18.3	34.3	13.8	4.1	8.6	42.9	27.6	17.9	3.0
70歳以上	423	30.5	24.8	30.5	6.1	8.0	29.1	12.1	24.3	19.1	15.4	6.1	32.4	21.7	22.5	17.3
男性全体	1,216	44.7	20.1	26.1	6.2	3.0	44.6	14.9	23.9	11.6	5.0	20.2	37.5	27.2	10.1	4.9
18～29歳	112	49.1	25.0	21.4	1.8	2.7	54.5	16.1	20.5	6.3	2.7	25.0	37.5	20.5	15.2	1.8
30～39歳	137	28.5	29.9	33.6	6.6	1.5	37.2	18.2	29.9	12.4	2.2	18.2	45.3	31.4	3.6	1.5
40～49歳	212	42.9	25.0	24.5	6.6	0.9	46.2	17.9	24.5	9.9	1.4	18.9	40.6	35.8	3.8	0.9
50～59歳	203	41.9	22.2	29.1	6.4	0.5	42.4	14.8	27.1	14.3	1.5	21.7	42.9	29.1	4.9	1.5
60～69歳	225	48.9	13.8	28.9	5.8	2.7	42.7	15.1	28.9	11.1	2.2	20.4	38.7	30.2	8.4	2.2
70歳以上	323	50.2	14.2	21.7	7.1	6.8	46.1	11.1	16.4	12.7	13.6	19.2	28.5	18.3	19.8	14.2

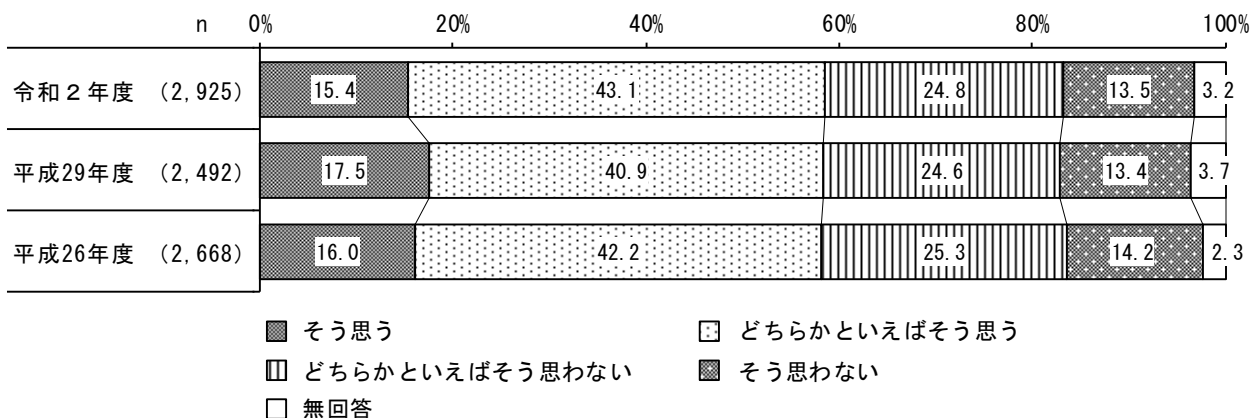
性・年齢別	調査数(人)	エ 社会通念や風潮において					オ 法律や制度上で				
		い平等になって	いな等になって	いどちらとも	わからぬ	無回答	い平等になって	いな等になって	いどちらとも	わからぬ	無回答
全体	2,925	8.0	46.8	30.3	9.1	5.8	17.2	31.0	32.3	13.8	5.7
女性全体	1,594	5.6	50.3	29.9	8.9	5.3	11.0	31.9	35.8	15.9	5.3
18～29歳	157	9.6	58.6	24.8	6.4	0.6	15.9	31.8	38.2	13.4	0.6
30～39歳	204	6.4	63.2	26.0	3.9	0.5	9.8	46.6	30.4	12.7	0.5
40～49歳	281	5.7	53.4	34.5	5.7	0.7	9.3	38.1	38.4	13.2	1.1
50～59歳	256	5.9	52.3	32.4	6.6	2.7	10.5	30.1	43.0	14.5	2.0
60～69歳	268	4.5	54.9	29.9	8.2	2.6	10.8	28.7	41.0	15.7	3.7
70歳以上	423	4.5	34.5	29.1	16.1	15.8	11.6	23.4	28.6	21.0	15.4
男性全体	1,216	11.2	43.6	30.8	9.5	4.9	25.4	30.7	28.1	11.2	4.6
18～29歳	112	17.9	46.4	25.9	8.0	1.8	34.8	28.6	19.6	14.3	2.7
30～39歳	137	8.0	55.5	28.5	6.6	1.5	20.4	43.1	26.3	8.8	1.5
40～49歳	212	11.8	45.8	34.0	7.5	0.9	22.6	30.7	37.3	9.0	0.5
50～59歳	203	7.4	49.3	33.5	7.9	2.0	22.2	32.5	35.0	8.9	1.5
60～69歳	225	7.1	47.6	33.3	9.8	2.2	24.4	35.1	29.8	8.4	2.2
70歳以上	323	15.2	29.7	27.9	13.6	13.6	29.1	21.7	20.1	16.1	13.0

(2) 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか

◇『そう思う』が6割弱

問 28. 仕事、家事・育児・介護、地域活動、学習、娯楽など、1つの生活の中で行うさまざまな活動について、あなたは概ね自分が希望するとおりの配分で時間を使えていると思いますか。(〇は1つ)

図表 8-2-1 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか



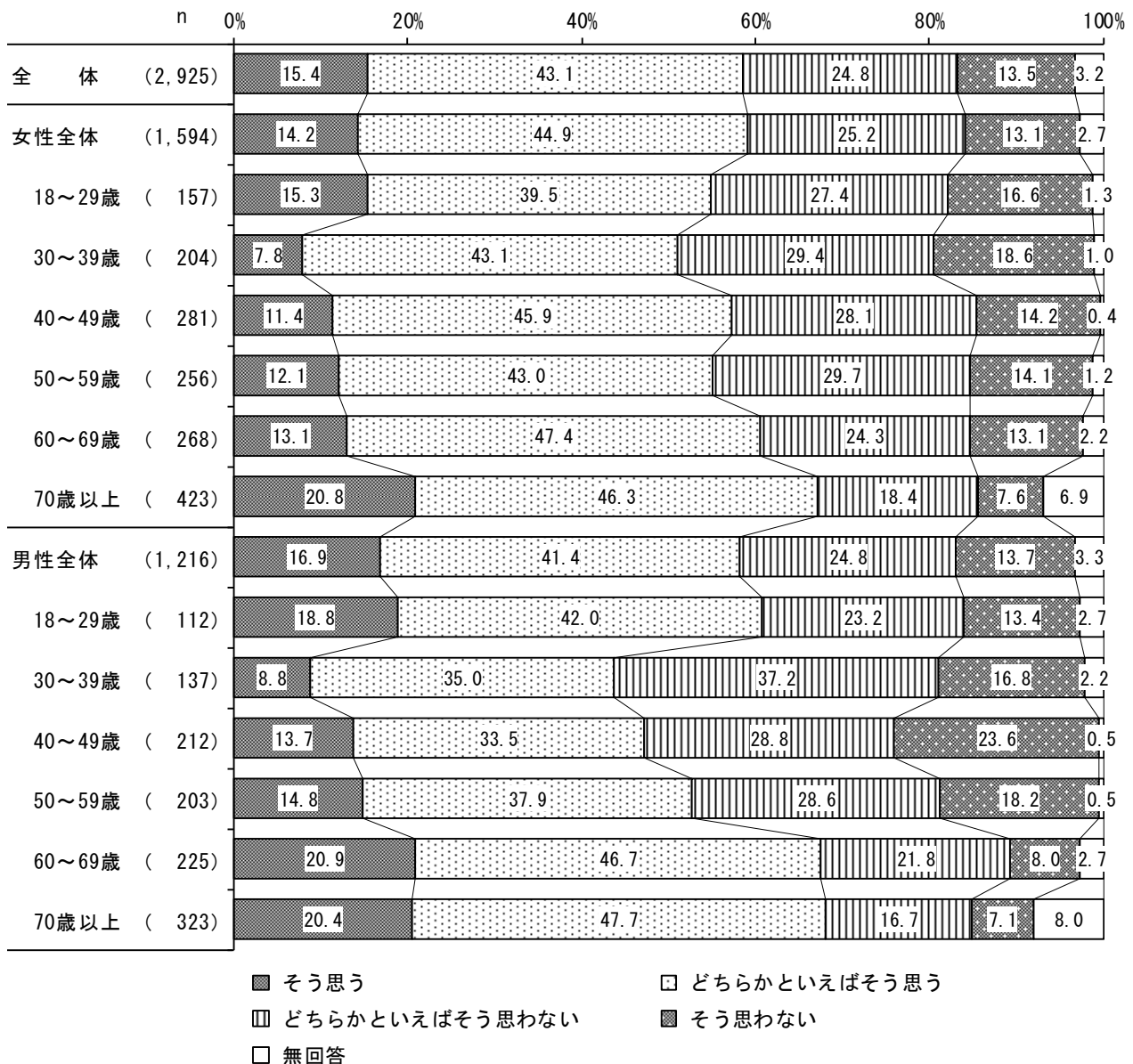
1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか聞いたところ、「そう思う」(15.4%)と「どちらかといえばそう思う」(43.1%)を合わせた『そう思う』(58.5%)は6割弱となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(24.8%)と「そう思わない」(13.5%)を合わせた『そう思わない』(38.3%)は4割弱となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、『そう思う』は女性（59.0%）と男性（58.2%）の間に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『そう思う』は男女とも18～29歳（女性54.8%、男性60.7%）及び60歳代（女性60.4%、男性67.6%）、70歳以上（女性67.1%、男性68.1%）で5割半ばから7割弱と多くなっている。一方、男性30歳代～40歳代では『そう思わない』（54.0%、52.4%）が『そう思う』（43.8%、47.2%）を上回っている。

図表8-2-2 性・年齢別 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか

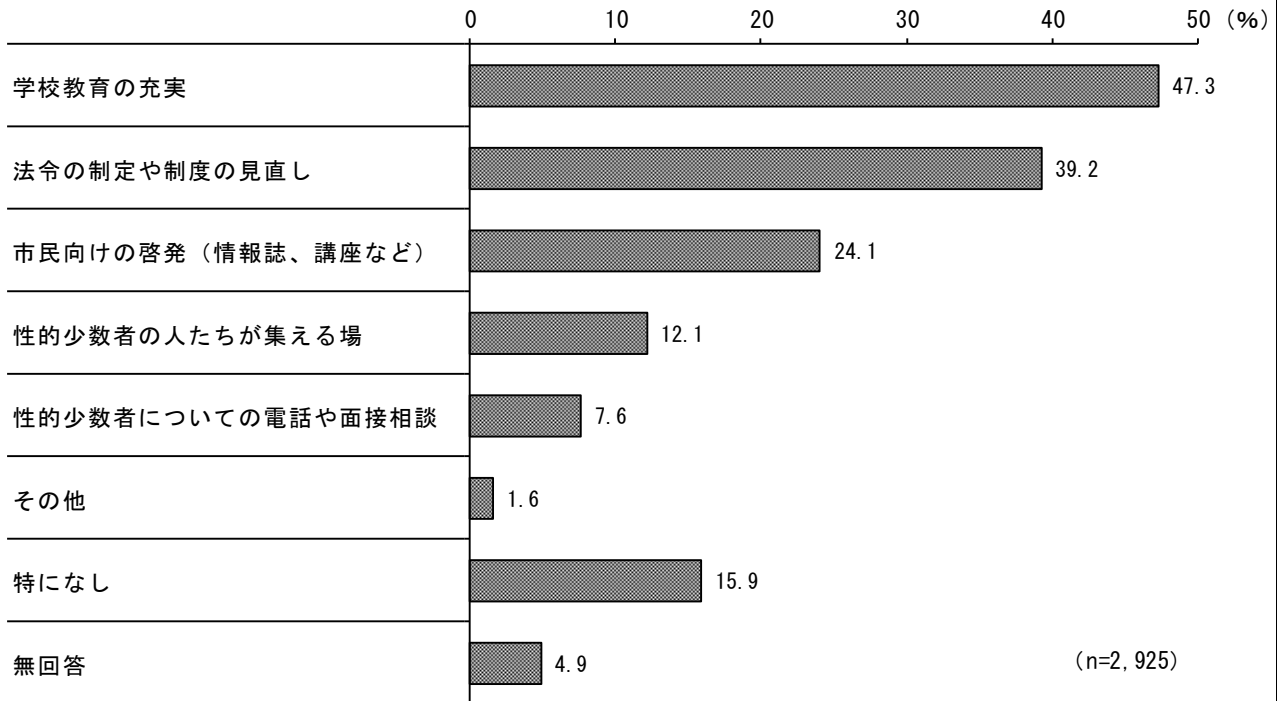


(3) LGBTなどの人たちのために必要な取組み

◇「学校教育の充実」が最も多く、5割弱

問29. LGBT(※)などの性的少数者の人たちが、暮らしやすい生活ができるように、どのような取組みが必要ですか。(〇は2つまで)

図表8-3-1 LGBTなどの人たちのために必要な取組み



(※) LGBT…L: レズビアン(女性の同性愛者)、G: ゲイ(男性の同性愛者)、
B: バイセクシュアル(両性愛者)、T: トランスジェンダー(性的違和感を持つ方)

LGBTなどの人たちのために必要な取組みについて聞いたところ、「学校教育の充実」(47.3%)が最も多く、次いで「法令の制定や制度の見直し」(39.2%)、「市民向けの啓発(情報誌、講座など)」(24.1%)、「性的少数者の人たちが集える場」(12.1%)、「性的少数者についての電話や面接相談」(7.6%)の順となっている。

性別でみると、「学校教育の充実」は女性（51.4%）が男性（43.3%）を8.1ポイント上回っている。性・年齢別でみると、「学校教育の充実」は女性18～29歳・30歳代（71.3%、72.1%）で約7割～7割強を占めている。男女とも30歳代をピークに年齢が上がるにつれ減少する傾向にあるが、男性40歳代（49.1%）を除き、各年齢で最も多くなっている。また、「法令の制定や制度の見直し」は女性18～29歳・30歳代（58.0%、50.5%）と男性40歳代（52.4%）で5割以上となっており、「性的少数者の人たちが集える場」は18～29歳で女性（22.3%）、男性（26.8%）とも全体を1割以上上回っている。一方、70歳以上は「特になし」が女性25.3%、男性26.9%と多くなっており、「法令の制定や制度の見直し」（女性23.4%、男性25.1%）を上回っている。

図表8-3-2 性・年齢別 LGBTなどの人たちのために必要な取組み

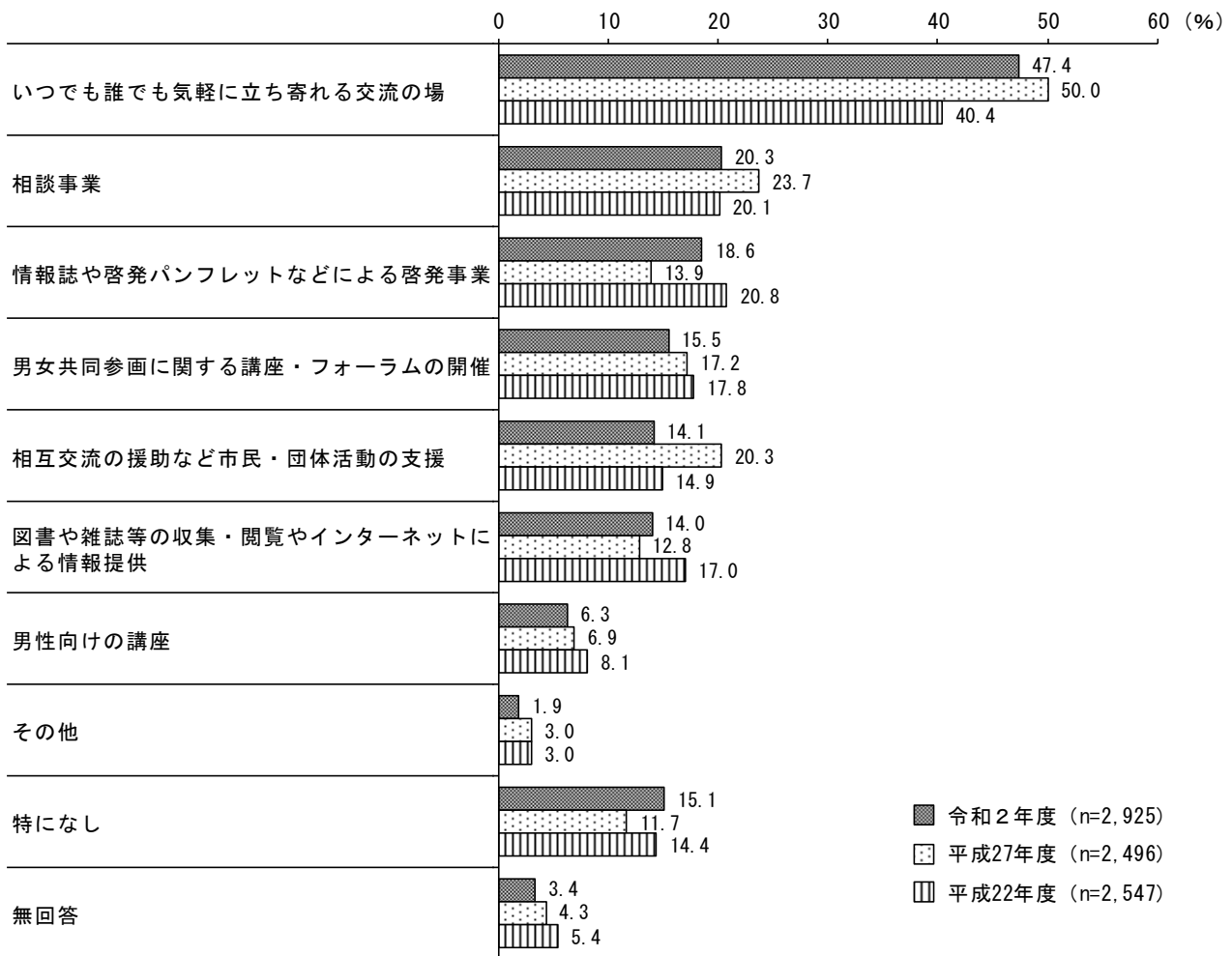
	調査数（人）	学校教育の充実	法令の制定や制度の見直し	市民向けの啓発（情報誌、講座など）	性的少数者の人たちが集える場	性的少数者についての電話や面接相談	その他	特になし	無回答
全体	2,925	47.3	39.2	24.1	12.1	7.6	1.6	15.9	4.9
女性全体	1594	51.4	40.0	24.3	13.2	7.3	1.3	13.8	5.1
18～29歳	157	71.3	58.0	12.7	22.3	5.1	1.3	4.5	0.6
30～39歳	204	72.1	50.5	22.1	14.2	6.4	1.0	3.9	-
40～49歳	281	56.9	43.4	28.8	14.9	5.3	2.5	8.5	1.4
50～59歳	256	55.5	43.8	27.3	12.9	7.0	1.6	12.1	2.0
60～69歳	268	46.3	40.3	28.4	12.3	10.1	0.7	15.7	2.6
70歳以上	423	31.4	23.4	22.5	9.0	8.3	0.7	25.3	15.4
男性全体	1216	43.3	39.3	23.8	11.3	8.3	2.1	18.2	3.4
18～29歳	112	53.6	47.3	13.4	26.8	7.1	2.7	5.4	1.8
30～39歳	137	59.1	42.3	18.2	12.4	7.3	3.6	14.6	1.5
40～49歳	212	49.1	52.4	22.2	13.7	10.8	0.5	12.7	0.9
50～59歳	203	47.3	42.9	24.6	8.4	9.4	1.0	17.2	1.0
60～69歳	225	39.1	38.2	25.8	8.4	8.4	1.3	20.0	1.8
70歳以上	323	29.7	25.1	28.8	8.0	6.8	3.4	26.9	9.0

(4) 男女共同参画施設が今後力を入れること

◇「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」が最も多く、5割弱

問30. 越谷市には、男女共同参画を推進する拠点施設として「男女共同参画支援センター（ほっと越谷）」があります。あなたは、男女共同参画施設が今後どのような内容に特に力を入れる必要があると思いますか。次の中から2つまで選んでください。

図表8-4-1 男女共同参画施設が今後力を入れること



男女共同参画施設が今後力を入れることについて聞いたところ、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」(47.4%)が最も多く、次いで「相談事業」(20.3%)、「情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業」(18.6%)、「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」(15.5%)、「相互交流の援助など市民・団体活動の支援」(14.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業」(18.6%)は平成27年度調査(13.9%)と比べ4.7ポイント増加している。一方、「相互交流の援助など市民・団体活動の支援」(14.1%)は平成27年度調査(20.3%)と比べ6.2ポイント減少している。

性別でみると、「相談事業」は女性(22.0%)が男性(18.5%)を3.5ポイント上回っている。一方、「情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業」は男性(20.4%)が女性(17.2%)を3.2ポイント上回り、「図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供」も男性(16.0%)が女性(12.9%)より多くなっている。

性・年齢別でみると、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」は男性が全ての年齢で4割台なのに対し、女性は60歳代以上で5割を超える一方、40歳代(36.7%)は3割半ばとなっている。また、「相談事業」は女性30歳代(29.4%)と女性50歳代(27.3%)、「情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業」は男性60歳代(27.1%)で多くなっている。「図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供」は18～29歳の男女(女性21.0%、男性22.3%)に加え、男性30歳代～40歳代(21.2%、22.6%)も約2割～2割強を占めている。

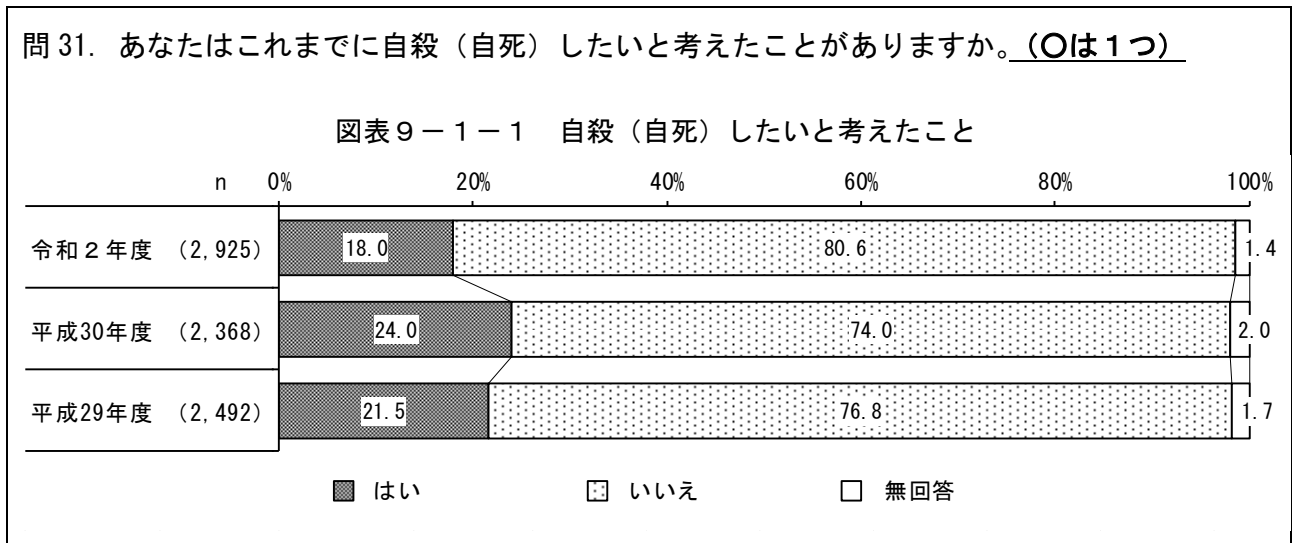
図表8-4-2 性・年齢別 男女共同参画施設が今後力を入れること

	調査数(人)	いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場	相談事業	情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業	男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催	相互交流の援助など市民・団体活動の支援	図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供	男性向けの講座	その他	特になし	無回答
全体	2,925	47.4	20.3	18.6	15.5	14.1	14.0	6.3	1.9	15.1	3.4
女性全体	1,594	48.3	22.0	17.2	15.8	14.6	12.9	6.3	2.1	13.2	3.5
18～29歳	157	47.1	22.9	17.8	15.3	15.3	21.0	12.7	1.9	7.6	1.3
30～39歳	204	42.2	29.4	22.5	13.7	14.2	18.1	12.3	2.9	9.3	0.5
40～49歳	281	36.7	25.3	18.1	15.7	14.6	17.4	8.5	2.8	12.5	1.4
50～59歳	256	44.1	27.3	18.0	18.4	13.3	13.7	4.3	3.1	12.9	2.3
60～69歳	268	56.3	17.9	17.9	16.4	18.3	10.8	4.1	2.2	12.3	2.2
70歳以上	423	56.7	15.4	13.0	15.1	13.2	5.0	1.9	0.5	18.4	8.7
男性全体	1,216	46.5	18.5	20.4	15.9	13.6	16.0	6.4	1.6	16.9	2.5
18～29歳	112	46.4	23.2	12.5	10.7	17.0	22.3	10.7	2.7	13.4	0.9
30～39歳	137	46.7	21.2	16.1	10.9	16.8	21.2	10.2	2.9	15.3	1.5
40～49歳	212	46.2	20.8	20.8	16.5	14.6	22.6	7.5	0.5	16.5	-
50～59歳	203	42.9	21.7	18.2	18.2	12.3	17.2	5.4	1.5	18.2	1.5
60～69歳	225	48.0	14.2	27.1	18.2	9.8	14.2	5.8	1.3	16.4	2.7
70歳以上	323	48.0	15.2	21.7	16.4	13.6	7.7	3.7	1.9	18.3	5.9

9. 自殺防止について

(1) 自殺（自死）したいと考えたこと

◇「はい」が2割弱



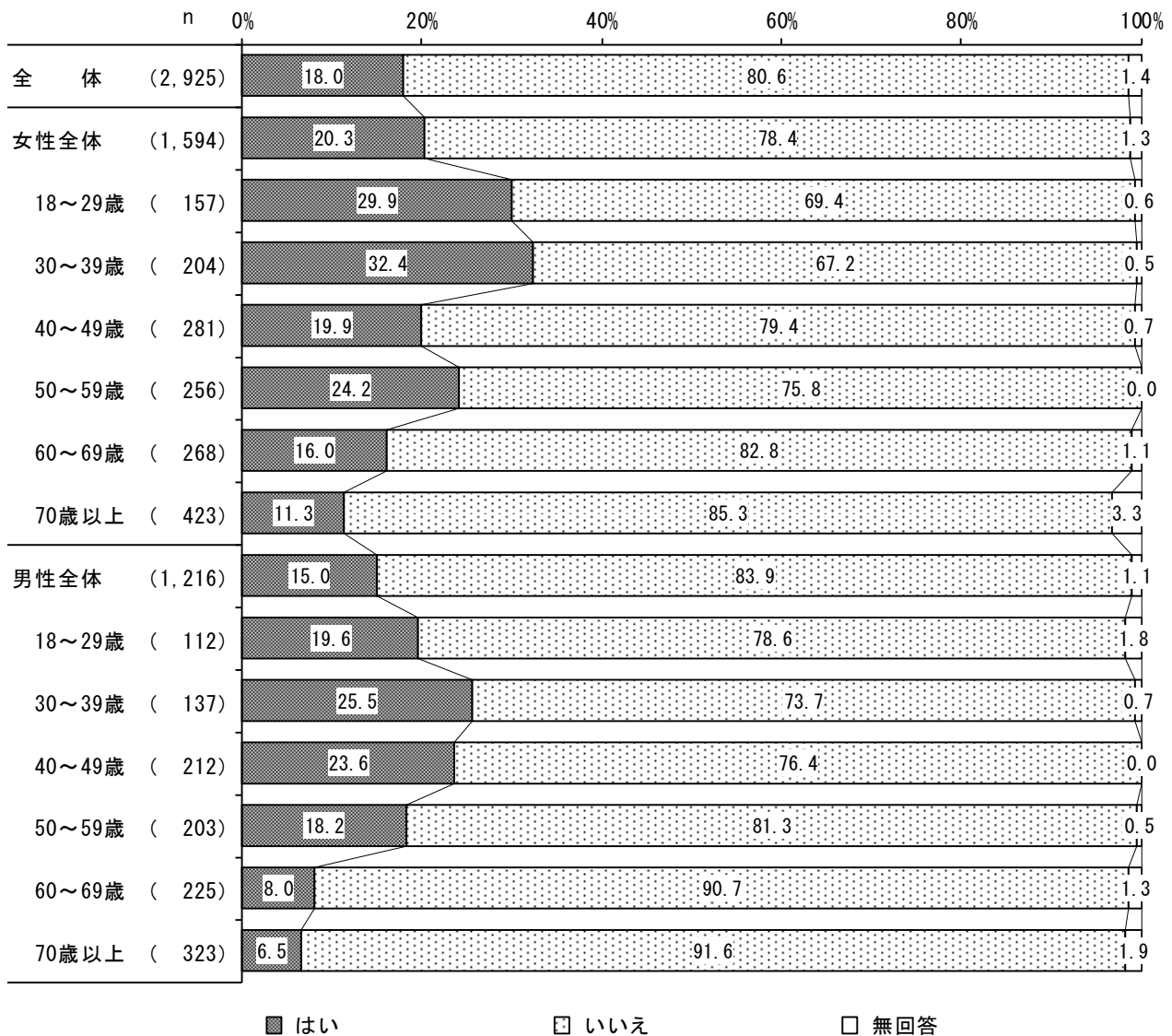
自殺(自死)したいと考えたことがあるか聞いたところ、「はい」(18.0%)が2割弱、「いいえ」(80.6%)が約8割となっている。

過去の調査と比較すると、「はい」(18.0%)は平成30年度調査(24.0%)と比べ6.0ポイント減少している。

性別でみると、「はい」は女性（20.3%）が男性（15.0%）を5.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「はい」は女性30歳代（32.4%）が3割強、女性18～29歳（29.9%）が約3割と多くなっている。また、女性50歳代（24.2%）、男性30歳代～40歳代（25.5%、23.6%）も2割以上となっている。

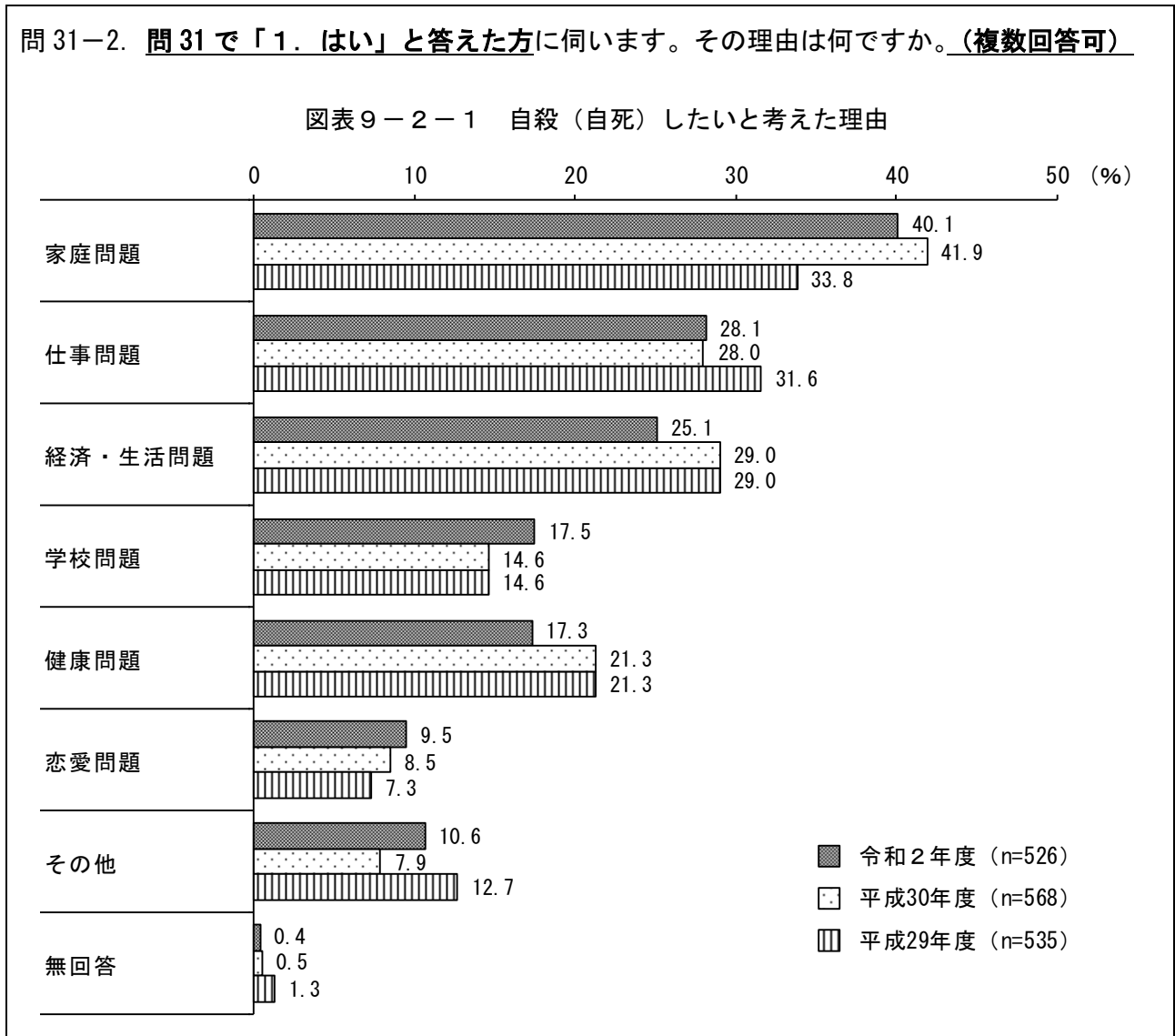
図表9-1-2 性・年齢別 自殺（自死）したいと考えたこと



(2) 自殺（自死）したいと考えた理由

◇「家庭問題」が最も多く、約4割

問31-2. 問31で「1. はい」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(複数回答可)



自殺（自死）したいと考えた理由について聞いたところ、「家庭問題」（40.1%）が最も多く、次いで「仕事問題」（28.1%）、「経済・生活問題」（25.1%）、「学校問題」（17.5%）、「健康問題」（17.3%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、平成30年度調査と比べ「健康問題」（平成30年度21.3%）は4.0ポイント、「経済・生活問題」（平成30年度29.0%）は3.9ポイントそれぞれ減少している。

性別でみると、「家庭問題」（女性 47.8%、男性 26.8%）は女性で、「仕事問題」（女性 21.0%、男性 41.0%）は男性で最も多くなっており、それぞれ他方を 20 ポイント以上上回っている。また、「経済・生活問題」は男性（32.8%）が女性（20.4%）より 12.4 ポイント多くなっている。

性・年齢別でみると、男女とも 18～29 歳は「学校問題」が女性 36.2%、男性 45.5%と最も多くなっている。女性 30 歳代以上では「家庭問題」が最も多く、特に 60 歳代は「家庭問題」（62.8%）が 6 割強を占めている。一方、男性は「仕事問題」が 50 歳代（56.8%）で 5 割半ば、30 歳代～40 歳代（42.9%、40.0%）で 4 割以上を占めている。また、「経済・生活問題」は男性 30 歳代～40 歳代、「健康問題」は女性 70 歳以上で 3 割台となっている。「恋愛問題」は女性 18～29 歳（19.1%）と女性 40～49 歳（19.6%）で約 2 割を占め、全体を約 1 割上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 9-2-2 性・年齢別 自殺（自死）したいと考えた理由

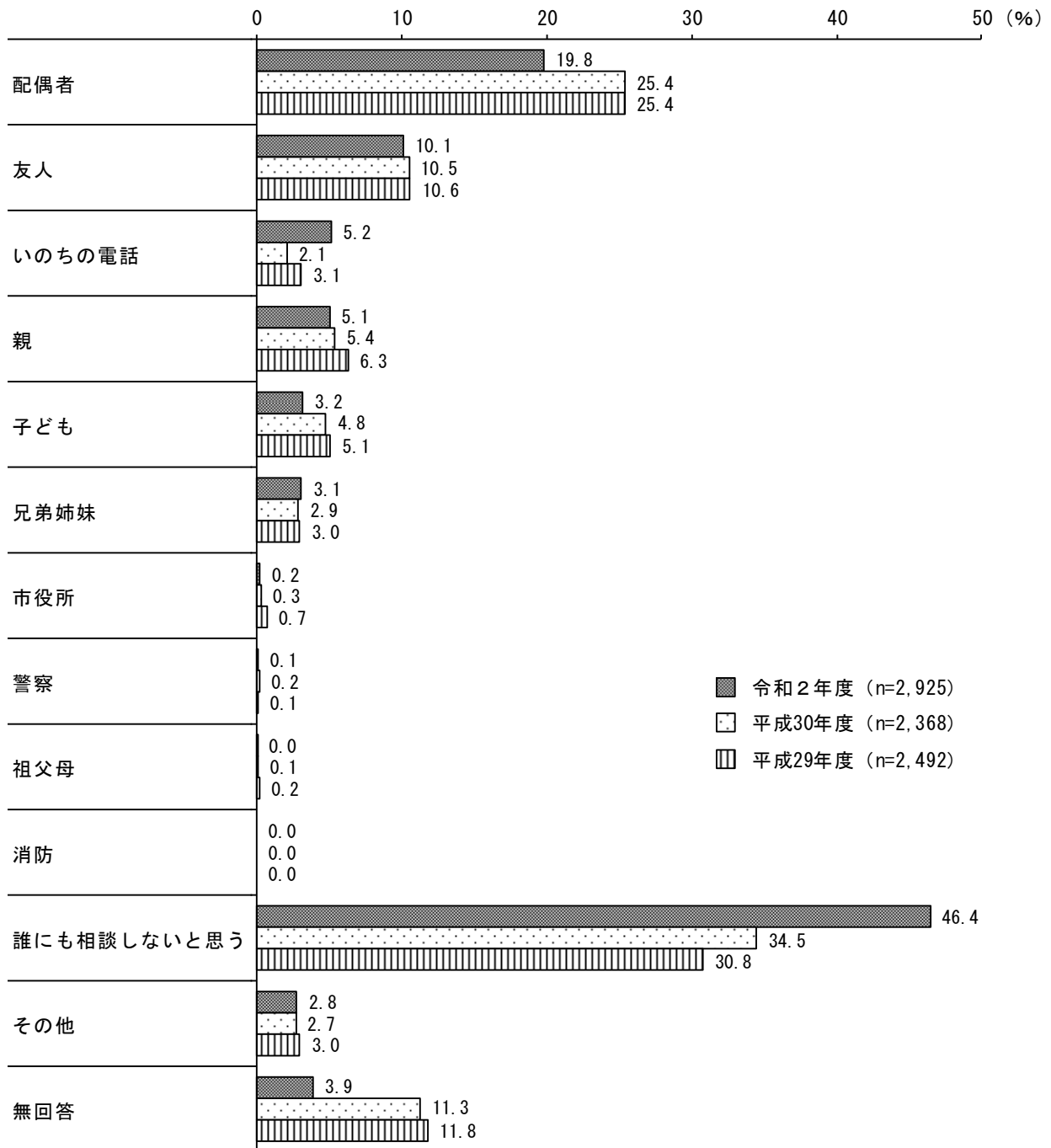
	調査数（人）	家庭問題	仕事問題	経済・生活問題	学校問題	健康問題	恋愛問題	その他	無回答
全体	526	40.1	28.1	25.1	17.5	17.3	9.5	10.6	0.4
女性全体	324	47.8	21.0	20.4	18.5	16.7	11.4	13.0	0.6
18～29歳	47	31.9	27.7	14.9	36.2	6.4	19.1	10.6	-
30～39歳	66	48.5	27.3	21.2	27.3	7.6	15.2	15.2	-
40～49歳	56	46.4	30.4	23.2	26.8	19.6	19.6	12.5	-
50～59歳	62	50.0	24.2	17.7	11.3	11.3	6.5	19.4	1.6
60～69歳	43	62.8	4.7	23.3	4.7	23.3	4.7	11.6	-
70歳以上	48	50.0	4.2	22.9	-	37.5	2.1	6.3	2.1
男性全体	183	26.8	41.0	32.8	17.5	18.6	7.1	6.0	-
18～29歳	22	22.7	36.4	40.9	45.5	18.2	4.5	9.1	-
30～39歳	35	31.4	42.9	31.4	25.7	11.4	14.3	8.6	-
40～49歳	50	28.0	40.0	34.0	20.0	16.0	4.0	6.0	-
50～59歳	37	16.2	56.8	29.7	5.4	16.2	10.8	8.1	-
60～69歳	18	38.9	27.8	27.8	5.6	22.2	5.6	-	-
70歳以上	21	28.6	28.6	33.3	-	38.1	-	-	-

(3) 自殺(自死)について相談する相手

◇「配偶者」が最も多く、約2割

問32. もしあなたが自殺(自死)について悩んだとき、だれに相談しますか。(〇は1つ)

図表9-3-1 自殺(自死)について相談する相手



自殺(自死)について相談する相手を聞いたところ、「配偶者」(19.8%)が最も多く、次いで「友人」(10.1%)、「いのちの電話」(5.2%)、「親」(5.1%)、「子ども」(3.2%)の順となっている。一方、「誰にも相談しないと思う」(46.4%)は4割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、「誰にも相談しないと思う」(46.4%)は平成30年度調査(34.5%)と比べ11.9ポイント増加している。

性別でみると、「配偶者」は男性（24.7%）が女性（16.3%）を8.4ポイント上回っている。一方、「誰にも相談しないと思う」は女性（46.0%）、男性（46.8%）とも4割半ばとなっている。

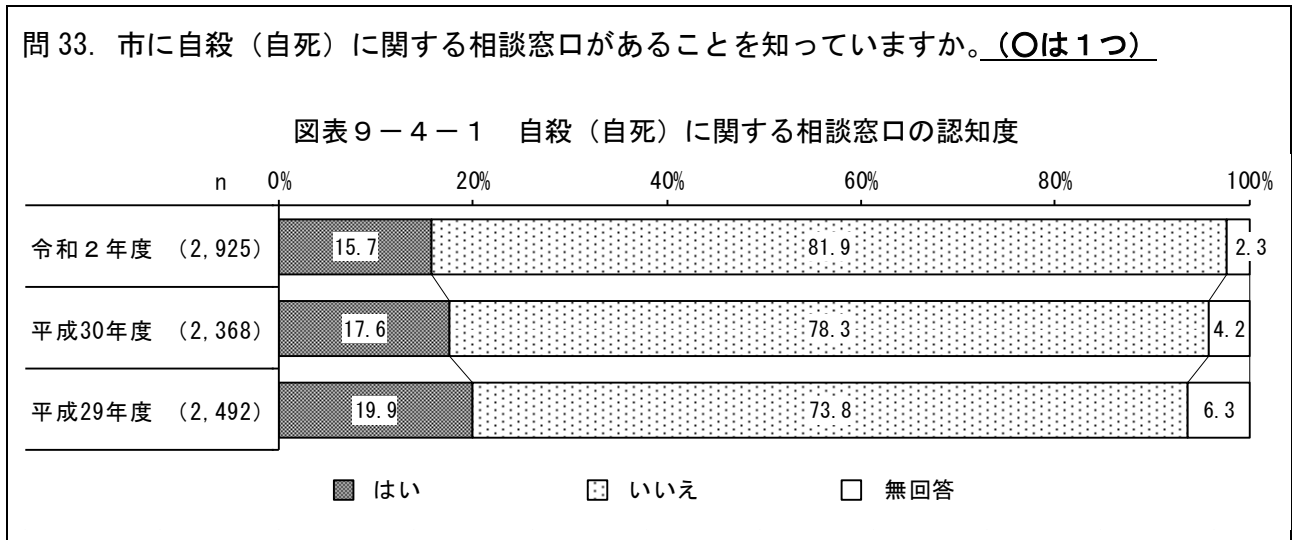
性・年齢別でみると、「配偶者」は男性60歳代（35.1%）が最も多く、女性30歳代（25.0%）、男性40歳代以上（28.3%、26.1%、35.1%、21.7%）で2割以上となっている。また、男女とも18～29歳では「友人」（女性19.7%、男性27.7%）、「親」（女性17.8%、男性23.2%）が2割前後と他の年齢に比べ多くなっている。一方、「誰にも相談しないと思う」は男性18～29歳（32.1%）を除き4割以上となっており、女性50歳代（57.0%）は6割弱、男性40歳代～50歳代（51.4%、51.7%）は約5割を占めている。

図表9-3-2 性・年齢別 自殺（自死）について相談する相手

	調査数（人）	配偶者	友人	いのちの電話	親	子ども	兄弟姉妹	市役所	警察	祖父母	消防	誰にも相談しないと思う	その他	無回答
全体	2,925	19.8	10.1	5.2	5.1	3.2	3.1	0.2	0.1	0.0	-	46.4	2.8	3.9
女性全体	1,594	16.3	11.3	5.3	5.3	4.6	3.8	0.2	-	0.1	-	46.0	3.1	4.0
18～29歳	157	12.7	19.7	3.8	17.8	-	1.9	-	-	-	-	42.0	1.3	0.6
30～39歳	204	25.0	11.8	3.4	11.3	-	3.4	-	-	0.5	-	41.2	2.9	0.5
40～49歳	281	19.2	12.1	6.0	6.8	1.1	3.2	-	-	-	-	48.0	2.5	1.1
50～59歳	256	14.1	12.1	3.1	3.5	2.7	2.3	-	-	-	-	57.0	3.9	1.2
60～69歳	268	15.3	13.8	7.1	0.7	7.5	5.6	0.4	-	-	-	42.2	4.9	2.6
70歳以上	423	13.5	5.4	6.6	0.7	9.9	4.7	0.5	-	-	-	44.4	2.6	11.6
男性全体	1,216	24.7	8.6	4.9	5.1	1.6	2.3	0.2	0.2	-	-	46.8	2.4	3.2
18～29歳	112	8.9	27.7	1.8	23.2	-	0.9	-	0.9	-	-	32.1	2.7	1.8
30～39歳	137	19.7	12.4	3.6	13.1	-	0.7	-	-	-	-	47.4	0.7	2.2
40～49歳	212	28.3	7.1	3.8	5.7	0.5	1.4	-	-	-	-	51.4	0.9	0.9
50～59歳	203	26.1	6.9	6.4	2.0	-	3.0	0.5	-	-	-	51.7	2.0	1.5
60～69歳	225	35.1	7.1	5.3	0.4	1.3	3.1	-	0.9	-	-	40.9	3.1	2.7
70歳以上	323	21.7	3.4	5.6	0.3	5.0	3.1	0.6	-	-	-	49.8	3.7	6.8

(4) 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度

◇「はい」が1割半ば



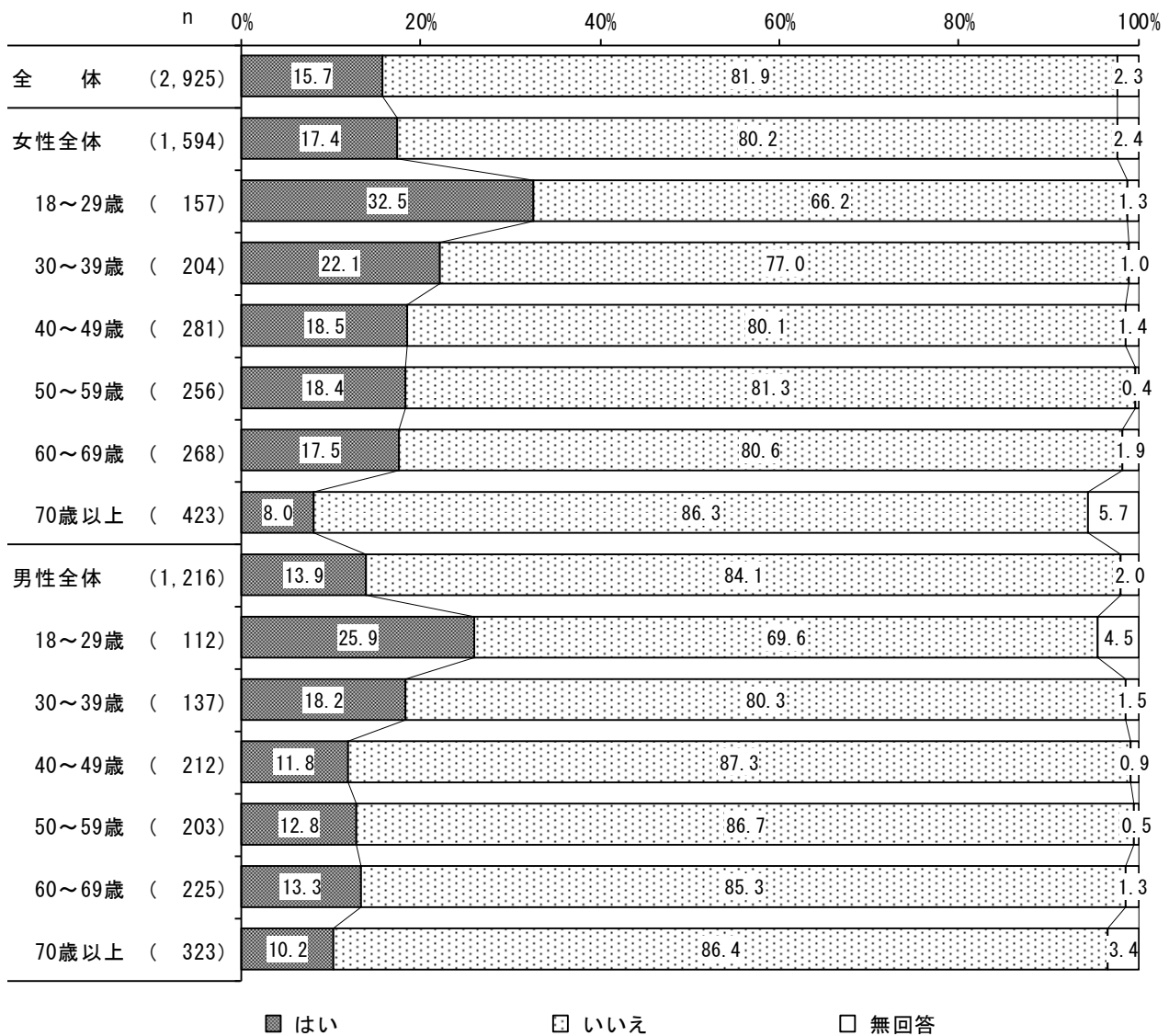
市に相談窓口があることを知っているか聞いたところ、「はい」(15.7%)は1割半ば、「いいえ」(81.9%)は約8割となっている。

過去2回の調査と比較すると、「はい」(15.7%)は減少傾向にあり、平成30年度調査(17.6%)と比べ1.9ポイント減少している。

性別でみると、「はい」は女性（17.4%）が男性（13.9%）を3.5ポイント上回っている。一方、「いいえ」は男性（84.1%）が女性（80.2%）より3.9ポイント多くなっている。

性・年齢別でみると、「はい」は18～29歳が女性（32.5%）、男性（25.9%）とも最も多く、全体を1割以上上回っている。一方、「いいえ」は女性18～29歳・30歳代（66.2%、77.0%）、男性18～29歳（69.6%）を除き8割台となっている。

図表9-4-2 性・年齢別 自殺（自死）に関する相談窓口の認知度

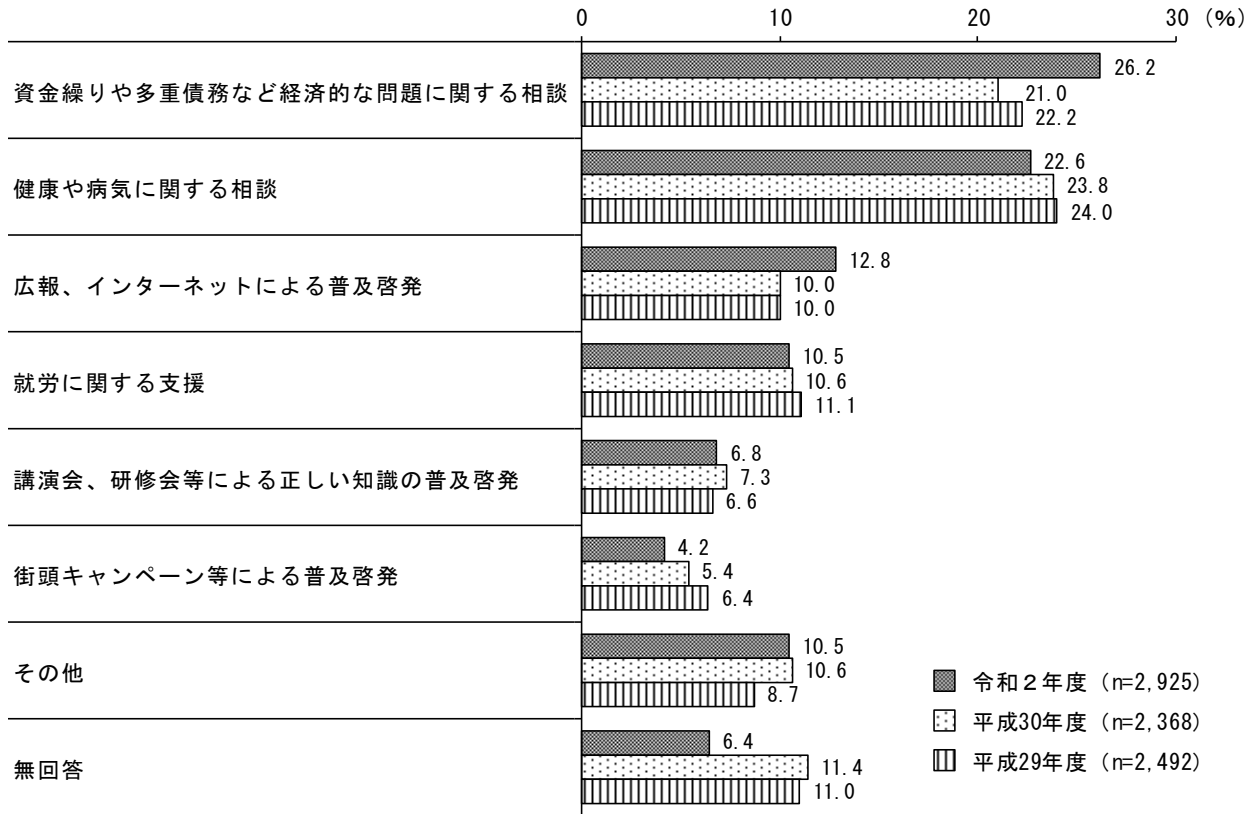


(5) 自殺防止に最も効果的な対策

◇「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」が最も多く、2割半ば

問34. 自殺防止に最も効果的な対策は次のどれだと思いますか。(〇は1つ)

図表9-5-1 自殺防止に最も効果的な対策



自殺防止に最も効果的な対策について聞いたところ、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」(26.2%)が最も多く、次いで「健康や病気に関する相談」(22.6%)、「広報、インターネットによる普及啓発」(12.8%)、「就労に関する支援」(10.5%)、「講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発」(6.8%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は平成30年度調査(21.0%)と比べ5.2ポイント増加している。

性別でみると、「広報、インターネットによる普及啓発」は女性（14.3%）が男性（11.3%）を3.0ポイント上回っている。一方、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」（女性25.2%、男性27.3%）、「健康や病気に関する相談」（女性21.1%、男性24.0%）は男性が女性より多くなっている。

性・年齢別でみると、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は女性18～29歳・30歳代（33.8%、33.3%）、男性40歳代～50歳代（36.3%、32.5%）で3割台となっている。「健康や病気に関する相談」は男女とも60歳代以上で多くなっており、男性70歳以上（36.8%）は全体を14.2ポイント上回っている。一方、「就労に関する支援」は男女とも18～29歳（女性22.9%、男性26.8%）で2割以上、「広報、インターネットによる普及啓発」は女性50歳代（19.5%）で約2割を占めている。

図表9-5-2 性・年齢別 自殺防止に最も効果的な対策

	調査数（人）	資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談	健康や病気に関する相談	広報、インターネットによる普及啓発	就労に関する支援	講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発	街頭キャンペーン等による普及啓発	その他	無回答
全体	2,925	26.2	22.6	12.8	10.5	6.8	4.2	10.5	6.4
女性全体	1,594	25.2	21.1	14.3	10.3	6.9	4.2	10.9	7.0
18～29歳	157	33.8	12.7	11.5	22.9	4.5	3.8	8.9	1.9
30～39歳	204	33.3	10.8	13.2	17.2	5.4	3.4	15.7	1.0
40～49歳	281	26.7	17.1	16.7	10.7	5.7	6.8	13.2	3.2
50～59歳	256	29.7	15.2	19.5	7.4	5.5	4.3	13.7	4.7
60～69歳	268	14.9	29.1	15.7	6.0	10.4	6.3	10.1	7.5
70歳以上	423	20.6	30.7	10.4	6.4	7.8	1.7	6.9	15.6
男性全体	1,216	27.3	24.0	11.3	11.3	6.8	4.0	10.4	4.9
18～29歳	112	25.9	16.1	7.1	26.8	4.5	0.9	16.1	2.7
30～39歳	137	27.0	9.5	14.6	18.2	8.0	4.4	12.4	5.8
40～49歳	212	36.3	18.4	10.8	13.7	3.3	6.6	8.5	2.4
50～59歳	203	32.5	16.3	10.8	13.3	5.9	4.4	13.8	3.0
60～69歳	225	29.3	30.7	13.8	3.1	7.1	4.0	8.0	4.0
70歳以上	323	17.6	36.8	10.2	5.9	9.6	3.1	8.0	8.7

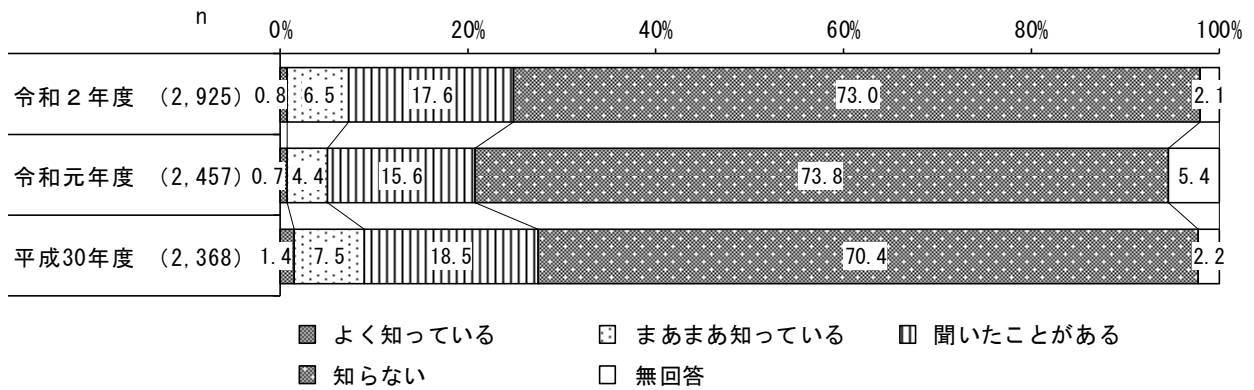
10. 自治基本条例について

(1) 「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』が1割弱

問 35. あなたは市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

図表 10-1-1 「越谷市自治基本条例」の認知度



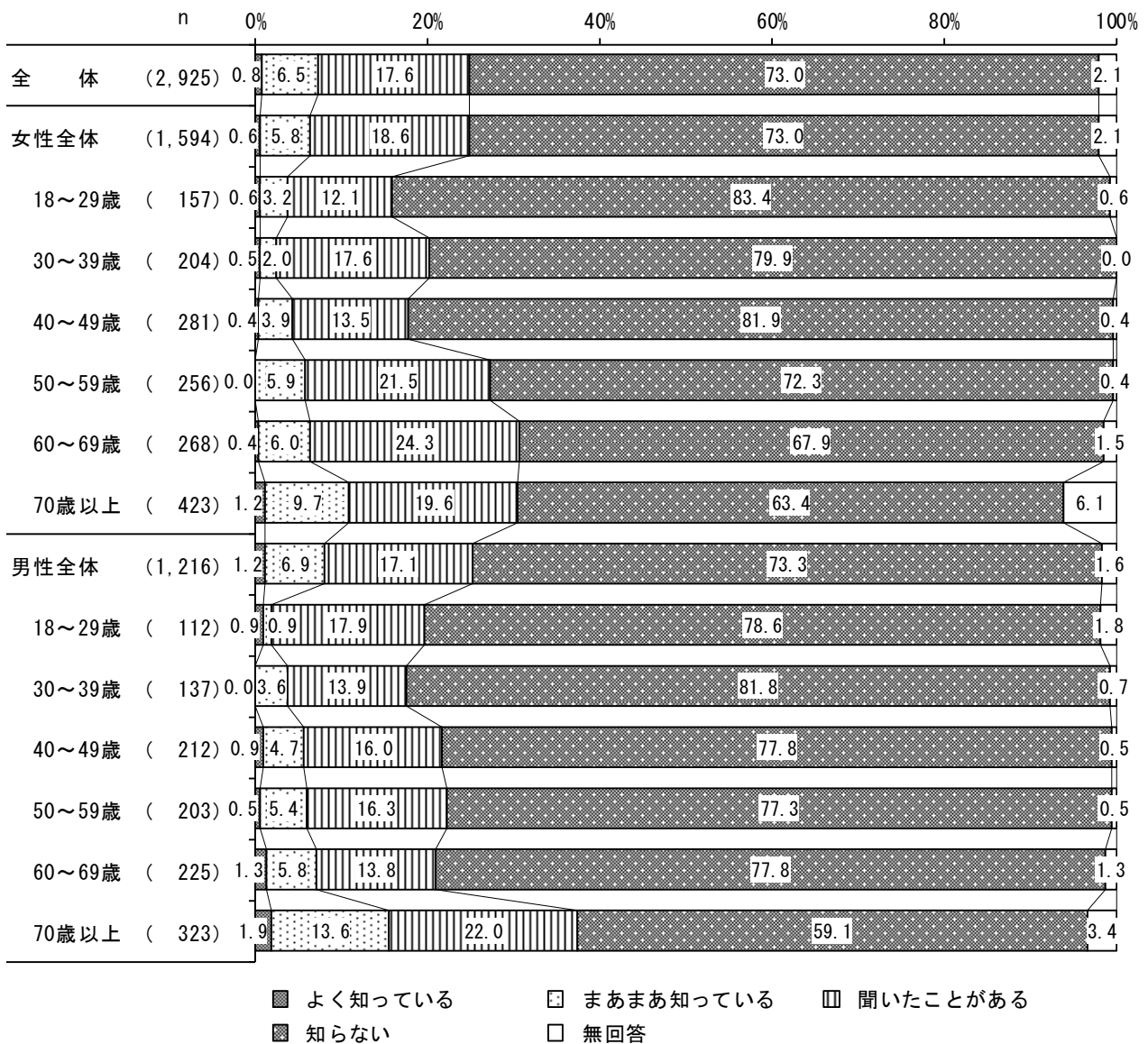
「越谷市自治基本条例」については、「よく知っている」(0.8%)と「まあまあ知っている」(6.5%)を合わせた『知っている』(7.4%)は1割弱となっている。一方、「聞いたことがある」(17.6%)は2割弱、「知らない」(73.0%)は7割強となっている。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査と比べ『知っている』は2.3ポイント、「聞いたことがある」は2.0ポイントそれぞれ増加している。

性別でみると、『知っている』は女性（6.3%）、男性（8.1%）とも1割未満となっており、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は70歳以上で女性（10.9%）、男性（15.5%）とも1割を超えるが、他の年齢は1割未満となっている。一方、「知らない」は女性18～29歳・30歳代～50歳代（83.4%、79.9%、81.9%、72.3%）、男性18～29歳・30歳代～60歳代（78.6%、81.8%、77.8%、77.3%、77.8%）で7割以上を占めている。

図表 10-1-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度

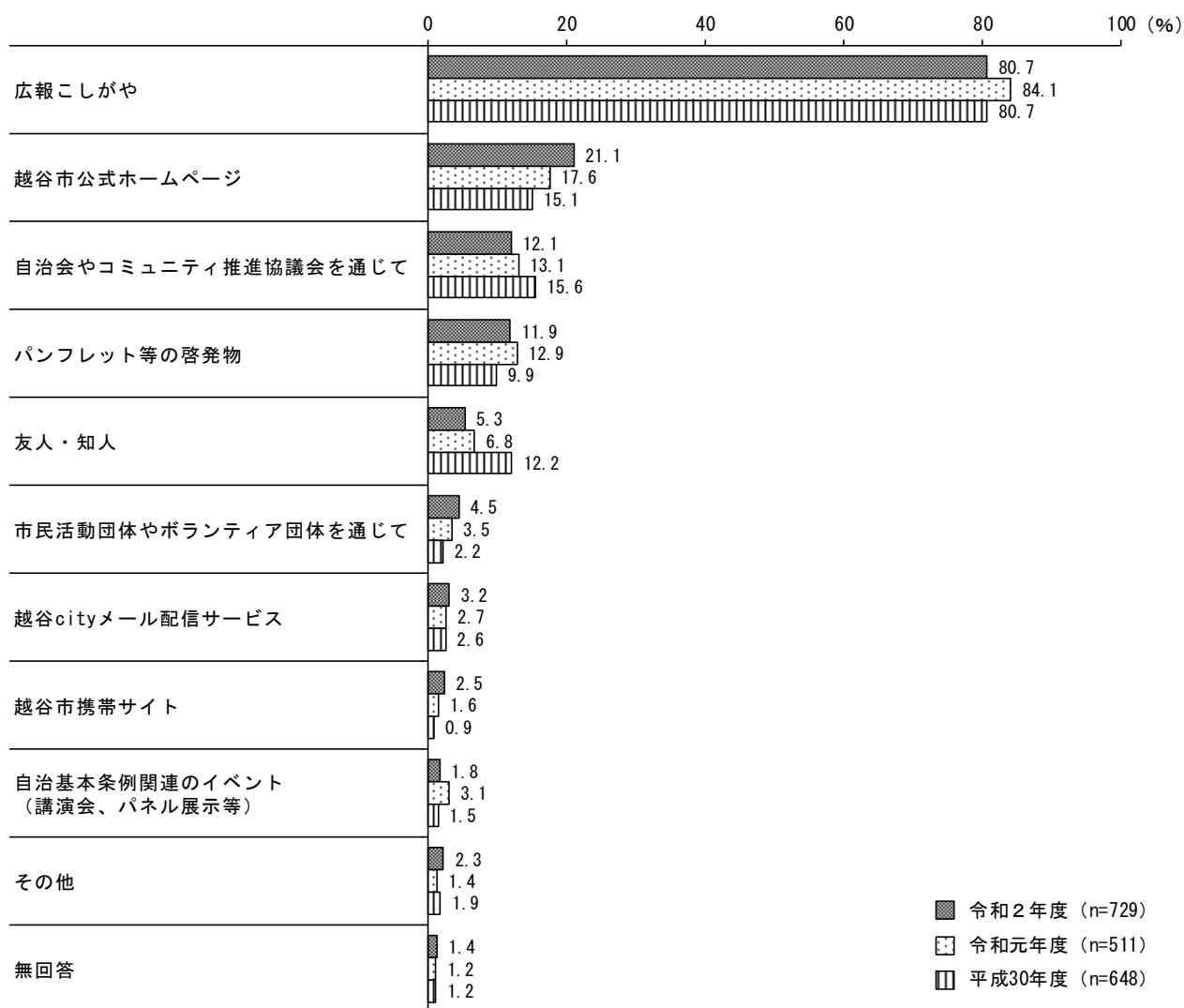


(2) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、約8割

問35-2. 問35で「1」から「3」(知っている、聞いたことがある)と答えた方に伺います。
「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り(聞き)ましたか。(複数回答可)

図表 10-2-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した729人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(80.7%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(21.1%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(12.1%)、「パンフレット等の啓発物」(11.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや」が8割以上で突出している。また、「越谷市公式ホームページ」が増加傾向にある一方、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」は減少傾向にある。

性別でみると、男性が女性を「越谷市公式ホームページ」は4.5ポイント、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」は4.6ポイント、「パンフレット等の啓発物」は3.5ポイント上回っている。

一方、「広報こしがや」は女性（81.6%）が男性（78.8%）を2.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや」は全ての年齢で最も多くなっており、特に女性40歳代以上（86.0%、87.1%、85.4%、87.6%）、男性40歳代（80.4%）、男性70歳以上（87.6%）で8割以上を占めている。「越谷市公式ホームページ」は女性30歳代（36.6%）と男性40歳代（34.8%）で3割半ばとなっている。また、「パンフレット等の啓発物」は男性60歳代以上（19.1%、19.8%）で約2割、「友人・知人」は女性60歳代（11.0%）で約1割を占め、他の年齢に比べ多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 10-2-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	パンフレット等の啓発物	友人・知人	市民活動団体やボランティア団体を通じて	越谷cityメール配信サービス	越谷市携帯サイト	自治基本条例関連のイベント（講演会、パネル展示等）	その他	無回答
全体	729	80.7	21.1	12.1	11.9	5.3	4.5	3.2	2.5	1.8	2.3	1.4
女性全体	397	81.6	19.4	10.1	10.6	5.5	5.3	3.5	2.8	2.0	2.5	1.0
18～29歳	25	48.0	36.0	-	12.0	8.0	-	4.0	4.0	-	8.0	4.0
30～39歳	41	61.0	36.6	7.3	12.2	-	-	7.3	2.4	2.4	4.9	-
40～49歳	50	86.0	10.0	12.0	6.0	-	2.0	8.0	8.0	-	2.0	2.0
50～59歳	70	87.1	27.1	5.7	7.1	1.4	4.3	-	-	1.4	1.4	1.4
60～69歳	82	85.4	17.1	11.0	9.8	11.0	7.3	4.9	4.9	3.7	3.7	-
70歳以上	129	87.6	11.6	14.0	14.0	7.8	8.5	1.6	0.8	2.3	0.8	0.8
男性全体	306	78.8	23.9	14.7	14.1	5.2	3.6	2.6	1.6	1.3	2.3	2.0
18～29歳	22	40.9	27.3	18.2	18.2	18.2	-	-	-	-	9.1	-
30～39歳	24	66.7	54.2	16.7	8.3	4.2	4.2	8.3	4.2	-	4.2	-
40～49歳	46	80.4	34.8	8.7	2.2	4.3	6.5	4.3	4.3	-	-	-
50～59歳	45	77.8	22.2	11.1	4.4	2.2	2.2	4.4	4.4	-	-	2.2
60～69歳	47	78.7	25.5	14.9	19.1	6.4	2.1	-	-	-	-	4.3
70歳以上	121	87.6	13.2	17.4	19.8	4.1	4.1	1.7	-	3.3	3.3	2.5

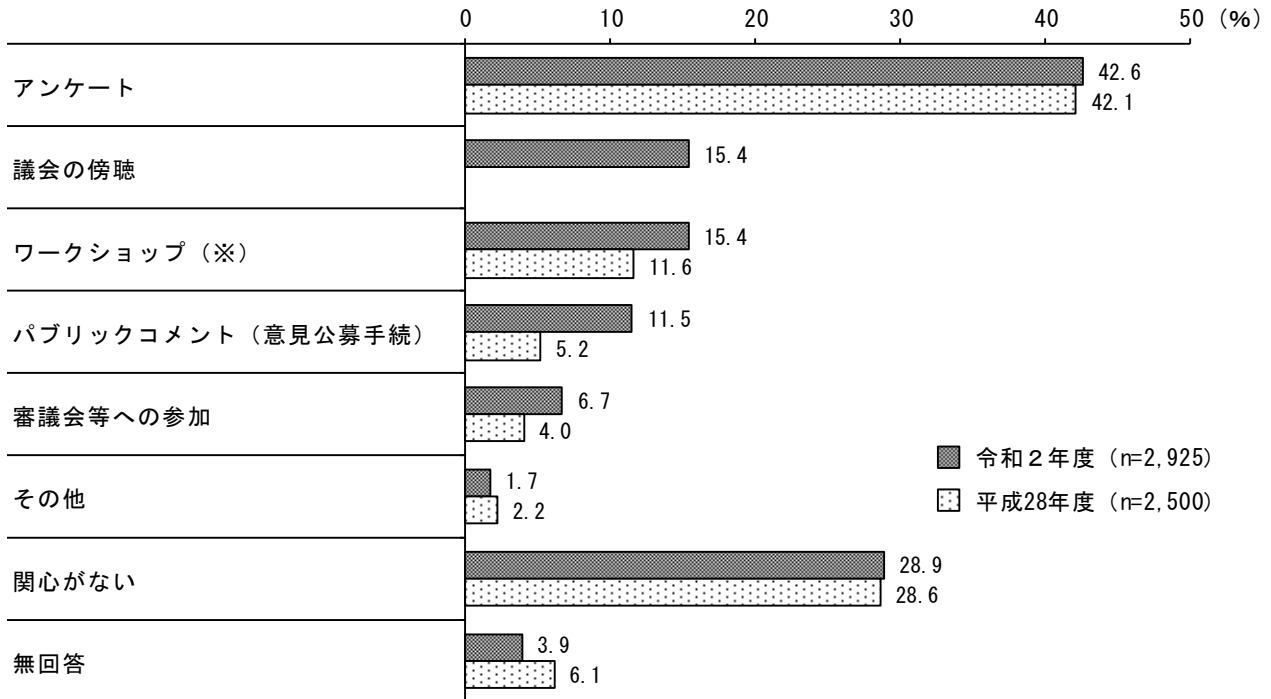
(3) 市政に参加する方法

◇「アンケート」が最も多く、4割強

問 36. 市政に参加する方法のうち、あなたが関心のあるものは次のうちどれですか。

(複数回答可)

図表 10-3-1 市政に参加する方法



※ワークショップ: いろいろな人たちが意見を持ち寄り、学習して、ものごとをつくりあげていく場

市政に参加する方法のうち、関心のあるものについては、「アンケート」(42.6%)が最も多く、次いで「議会の傍聴」(15.4%)、「ワークショップ」(15.4%)、「パブリックコメント(意見公募手続)」(11.5%)、「審議会等への参加」(6.7%)の順となっている。一方、「関心がない」(28.9%)は3割弱となっている。

過去の調査と比較すると、平成28年度調査と比べ「パブリックコメント(意見公募手続)」(平成28年度5.2%)は6.3ポイント、「ワークショップ」(平成28年度11.6%)は3.8ポイントそれぞれ増加している。

性別でみると、「ワークショップ」は女性（18.6%）が男性（11.8%）を6.8ポイント上回っており、「アンケート」も女性（43.7%）が男性（41.6%）より多くなっている。一方、「議会の傍聴」は男性（19.1%）が女性（12.9%）を6.2ポイント上回っており、「パブリックコメント（意見公募手続）」、「審議会等への参加」も男性（前者は13.2%、後者は8.6%）が女性（前者は10.4%、後者は5.5%）より多くなっている。また、「関心がない」は女性（27.8%）が3割弱、男性（29.9%）が約3割となっている。

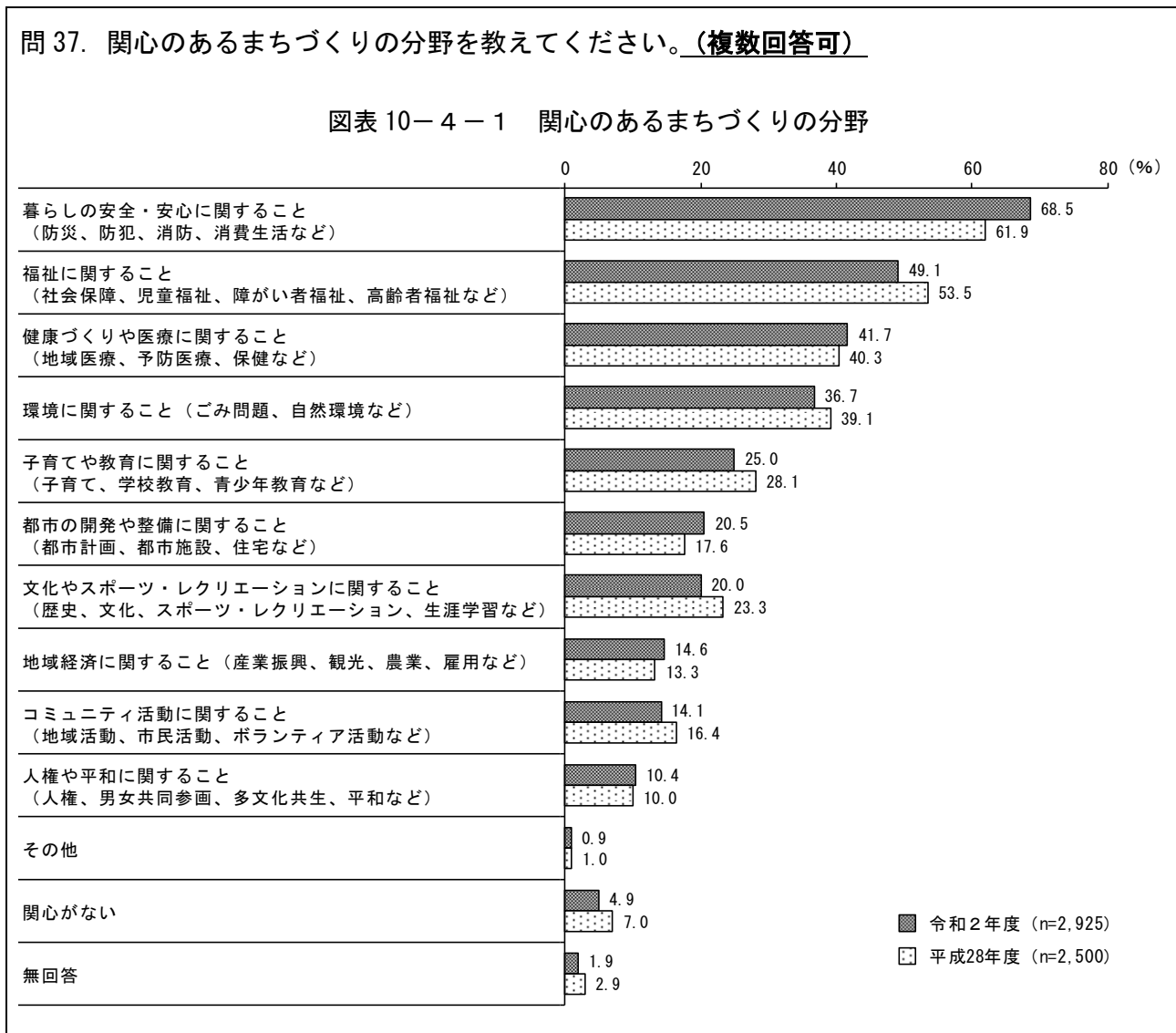
性・年齢別でみると、「アンケート」は男性18～39歳を除く年齢で最も多くなっており、特に女性18～29歳・30歳代（50.3%、49.5%）は約5割を占めている。「議会の傍聴」は男性50歳代以上（20.7%、20.0%、22.0%）、「ワークショップ」は女性18～29歳・30歳代（20.4%、26.5%）と女性50歳代（24.2%）でそれぞれ2割台となっている。一方、「関心がない」は男性18～29歳（43.8%）が最も多く、男性30歳代（39.4%）が続く。男性18～29歳・30歳代は「関心がない」（43.8%、39.4%）が「アンケート」（39.3%、35.8%）を上回り、最も多くなっている。また、女性18～29歳（31.2%）、女性40歳代（32.4%）も「関心がない」が3割台となっている。

図表 10-3-2 性・年齢別 市政に参加する方法

	調査数（人）	アンケート	議会の傍聴	ワークショップ	パブリックコメント（意見公募手続）	審議会等への参加	その他	関心がない	無回答
全体	2,925	42.6	15.4	15.4	11.5	6.7	1.7	28.9	3.9
女性全体	1,594	43.7	12.9	18.6	10.4	5.5	1.6	27.8	4.5
18～29歳	157	50.3	9.6	20.4	8.9	5.7	0.6	31.2	-
30～39歳	204	49.5	11.3	26.5	13.2	5.9	2.0	24.0	2.0
40～49歳	281	35.2	10.0	18.9	16.7	7.1	1.8	32.4	1.8
50～59歳	256	42.6	11.7	24.2	11.7	5.5	1.2	28.5	2.7
60～69歳	268	47.4	17.2	16.4	9.3	5.2	1.9	20.9	4.9
70歳以上	423	42.3	14.9	12.3	5.2	4.3	1.7	29.3	10.2
男性全体	1,216	41.6	19.1	11.8	13.2	8.6	1.9	29.9	2.1
18～29歳	112	39.3	13.4	8.9	9.8	1.8	0.9	43.8	-
30～39歳	137	35.8	14.6	16.1	10.9	7.3	2.2	39.4	-
40～49歳	212	41.0	18.4	15.6	15.1	10.4	1.4	27.4	0.5
50～59歳	203	40.9	20.7	11.8	13.8	11.3	2.0	28.1	1.5
60～69歳	225	40.9	20.0	14.2	14.2	11.1	0.4	28.9	2.2
70歳以上	323	46.4	22.0	6.5	13.0	6.8	3.4	24.5	4.6

(4) 関心のあるまちづくりの分野

◇「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」が最も多く、7割弱



関心のあるまちづくりの分野については、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」(68.5%)が最も多く、次いで「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」(49.1%)、「健康づくりや医療に関すること（地域医療、予防医療、保健など）」(41.7%)、「環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）」(36.7%)、「子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）」(25.0%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」は平成28年度調査(61.9%)と比べ6.6ポイント増加している。

一方、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」は平成28年度調査(53.5%)と比べ4.4ポイント減少している。

性別でみると、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」は 6.7 ポイント、「子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）」は 6.3 ポイント女性が男性を上回っており、「健康づくりや医療に関すること（地域医療、予防医療、保健など）」も女性(43.0%)が男性(39.9%)より多くなっている。一方、「都市の開発や整備に関すること（都市計画、都市施設、住宅など）」は 6.5 ポイント、「文化やスポーツ・レクリエーションに関すること（歴史、文化、スポーツ・レクリエーション、生涯学習など）」は 5.8 ポイント男性が女性を上回っており、「地域経済に関すること（産業振興、観光、農業、雇用など）」も男性(16.9%)が女性(12.9%)より多くなっている。

性・年齢別でみると、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」は全ての年齢で最も多くなっており、女性 30 歳代～60 歳代(72.5%、71.5%、74.2%、70.1%)、男性 30 歳代(70.1%)、男性 60 歳代(73.8%)で 7 割台となっている。「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」は男女とも高齢層で多くなる傾向にあり、女性 60 歳代以上(60.1%、60.0%)で約 6 割を占めている。一方、「子育てや教育に関すること（子育て、学校教育、青少年教育など）」は女性 30 歳代(62.7%)が突出して多く、女性 18～29 歳(46.5%)、男性 30 歳代(46.0%)も全体を 2 割以上上回っている。

また、「文化やスポーツ・レクリエーションに関すること（歴史、文化、スポーツ・レクリエーション、生涯学習など）」は男性 18～29 歳(34.8%)で全体を 14.8 ポイント、「環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）」は男性 60 歳代(46.7%)、「地域経済に関すること（産業振興、観光、農業、雇用など）」は男性 30 歳代(24.1%)、「人権や平和に関すること（人権、男女共同参画、多文化共生、平和など）」は女性 18～29 歳(19.7%)でそれぞれ全体を約 1 割上回っている。

図表 10-4-2 性・年齢別 関心のあるまちづくりの分野

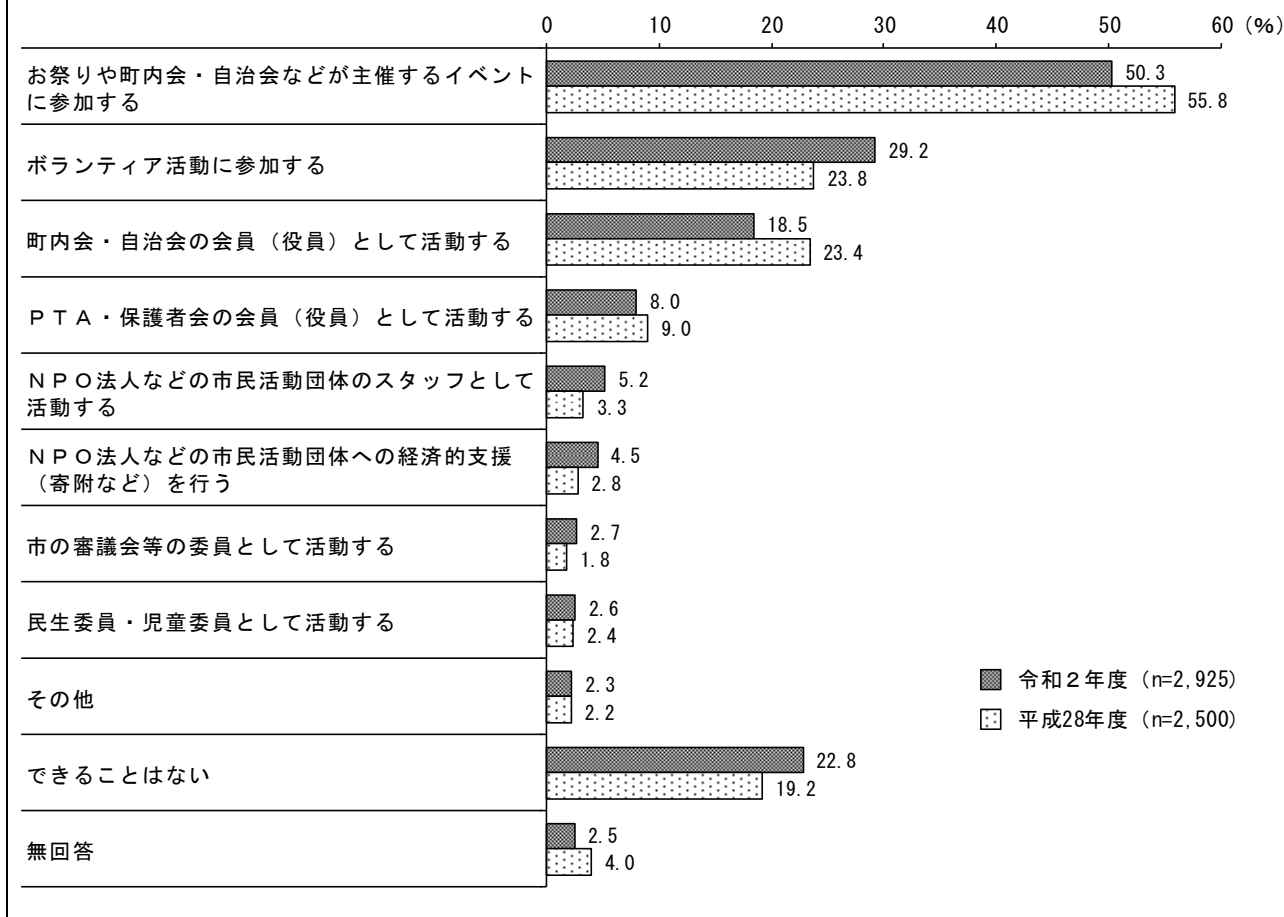
	調査数(人)	暮らしの安全・安心に関すること (防災、防犯、消防、消費生活など)	福祉に関すること (社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など)	健康づくりや医療に関すること (地域医療、予防医療、保健など)	環境に関すること(ごみ問題、自然環境など)	子育てや教育に関すること (子育て、学校教育、青少年教育など)	都市の開発や整備に関すること (都市計画、都市施設、住宅など)	文化やスポーツ・レクリエーションに関すること (歴史、文化、スポーツ・レクリエーション、生涯学習など)	地域経済に関すること (産業振興、観光、農業、雇用など)	コミュニティ活動に関すること (地域活動、市民活動、ボランティア活動など)	人権や平和に関すること (人権、男女共同参画、多文化共生、平和など)	その他	関心がない	無回答
全体	2,925	68.5	49.1	41.7	36.7	25.0	20.5	20.0	14.6	14.1	10.4	0.9	4.9	1.9
女性全体	1,594	69.4	52.3	43.0	36.2	28.1	17.8	17.6	12.9	14.9	11.5	0.7	4.2	1.9
18～29歳	157	56.7	34.4	41.4	24.8	46.5	21.7	22.3	19.1	15.3	19.7	-	4.5	-
30～39歳	204	72.5	44.1	42.6	31.4	62.7	29.4	19.6	16.2	15.7	14.2	1.5	2.9	0.5
40～49歳	281	71.5	48.0	38.1	36.3	39.5	16.0	17.4	14.9	12.8	10.3	1.1	6.0	0.4
50～59歳	256	74.2	53.5	43.4	38.3	21.1	17.2	21.5	15.6	13.7	8.2	0.4	5.9	0.4
60～69歳	268	70.1	60.1	46.3	42.5	16.4	16.4	18.7	12.7	19.8	13.4	1.1	1.9	1.5
70歳以上	423	68.1	60.0	44.9	37.4	8.0	13.0	11.6	5.9	13.7	8.5	0.2	4.0	5.4
男性全体	1,216	68.0	45.6	39.9	37.5	21.8	24.3	23.4	16.9	13.5	9.2	1.2	5.4	1.4
18～29歳	112	60.7	22.3	27.7	30.4	33.0	25.0	34.8	18.8	6.3	16.1	-	8.0	0.9
30～39歳	137	70.1	38.0	38.7	31.4	46.0	25.5	27.0	24.1	9.5	8.8	1.5	7.3	0.7
40～49歳	212	66.0	42.0	32.1	33.5	36.8	27.8	24.5	21.7	15.1	10.4	0.9	5.2	0.9
50～59歳	203	68.0	46.3	38.4	38.9	15.8	27.1	23.6	19.2	14.8	7.9	2.0	5.4	1.0
60～69歳	225	73.8	47.6	46.2	46.7	13.3	21.8	23.1	12.9	17.8	7.6	0.9	5.3	1.8
70歳以上	323	66.9	57.3	46.4	38.1	7.7	21.1	17.3	11.5	13.0	8.4	1.2	4.0	2.2

(5) 越谷市のまちづくりのためにできること

◇「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」が最も多く、約5割

問 38. 越谷市のまちづくりのために、あなた自身ができることがあるとすれば、次のどれですか。(複数回答可)

図表 10-5-1 越谷市のまちづくりのためにできること



越谷市のまちづくりのためにできることについて聞いたところ、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」(50.3%)が最も多く、次いで「ボランティア活動に参加する」(29.2%)、「町内会・自治会の会員(役員)として活動する」(18.5%)、「P T A・保護者会の会員(役員)として活動する」(8.0%)、「N P O法人などの市民活動団体のスタッフとして活動する」(5.2%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「ボランティア活動に参加する」は平成28年度調査(23.8%)と比べ5.4ポイント増加している。一方、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」(平成28年度55.8%)は5.5ポイント、「町内会・自治会の会員(役員)として活動する」(平成28年度23.4%)は4.9ポイントそれぞれ減少している。

性別でみると、「PTA・保護者会の会員（役員）として活動する」は女性（11.0%）が男性（4.2%）を6.8ポイント上回っている。一方、「市の審議会等の委員として活動する」は男性（4.4%）が女性（1.3%）より3.1ポイント多くなっている。また、「できることはない」は男性（25.5%）が女性（20.3%）を5.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」は全ての年齢で最も多くなっており、特に女性18～29歳・30歳代（63.7%、60.8%）は6割以上となっている。「ボランティア活動に参加する」は女性18～29歳（45.2%）で4割半ばを占める一方、男性18～29歳（24.1%）は2割半ばとなっている。「PTA・保護者会の会員（役員）として活動する」は女性40歳代（28.8%）が全体を20.8ポイント、女性30歳代（22.1%）が全体を14.1ポイント上回り、特に多くなっている。一方、「できることはない」は70歳以上で女性（29.8%）、男性（31.0%）とも約3割を占め、多くなっている。

図表 10-5-2 性・年齢別 越谷市のまちづくりのためにできること

	調査数（人）	お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する	ボランティア活動に参加する	町内会・自治会の会員（役員）として活動する	PTA・保護者会の会員（役員）として活動する	NPO法人などの市民活動団体のスタッフとして活動する	NPO法人などの市民活動団体への経済的支援（寄附など）を行う	市の審議会等の委員として活動する	民生委員・児童委員として活動する	その他	できることはない	無回答
全体	2,925	50.3	29.2	18.5	8.0	5.2	4.5	2.7	2.6	2.3	22.8	2.5
女性全体	1,594	51.9	30.6	18.8	11.0	4.9	4.8	1.3	2.4	2.2	20.3	2.4
18～29歳	157	63.7	45.2	3.2	6.4	5.7	7.6	0.6	1.9	1.9	12.7	-
30～39歳	204	60.8	29.9	17.2	22.1	6.4	5.9	0.5	1.5	2.9	16.7	1.0
40～49歳	281	54.1	24.9	20.3	28.8	3.6	3.9	1.8	2.1	1.4	17.1	0.4
50～59歳	256	48.8	33.2	23.0	11.3	6.6	4.7	2.0	4.7	3.1	17.2	1.6
60～69歳	268	53.7	35.1	23.5	3.0	7.1	6.0	2.2	2.6	1.5	18.7	1.5
70歳以上	423	42.1	24.8	18.7	0.2	2.4	3.1	0.7	1.7	2.4	29.8	6.6
男性全体	1,216	49.3	28.1	18.2	4.2	5.9	4.1	4.4	3.0	2.4	25.5	1.9
18～29歳	112	56.3	24.1	6.3	2.7	3.6	3.6	-	0.9	3.6	25.0	0.9
30～39歳	137	55.5	28.5	17.5	13.1	3.6	2.2	5.8	2.2	2.9	19.7	2.2
40～49歳	212	53.3	31.1	15.6	8.0	12.3	4.2	6.6	1.9	2.4	20.3	0.5
50～59歳	203	44.3	31.0	16.7	4.9	7.4	4.9	5.9	5.4	2.0	23.2	1.0
60～69歳	225	46.7	30.7	17.3	-	5.3	4.9	6.2	3.6	1.8	28.4	1.3
70歳以上	323	46.4	23.8	26.0	0.9	3.1	3.7	1.9	3.1	2.5	31.0	4.0

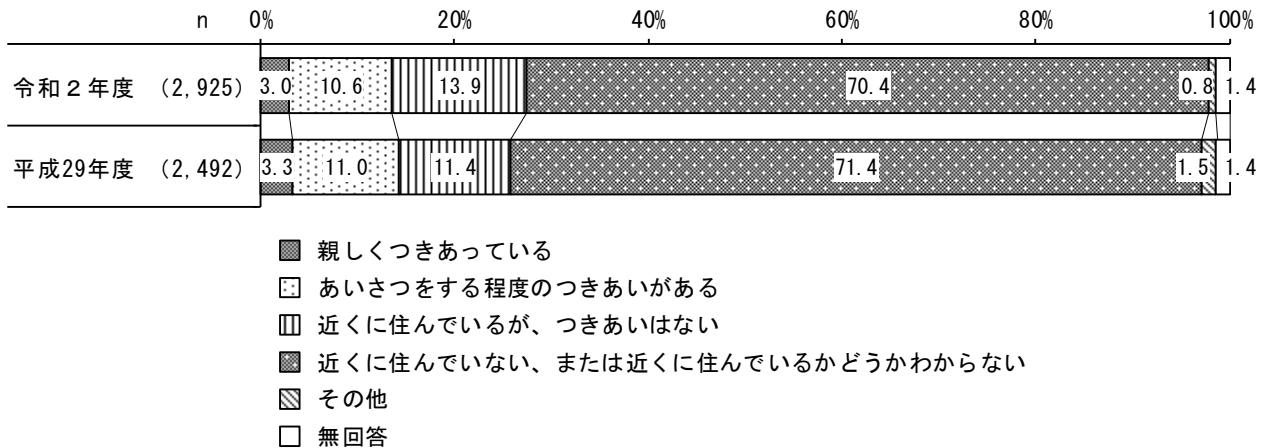
11. 多文化共生のまちづくりについて

(1) 外国人市民とのつき合い

◇『つきあいがある』が1割強

問 39. あなたは近くに住む外国人市民とどのようなつき合いがありますか（外国人市民の方は、日本人市民とのつき合いについてお答えください）。（○は1つ）

図表 11-1-1 外国人市民とのつき合い



外国人市民とのつき合いについて聞いたところ、「近くに住んでいない、または近くに住んでいるかどうかわからない」(70.4%)が最も多く、次いで「近くに住んでいるが、つきあいはない」(13.9%)、「あいさつをする程度のつきあいがある」(10.6%)、「親しくつきあっている」(3.0%)となっている。

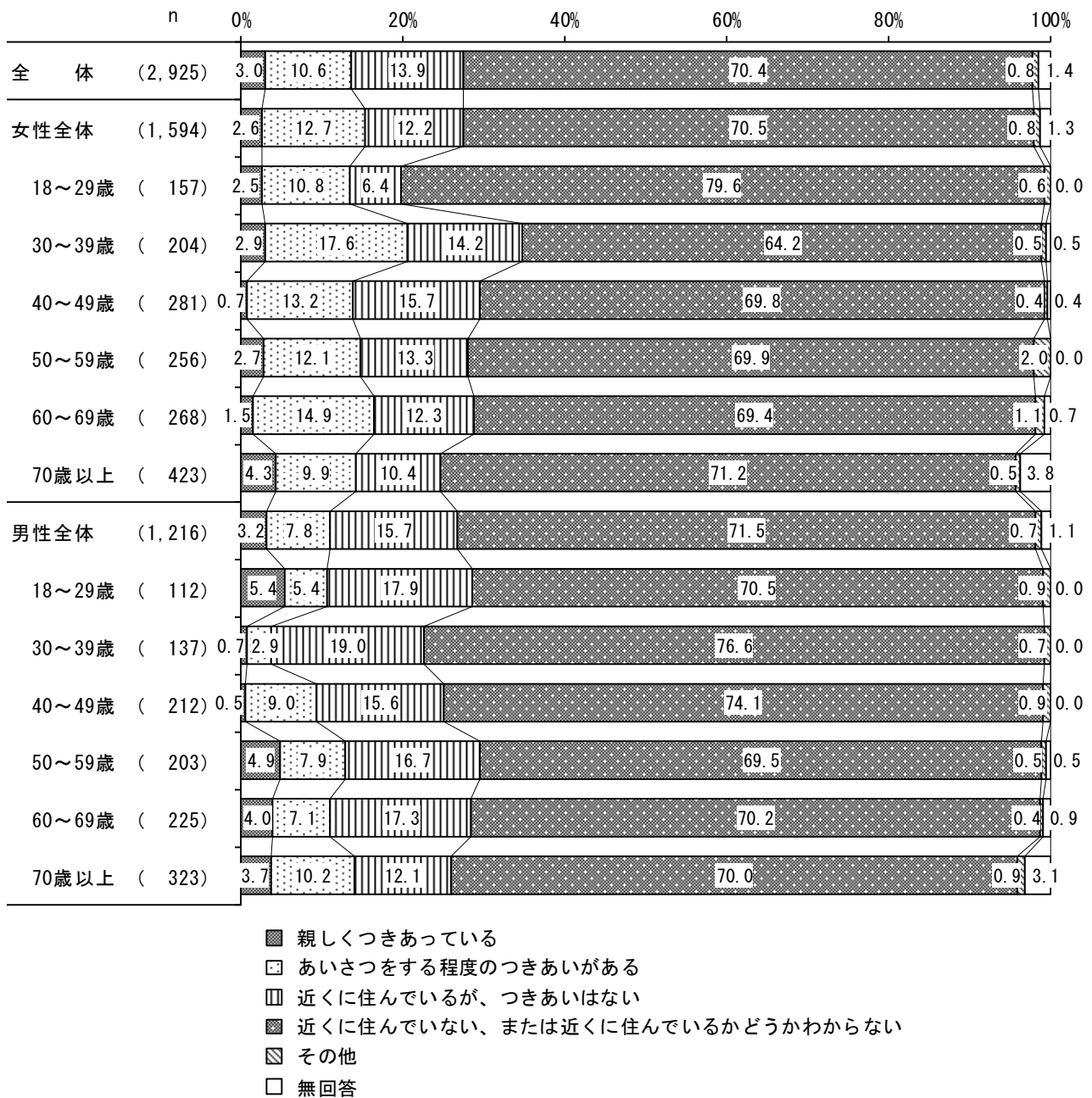
また、「親しくつきあっている」と「あいさつをする程度のつきあいがある」を合わせた『つきあいがある』(13.6%)は1割強、「近くに住んでいるが、つきあいはない」と「近くに住んでいない、または近くに住んでいるかどうかわからない」を合わせた『つきあいはない』(84.3%)は8割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、『つきあいがある』は女性（15.3%）が男性（11.0%）を4.3ポイント上回っている。一方、『つきあいはない』は男性（87.2%）が女性（82.6%）より4.6ポイント多くなっている。

性・年齢別でみると、『つきあいがある』は女性30歳代（20.6%）が約2割で最も多くなっている。一方、男性30歳代～40歳代（3.6%、9.5%）は『つきあいがある』が1割未満となっており、男性30歳代は『つきあいはない』（95.6%）が9割半ばを占めている。

図表 11-1-2 性・年齢別 外国人市民とのつき合い

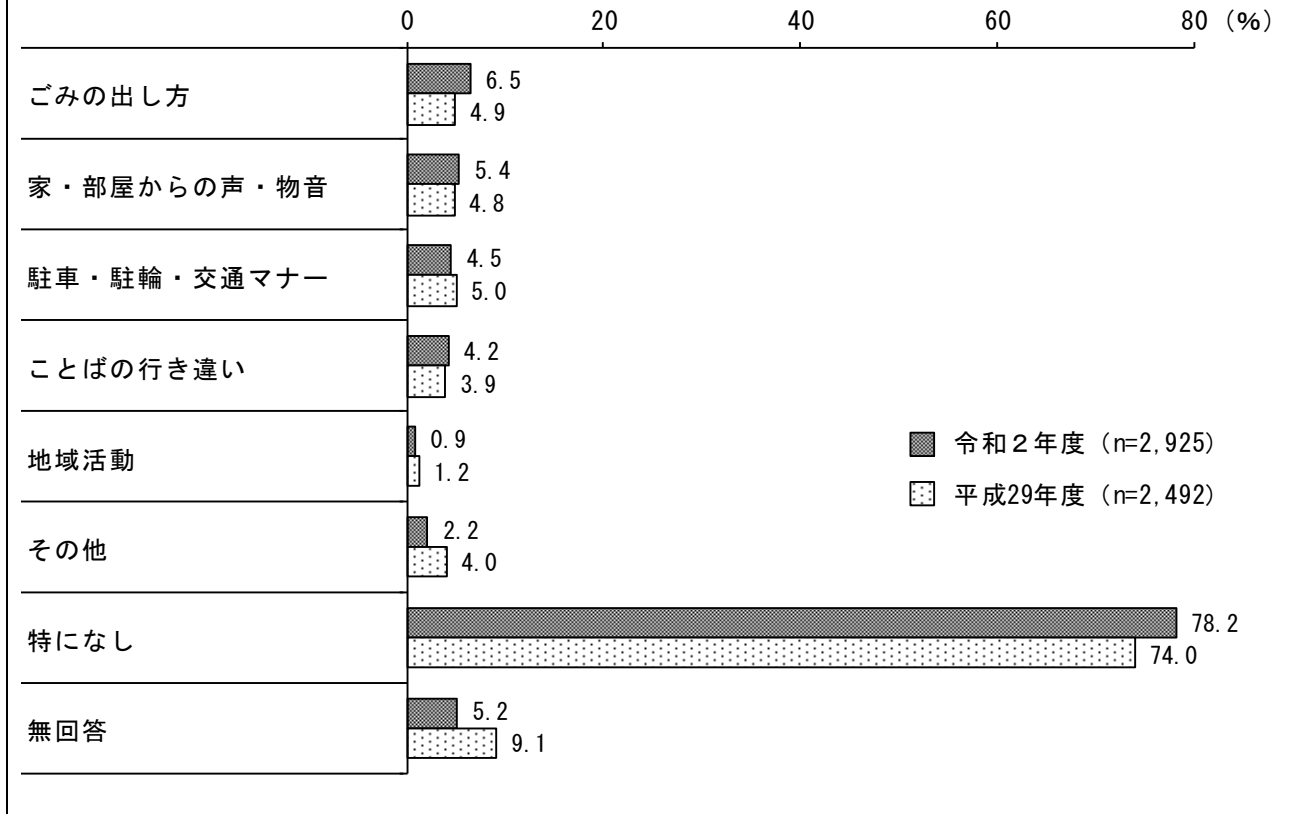


(2) 外国人市民との関係で困った経験

◇「特になし」(78.2%)が8割弱

問40. あなたは今までに、近くに住む外国人市民との関係で困った経験はありますか。
 (外国人市民の方は、日本人市民との経験についてお答えください)。(複数回答可)

図表 11-2-1 外国人市民との関係で困った経験



外国人市民との関係で困った経験について聞いたところ、「ごみの出し方」(6.5%)が最も多く、次いで「家・部屋からの声・物音」(5.4%)、「駐車・駐輪・交通マナー」(4.5%)、「ことばの行き違い」(4.2%)、「地域活動」(0.9%)となっている。一方、「特になし」(78.2%)は8割弱となっている。

過去の調査と比較すると、「特になし」(78.2%)は平成29年度調査(74.0%)と比べ4.2ポイント増加している。

性別でみると、女性、男性とも5項目全てが1割未満となっており、大きな差はみられない。

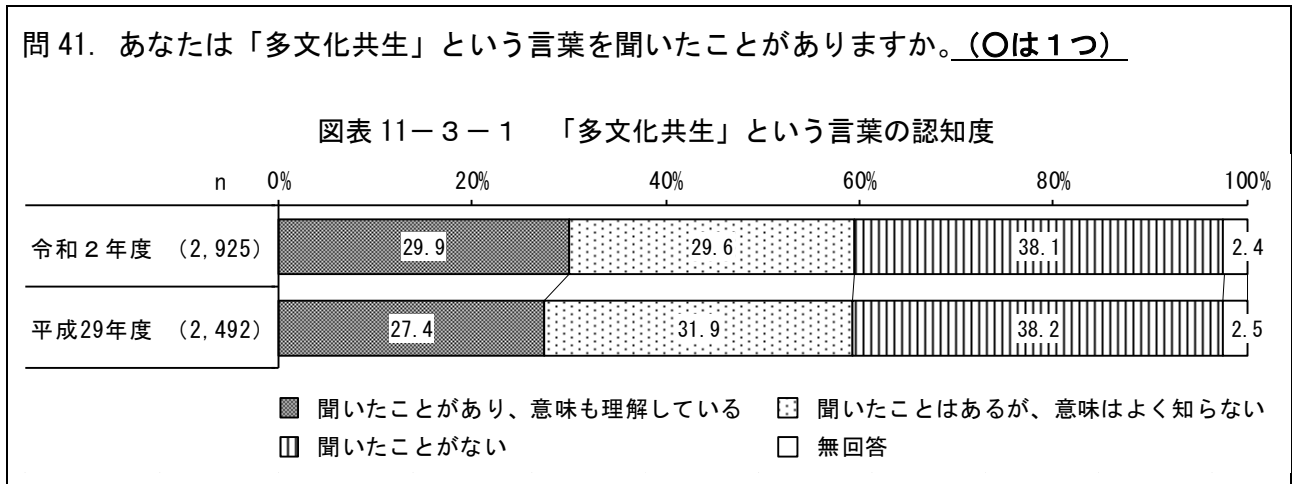
性・年齢別でみると、女性30歳代は「家・部屋からの声・物音」(10.3%)が約1割となっている。それ以外の項目は、全ての年齢で1割未満となっている。また、「特になし」は全ての年齢で7割以上を占めている。

図表 11-2-2 性・年齢別 外国人市民との関係で困った経験

	調査数(人)	ごみの出し方	家・部屋からの声・物音	駐車・駐輪・交通マナー	ことばの行き違い	地域活動	その他	特になし	無回答
全体	2,925	6.5	5.4	4.5	4.2	0.9	2.2	78.2	5.2
女性全体	1,594	6.8	5.4	4.3	3.9	0.9	2.9	77.1	5.5
18～29歳	157	3.8	5.1	4.5	5.1	-	3.8	82.8	0.6
30～39歳	204	8.8	10.3	5.9	6.9	0.5	3.9	74.0	2.0
40～49歳	281	5.3	6.8	6.0	2.5	1.1	4.6	79.4	2.1
50～59歳	256	5.9	5.5	4.7	5.1	1.2	3.5	80.1	2.0
60～69歳	268	7.5	4.9	2.6	3.4	1.5	1.5	78.0	5.6
70歳以上	423	8.3	2.6	3.1	2.6	0.9	1.7	72.3	13.2
男性全体	1,216	6.1	5.7	4.9	4.4	0.7	1.3	80.0	4.2
18～29歳	112	1.8	6.3	3.6	5.4	1.8	0.9	83.0	1.8
30～39歳	137	5.8	7.3	3.6	5.8	0.7	1.5	78.8	3.6
40～49歳	212	6.1	8.0	8.0	5.2	0.5	1.4	81.6	0.5
50～59歳	203	6.4	8.4	5.9	5.4	0.5	1.0	79.8	2.0
60～69歳	225	7.1	4.0	5.3	3.1	0.4	0.9	81.8	4.0
70歳以上	323	6.8	2.8	3.1	3.4	0.9	1.9	77.4	9.0

(3) 「多文化共生」という言葉の認知度

◇ 『聞いたことがある』が約6割



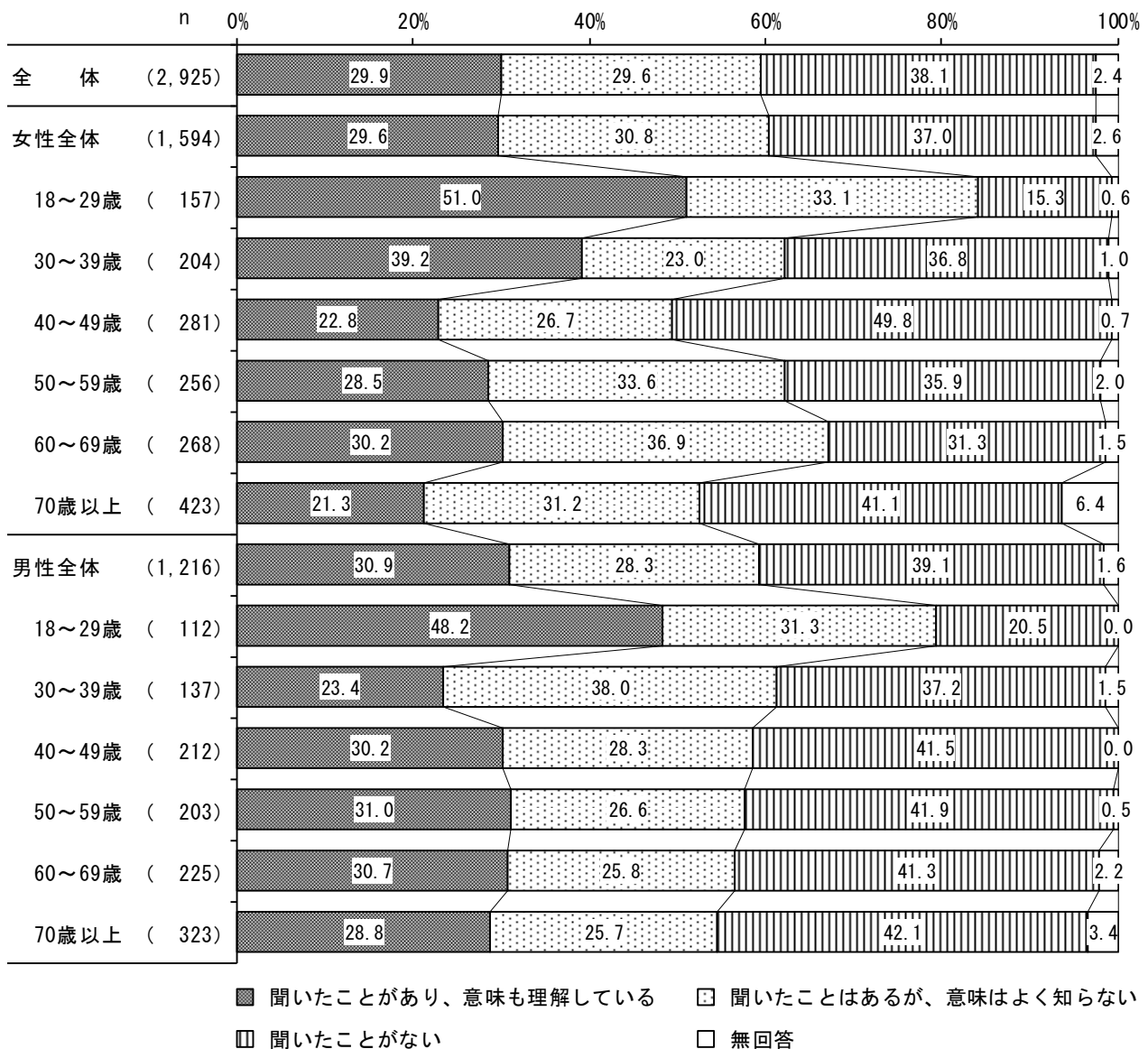
「多文化共生」という言葉については、「聞いたことがあります、意味も理解している」(29.9%)と「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」(29.6%)を合わせた『聞いたことがある』(59.5%)は約6割となっている。一方、「聞いたことがない」(38.1%)は4割弱となっている。

過去の調査と比較すると、「聞いたことがあります、意味も理解している」(29.9%)は平成29年度調査(27.4%)と比べ2.5ポイント増加している。

性別でみると、『聞いたことがある』は女性（60.4%）、男性（59.2%）とも約6割となっており、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『聞いたことがある』は男女とも18～29歳が最も多くなっており、女性（84.1%）は24.6ポイント、男性（79.5%）は20.0ポイント全体を上回っている。一方、女性40歳代は『聞いたことがある』（49.5%）が5割未満となっており、「聞いたことがない」（49.8%）を下回っている。

図表 11-3-2 性・年齢別 「多文化共生」という言葉の認知度

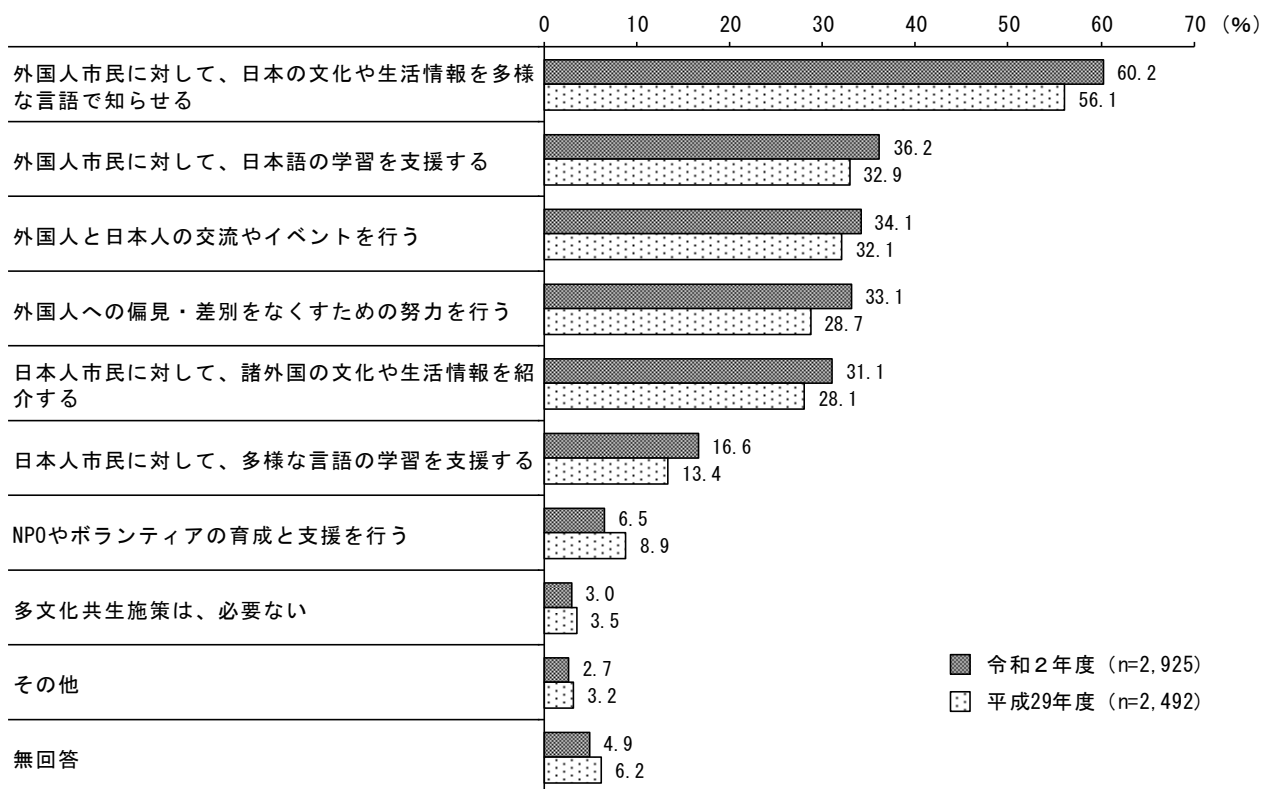


(4) 「多文化共生のまち」づくりのために、市が力を入れるべきこと

◇ 「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」が最も多く、約6割

問 42. 外国人市民と日本人市民が共に暮らしやすい「多文化共生のまち」づくりのために、市が力を入れるべきだと思うことは何ですか。(複数回答可)

図表 11-4-1 「多文化共生のまち」づくりのために、市が力を入れるべきこと



「多文化共生のまち」づくりのために、市が力を入れるべきことは、「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」(60.2%)が最も多く、次いで「外国人市民に対して、日本語の学習を支援する」(36.2%)、「外国人と日本人の交流やイベントを行う」(34.1%)、「外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う」(33.1%)、「日本人市民に対して、諸外国の文化や生活情報を紹介する」(31.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う」は平成29年度調査(28.7%)と比べ4.4ポイント、「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」は平成29年度調査(56.1%)と比べ4.1ポイント増加している。

性別でみると、「外国人と日本人の交流やイベントを行う」は女性（36.2%）が男性（31.8%）を4.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」は全ての年齢で最も多くなっており、女性18～29歳・30歳代～60歳代（66.2%、66.7%、63.3%、67.2%、66.0%）、男性40歳代～60歳代（64.2%、64.5%、65.8%）は6割以上となっている。また、「外国人市民に対して、日本語の学習を支援する」は女性30歳代（42.2%）、女性50歳代（41.0%）、男性50歳代（43.8%）、「外国人と日本人の交流やイベントを行う」は女性30歳代（43.1%）、女性50歳代（40.6%）、「外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う」は女性18～29歳（41.4%）、女性60歳代（44.4%）で4割台となっている。一方、「日本人市民に対して、多様な言語の学習を支援する」は女性18～29歳・30歳代（34.4%、27.5%）と男性18～29歳（27.7%）で全体を1割以上上回っている。

図表 11-4-2 性・年齢別 「多文化共生のまち」づくりのために、市が力を入れるべきこと

	調査数（人）	外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる	外国人市民に対して、日本語の学習を支援する	外国人と日本人の交流やイベントを行う	外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う	日本人市民に対して、諸外国の文化や生活情報を紹介する	日本人市民に対して、多様な言語の学習を支援する	NPOやボランティアの育成と支援を行う	多文化共生施策は、必要ない	その他	無回答
全体	2,925	60.2	36.2	34.1	33.1	31.1	16.6	6.5	3.0	2.7	4.9
女性全体	1,594	61.4	37.0	36.2	34.8	32.3	18.4	7.4	2.4	1.7	4.9
18～29歳	157	66.2	38.9	38.2	41.4	33.8	34.4	8.3	1.9	0.6	-
30～39歳	204	66.7	42.2	43.1	32.8	39.7	27.5	8.3	3.9	1.5	1.5
40～49歳	281	63.3	39.1	39.5	31.0	34.2	21.0	6.0	3.2	1.4	0.4
50～59歳	256	67.2	41.0	40.6	27.0	37.5	17.2	9.0	3.5	2.3	2.7
60～69歳	268	66.0	39.9	36.6	44.4	32.8	14.2	7.8	0.7	2.6	2.2
70歳以上	423	49.4	27.9	27.0	34.0	23.2	9.5	5.9	1.7	1.4	14.4
男性全体	1,216	60.0	36.3	31.8	30.9	29.8	15.0	5.7	3.6	3.6	3.8
18～29歳	112	52.7	37.5	31.3	32.1	33.0	27.7	1.8	2.7	3.6	2.7
30～39歳	137	54.7	39.4	32.1	28.5	38.7	18.2	3.6	2.9	1.5	3.6
40～49歳	212	64.2	31.6	34.9	27.4	33.0	19.3	6.6	5.7	2.8	1.4
50～59歳	203	64.5	43.8	31.0	31.0	32.5	16.3	6.9	3.9	4.9	1.0
60～69歳	225	65.8	38.7	36.0	30.2	29.3	11.6	6.2	2.7	3.1	3.1
70歳以上	323	55.4	31.3	27.9	34.7	21.7	8.0	6.2	3.1	4.6	7.7

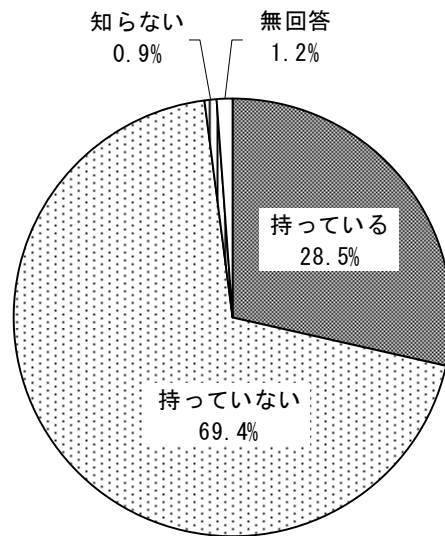
12. マイナンバー制度について

(1) マイナンバーカードの保有率

◇「持っている」が3割弱

問 43. マイナンバーカードは、マイナンバー（個人番号）が記載された顔写真付のカードで、本人確認のための身分証明書として利用できるほか、自治体サービス、e-Tax 等の電子証明書を利用した電子申請等、さまざまなサービスを利用できます。あなたはマイナンバーカードを持っていますか。(〇は1つ)

図表 12-1-1 マイナンバーカードの保有率



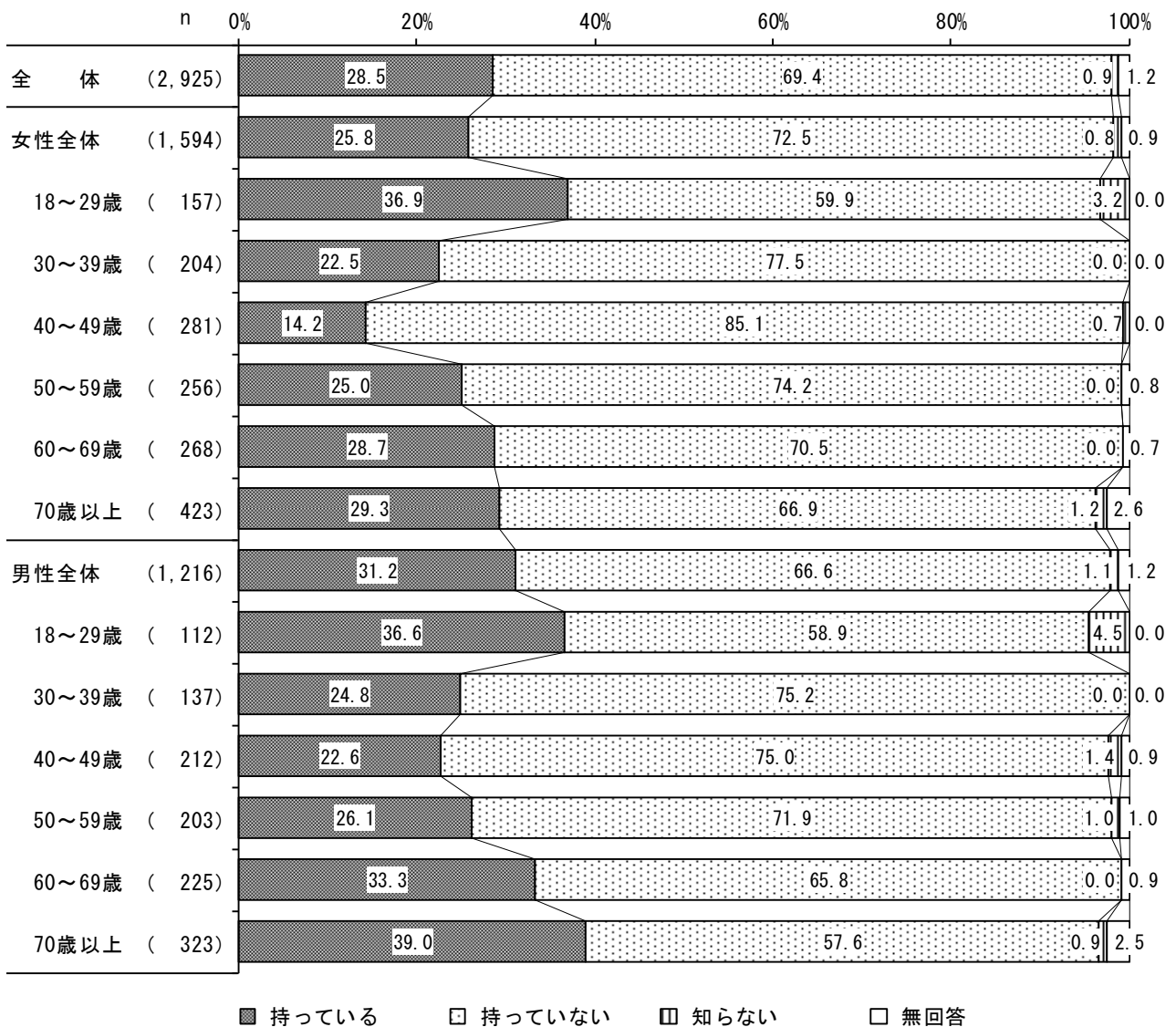
(n=2, 925)

マイナンバーカードの保有率については、「持っている」(28.5%)が3割弱、「持っていない」(69.4%)が約7割、「知らない」(0.9%)は1割未満となっている。

性別でみると、「持っている」は男性（31.2%）が女性（25.8%）を5.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「持っている」は男性70歳以上（39.0%）が最も多くなっている。また、女性18～29歳（36.9%）、男性18～29歳（36.6%）、男性60歳代（33.3%）も「持っている」が3割台となっている。一方、女性40歳代は「持っている」（14.2%）が1割半ばとなっており、「持っていない」（85.1%）が8割以上となっている。

図表 12-1-2 性・年齢別 マイナンバーカードの保有率

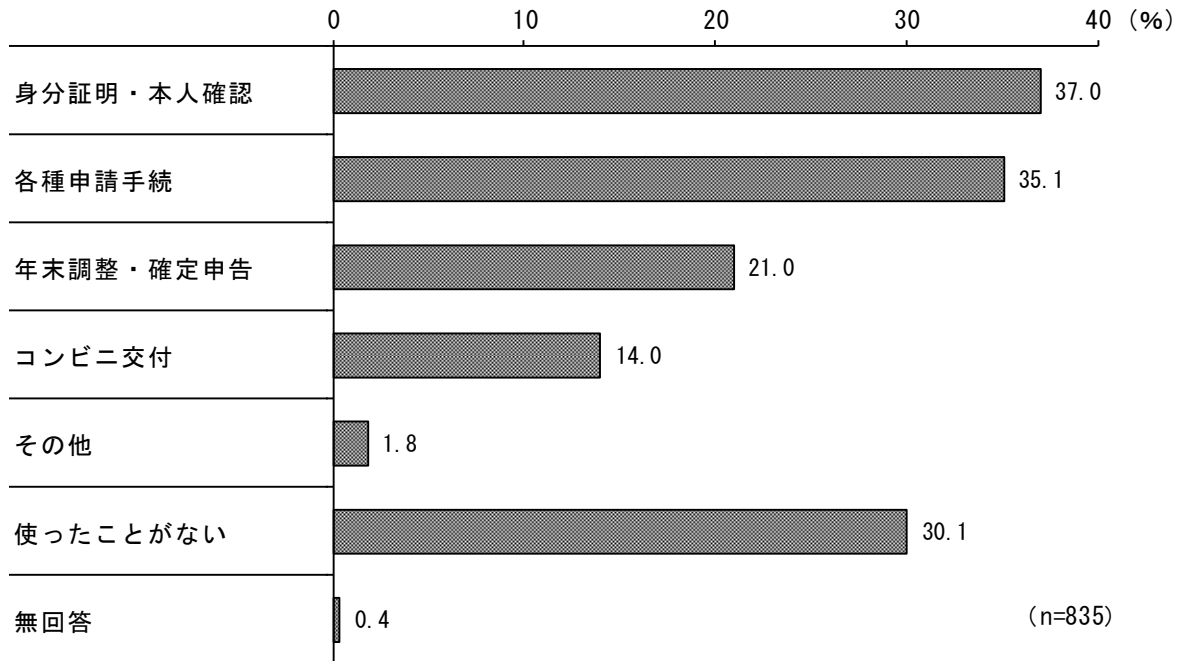


(2) マイナンバーカードの利用目的

◇「身分証明・本人確認」が最も多く、4割弱

問43-2. 問43で「1. 持っている」と答えた方に伺います。
 マイナンバーカードを何に使いましたか。(複数回答可)

図表 12-2-1 マイナンバーカードの利用目的



マイナンバーカードを「持っている」835人に、マイナンバーカードの利用目的について聞いたところ、「身分証明・本人確認」(37.0%)が最も多く、次いで「各種申請手続」(35.1%)、「年末調整・確定申告」(21.0%)、「コンビニ交付」(14.0%)の順となっている。一方、「使ったことがない」(30.1%)は約3割となっている。

性別でみると、女性は「身分証明・本人確認」(38.2%)、男性は「各種申請手続」(39.1%)が最も多くなっている。また、「年末調整・確定申告」は男性(25.3%)が女性(17.5%)を7.8ポイント上回っている。一方、「使ったことがない」は女性(32.8%)が男性(25.3%)より7.5ポイント多くなっている。

性・年齢別でみると、「身分証明・本人確認」は女性18～29歳(50.0%)で5割を占め、女性60歳代(41.6%)、男性18～29歳(41.5%)、男性70歳以上(45.2%)においても4割以上となっているが、女性30歳代(23.9%)、男性50歳代(22.6%)は2割強と少なくなっている。「各種申請手続」は男性18～29歳(53.7%)と男性40歳代(50.0%)で5割台、男性60歳代(44.0%)で4割半ばを占めている。また、「年末調整・確定申告」は女性50歳代(26.6%)、男性40歳代～60歳代(31.3%、26.4%、33.3%)、「コンビニ交付」は女性30歳代～50歳代(19.6%、25.0%、20.3%)、男性30歳代～60歳代(20.6%、29.2%、26.4%、25.3%)で多くなっている。一方、「使ったことがない」は女性30歳代(39.1%)と女性70歳以上(39.5%)で約4割を占めている。

図表 12-2-2 性・年齢別 マイナンバーカードの利用目的

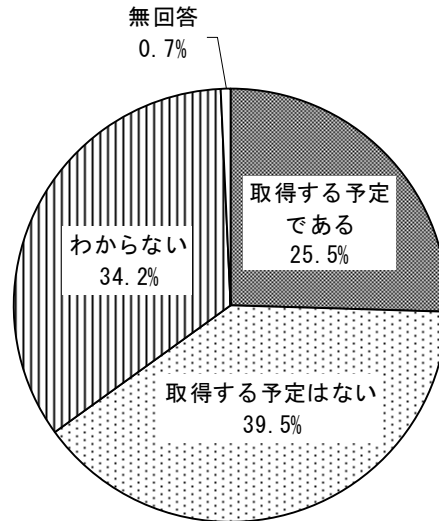
	調査数(人)	身分証明・本人確認	各種申請手続	年末調整・確定申告	コンビニ交付	その他	使ったことがない	無回答
全体	835	37.0	35.1	21.0	14.0	1.8	30.1	0.4
女性全体	411	38.2	33.1	17.5	12.2	1.7	32.8	0.2
18～29歳	58	50.0	39.7	17.2	8.6	5.2	24.1	-
30～39歳	46	23.9	39.1	21.7	19.6	2.2	39.1	-
40～49歳	40	32.5	35.0	17.5	25.0	-	27.5	-
50～59歳	64	34.4	26.6	26.6	20.3	3.1	31.3	-
60～69歳	77	41.6	29.9	14.3	11.7	-	29.9	-
70歳以上	124	39.5	31.5	12.9	1.6	0.8	39.5	0.8
男性全体	379	36.9	39.1	25.3	17.2	1.8	25.3	0.3
18～29歳	41	41.5	53.7	12.2	14.6	-	24.4	-
30～39歳	34	38.2	35.3	20.6	20.6	-	20.6	-
40～49歳	48	33.3	50.0	31.3	29.2	4.2	14.6	-
50～59歳	53	22.6	39.6	26.4	26.4	3.8	30.2	1.9
60～69歳	75	32.0	44.0	33.3	25.3	-	22.7	-
70歳以上	126	45.2	27.8	23.0	4.0	2.4	30.2	-

(3) マイナンバーカードの取得予定

◇「取得する予定である」が2割半ば

問43-3. 問43で「2. 持っていない」「3. 知らない」と答えた方に伺います。
今後、マイナンバーカードを取得する予定はありますか。(〇は1つ)

図表 12-3-1 マイナンバーカードの取得予定



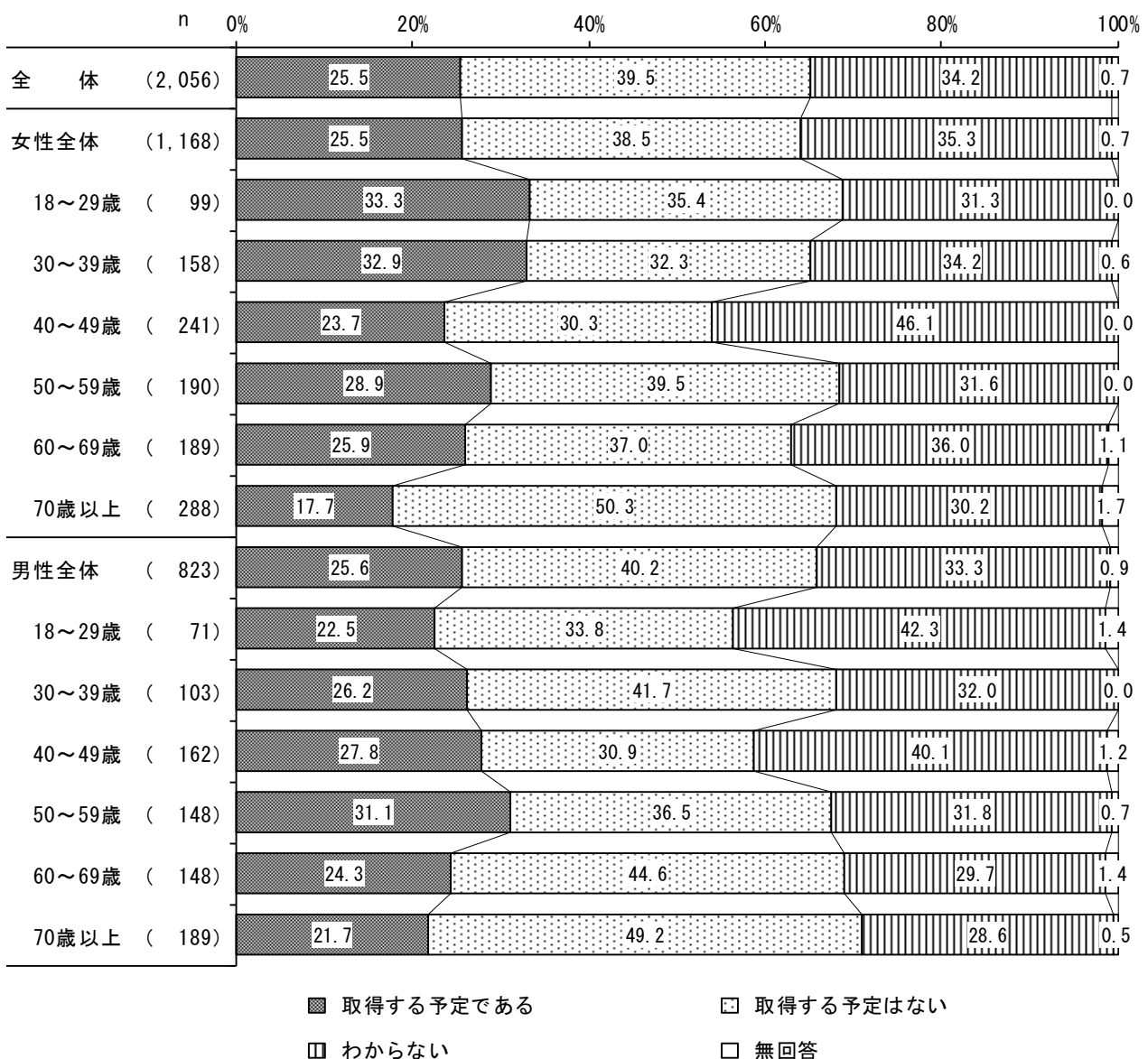
(n=2,056)

マイナンバーカードを「持っていない」または「知らない」2,056人に、マイナンバーカードの取得予定について聞いたところ、「取得する予定である」(25.5%)が2割半ば、「取得する予定はない」(39.5%)が約4割、「わからない」(34.2%)が3割半ばとなっている。

性別でみると、「取得する予定である」は女性（25.5%）、男性（25.6%）とも2割半ばとなっており、大きな差はみられない。

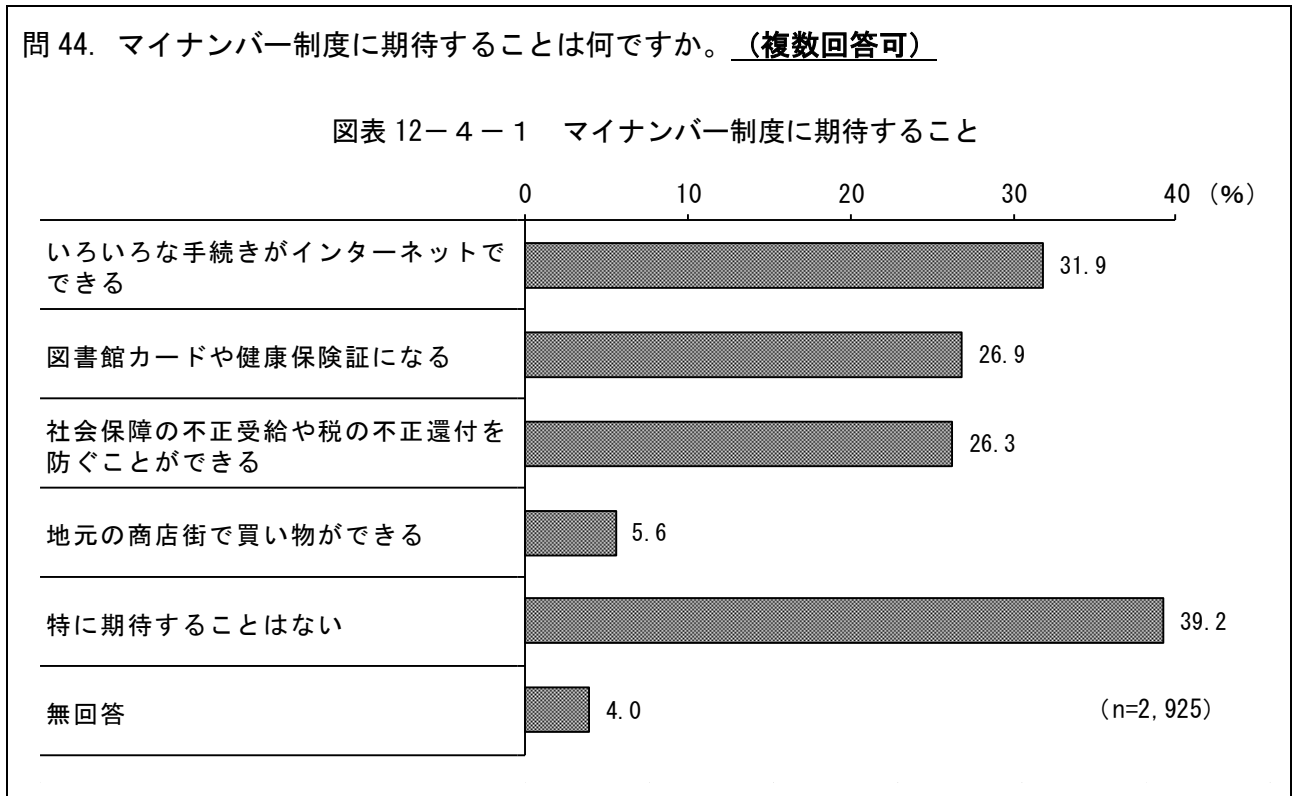
性・年齢別でみると、「取得する予定である」は女性18～29歳・30歳代（33.3%、32.9%）と男性50歳代（31.1%）で3割台となっている。女性30歳代は「取得する予定である」（32.9%）が「取得する予定はない」（32.3%）を唯一上回っている。一方、女性70歳以上は「取得する予定である」（17.7%）が2割未満となっており、「取得する予定はない」（50.3%）が約5割となっている。「取得する予定はない」は男性30歳代（41.7%）、男性60歳代以上（44.6%、49.2%）においても4割以上を占めている。

図表 12-3-2 性・年齢別 マイナンバーカードの取得予定



(4) マイナンバー制度に期待すること

◇「いろいろな手続きがインターネットでできる」が最も多く、約3割



マイナンバー制度に期待することについて聞いたところ、「いろいろな手続きがインターネットでできる」(31.9%)が最も多く、次いで「図書館カードや健康保険証になる」(26.9%)、「社会保障の不正受給や税の不正還付を防ぐことができる」(26.3%)、「地元の商店街で買い物ができる」(5.6%)の順となっている。一方、「特に期待することはない」(39.2%)は約4割となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「いろいろな手続きがインターネットでできる」は男女とも18～59歳で最も多くなっており、女性18～29歳・30歳代(50.3%、55.4%)、男性18～29歳(50.0%)は5割以上となっている。また、「図書館カードや健康保険証になる」は女性18～29歳(38.9%)で4割弱、「社会保障の不正受給や税の不正還付を防ぐことができる」は女性30歳代(35.8%)で3割半ばと最も多くなっている。一方、60歳代以上は男女とも「特に期待することはない」が最も多く、70歳以上は女性(50.6%)、男性(50.2%)とも約5割を占めている。

図表 12-4-2 性・年齢別 マイナンバー制度に期待すること

	調査数 (人)	いろいろな 手続きが インターネット でできる	図書館 カードや 健康保険 証になる	社会 保障の 不正受 給や税 の不正 還付 を防ぐ ことが できる	地 元の 商店 街で 買い 物が でき る	特 に 期 待 す る こ と は な い	無 回 答
全 体	2,925	31.9	26.9	26.3	5.6	39.2	4.0
女性全体	1594	32.1	26.6	27.0	4.9	37.8	4.3
18～29歳	157	50.3	38.9	22.9	10.2	28.7	0.6
30～39歳	204	55.4	28.9	35.8	8.3	25.0	1.5
40～49歳	281	42.7	23.5	26.3	3.6	33.1	1.4
50～59歳	256	38.7	25.0	33.2	4.7	35.2	1.6
60～69歳	268	24.6	29.5	27.6	5.6	40.7	2.6
70歳以上	423	7.6	22.5	20.6	1.9	50.6	11.6
男性全体	1216	32.6	28.0	25.9	6.7	40.3	3.0
18～29歳	112	50.0	34.8	25.0	5.4	26.8	0.9
30～39歳	137	43.1	34.3	27.0	12.4	35.0	0.7
40～49歳	212	42.9	32.1	25.0	10.8	36.3	0.9
50～59歳	203	41.4	26.1	30.0	9.4	36.0	1.5
60～69歳	225	26.7	27.1	23.6	3.1	44.4	2.7
70歳以上	323	14.2	21.7	25.1	2.5	50.2	7.1

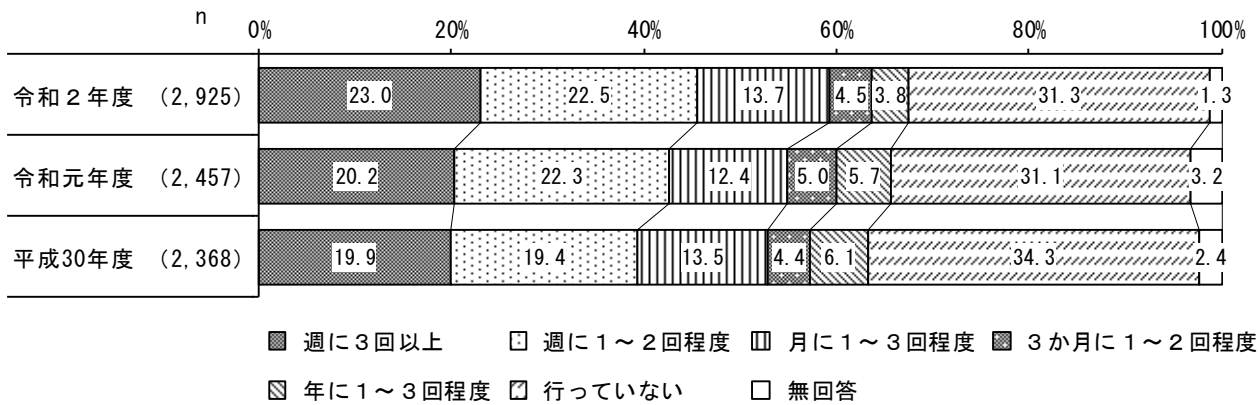
13. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』が4割半ば、『月に1回以上』が約6割

問 45. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか（ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます）。（○は1つ）

図表 13-1-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



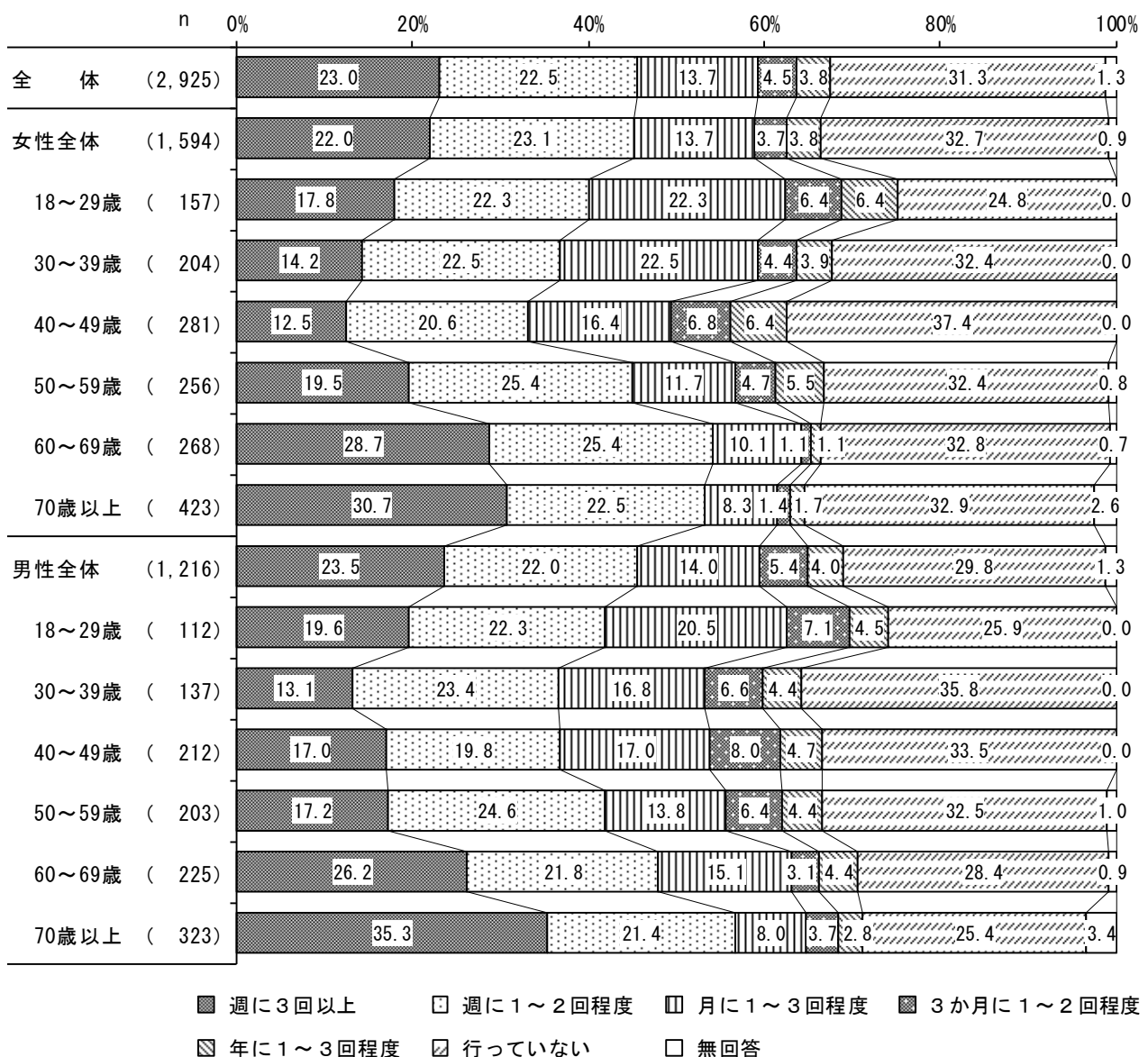
この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」（23.0%）と「週に1～2回程度」（22.5%）を合わせた『週に1回以上』（45.5%）は4割半ば、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」（13.7%）を合わせた『月に1回以上』（59.2%）は約6割となっている。一方、「行っていない」（31.3%）は約3割となっている。

過去2回の調査と比較すると、『週に1回以上』は増加傾向にあり、令和元年度調査（42.5%）と比べ3.0ポイント増加している。

性別でみると、男女とも『週に1回以上』（女性45.1%、45.5%）は4割半ば、『月に1回以上』（女性58.8%、59.5%）は6割弱～約6割となっており、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『週に1回以上』は女性60歳代以上（54.1%、53.2%）、男性70歳以上（56.7%）で5割台となっている。一方、30歳代～40歳代（女性36.8%、33.1%、男性36.5%、36.8%）は男女とも3割台で少なくなっている。『月に1回以上』についても、60歳代以上（女性64.2%、61.5%、男性63.1%、64.7%）で男女とも6割を超えるのに対し、女性40歳代（49.5%）が最も少なく、男性30歳代～40歳代（53.3%、53.8%）も全体を5ポイント以上下回っている。

図表 13-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

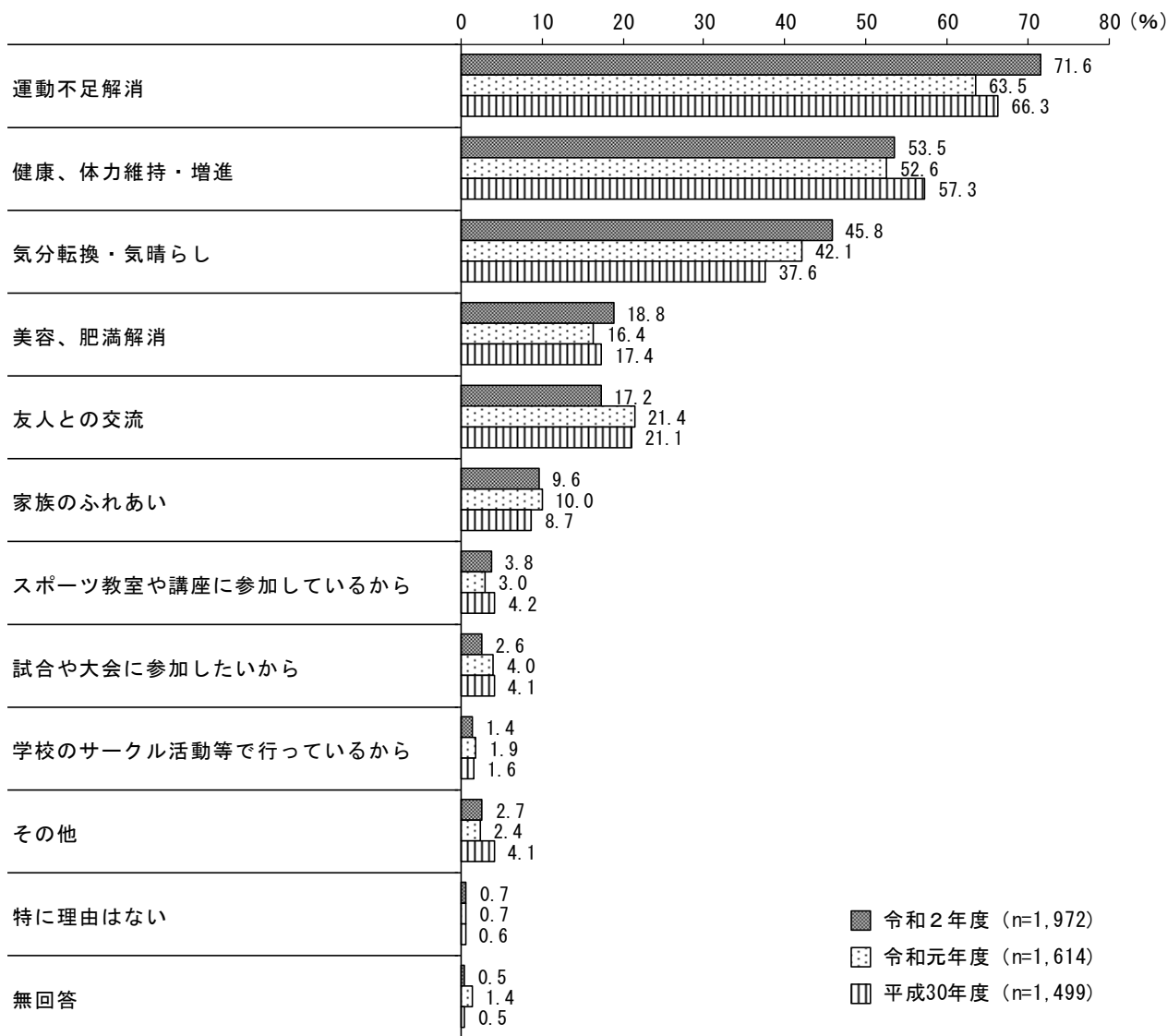


(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

◇「運動不足解消」が最も多く、約7割

問 45-2. 問 45 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 13-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,972人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(71.6%)が最も多く、次いで「健康、体力維持・増進」(53.5%)、「気分転換・気晴らし」(45.8%)、「美容、肥満解消」(18.8%)、「友人との交流」(17.2%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査と比べ「運動不足解消」(令和元年度 63.5%)が8.1ポイント、「気分転換・気晴らし」(令和元年度 42.1%)が3.7ポイントそれぞれ増加している。一方、「友人との交流」は令和元年度調査(21.4%)と比べ4.2ポイント減少している。

性別でみると、「美容、肥満解消」は女性（23.7%）が男性（12.9%）を10.8ポイント、「スポーツ教室や講座に参加しているから」は女性（5.3%）が男性（2.0%）を3.3ポイント上回っている。一方、「健康、体力維持・増進」は男性（55.3%）が女性（52.1%）を3.2ポイント、「気分転換・気晴らし」は男性（47.7%）が女性（44.8%）を2.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「運動不足解消」が最も多く、女性60歳代（80.3%）を筆頭に全ての年齢層で6割以上となっている。「健康、体力維持・増進」は男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性60歳代以上（66.3%、69.6%）と男性60歳代（67.3%）で6割以上、男性70歳以上（73.0%）は7割強を占めている。一方、「気分転換・気晴らし」は男性18～29歳（65.1%）で6割半ば、女性18～29歳・30歳代～40歳代（50.8%、59.4%、50.0%）、男性30歳代（55.7%）、男性50歳代（53.3%）で5割台となっている。また、「友人との交流」は女性70歳以上（27.8%）、男性18～29歳（26.5%）、「美容、肥満解消」は女性18～29歳・30歳代（41.5%、37.0%）、「家族のふれあい」は男女とも30歳代～40歳代（女性26.8%、18.8%、男性15.9%、21.3%）で多くなっている。

図表 13-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

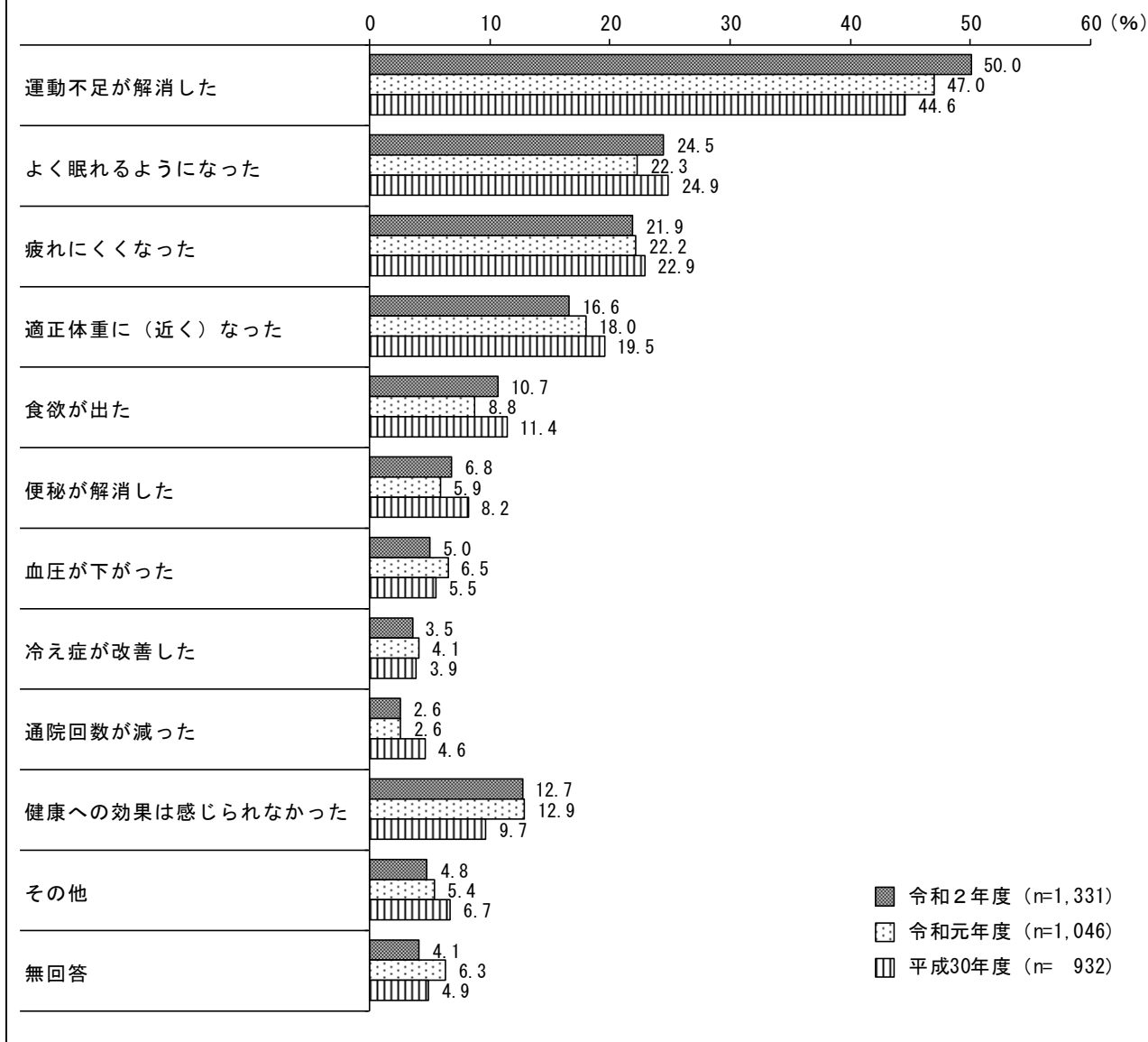
	調査数（人）	運動不足解消	健康、体力維持・増進	気分転換・気晴らし	美容、肥満解消	友人との交流	家族のふれあい	スポーツ教室や講座に参加しているから	試合や大会に参加したいから	学校のサークル活動等で行っているから	その他	特に理由はない	無回答
全体	1,972	71.6	53.5	45.8	18.8	17.2	9.6	3.8	2.6	1.4	2.7	0.7	0.5
女性全体	1,057	70.8	52.1	44.8	23.7	17.7	10.5	5.3	2.1	1.8	2.6	0.8	0.4
18～29歳	118	60.2	34.7	50.8	41.5	11.9	9.3	0.8	0.8	11.0	5.9	0.8	-
30～39歳	138	66.7	34.8	59.4	37.0	7.2	26.8	2.9	1.4	0.7	4.3	0.7	0.7
40～49歳	176	74.4	42.0	50.0	27.8	9.7	18.8	2.8	1.7	1.7	1.1	1.1	1.1
50～59歳	171	67.8	45.6	49.1	26.9	19.3	9.9	7.0	4.7	0.6	2.9	-	-
60～69歳	178	80.3	66.3	37.6	18.0	20.2	2.8	9.0	2.8	0.6	1.7	1.7	0.6
70歳以上	273	71.1	69.6	33.7	8.1	27.8	2.9	6.6	1.1	-	1.8	0.4	-
男性全体	838	72.2	55.3	47.7	12.9	15.9	8.7	2.0	3.6	1.1	2.6	0.7	0.6
18～29歳	83	61.4	33.7	65.1	15.7	26.5	3.6	1.2	1.2	4.8	-	-	1.2
30～39歳	88	75.0	40.9	55.7	17.0	13.6	15.9	2.3	8.0	1.1	1.1	1.1	-
40～49歳	141	75.9	39.0	47.5	21.3	11.3	21.3	2.1	2.8	1.4	5.0	1.4	2.1
50～59歳	135	68.9	49.6	53.3	16.3	8.1	6.7	1.5	5.9	0.7	3.7	-	-
60～69歳	159	74.8	67.3	42.8	8.2	16.4	5.0	3.1	2.5	-	1.9	1.3	0.6
70歳以上	230	72.6	73.0	38.7	6.1	20.0	3.9	1.7	2.6	0.4	2.6	0.4	-

(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果

◇「運動不足が解消した」が最も多く、5割

問 45-3. 問 45 で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

図表 13-3-1 スポーツ・レクリエーション活動の効果



週に1回以上、スポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,331人に、スポーツ・レクリエーション活動の効果を聞いたところ、「運動不足が解消した」(50.0%)が最も多く、次いで「よく眠れるようになった」(24.5%)、「疲れにくくなった」(21.9%)、「適正体重に(近く)なった」(16.6%)、「食欲が出た」(10.7%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「運動不足が解消した」は増加傾向にあり、令和元年度調査(47.0%)と比べ3.0ポイント増加している。また、令和元年度調査と比べ「よく眠れるようになった」は2.2ポイント、「食欲が出た」は1.9ポイントそれぞれ増加している。一方、「疲れにくくなった」、「適正体重に(近く)なった」は減少傾向にある。

性別でみると、「適正体重に（近く）なった」は男性（24.1%）が女性（10.7%）を13.4ポイント上回っており、「運動不足が解消した」も男性（55.0%）が女性（47.1%）より7.9ポイント多くなっている。一方、「よく眠れるようになった」（女性26.1%、男性22.6%）、「疲れにくくなった」（女性23.9%、男性19.7%）、「便秘が解消した」（女性8.3%、男性4.9%）、「冷え症が改善した」（女性5.8%、男性0.5%）は女性が男性を上回っている。

性・年齢別でみると、「運動不足が解消した」は男女とも全ての年齢で最も多くなっており、男性40歳代（62.8%）で6割強、女性60歳代（52.4%）、男性60歳代以上（58.3%、58.5%）で5割台となっている。また、「よく眠れるようになった」は男女とも18～29歳（女性36.5%、男性31.9%）で3割台と多くなっている。「適正体重に（近く）なった」は男性は30歳代（18.0%）を除き2割台となっているが、女性は全体的に少なくなっている。一方、「健康への効果は感じられなかった」は女性30歳代（22.7%）が最も多くなっている。

図表 13-3-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の効果

(%)

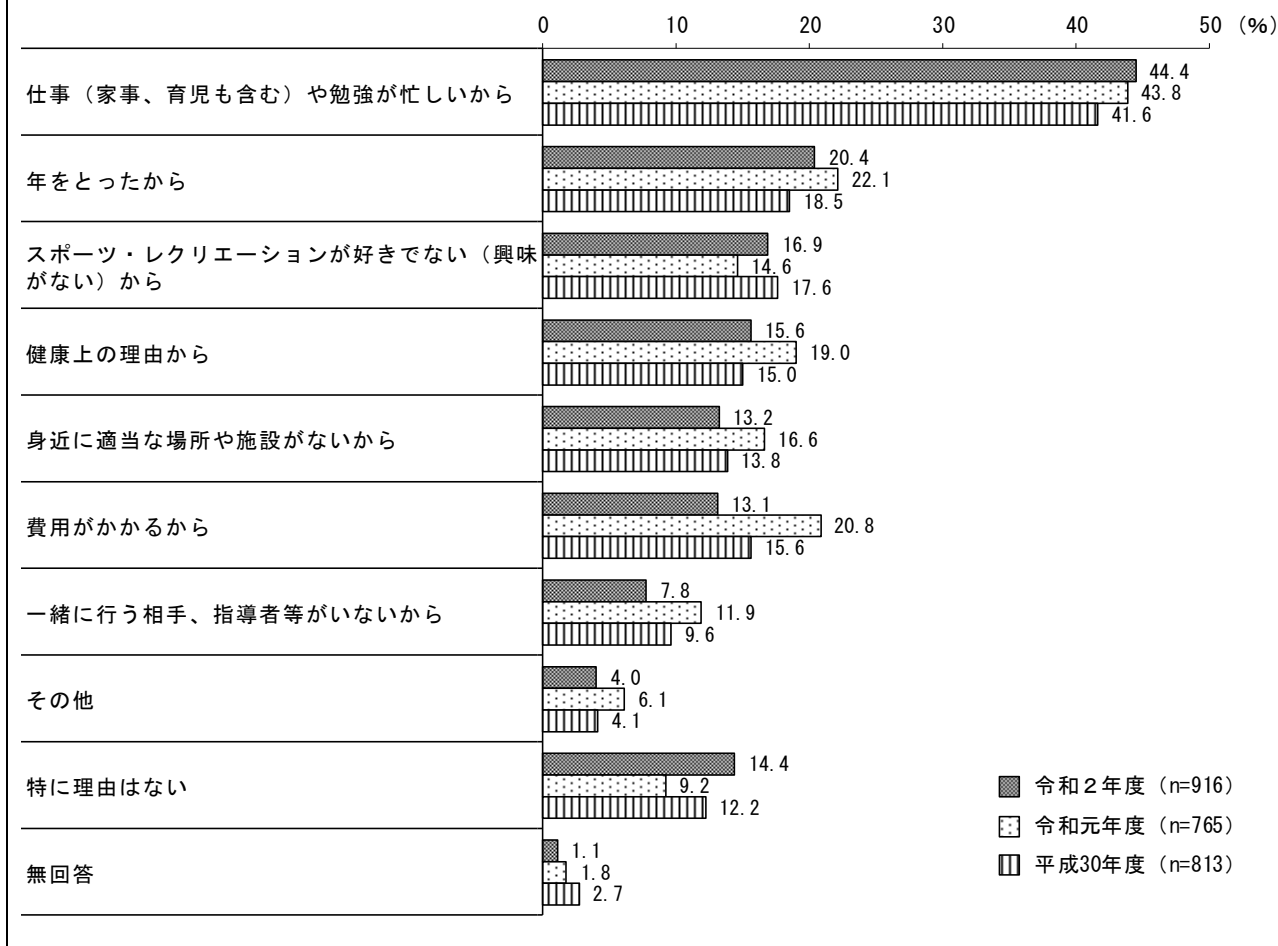
	調査数（人）	運動不足が解消した	よく眠れるようになった	疲れにくくなった	適正体重に（近く）なった	食欲が出た	便秘が解消した	血圧が下がった	冷え症が改善した	通院回数が減った	健康への効果は感じられなかった	その他	無回答
全体	1,331	50.0	24.5	21.9	16.6	10.7	6.8	5.0	3.5	2.6	12.7	4.8	4.1
女性全体	719	47.1	26.1	23.9	10.7	9.2	8.3	3.6	5.8	2.6	14.0	5.6	3.8
18～29歳	63	41.3	36.5	12.7	9.5	11.1	6.3	-	1.6	1.6	14.3	6.3	7.9
30～39歳	75	49.3	21.3	16.0	6.7	4.0	9.3	-	8.0	-	22.7	5.3	5.3
40～49歳	93	43.0	29.0	20.4	14.0	5.4	14.0	3.2	6.5	1.1	15.1	1.1	5.4
50～59歳	115	48.7	20.9	26.1	8.7	11.3	7.8	1.7	10.4	4.3	12.2	13.9	1.7
60～69歳	145	52.4	29.0	29.7	9.7	9.0	6.9	4.8	5.5	2.1	14.5	6.9	2.1
70歳以上	225	44.9	24.4	26.2	12.9	11.1	7.1	6.2	3.6	4.0	11.6	2.2	3.6
男性全体	553	55.0	22.6	19.7	24.1	12.3	4.9	6.3	0.5	2.0	11.2	3.4	3.8
18～29歳	47	46.8	31.9	19.1	21.3	17.0	2.1	2.1	-	-	8.5	4.3	4.3
30～39歳	50	46.0	20.0	10.0	18.0	12.0	4.0	4.0	-	-	12.0	8.0	10.0
40～49歳	78	62.8	24.4	23.1	25.6	14.1	3.8	2.6	2.6	3.8	14.1	3.8	1.3
50～59歳	85	47.1	22.4	14.1	29.4	7.1	3.5	8.2	-	2.4	15.3	2.4	4.7
60～69歳	108	58.3	18.5	22.2	27.8	11.1	2.8	7.4	0.9	1.9	13.9	1.9	3.7
70歳以上	183	58.5	22.4	22.4	21.3	13.7	8.2	8.2	-	2.2	6.6	3.3	2.7

(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、4割半ば

問 45-4. 問 45 で「6」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 13-4-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した916人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」（44.4%）が最も多く、次いで「年をとったから」（20.4%）、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」（16.9%）、「健康上の理由から」（15.6%）、「身近に適切な場所や施設がないから」（13.2%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は増加傾向にあり、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」は令和元年度調査（14.6%）と比べ2.3ポイント増加している。一方、「費用がかかるから」（13.1%）は令和元年度調査（20.8%）より7.7ポイント、「一緒に行く相手、指導者等がないから」（7.8%）は令和元年度調査（11.9%）より4.1ポイントそれぞれ減少している。

性別でみると、「健康上の理由から」は女性（17.8%）が男性（11.9%）を5.9ポイント、「スポーツレクリエーションが好きでない（興味がない）から」は女性（19.3%）が男性（14.1%）を5.2ポイントそれぞれ上回っている。一方、「年をとったから」は男性（23.2%）が女性（17.6%）より5.6ポイント、「特に理由はない」も男性（19.1%）が女性（11.3%）より7.8ポイント多くなっている。

性・年齢別でみると、男女とも70歳以上を除き「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多くなっており、特に女性30歳代（80.3%）は突出して多くなっている。一方、70歳以上は「年をとったから」が女性（48.9%）、男性（52.4%）とも最も多くなっている。「健康上の理由から」についても、女性60歳代以上（26.1%、30.2%）、男性70歳以上（31.7%）で多くなっている。一方、男性30歳代（24.5%）と男性60歳代（26.6%）は「特に理由はない」が2割台となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 13-4-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

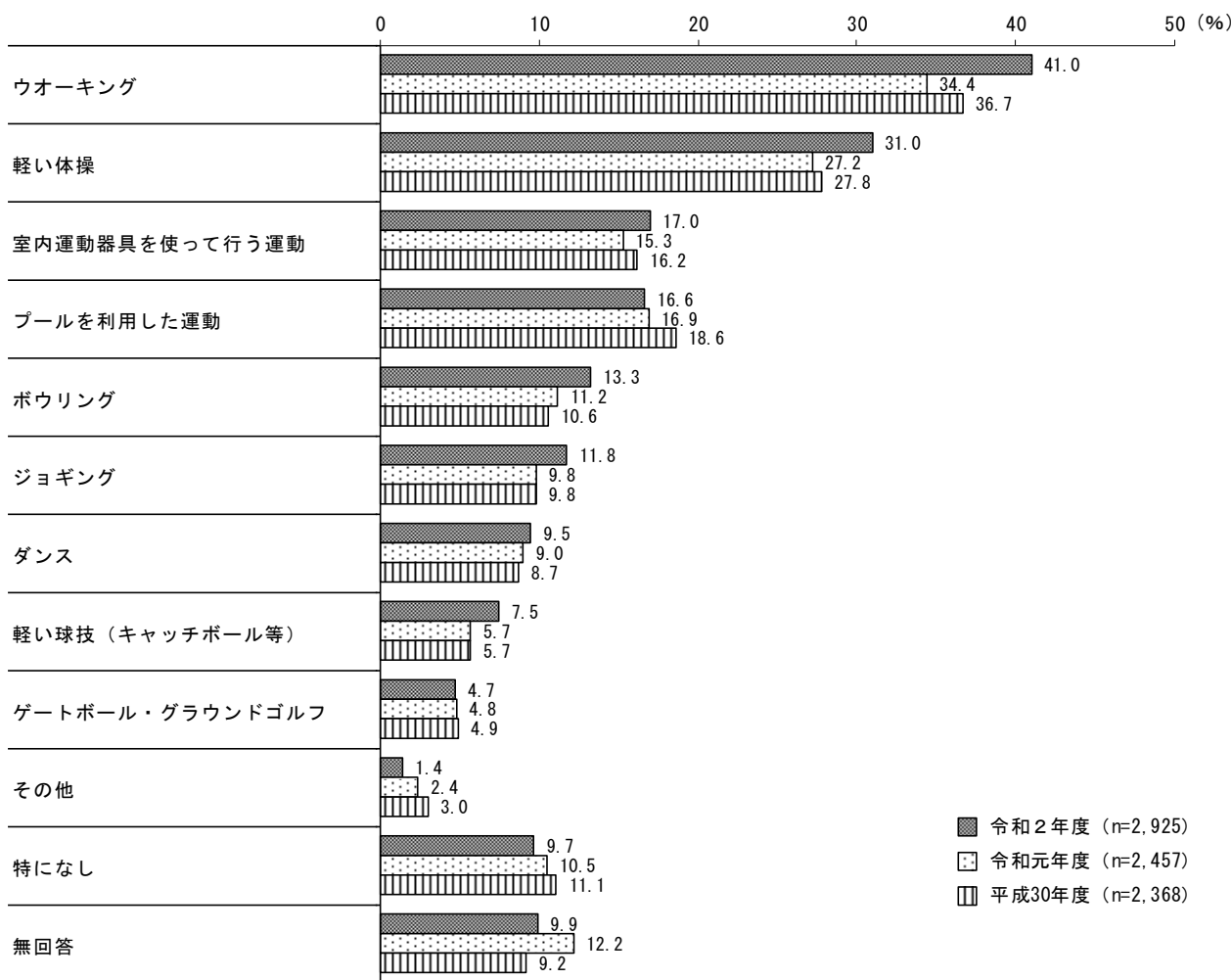
	調査数（人）	忙しいから 仕事（家事、 育児も含む） や勉強が	年をとったから	スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から	健康上の理由から	身近に適切な場所や施設がないから	費用がかかるから	一緒に 行う相手、 指導者等 がない	その他	特に理由はない	無回答
全体	916	44.4	20.4	16.9	15.6	13.2	13.1	7.8	4.0	14.4	1.1
女性全体	522	45.6	17.6	19.3	17.8	14.8	14.6	6.7	4.2	11.3	1.5
18～29歳	39	64.1	2.6	28.2	12.8	15.4	12.8	15.4	-	17.9	-
30～39歳	66	80.3	-	22.7	3.0	16.7	19.7	6.1	3.0	7.6	1.5
40～49歳	105	56.2	4.8	25.7	7.6	15.2	19.0	9.5	5.7	15.2	1.0
50～59歳	83	45.8	6.0	19.3	15.7	12.0	20.5	4.8	3.6	13.3	1.2
60～69歳	88	46.6	14.8	13.6	26.1	18.2	13.6	5.7	2.3	11.4	1.1
70歳以上	139	15.1	48.9	14.4	30.2	12.9	6.5	4.3	6.5	6.5	2.9
男性全体	362	44.8	23.2	14.1	11.9	11.3	11.3	8.8	4.1	19.1	0.3
18～29歳	29	55.2	-	20.7	-	-	6.9	-	6.9	27.6	-
30～39歳	49	53.1	4.1	14.3	6.1	6.1	14.3	8.2	4.1	24.5	-
40～49歳	71	62.0	15.5	14.1	5.6	15.5	14.1	8.5	4.2	12.7	-
50～59歳	66	60.6	19.7	15.2	6.1	10.6	13.6	9.1	4.5	16.7	1.5
60～69歳	64	32.8	23.4	10.9	9.4	12.5	10.9	9.4	1.6	26.6	-
70歳以上	82	17.1	52.4	13.4	31.7	14.6	7.3	12.2	4.9	14.6	-

(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）

◇「ウオーキング」が最も多く、約4割

問 46. 皆さんに伺います。 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表 13-5-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）については、「ウオーキング」(41.0%) が最も多く、次いで「軽い体操」(31.0%)、「室内運動器具を使って行う運動」(17.0%)、「プールを利用した運動」(16.6%)、「ボウリング」(13.3%) の順となっている。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査と比べ「ウオーキング」は 6.6 ポイント、「軽い体操」は 3.8 ポイントそれぞれ増加している。また、「プールを利用した運動」、「ゲートボール・グラウンドゴルフ」を除く項目も令和元年度調査を上回っている。

性別でみると、「軽い体操」は女性（39.3%）が男性（19.6%）を 19.7 ポイント、「ダンス」は女性（14.0%）が男性（3.8%）を 10.2 ポイント上回っている。一方、「ジョギング」（女性 9.5%、男性 15.3%）、「軽い球技（キャッチボール等）」（女性 5.0%、男性 10.8%）は男性が女性をそれぞれ 5.8 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ウォーキング」は女性 18～29 歳・30 歳代～50 歳代（34.4%、44.1%、46.3%、46.9%）と男性 40 歳代以上（34.4%、43.8%、44.9%、42.1%）で最も多くなっている。「ウォーキング」は女性 30 歳代以上（44.1%、46.3%、46.9%、47.4%、43.0%）と男性 50 歳代以上（43.8%、44.9%、42.1%）、「軽い体操」は女性 60 歳代以上（51.1%、48.7%）で 4 割以上を占めている。また、「プールを利用した運動」（30.6%、27.9%）と「ダンス」（31.8%、25.0%）は女性 18～29 歳・30 歳代、「ジョギング」（22.3%、28.5%）と「軽い球技（キャッチボール等）」（18.8%、19.7%）は男性 18～29 歳・30 歳代でそれぞれ全体を 1 割以上上回っている。

図表 13-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—

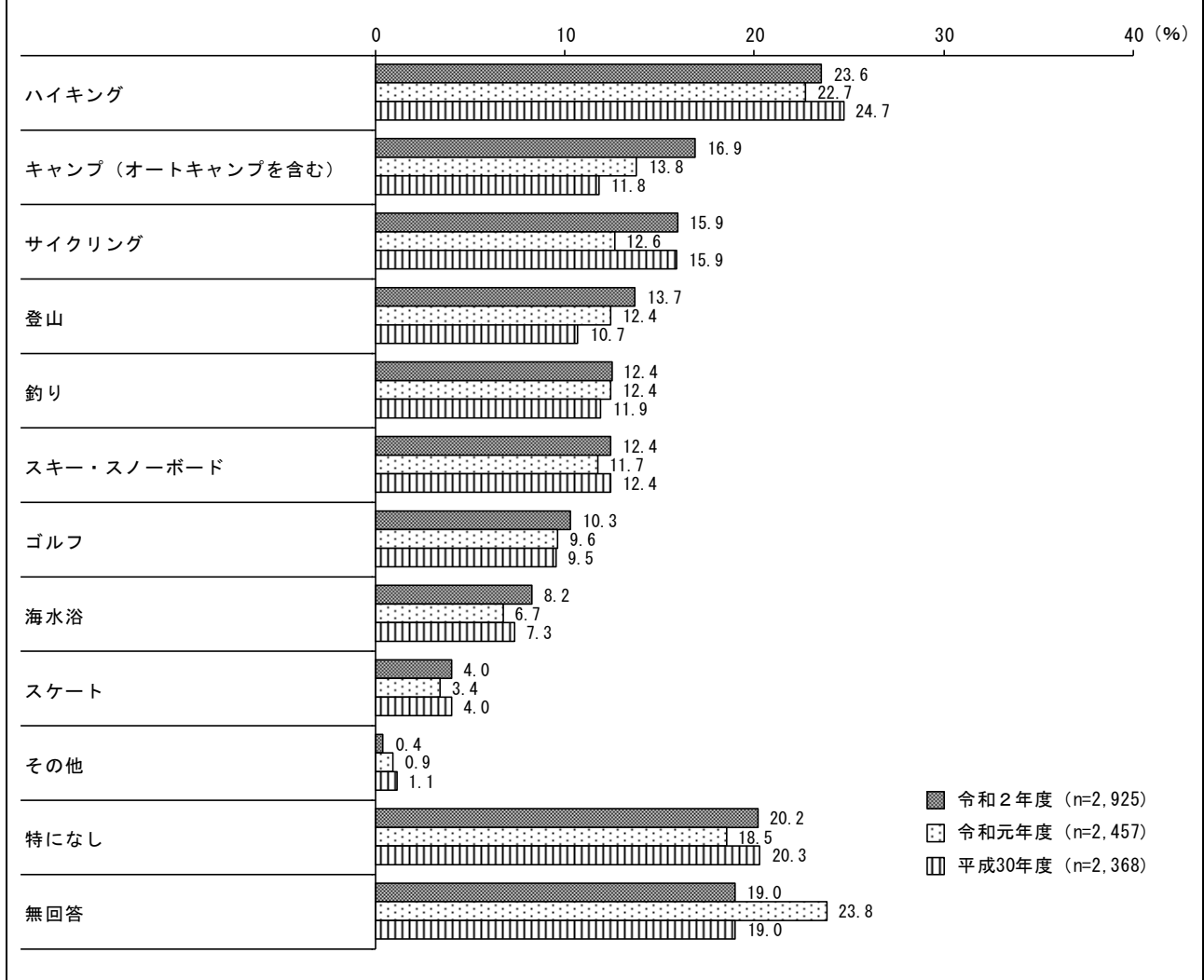
	調査数（人）	ウォーキング	軽い体操	室内運動器具を使って行う運動	プールを利用した運動	ボウリング	ジョギング	ダンス	軽い球技（キャッチボール等）	ゲートボール・グラウンドゴルフ	その他	特になし	無回答
全体	2,925	41.0	31.0	17.0	16.6	13.3	11.8	9.5	7.5	4.7	1.4	9.7	9.9
女性全体	1,594	44.4	39.3	17.9	18.9	12.7	9.5	14.0	5.0	3.8	1.8	7.9	7.3
18～29歳	157	34.4	21.0	19.7	30.6	28.0	24.8	31.8	11.5	2.5	-	4.5	9.6
30～39歳	204	44.1	32.4	23.0	27.9	16.2	18.1	25.0	12.7	1.0	2.0	6.4	9.3
40～49歳	281	46.3	29.9	18.1	19.6	16.4	11.4	13.9	5.7	2.5	3.6	6.4	3.9
50～59歳	256	46.9	39.1	19.5	21.9	10.9	8.2	12.9	4.3	2.0	2.0	6.6	5.1
60～69歳	268	47.4	51.1	20.5	19.4	11.2	4.1	11.2	2.6	2.2	3.0	8.2	4.9
70歳以上	423	43.0	48.7	11.8	7.3	5.0	2.1	4.7	0.5	8.5	0.5	11.6	10.6
男性全体	1,216	37.1	19.6	16.6	14.3	14.6	15.3	3.8	10.8	5.8	0.8	11.6	13.2
18～29歳	112	17.0	7.1	25.9	23.2	27.7	22.3	7.1	18.8	1.8	-	12.5	17.9
30～39歳	137	22.6	8.8	21.9	16.1	17.5	28.5	3.6	19.7	2.2	0.7	12.4	18.2
40～49歳	212	34.4	17.0	18.4	15.1	17.5	19.3	5.2	14.6	4.7	0.5	7.5	16.5
50～59歳	203	43.8	16.3	16.3	17.2	12.8	15.8	3.0	9.9	3.4	1.0	10.8	13.3
60～69歳	225	44.9	20.9	15.6	16.4	10.7	12.4	1.8	8.0	7.1	0.9	11.1	8.4
70歳以上	323	42.1	31.3	10.8	6.5	11.1	6.5	3.7	3.7	9.9	1.2	14.2	10.8

(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）

◇「ハイキング」が最も多く、2割強

問 46. 皆さんに伺います。 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表 13-6-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
— 野外活動 —



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）については、「ハイキング」(23.6%)が最も多く、次いで「キャンプ(オートキャンプを含む)」(16.9%)、「サイクリング」(15.9%)、「登山」(13.7%)、「釣り」(12.4%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「キャンプ(オートキャンプを含む)」、「登山」は増加傾向にあり、令和元年度調査と比べ前者は3.1ポイント、後者は1.3ポイント増加している。また、「サイクリング」も令和元年度調査(12.6%)と比べ3.3ポイント増加している。

性別でみると、女性は「ハイキング」(26.6%)、男性は「釣り」(20.2%)が最も多くなっている。また、女性は「スケート」(5.6%)、男性は「キャンプ(オートキャンプを含む)」(19.2%)、「ゴルフ」(16.4%)、「登山」(15.5%)が他方より多くなっている。

性・年齢別でみると、女性40歳代～60歳代(28.1%、34.0%、28.7%)と男性50歳代～60歳代(25.6%、26.2%)は「ハイキング」、女性30歳代(36.8%)と男性30歳代～40歳代(27.7%、36.3%)は「キャンプ(オートキャンプを含む)」、女性18～29歳(36.3%)と男性18～29歳(38.4%)は「スキー・スノーボード」がそれぞれ最も多くなっている。女性18～29歳は「スケート」(24.2%)も2割半ばを占め、他の年齢と比べ突出して多くなっている。また、「登山」は男性40歳代(25.9%)、「釣り」は男性40歳代(23.1%)と男性60歳代(23.1%)、「ゴルフ」は男性60歳代(22.2%)、「海水浴」は女性18～29歳・30歳代(20.4%、20.1%)と男性18～29歳(20.5%)でそれぞれ全体を1割以上上回っている。一方、70歳以上は男女とも「特になし」(女性35.9%、男性28.5%)が最も多くなっている。

図表 13-6-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
— 野外活動 —

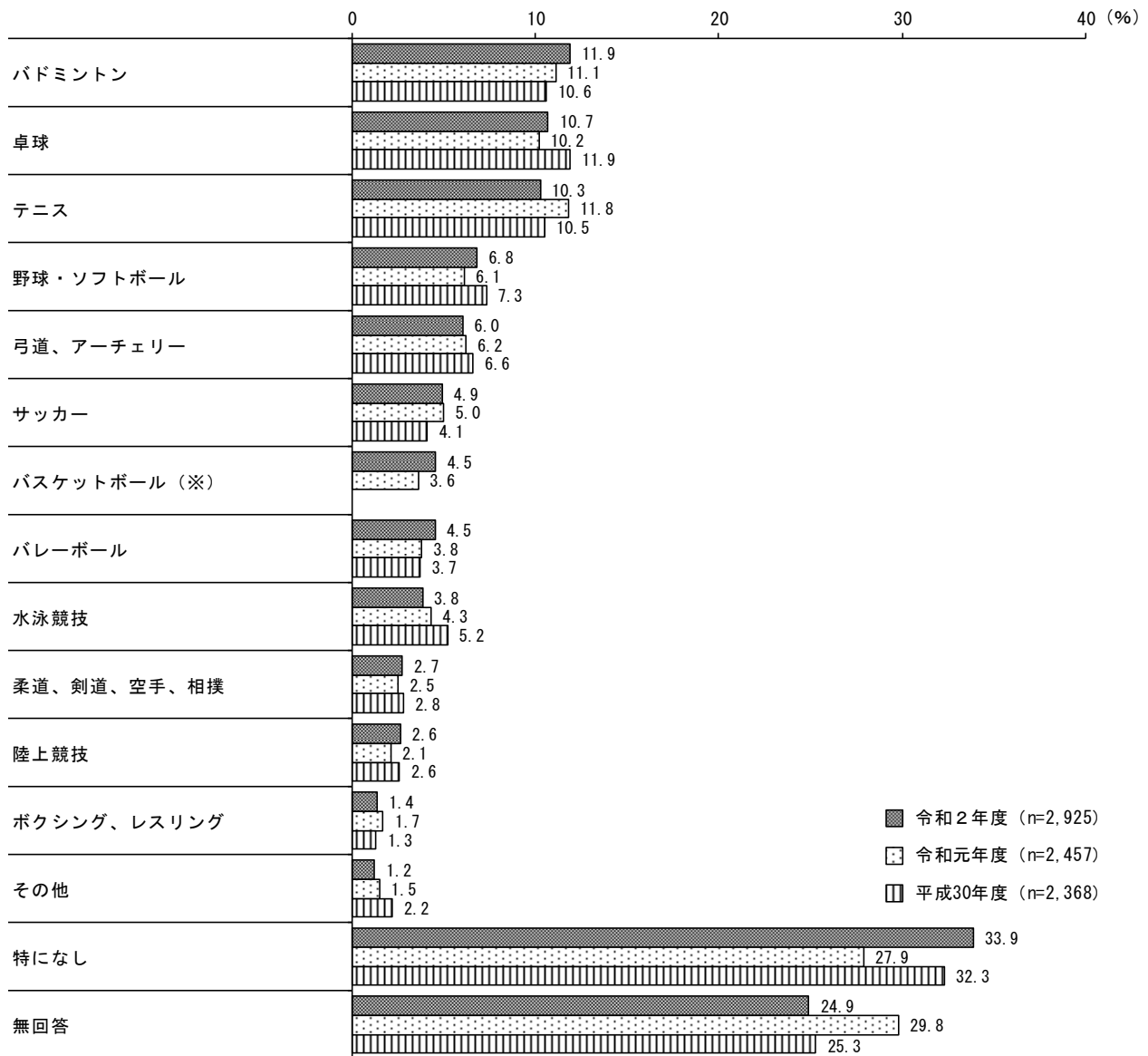
	調査数(人)	ハイキング	キャンプ(オートキャンプを含む)	サイクリング	登山	釣り	スキー・スノーボード	ゴルフ	海水浴	スケート	その他	特になし	無回答
全体	2,925	23.6	16.9	15.9	13.7	12.4	12.4	10.3	8.2	4.0	0.4	20.2	19.0
女性全体	1,594	26.6	15.3	15.9	12.5	6.7	12.4	6.0	8.2	5.6	0.3	21.8	21.5
18～29歳	157	21.0	28.7	19.1	19.7	17.8	36.3	7.0	20.4	24.2	-	9.6	9.6
30～39歳	204	23.0	36.8	25.0	23.5	14.7	27.9	5.9	20.1	9.8	1.5	12.7	14.2
40～49歳	281	28.1	21.4	18.9	20.3	7.8	16.4	7.8	10.3	6.8	0.4	14.9	16.7
50～59歳	256	34.0	13.7	18.0	10.5	6.3	9.8	9.0	5.5	2.3	-	17.2	18.0
60～69歳	268	28.7	6.3	19.4	7.5	2.2	2.6	6.7	4.1	1.9	-	25.0	25.0
70歳以上	423	23.4	2.4	5.0	3.3	1.2	0.7	2.1	0.7	0.2	0.2	35.9	32.9
男性全体	1,216	19.9	19.2	16.9	15.5	20.2	13.2	16.4	8.6	2.0	0.5	17.4	14.6
18～29歳	112	7.1	31.3	17.0	21.4	22.3	38.4	10.7	20.5	6.3	1.8	11.6	13.4
30～39歳	137	13.9	27.7	20.4	19.7	16.1	20.4	16.1	10.2	2.9	0.7	14.6	14.6
40～49歳	212	19.8	36.3	21.2	25.9	23.1	17.9	16.5	16.5	4.2	1.4	10.4	9.4
50～59歳	203	25.6	20.2	21.2	19.7	20.2	14.3	17.7	8.4	2.0	-	13.3	9.9
60～69歳	225	26.2	10.7	20.4	8.4	23.1	5.3	22.2	4.4	-	-	16.0	13.8
70歳以上	323	18.6	5.6	7.4	6.8	17.6	3.1	13.9	1.9	-	-	28.5	22.3

(7) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）

◇「バドミントン」「卓球」「テニス」が約1割

問 46. 皆さんに伺います。 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

図表 13-7-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—



(※) 平成 30 年度調査は選択肢なし

今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）については、「バドミントン」(11.9%)が最も多く、次いで「卓球」(10.7%)、「テニス」(10.3%)、「野球・ソフトボール」(6.8%)、「弓道、アーチェリー」(6.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「バドミントン」、「バレーボール」は増加傾向、「弓道、アーチェリー」、「水泳競技」は減少傾向となっている。また、「特になし」(33.9%)は令和元年度調査(27.9%)と比べ6.0ポイント増加している。

性別でみると、「バドミントン」は女性（14.7%）が男性（8.6%）を6.1ポイント上回っている。一方、「野球・ソフトボール」は9.8ポイント、「サッカー」は6.8ポイント男性が女性より多くなっている。また、「特になし」は女性（35.4%）が3割半ば、男性（31.4%）が約3割となっている。

性・年齢別でみると、女性18～29歳・30歳代～40歳代（33.8%、27.5%、18.9%）は「バドミントン」、女性50歳代以上（14.5%、14.6%、6.4%）と男性60歳代以上（12.0%、12.1%）は「卓球」、男性50歳代（17.7%）は「野球・ソフトボール」、男性18～29歳・30歳代～40歳代（21.4%、18.2%、16.5%）は「サッカー」がそれぞれ最も多くなっている。また、「バスケットボール」は女性18～29歳（14.6%）と男性18～29歳（15.2%）、「バレーボール」は女性18～29歳（15.3%）でそれぞれ全体を約1割上回っている。一方、「特になし」は男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性70歳以上（51.1%）で約5割、女性60歳代（42.9%）、男性70歳以上（41.5%）で約4割～4割強を占めている。

図表 13-7-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—

	調査数 (人)	バドミントン	卓球	テニス	野球・ソフトボール	弓道、アーチェリー	サッカー	バスケットボール	バレーボール	水泳競技	柔道、剣道、空手、相撲	陸上競技	ボクシング、レスリング	その他	特になし	無回答
全体	2,925	11.9	10.7	10.3	6.8	6.0	4.9	4.5	4.5	3.8	2.7	2.6	1.4	1.2	33.9	24.9
女性全体	1,594	14.7	11.2	10.3	2.6	6.8	2.1	3.8	5.6	4.0	2.4	2.1	1.3	0.9	35.4	26.2
18～29歳	157	33.8	12.1	14.6	7.0	15.9	10.8	14.6	15.3	13.4	3.8	5.7	2.5	1.9	13.4	14.6
30～39歳	204	27.5	9.3	17.6	3.9	7.8	3.4	9.8	8.8	4.4	5.4	2.9	4.4	2.0	22.5	25.0
40～49歳	281	18.9	12.8	14.2	2.8	6.8	0.7	3.2	6.4	3.2	2.5	4.6	1.8	0.7	29.5	22.4
50～59歳	256	14.1	14.5	13.3	2.7	10.5	1.6	2.0	5.5	3.9	3.5	1.2	0.8	0.8	32.0	23.0
60～69歳	268	9.0	14.6	7.8	0.4	4.5	0.7	1.1	3.4	2.6	1.1	0.7	-	1.1	42.9	27.6
70歳以上	423	2.8	6.4	1.9	1.4	1.9	0.2	-	1.2	1.4	0.7	-	-	0.2	51.1	35.0
男性全体	1,216	8.6	10.2	10.6	12.4	5.3	8.9	5.8	3.3	3.9	3.2	3.5	1.6	1.6	31.4	22.5
18～29歳	112	16.1	16.1	14.3	17.0	8.9	21.4	15.2	12.5	11.6	5.4	6.3	6.3	1.8	17.0	15.2
30～39歳	137	11.7	9.5	13.1	14.6	4.4	18.2	12.4	6.6	3.6	2.9	4.4	2.9	2.2	19.0	17.5
40～49歳	212	8.5	6.6	12.3	16.0	4.7	16.5	8.0	1.9	6.1	5.7	6.1	2.4	1.9	24.5	22.2
50～59歳	203	9.9	6.4	13.3	17.7	6.9	6.9	5.9	2.0	3.9	3.9	2.0	1.0	1.5	31.0	20.2
60～69歳	225	10.2	12.0	11.6	10.2	4.4	2.2	1.3	0.9	3.1	1.8	2.2	0.4	0.9	38.7	20.0
70歳以上	323	2.5	12.1	4.6	5.6	4.3	0.9	0.9	2.2	0.6	1.5	2.2	-	1.5	41.5	30.7

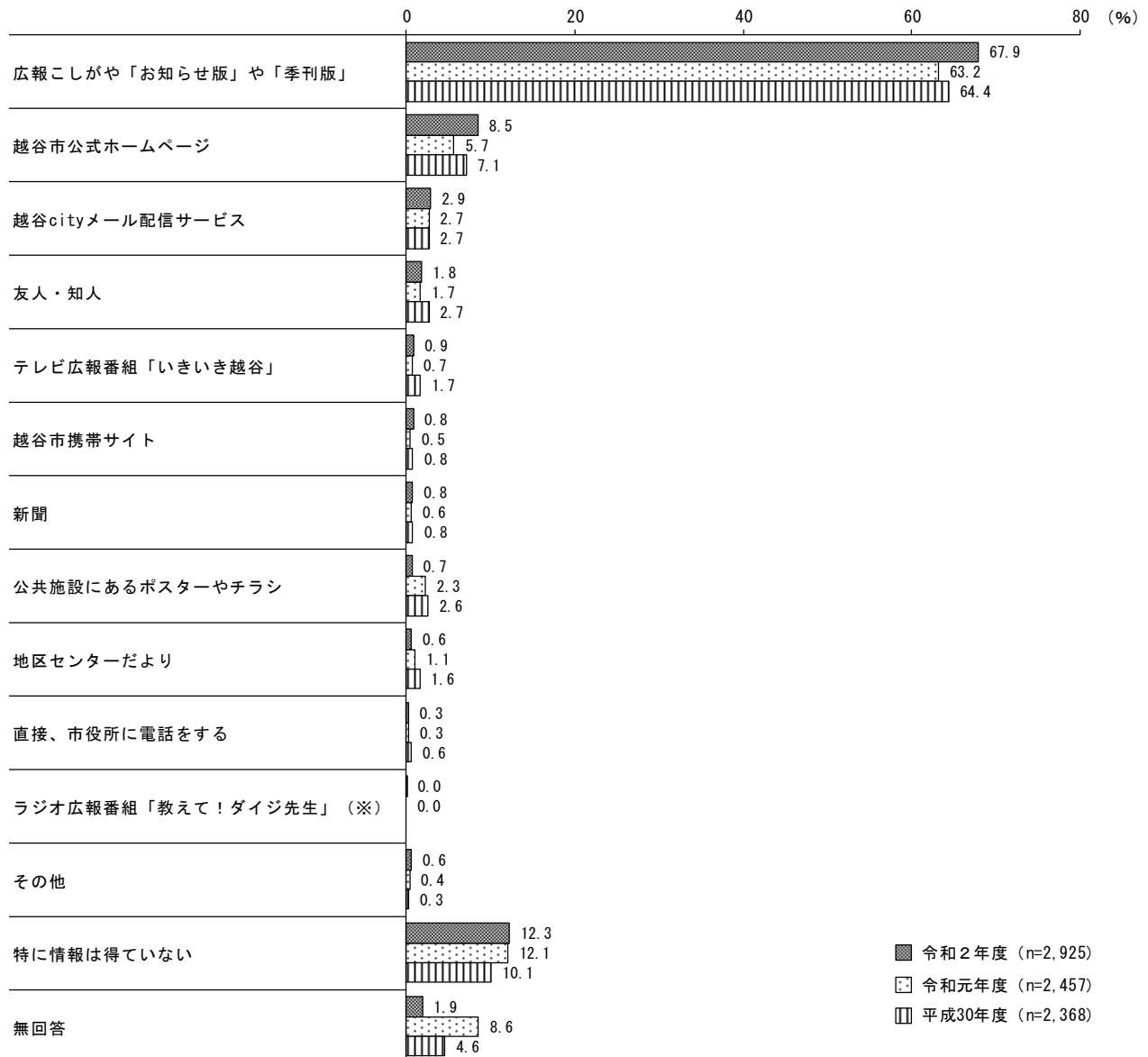
14. 広報について

(1) 市政情報を得ているもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が最も多く、7割弱

問47. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

図表 14-1-1 市政情報を得ているもの



(※) 平成30年度調査は選択肢なし

市政情報を得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(67.9%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(8.5%)、「越谷cityメール配信サービス」(2.9%)、「友人・知人」(1.8%)、「テレビ広報番組『いきいき越谷』」(0.9%)の順となっている。一方、「特に情報は得ていない」(12.3%)は1割強となっている。

過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が6割以上で突出する傾向が続いている。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（69.8%）が男性（65.1%）を4.7ポイント上回っており、「越谷 city メール配信サービス」も女性（4.2%）が男性（1.4%）より多くなっている。一方、「特に情報は得ていない」は男性（15.9%）が女性（9.6%）を6.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性30歳代以上（54.4%、64.4%、73.4%、83.6%、83.9%）、男性40歳代以上（59.4%、65.5%、80.9%、82.4%）で5割を超え、突出して多くなっている。また、年代が上がるにつれ多くなる傾向にあり、60歳代以上で8割以上を占めている。一方、「特に情報は得ていない」は男性18～29歳（50.9%）で約5割を占め、女性18～29歳（31.8%）、男性30歳代（27.0%）も全体を1割以上上回っており、比較的若い年齢層で多くなっている。

図表 14-1-2 性・年齢別 市政情報を得ているもの

	調査数（人）	「広報こしがや「お知らせ版」や「季刊版」	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	友人・知人	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市携帯サイト	新聞	公共施設にあるポスターやチラシ	地区センターだより	直接、市役所に電話をする	「ラジオ広報番組「教えて！ダイジ先生」	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	2,925	67.9	8.5	2.9	1.8	0.9	0.8	0.8	0.7	0.6	0.3	0.0	0.6	12.3	1.9
女性全体	1,594	69.8	8.4	4.2	2.0	0.8	1.1	0.6	0.6	0.4	0.1	-	0.6	9.6	1.9
18～29歳	157	32.5	19.1	3.2	6.4	1.3	-	0.6	2.5	-	-	-	2.5	31.8	-
30～39歳	204	54.4	18.6	7.8	0.5	-	2.0	0.5	0.5	-	-	-	1.0	14.7	-
40～49歳	281	64.4	10.0	10.3	2.1	1.1	2.1	-	0.4	-	-	-	0.7	7.8	1.1
50～59歳	256	73.4	10.9	3.5	0.4	1.2	1.6	0.4	0.4	0.8	-	-	-	7.4	-
60～69歳	268	83.6	3.0	1.9	1.5	1.1	0.7	0.4	0.7	0.7	-	-	-	3.7	2.6
70歳以上	423	83.9	0.5	0.5	2.4	0.2	0.2	1.2	-	0.7	0.2	-	0.5	4.7	5.0
男性全体	1,216	65.1	8.9	1.4	1.7	1.1	0.6	1.1	0.9	0.9	0.4	-	0.6	15.9	1.5
18～29歳	112	18.8	12.5	0.9	8.0	0.9	2.7	0.9	1.8	0.9	-	-	1.8	50.9	-
30～39歳	137	45.3	18.2	2.2	1.5	2.2	0.7	0.7	-	-	-	-	2.2	27.0	-
40～49歳	212	59.4	13.7	2.8	1.4	0.5	1.4	0.5	1.9	0.5	0.9	-	-	17.0	-
50～59歳	203	65.5	11.8	2.0	1.0	1.5	-	0.5	-	1.5	-	-	1.0	13.8	1.5
60～69歳	225	80.9	4.9	0.9	0.9	0.9	-	1.3	1.8	0.4	-	-	-	6.7	1.3
70歳以上	323	82.4	1.2	0.3	0.9	0.9	-	1.9	0.3	1.5	0.9	-	-	5.9	3.7

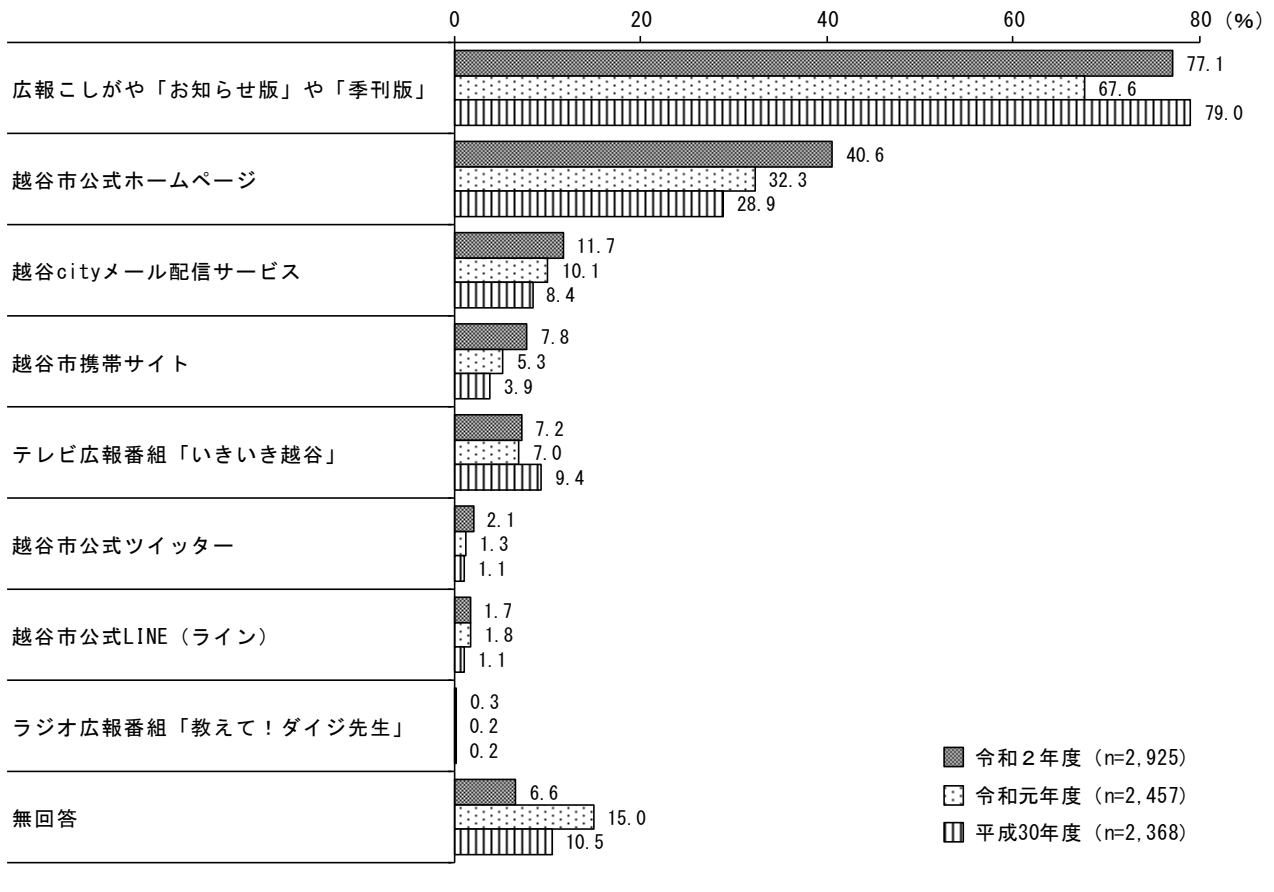
(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が最も多く、8割弱

問 48. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。

(複数回答可)

図表 14-2-1 市政情報を得るために活用したことがあるもの



市政情報を得るために活用したことがあるものは、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(77.1%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(40.6%)、「越谷 city メール配信サービス」(11.7%)、「越谷市携帯サイト」(7.8%)、「テレビ広報番組『いきいき越谷』」(7.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「越谷市公式ホームページ」、「越谷 city メール配信サービス」、「越谷市携帯サイト」は増加傾向にあり、「越谷市公式ホームページ」は令和元年度調査(32.3%)と比べ8.3ポイント増加している。また、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」も令和元年度調査(67.6%)と比べ9.5ポイント増加している。

性別でみると、「越谷 city メール配信サービス」は女性（15.7%）が男性（6.9%）を8.8ポイント上回っており、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」（女性79.4%、男性74.0%）、「越谷市携帯サイト」（女性9.6%、男性5.8%）も女性が男性より多くなっている。一方、「越谷市公式ホームページ」は男性（43.8%）が女性（39.6%）を4.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性30歳代以上（69.6%、76.2%、85.2%、89.2%、91.0%）と男性40歳代以上（72.2%、72.4%、88.4%、89.2%）は「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」、女性18～29歳（57.3%）と男性18～29歳・30歳代（50.9%、59.9%）は「越谷市公式ホームページ」が最も多くなっている。「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は高齢層で多くなる傾向にあるが、「越谷市公式ホームページ」は60歳代以上で男女とも少なくなっている。また、「越谷 city メール配信サービス」、「越谷市携帯サイト」は女性30歳代～50歳代（前者26.5%、36.3%、19.9%、後者16.2%、16.4%、13.3%）で多くなっており、前者は特に女性40歳代（36.3%）で全体を24.6ポイント上回っている。

図表 14-2-2 性・年齢別 市政情報を得るために活用したことがあるもの

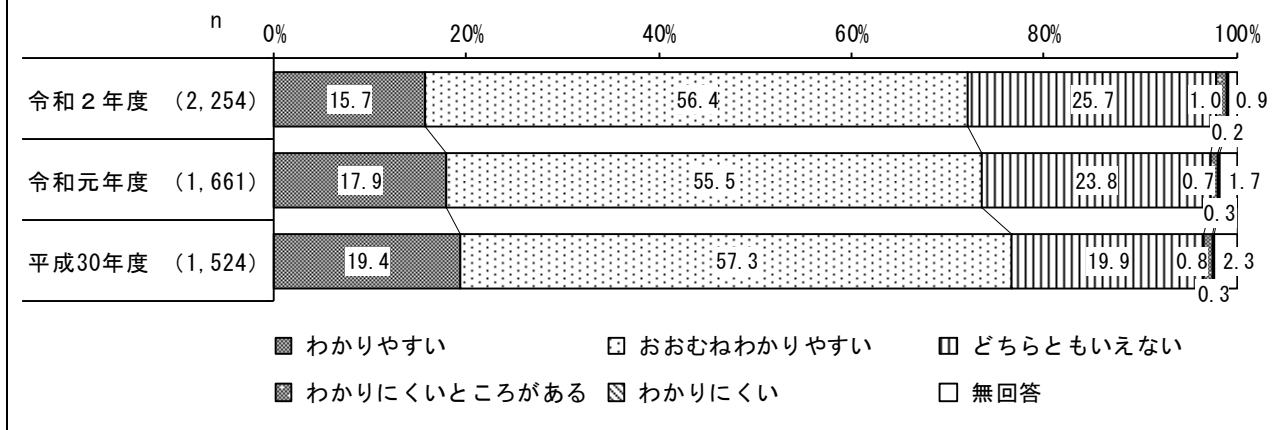
	調査数（人）	「広報こしがや「お知らせ版」や「季刊版」	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	越谷市携帯サイト	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ツイッター	越谷市公式LINE（ライン）	「ラジオ広報番組「教えて！ダイジ先生」	無回答
全体	2,925	77.1	40.6	11.7	7.8	7.2	2.1	1.7	0.3	6.6
女性全体	1594	79.4	39.6	15.7	9.6	7.0	2.1	1.9	0.2	5.7
18～29歳	157	42.0	57.3	7.0	8.9	5.1	9.6	3.8	0.6	14.6
30～39歳	204	69.6	66.7	26.5	16.2	2.5	2.5	2.5	-	3.4
40～49歳	281	76.2	55.5	36.3	16.4	4.3	2.1	3.2	0.4	3.2
50～59歳	256	85.2	52.3	19.9	13.3	6.6	1.6	2.7	-	2.0
60～69歳	268	89.2	28.4	6.3	6.0	10.1	0.7	1.1	0.4	5.2
70歳以上	423	91.0	9.2	3.3	2.4	9.7	0.2	0.2	-	7.8
男性全体	1216	74.0	43.8	6.9	5.8	7.6	2.0	1.5	0.4	7.0
18～29歳	112	30.4	50.9	3.6	9.8	2.7	7.1	1.8	0.9	19.6
30～39歳	137	56.2	59.9	11.7	10.9	8.0	8.0	4.4	0.7	9.5
40～49歳	212	72.2	56.6	15.6	9.9	3.3	1.9	1.9	-	2.8
50～59歳	203	72.4	59.1	5.9	6.4	5.9	-	2.5	0.5	4.9
60～69歳	225	88.4	40.0	5.3	4.0	9.8	-	0.4	0.4	3.6
70歳以上	323	89.2	19.2	2.2	0.6	11.1	0.3	-	0.3	7.7

(3) 広報こしがや『お知らせ版』の感想

◇『わかりやすい』が7割強

問 49. 広報こしがや「お知らせ版」について伺います。「お知らせ版」の感想を選んでください。(〇は1つ)

図表 14-3-1 広報こしがや『お知らせ版』の感想



市政情報を得るために「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」を活用したことがあると回答した2,254人に、広報こしがや『お知らせ版』の感想について聞いたところ、「わかりやすい」(15.7%)と「おおむねわかりやすい」(56.4%)を合わせた『わかりやすい』(72.1%)は7割強となっている。

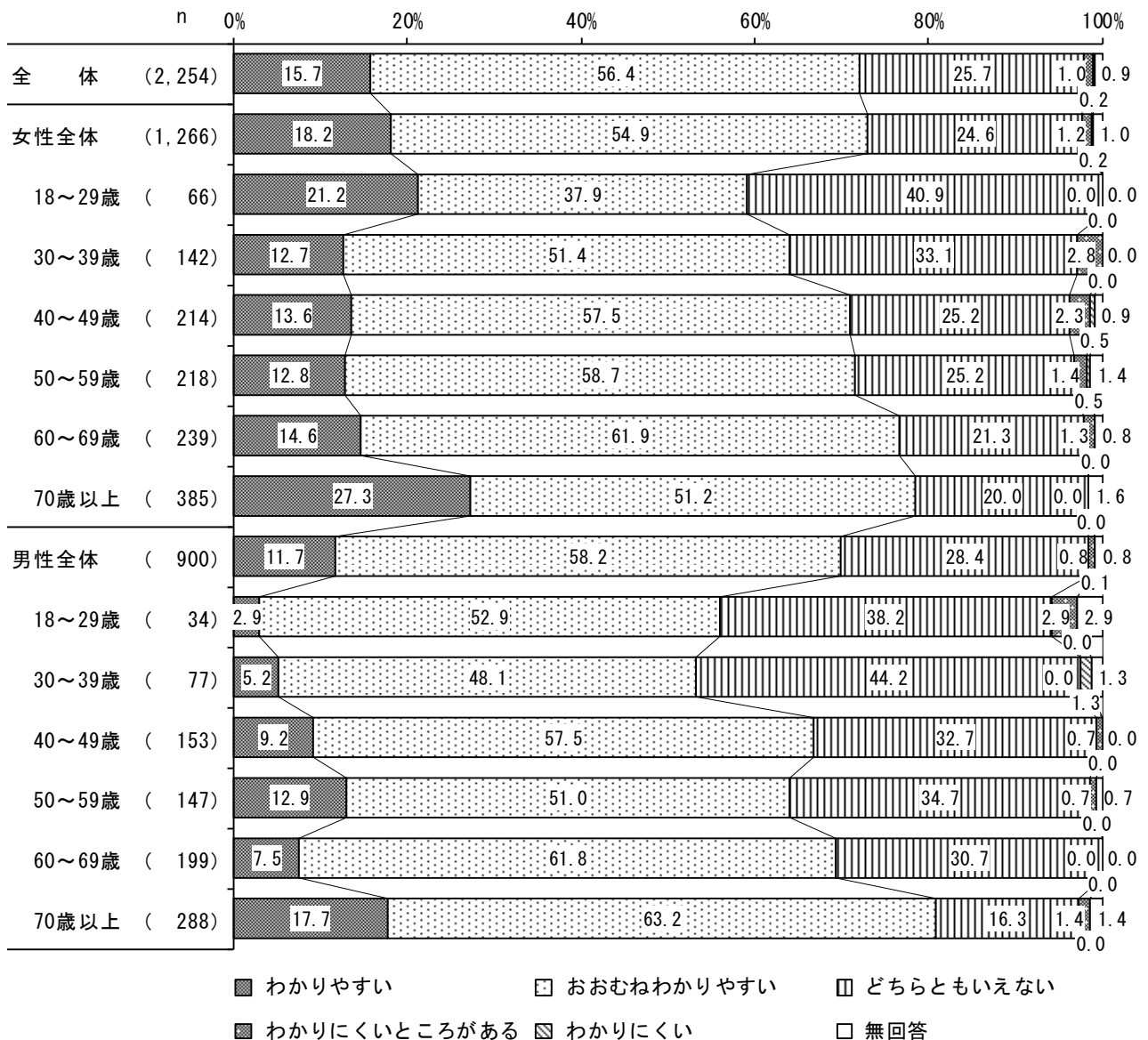
一方、「わかりにくいところがある」(1.0%)と「わかりにくい」(0.2%)を合わせた『わかりにくい』(1.2%)は1割未満となっている。

過去2回の調査と比較すると、『わかりやすい』は減少傾向にあり、令和元年度調査(73.4%)と比べ1.3ポイント減少している。

性別でみると、『わかりやすい』は女性（73.1%）が男性（69.9%）を3.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『わかりやすい』は男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、男性70歳以上（80.9%）は約8割となっている。一方、女性18～29歳（59.1%）、男性18～29歳・30歳代（55.9%、53.2%）は5割台となっている。また、『わかりにくい』はすべての年齢で1割未満となっている。

図表 14-3-2 性・年齢別 広報こしがや『お知らせ版』の感想



(4) 広報こしがや『お知らせ版』のわかりにくい点

◇「紙面構成・レイアウトの課題」「情報の質」など

問 49-2. 問 49 で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。

図表 14-4-1 広報こしがや『お知らせ版』のわかりにくい点

内容	件数
紙面構成・レイアウトの課題	18
紙面がわかりづらい、読みづらい	8
文字が小さい、多すぎる	5
言葉遣いが難解、主旨が伝わりにくい	5
情報の質	8
ほしい情報がない、情報不足	5
情報が古い、不正確な情報	2
情報過多	1
その他	3

広報こしがや『お知らせ版』が『わかりにくい』と回答した 27 人に、その理由を尋ねたところ、「紙面構成・レイアウトの課題」（読みづらい、文字が小さいなど）が 18 件で最も多く、「情報の質」（ほしい情報がない、情報が古いなど）が 8 件、「その他」が 3 件となっている。

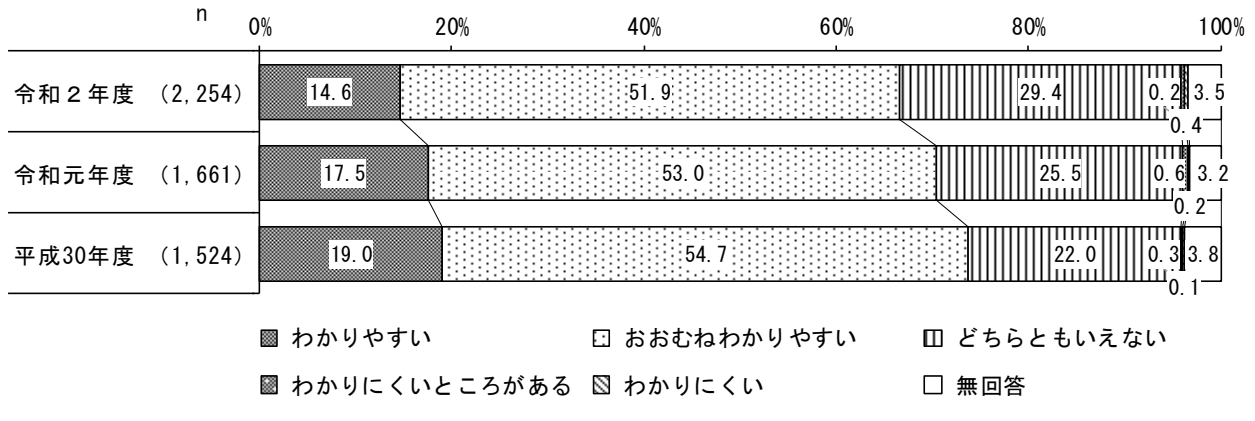
(5) 広報こしがや『季刊版』の感想

◇『わかりやすい』が6割半ば

問 50. 広報こしがや「季刊版」について伺います。「季刊版」の感想を選んでください。

(〇は1つ)

図表 14-5-1 広報こしがや『季刊版』の感想



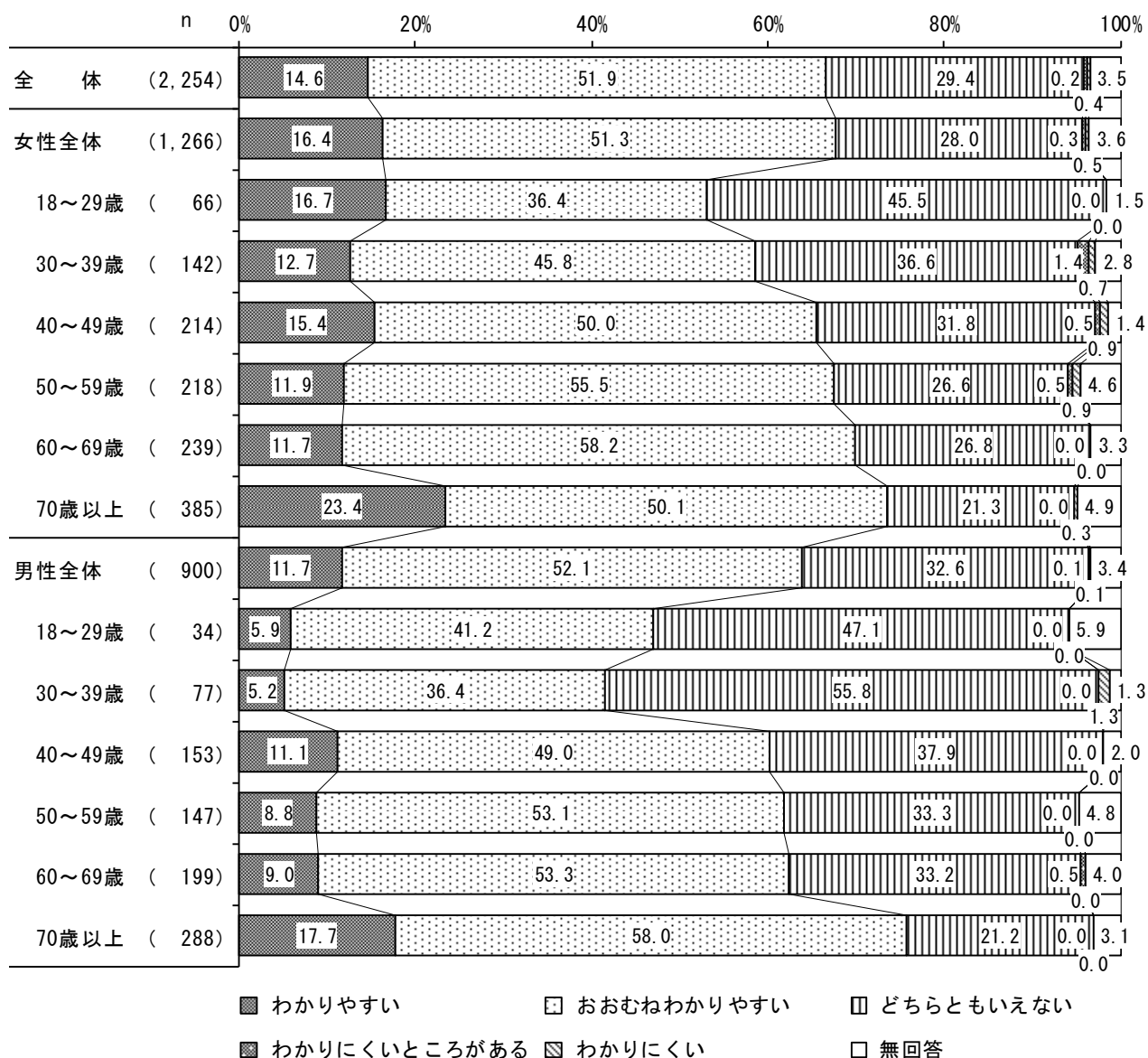
市政情報を得るために「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」を活用したことがあると回答した2,254人に、広報こしがや『季刊版』の感想について聞いたところ、「わかりやすい」(14.6%)と「おおむねわかりやすい」(51.9%)を合わせた『わかりやすい』(66.5%)は6割半ばとなっている。一方、「わかりにくいところがある」(0.2%)と「わかりにくい」(0.4%)を合わせた『わかりにくい』(0.6%)は1割未満となっている。

過去2回の調査と比較すると、『わかりやすい』は減少傾向にあり、令和元年度調査(70.5%)と比べ4.0ポイント減少している。

性別でみると、『わかりやすい』は女性（67.7%）が男性（63.8%）を3.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『わかりやすい』は男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上（女性73.5%、男性75.7%）では7割台となっている。一方、男性18～29歳・30歳代（47.1%、41.6%）は4割台、女性18～29歳・30歳代（53.0%、58.5%）は5割台と低くなっている。また、『わかりにくい』はすべての年齢で1割未満となっている。

図表 14-5-2 性・年齢別 広報こしがや『季刊版』の感想



(6) 広報こしがや『季刊版』のわかりにくい点

◇「紙面構成・レイアウトの課題」など

問 50-2. 問 50 で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。

図表 14-6-1 広報こしがや『季刊版』のわかりにくい点

内容	件数
紙面構成・レイアウトの課題	7
季刊版としての特徴がない、見た目の改善が必要	3
文章がわかりづらい	2
カラーページは不要	1
文字が細かい	1
その他	2

広報こしがや『季刊版』が『わかりにくい』と回答した 13 人に、その理由を尋ねたところ、「紙面構成・レイアウトの課題」（季刊版としての特徴がない、見た目の改善が必要など）が 7 件、「その他」は 2 件となっている。

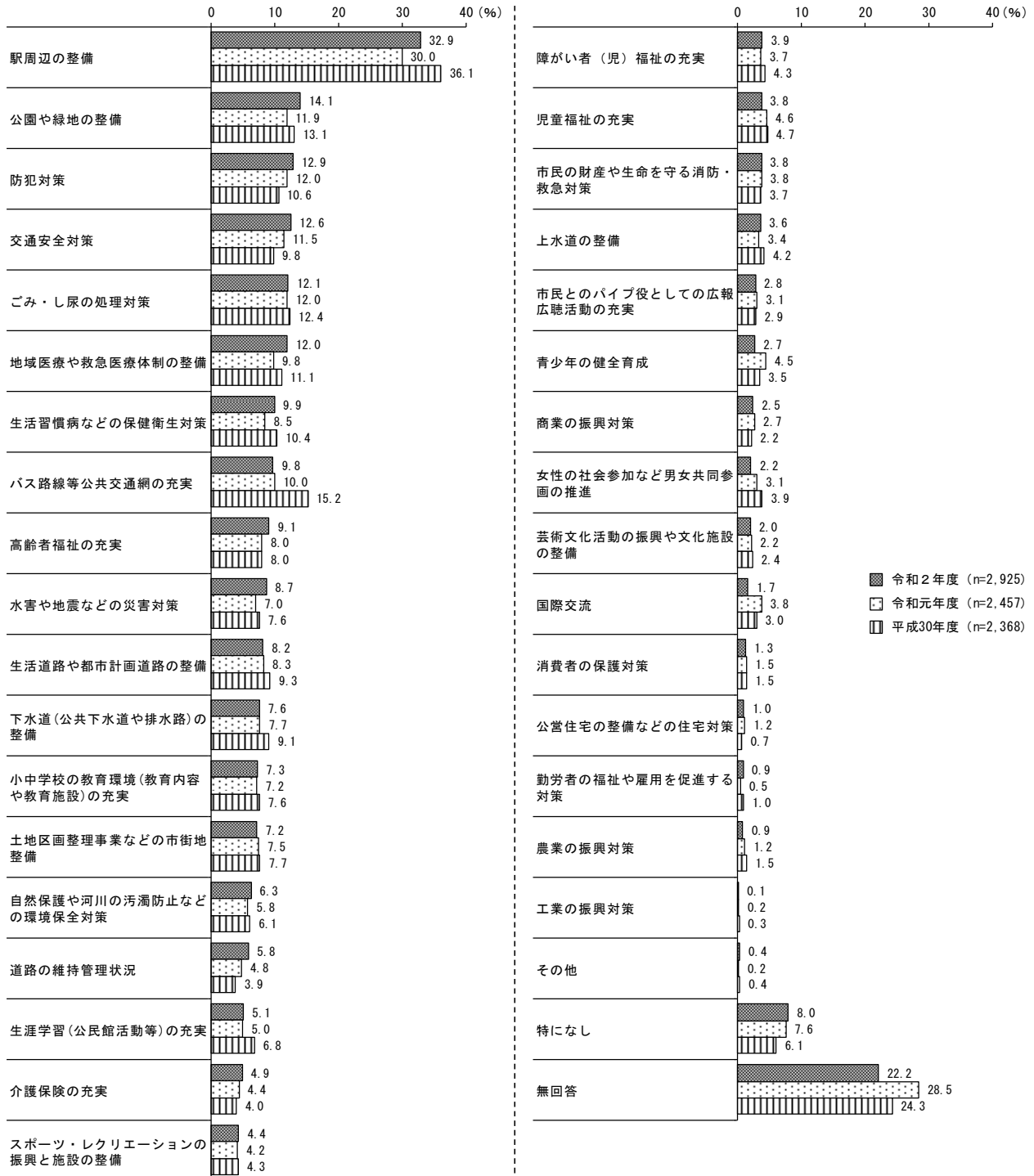
15. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が最も多く、3割強

問 51. 市では様々な施策を進めています。ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 15-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」(32.9%)が最も多く、次いで「公園や緑地の整備」(14.1%)、「防犯対策」(12.9%)、「交通安全対策」(12.6%)、「ごみ・し尿の処理対策」(12.1%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「駅周辺の整備」(32.9%)が3割以上を占め、2位以下の倍以上多くなっている。

性別でみると、「防犯対策」は男性(15.5%)が女性(11.1%)を4.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女とも全ての年齢で「駅周辺の整備」が最も多くなっており、女性70歳以上(25.5%)、男性30歳代(29.9%)、男性70歳以上(27.9%)を除き3割以上となっている。「公園や緑地の整備」は女性40歳代～60歳代と男性40歳代～50歳代で2番目、男性30歳代で3番目に多く、女性60歳代(21.6%)は約2割を占めている。また、「防犯対策」、「交通安全対策」は男性70歳以上(前者20.1%、後者20.4%)、「ごみ・し尿の処理対策」は女性70歳以上(20.1%)で2割以上と他の年齢に比べ多くなっている。

図表 15-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,925)	駅周辺の整備 32.9	公園や緑地の整備 14.1	防犯対策 12.9	交通安全対策 12.6	ごみ・し尿の処理対策 12.1
女性全体 (1,594)	駅周辺の整備 32.4	公園や緑地の整備 14.4	地域医療や救急医療体制の整備 13.2	ごみ・し尿の処理対策 12.3	防犯対策 11.1
18～29歳 (157)	駅周辺の整備 38.2	交通安全対策 15.9	生活道路や都市計画道路の整備 13.4	水害や地震などの災害対策 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実	11.5
30～39歳 (204)	駅周辺の整備 31.9	交通安全対策 13.2	地域医療や救急医療体制の整備 12.7	生活道路や都市計画道路の整備 9.8	防犯対策 バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備 水害や地震などの災害対策 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 8.8
40～49歳 (281)	駅周辺の整備 38.1	公園や緑地の整備 14.9	地域医療や救急医療体制の整備 13.9	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 13.2	防犯対策 10.7
50～59歳 (256)	駅周辺の整備 32.4	公園や緑地の整備 12.1	地域医療や救急医療体制の整備 高齢者福祉の充実 バス路線等公共交通網の充実		10.9
60～69歳 (268)	駅周辺の整備 34.0	公園や緑地の整備 21.6	地域医療や救急医療体制の整備 18.3	ごみ・し尿の処理対策 16.4	生活習慣病などの保健衛生対策 15.3
70歳以上 (423)	駅周辺の整備 25.5	ごみ・し尿の処理対策 20.1	生活習慣病などの保健衛生対策 16.8	公園や緑地の整備 14.4	バス路線等公共交通網の充実 13.9
男性全体 (1,216)	駅周辺の整備 34.1	防犯対策 交通安全対策	15.5	公園や緑地の整備 14.1	ごみ・し尿の処理対策 12.3
18～29歳 (112)	駅周辺の整備 37.5	防犯対策 16.1	交通安全対策 12.5	生活道路や都市計画道路の整備 10.7	道路の維持管理状況 公園や緑地の整備 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 8.9
30～39歳 (137)	駅周辺の整備 29.9	ごみ・し尿の処理対策 12.4	交通安全対策 土地区画整理事業などの市街地整備 公園や緑地の整備		11.7
40～49歳 (212)	駅周辺の整備 41.0	公園や緑地の整備 17.0	防犯対策 13.7	土地区画整理事業などの市街地整備 13.2	地域医療や救急医療体制の整備 11.8
50～59歳 (203)	駅周辺の整備 39.4	公園や緑地の整備 13.3	交通安全対策 バス路線等公共交通網の充実		防犯対策 12.3
60～69歳 (225)	駅周辺の整備 33.3	交通安全対策 18.2	防犯対策 16.0	公園や緑地の整備 14.7	生活習慣病などの保健衛生対策 14.2
70歳以上 (323)	駅周辺の整備 27.9	交通安全対策 20.4	防犯対策 20.1	ごみ・し尿の処理対策 17.6	高齢者福祉の充実 15.8

第4章 調査結果の詳細

居住地区別でみると、全ての地区で「駅周辺の整備」が最も多くなっている。特に越ヶ谷地区(38.7%)は5.8ポイント、北越谷地区(37.4%)は4.5ポイント全体を上回っている。「公園や緑地の整備」は増林地区(19.3%)をはじめ6地区で2番目に多くなっている。また、「防犯対策」は川柳地区(17.1%)、荻島地区(15.5%)、桜井地区(14.7%)、「交通安全対策」は新方地区(19.5%)と越ヶ谷地区(13.2%)、「地域医療や救急医療体制の整備」、「水害や地震などの災害対策」は出羽地区(12.1%：同率)、「バス路線等公共交通網の充実」は蒲生地区(14.7%)でそれぞれ2番目に多くなっている。加えて、新方地区は「防犯対策」(18.8%)、「水害や地震などの災害対策」(16.5%)、川柳地区は「バス路線等公共交通網の充実」(15.8%)が全体を5ポイント以上上回っている。

図表 15-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

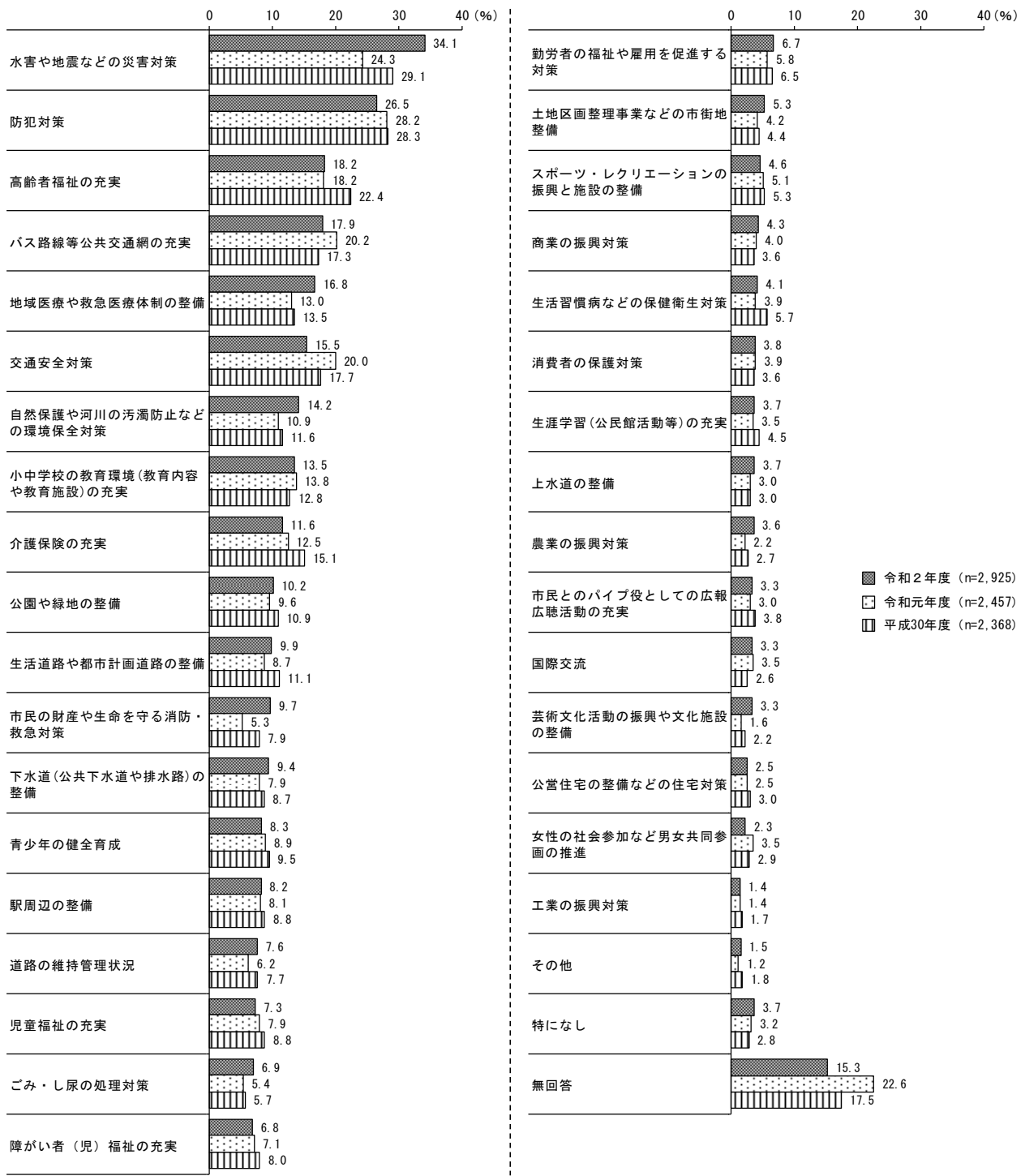
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,925)	駅周辺の整備 32.9	公園や緑地の整備 14.1	防犯対策 12.9	交通安全対策 12.6	ごみ・し尿の処理対策 12.1
桜井地区 (306)	駅周辺の整備 28.4	防犯対策 14.7	交通安全対策 ごみ・し尿の処理対策	地域医療や救急医療体制の整備 13.7	地域医療や救急医療体制の整備 12.4
新方地区 (133)	駅周辺の整備 28.6	交通安全対策 19.5	防犯対策 18.8	水害や地震などの災害対策 16.5	地域医療や救急医療体制の整備 15.8
増林地区 (223)	駅周辺の整備 30.5	公園や緑地の整備 19.3	地域医療や救急医療体制の整備 16.1	ごみ・し尿の処理対策 14.8	生活習慣病などの保健衛生対策 13.5
大袋地区 (468)	駅周辺の整備 35.5	公園や緑地の整備 16.7	ごみ・し尿の処理対策 15.8	防犯対策 交通安全対策	14.3
荻島地区 (116)	駅周辺の整備 32.8	防犯対策 15.5	生活習慣病などの保健衛生対策 12.9	高齢者福祉の充実 公園や緑地の整備 ごみ・し尿の処理対策	12.1
出羽地区 (224)	駅周辺の整備 30.8	地域医療や救急医療体制の整備 水害や地震などの災害対策	生活習慣病などの保健衛生対策 12.1	生活習慣病などの保健衛生対策 下水道(公共下水道や排水路)の整備 ごみ・し尿の処理対策	11.6
蒲生地区 (348)	駅周辺の整備 32.2	バス路線等公共交通網の充実 14.7	地域医療や救急医療体制の整備 11.8	防犯対策 10.9	交通安全対策 10.3
川柳地区 (76)	駅周辺の整備 28.9	防犯対策 17.1	地域医療や救急医療体制の整備 バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備	15.8	15.8
大相模地区 (216)	駅周辺の整備 32.9	公園や緑地の整備 19.0	交通安全対策 15.3	地域医療や救急医療体制の整備 14.4	生活道路や都市計画道路の整備 13.0
大沢地区 (165)	駅周辺の整備 33.9	公園や緑地の整備 18.8	ごみ・し尿の処理対策 15.8	防犯対策 15.2	地域医療や救急医療体制の整備 13.3
北越谷地区 (107)	駅周辺の整備 37.4	公園や緑地の整備 18.7	防犯対策 14.0	地域医療や救急医療体制の整備 11.2	交通安全対策 生活習慣病などの保健衛生対策 ごみ・し尿の処理対策 9.3
越ヶ谷地区 (310)	駅周辺の整備 38.7	交通安全対策 13.2	公園や緑地の整備 12.3	地域医療や救急医療体制の整備 11.9	防犯対策 11.6
南越谷地区 (222)	駅周辺の整備 32.9	公園や緑地の整備 14.9	地域医療や救急医療体制の整備 12.2	防犯対策 ごみ・し尿の処理対策	11.3

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「水害や地震などの災害対策」が最も多く、3割半ば

問51. 市では様々な施策を進めています。ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 15-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



第4章 調査結果の詳細

市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「水害や地震などの災害対策」(34.1%)が最も多く、次いで「防犯対策」(26.5%)、「高齢者福祉の充実」(18.2%)、「バス路線等公共交通網の充実」(17.9%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(16.8%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「水害や地震などの災害対策」(34.1%)は令和元年度調査(24.3%)と比べ、9.8ポイント増加している。また、令和元年度調査と比べ「地域医療や救急医療体制の整備」(16.8%)は3.8ポイント、「自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策」(14.2%)は3.3ポイント、「市民の財産や生命を守る消防・救急対策」(9.7%)は4.4ポイントそれぞれ増加している。一方、「交通安全対策」(15.5%)は令和元年度調査(20.0%)と比べ4.5ポイント減少している。

性別でみると、上位2項目は男女ともに「水害や地震などの災害対策」、「防犯対策」となっており、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「水害や地震などの災害対策」は女性30歳代以上、男性40歳代、男性60歳代以上、「防犯対策」は女性18～29歳、男性18～29歳・30歳代、男性50歳代でそれぞれ最も多くなっている。「水害や地震などの災害対策」は男女とも全ての年齢で2位以内、「防犯対策」は18～29歳・30歳代～50歳代で2位以内となっているが、60歳代以上は男女とも「高齢者福祉の充実」が2番目に多くなっている。また、「交通安全対策」は女性30歳代、男性40歳代、「地域医療や救急医療体制の整備」は女性50歳代～60歳代、男性60歳代、「バス路線等公共交通網の充実」は女性18～29歳、女性40歳代、女性60歳代以上、「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」は女性30歳代～40歳代、男性30歳代で2割を超え、多くなっている。

図表 15-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (2,925)	水害や地震などの災害対策 34.1	防犯対策 26.5	高齢者福祉の充実 18.2	バス路線等公共交通網の充実 17.9	地域医療や救急医療体制の整備 16.8
女性全体 (1,594)	水害や地震などの災害対策 34.6	防犯対策 26.7	バス路線等公共交通網の充実 20.7	高齢者福祉の充実 17.8	地域医療や救急医療体制の整備 17.8
18～29歳 (157)	防犯対策 28.7	水害や地震などの災害対策 26.1	バス路線等公共交通網の充実 21.7	交通安全対策 19.1	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 17.2
30～39歳 (204)	水害や地震などの災害対策 33.3	防犯対策 28.9	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 28.4	交通安全対策 20.6	地域医療や救急医療体制の整備 17.6
40～49歳 (281)	水害や地震などの災害対策 34.9	防犯対策 33.5	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 25.6	バス路線等公共交通網の充実 22.4	地域医療や救急医療体制の整備 19.2
50～59歳 (256)	水害や地震などの災害対策 36.3	防犯対策 30.1	地域医療や救急医療体制の整備 20.7	高齢者福祉の充実 19.9	バス路線等公共交通網の充実 18.4
60～69歳 (268)	水害や地震などの災害対策 35.1	高齢者福祉の充実 23.9	バス路線等公共交通網の充実 21.6	防犯対策 20.9	地域医療や救急医療体制の整備 20.1
70歳以上 (423)	水害や地震などの災害対策 36.6	高齢者福祉の充実 25.3	防犯対策 21.7	バス路線等公共交通網の充実 21.3	介護保険の充実 18.9
男性全体 (1,216)	水害や地震などの災害対策 34.0	防犯対策 27.1	高齢者福祉の充実 18.8	交通安全対策 17.0	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 16.1
18～29歳 (112)	防犯対策 23.2	水害や地震などの災害対策 19.6	バス路線等公共交通網の充実 16.1	交通安全対策 15.2	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 15.2
30～39歳 (137)	防犯対策 28.5	水害や地震などの災害対策 27.7	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 21.2	交通安全対策 17.5	地域医療や救急医療体制の整備 11.7
40～49歳 (212)	水害や地震などの災害対策 37.7	防犯対策 27.4	交通安全対策 21.7	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 18.9	公園や緑地の整備 17.5
50～59歳 (203)	防犯対策 39.9	水害や地震などの災害対策 34.5	高齢者福祉の充実 21.2	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 19.2	地域医療や救急医療体制の整備 18.2
60～69歳 (225)	水害や地震などの災害対策 40.9	高齢者福祉の充実 28.0	防犯対策 26.2	地域医療や救急医療体制の整備 21.3	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 19.1
70歳以上 (323)	水害や地震などの災害対策 34.4	高齢者福祉の充実 26.0	防犯対策 20.1	バス路線等公共交通網の充実 18.3	地域医療や救急医療体制の整備 18.0

居住地区別でみると、川柳地区は「バス路線等公共交通網の充実」(30.3%)、南越谷地区は「防犯対策」(33.8%)、それ以外の11地区は「水害や地震などの災害対策」が最も多くなっている。「水害や地震などの災害対策」は南越谷地区(32.0%)でも2番目に多く、新方地区(46.6%)を筆頭に9地区で3割以上を占めている。「防犯対策」は10地区で2位以内となっており、南越谷地区(33.8%)、大相模地区(30.1%)、増林地区(30.0%)は3割以上を占めている。「バス路線等公共交通網の充実」は新方地区(38.3%)、荻島地区(24.1%)でも2位を占め、2地区で3割台、4地区で2割台となっている。また、「地域医療や救急医療体制の整備」は大袋地区(20.7%)、「高齢者福祉の充実」は新方地区(21.1%)、大袋地区(20.7%)、川柳地区(23.7%)、大沢地区(27.3%)、越ヶ谷地区(20.6%)、「介護保険の充実」は川柳地区(21.1%)でそれぞれ2割台となっている。

図表 15-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,925)	水害や地震などの災害対策 34.1	防犯対策 26.5	高齢者福祉の充実 18.2	バス路線等公共交通網の充実 17.9	地域医療や救急医療体制の整備 16.8
桜井地区 (306)	水害や地震などの災害対策 35.3	防犯対策 24.5	バス路線等公共交通網の充実 21.2	高齢者福祉の充実 18.0	交通安全対策 14.4 地域医療や救急医療体制の整備
新方地区 (133)	水害や地震などの災害対策 46.6	バス路線等公共交通網の充実 38.3	防犯対策 22.6	高齢者福祉の充実 21.1	地域医療や救急医療体制の整備 19.5
増林地区 (223)	水害や地震などの災害対策 38.6	防犯対策 30.0	バス路線等公共交通網の充実 17.9	交通安全対策 17.5	自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策 17.0
大袋地区 (468)	水害や地震などの災害対策 38.2	防犯対策 23.9	地域医療や救急医療体制の整備 高齢者福祉の充実	20.7	バス路線等公共交通網の充実 16.7
荻島地区 (116)	水害や地震などの災害対策 33.6	バス路線等公共交通網の充実 24.1	防犯対策 20.7	地域医療や救急医療体制の整備 19.0	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 18.1
出羽地区 (224)	水害や地震などの災害対策 33.0	防犯対策 28.1	バス路線等公共交通網の充実 23.2	交通安全対策 17.0	下水道(公共下水道や排水路)の 整備 15.6
蒲生地区 (348)	水害や地震などの災害対策 27.6	防犯対策 26.4	地域医療や救急医療体制の整備 19.0	高齢者福祉の充実 17.0	自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策 16.7
川柳地区 (76)	バス路線等公共交通網の充実 30.3	高齢者福祉の充実 23.7	介護保険の充実 21.1	交通安全対策 19.7	防犯対策 18.4
大相模地区 (216)	水害や地震などの災害対策 36.6	防犯対策 30.1	バス路線等公共交通網の充実 21.8	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 19.9	交通安全対策 18.1
大沢地区 (165)	水害や地震などの災害対策 38.8	防犯対策 28.5	高齢者福祉の充実 27.3	交通安全対策 18.2	地域医療や救急医療体制の整備 14.5
北越谷地区 (107)	水害や地震などの災害対策 29.0	防犯対策 23.4	自然保護や河川の汚濁防止などの 環境保全対策 17.8	地域医療や救急医療体制の整備 16.8	交通安全対策 15.0
越ヶ谷地区 (310)	水害や地震などの災害対策 29.4	防犯対策 27.1	高齢者福祉の充実 20.6	地域医療や救急医療体制の整備 16.5	交通安全対策 13.9
南越谷地区 (222)	防犯対策 33.8	水害や地震などの災害対策 32.0	高齢者福祉の充実 18.9	交通安全対策 18.5	小中学校の教育環境(教育内容 や教育施設)の充実 17.6

(3) 自由回答

問 52. 問 51 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は 1,378 件（意見等合計 2,167 件）であった。
これを下記のとおり「第4次越谷市総合振興計画後期基本計画」の項目ごとに整理した。

		件数
大綱 1. 市民とつくる住みよい自治のまちづくり	市民参加と協働による市政を進める	55
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	22
	健全で開かれた都市経営を進める	123
大綱 2. だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	5
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	141
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	73
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	33
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	101
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	19
大綱 3. 自然と調和し質の高い都市機能を備えたまちづくり	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	48
	越谷らしい景観をつくる	21
	地域を支える道路・交通環境をつくる	358
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	89
	安全で良好な水環境をつくる	224
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	15
大綱 4. 人や環境にやさしく安全・安心な生活を育むまちづくり	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	114
	安全・安心に暮らせるまちにする	334
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	5
大綱 5. 安心して働ける環境を育む持続的で躍動するまちづくり	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	8
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	52
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	0
	持続的に農業が行われる環境をつくる	13
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	20
大綱 6. いきいきとだれもが学べる心豊かなまちづくり	生きる力を育む学校教育を進める	119
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	29
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	26
その他		120

総計 2,167

大綱	区分	内容	件数
1	市民参加と協働による市政を進める	市政への市民参加を進める	2
		市民との協働のまちづくりを進める	18
		情報を提供し、市民との共有を図る	35
		計	55
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	相手を思いやる人権意識を高める	4
		人権教育を進める	4
		男女共同参画社会を進める	6
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	7
		平和への意識を高める	1
	計	22	
	健全で開かれた都市経営を進める	効率的かつ効果的な行政運営を進める	81
		行財政運営の健全化を進める	42
		都市間の連携強化を進める	0
		計	123

大綱	区分	内容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	5
		計	5
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	地域医療体制の充実を図る	90
		市民の健康づくりを推進する	6
		保健衛生体制の充実を図る	45
	計	141	
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	地域の中で子育てを支える	28
		地域の中で子どもが自ら育つ環境をつくる	12
		次世代を担う子どもたちのために育てやすい環境をつくる	33
	計	73	
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	8
		在宅サービスを受ける人、支える人のすべてを支援し、自立できる社会をつくる	9
		地域生活を支え社会参加を促進する	10
		円滑な移動を可能とする人にやさしい環境をつくる	6
	計	33	
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	30
		健康づくりと介護予防を進める	11
		介護保険制度の充実を図る	41
		高齢者を支える地域をつくる	19
	計	101	
市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方へのサポート体制の充実に努める	12	
	医療保険制度の充実を図る	4	
	安定した生活を送るため年金制度を支援する	3	
計	19		

第4章 調査結果の詳細

大綱	区分	内容	件数
3	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	総合的な土地利用を進める	2
		活気ある市街地をつくる	29
		災害に強い都市をつくる	17
		計	48
	越谷らしい景観をつくる	景観に配慮したまちづくりを推進する	21
		協働による景観創造の仕組みをつくる	0
		計	21
	地域を支える道路・交通環境をつくる	道路の整備を図る	125
		道路施設等の適正管理を行う	72
		公共交通網の充実を図る	161
		計	358
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	13
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	60
		水辺を活かした快適な空間をつくる	16
		計	89
	安全で良好な水環境をつくる	雨水災害の対策を進める	175
		水質を保全し快適な生活環境をつくる	49
		安全な水を安定して確保する	0
		計	224
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	4
		住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る	11
計		15	

大綱	区分	内容	件数
4	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	環境に配慮した仕組みをつくる	7
		廃棄物の減量と適正な処理を進める	50
		やすらぎとうるおいのある環境を守り育てる	57
		計	114
	安全・安心に暮らせるまちにする	危機管理対策の充実を図る	74
		災害対策を進める	47
		地域の防犯力を高める	134
		交通事故防止対策を進める	78
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	1
		計	334
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動を展開する	1
		消防力の充実・強化を図る	1
		災害への対応力を強化する	0
		救急体制を充実させる	3
		消防団の充実・強化を図る	0
		計	5

大綱	区分	内 容	件数
5	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	既存産業の活性化を図る	3
		新たな産業を育成する	5
		計	8
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	魅力ある商店街の振興を図る	27
		にぎわいを生み出す観光を進める	25
		計	52
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	魅力あるものづくりを育て継承する	0
		計	0
	持続的に農業が行われる環境をつくる	首都近郊という地理的優位性を活かした都市農業の展開を支援する	10
		豊かな実りを生む農業の基盤を整える	1
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	2
		市民が農業を支える仕組みをつくる	0
		計	13
地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	雇用対策の充実を図る	17	
	勤労者福利厚生を支援する	3	
	計	20	

大綱	区分	内 容	件数
6	生きる力を育む学校教育を進める	自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む	44
		自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む	10
		信頼される、質の高い教育環境をつくる	65
		計	119
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	生涯を通じた学習活動を推進する	14
		芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する	15
		計	29
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	1
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る	9
		スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る	16
		計	26

大綱	区分	内 容	件数
その他		市政への激励・感謝	35
		アンケートについての意見・要望・感謝	29
		その他市政への要望・意見・感想	18
		住みよい街・活気のある街・好きな街	14
		上水道・都市ガスの整備、水道水の水質改善	8
		その他	16
		計	120

第5章 調査票

市政世論調査
調査票

令和2年6月

●ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。)
ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。
3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。
4. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。
5. 「その他〔 〕」に○をつけたときは、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて7月3日(金)までに、郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です。)

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市長公室 広報広聴課

電話 048-963-9117 (直通)

FAX 048-965-0943

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. 18～19歳 | 6. 40～44歳 | 11. 65～69歳 |
| 2. 20～24歳 | 7. 45～49歳 | 12. 70～74歳 |
| 3. 25～29歳 | 8. 50～54歳 | 13. 75歳以上 |
| 4. 30～34歳 | 9. 55～59歳 | |
| 5. 35～39歳 | 10. 60～64歳 | |

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------|--------------|-----------------------|
| 1. 農業 | 6. 製造関係自営業 | 11. 学生 |
| 2. 市内会社員 | 7. サービス関係自営業 | 12. 家事従業 |
| 3. 市外会社員 | 8. 自由業 | 13. パートタイマー (アルバイト含む) |
| 4. 小売店自営業 | 9. 公務員 | 14. その他 [] |
| 5. 建築関係自営業 | 10. 団体職員 | 15. 無職 (年金生活を含む) |

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 単身世帯 (ひとり暮らし) | 4. 三世帯世帯 (親と子と孫など) |
| 2. 一世帯世帯 (夫婦のみ、兄弟姉妹のみ) | 5. その他 [] |
| 3. 二世帯世帯 (親子など) | |

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 4. 5～10年未満 | 7. 20～30年未満 |
| 2. 1～3年未満 | 5. 10～15年未満 | 8. 30～40年未満 |
| 3. 3～5年未満 | 6. 15～20年未満 | 9. 40年以上 |

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 持ち家一戸建て | 6. 公団公社等賃貸マンション |
| 2. 民間借家一戸建て | 7. 社宅・官舎 |
| 3. 民間分譲マンション | 8. 間借り・下宿・寮・寄宿舎 |
| 4. 民間賃貸マンション・アパート | 9. 店舗・事務所併用住宅 |
| 5. 公団公社等分譲マンション | 10. その他 [] |

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)

※別添の「居住地区該当町表」(「市政世論調査ご協力のお願い」の裏面)をご参照ください

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. 桜井地区 | 6. 出羽地区 | 11. 北越谷地区 |
| 2. 新方地区 | 7. 蒲生地区 | 12. 越ヶ谷地区 |
| 3. 増林地区 | 8. 川柳地区 | 13. 南越谷地区 |
| 4. 大袋地区 | 9. 大相模地区 | |
| 5. 荻島地区 | 10. 大沢地区 | |

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問8. あなたが暮らしやすいと感じるまちはどのようなまちですか。(複数回答可)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 都心へのアクセスがよく交通の利便性が高いまち |
| 2. 病院や文化、教育施設が充実し生活の利便性が高いまち |
| 3. レジャー施設や商業施設、飲食店等が充実するなど娯楽性が高いまち |
| 4. 緑に囲まれ優れた都市景観があるなど住環境がよく快適性が高いまち |
| 5. 災害に強く犯罪が少ない安全性の高いまち |
| 6. 地域活動やコミュニティ活動が盛んで親密性の高いまち |
| 7. その他 [] |

問9. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 十分満足している | 4. まだまだ不満だ |
| 2. 十分とはいえないが、一応満足している | 5. 極めて不満だ |
| 3. ふつう | 6. わからない |

問10. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. ずっと住み続けたい | 4. 引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば引っ越したい | |

問10-2. **問10で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)**に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くにない |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしい | 13. その他 [] |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

問11. **皆さんに伺います。**あなたは越谷市に住み暮らすことを知人等にどのくらい勧めたいですか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 大いに勧めたい | 4. どちらかという勧めたくない |
| 2. 勧めたい | 5. 勧めたくない |
| 3. どちらかという勧めたい | 6. 分からない |

越谷市への愛着度と魅力発信についておたずねします。

問 12. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(○は1つ)

1. とても愛着がある	4. 愛着がない
2. 愛着がある	5. どちらともいえない
3. やや愛着がある	

問 12-2. 問 12 で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(複数回答可)

1. 交通の利便性がよく、都内等に近い	6. おいしい食事がある
2. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されて	7. 地域の特産品(土産品)がある
3. ショッピング施設や商店街が豊富	8. 誇れる産業(企業)がある
4. イベント、祭り、伝統芸能が豊富	9. 誇れる著名人がいる
5. 歴史的建造物や誇れる街並みがある	10. その他 []

問 13. 皆さんに伺います。越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

1. イオンレイクタウン	8. 日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館
2. 田んぼアート	「こしがや能楽堂」
3. 越谷花火大会	9. 日光街道宿場町としての蔵のある街並み
4. 南越谷阿波踊り	10. だるまやせんべい等の伝統的手工芸品
5. 5本の1級河川等による水辺空間	11. こしがや鴨ねぎ鍋
6. イチゴ狩り	12. 宮内庁埼玉鴨場
7. 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物	13. その他 []

越谷市の伝統的手工芸品についておたずねします。

問 14. 越谷市には以下のような伝統的手工芸品があることを知っていますか。また、以下の伝統的手工芸品のうち、買ったことがあるものはありますか。

(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)	買ったことがある	知っているが買ったことはない	知らない
ア 越谷手焼きせんべい	1	2	3
イ 越谷だるま	1	2	3
ウ 越谷ひな人形	1	2	3
エ 越谷甲冑	1	2	3
オ 越谷桐箱・桐工芸品	1	2	3

問 15. 今後、越谷市伝統的手工芸品についてどのような取組みを期待しますか。(複数回答可)

1. 各種イベントへの参加	5. 技術の継承(後継者の育成)
2. 見学・体験などの受入れ	6. デザイン性に優れた新商品の開発
3. PRパンフレットの作成	7. 物販店舗の増加
4. WEBサイトのPR	8. その他 []

地域医療体制についておたずねします。

問 20. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度^{※1}・埼玉県救急電話相談^{※2}（#7119）・埼玉県A I 救急相談^{※3}」を知っていますか。

(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)	利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない
	ア 越谷市夜間急患診療所	1	2
イ 休日当番医制度	1	2	3
ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）	1	2	3
エ 埼玉県A I 救急相談	1	2	3

※1 休日当番医制度：祝日や年末年始に、病院・診療所・歯科診療所が交代で診療を行っている制度

※2 埼玉県救急電話相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性についての電話相談ができる制度

※3 埼玉県A I 救急相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性について、チャット形式で相談した内容をもとに、A I（人工知能）がアドバイスする制度

問 21. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(複数回答可)

1. 広報こしがや「お知らせ版」	6. インターネットで調べる (越谷市・埼玉県公式ホームページを除く)
2. 市民ガイドブック	7. 埼玉県救急電話相談（#7119）
3. 越谷市公式ホームページ	8. 埼玉県A I 救急相談
4. 越谷市発行のチラシ (「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」)	9. 消防署に問い合わせ
5. 埼玉県公式ホームページ (医療機能情報提供システムを含む)	10. 医療機関に問い合わせ
	11. 知人・友人等に聞く
	12. その他 []

問 22. あなたは、夜間や休日に発熱や腹痛等、比較的軽度と思われる症状になったとき、どのように対応しますか。(複数回答可)

1. 「かかりつけ医」を利用する
2. 休日当番医を利用する
3. 越谷市夜間急患診療所を利用する
4. 埼玉県救急電話相談（#7119）で受診の必要性を確認する
5. 埼玉県A I 救急相談で受診の必要性を確認する
6. 受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する
7. 可能な限り翌日まで我慢する
8. 救急車を呼ぶ
9. その他 []

人権全般に関する意識についておたずねします。

問 23. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。
(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問 24. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問 25. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 9. 刑を終えて出所した人々の人権問題 |
| 2. 子どもの人権問題 | 10. 犯罪被害者やその家族の人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 11. インターネット上における人権問題 |
| 4. 障がい者の人権問題 | 12. 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 5. 同和問題 | 13. ホームレスの人々の人権問題 |
| 6. アイヌ民族の人権問題 | 14. L G B Tなど性的少数者の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題 |
| 8. エイズやハンセン病等感染症患者の
人権問題 | 16. その他 [] |

問 26. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人々の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

問 26-2. 問 26 で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(複数回答可)

- | |
|--|
| 1. あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた |
| 2. 人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた |
| 3. 職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた |
| 4. プライバシーを侵害された |
| 5. 性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた |
| 6. 特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為） |
| 7. 配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受 |
| 8. その他 [] |

男女共同参画についておたずねします。

問 27. 次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。

(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)	平等になっている	平等になっていない	どちらともいえない	わからない
	ア 家庭の中で	1	2	3
イ 教育の中で	1	2	3	4
ウ 職場の中で	1	2	3	4
エ 社会通念や風潮において	1	2	3	4
オ 法律や制度上で	1	2	3	4

問 28. 仕事、家事・育児・介護、地域活動、学習、娯楽など、1つの生活の中で行うさまざまな活動について、あなたは概ね自分が希望するとおりの配分で時間を使えていると思いますか。

(○は1つ)

1. そう思う	3. どちらかといえばそう思わない
2. どちらかといえばそう思う	4. そう思わない

問 29. LGBTなどの性的少数者の人たちが、暮らしやすい生活ができるように、どのような取り組みが必要ですか。(○は2つまで)

※ LGBT…L：レズビアン（女性の同性愛者）、G：ゲイ（男性の同性愛者）、
B：バイセクシュアル（両性愛者）、T：トランスジェンダー（性的違和感を持つ方）

1. 市民向けの啓発（情報誌、講座など） 2. 学校教育の充実 3. 法令の制定や制度の見直し 4. 性的少数者についての電話や面接相談 5. 性的少数者の人たちが集える場 6. その他 [] 7. 特になし

問 30. 越谷市には、男女共同参画を推進する拠点施設として「男女共同参画支援センター（ほつと越谷）」があります。あなたは、男女共同参画施設が今後どのような内容に特に力を入れる必要があると思いますか。次の中から**2つまで**選んでください。

1. いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場 2. 情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業 3. 相談事業 4. 男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催 5. 図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供 6. 相互交流の援助など市民・団体活動の支援 7. 男性向けの講座 8. その他 [] 9. 特になし
--

自殺防止についておたずねします。

問 31. あなたはこれまでに自殺（自死）したいと考えたことがありますか。 (○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 31-2. 問 31 で「1. はい」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。 (複数回答可)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 健康問題 | 5. 恋愛問題 |
| 2. 仕事問題 | 6. 学校問題 |
| 3. 家庭問題 | 7. その他 [] |
| 4. 経済・生活問題 | |

問 32. もしあなたが自殺（自死）について悩んだとき、だれに相談しますか。 (○は1つ)

- | | | |
|---------|--------|-----------------|
| 1. 配偶者 | 5. 子ども | 9. いのちの電話 |
| 2. 親 | 6. 友人 | 10. 市役所 |
| 3. 兄弟姉妹 | 7. 警察 | 11. 誰にも相談しないと思う |
| 4. 祖父母 | 8. 消防 | 12. その他 [] |

問 33. 市に自殺（自死）に関する相談窓口があることを知っていますか。 (○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 34. 自殺防止に最も効果的な対策は次のどれだと思いますか。 (○は1つ)

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する | 5. 街頭キャンペーン等による普及啓発 |
| 2. 就労に関する支援 | 6. 広報、インターネットによる普及啓発 |
| 3. 健康や病気に関する相談 | 7. その他 |
| 4. 講演会、研修会等による正しい知識の普及啓 | [] |

自治基本条例についておたずねします。

問 35. あなたは市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」

を知っていますか。 (○は1つ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがある |
| 2. まあまあ知っている | 4. 知らない |

問 35-2. 問 35 で「1」から「3」（知っている、聞いたことがある）と答えた方に伺います。

「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り（聞き）ましたか。 (複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 広報こしがや | 7. 自治会やコミュニティ推進協議会を通じて |
| 2. 越谷市公式ホームページ | 8. 市民活動団体やボランティア団体を通じて |
| 3. 越谷市携帯サイト | 9. 自治基本条例関連のイベント |
| 4. 越谷 city メール配信サービス | (講演会、パネル展示等) |
| 5. パンフレット等の啓発物 | 10. その他 [] |
| 6. 友人・知人 | |

問 36. 市政に参加する方法のうち、あなたが関心のあるものは次のうちどれですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1. アンケート | 5. 審議会等への参加 |
| 2. パブリックコメント（意見公募手続） | 6. その他 [] |
| 3. ワークショップ* | 7. 関心がない |
| 4. 議会の傍聴 | |

※ワークショップ：いろいろな人たちが意見を持ち寄り、学習して、ものごとをつくりあげていく場

問 37. 関心のあるまちづくりの分野を教えてください。(複数回答可)

- | |
|--|
| 1. 暮らしの安全・安心に関する事（防災、防犯、消防、消費生活など） |
| 2. 福祉に関する事（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など） |
| 3. 環境に関する事（ごみ問題、自然環境など） |
| 4. 健康づくりや医療に関する事（地域医療、予防医療、保健など） |
| 5. コミュニティ活動に関する事（地域活動、市民活動、ボランティア活動など） |
| 6. 子育てや教育に関する事（子育て、学校教育、青少年教育など） |
| 7. 都市の開発や整備に関する事（都市計画、都市施設、住宅など） |
| 8. 文化やスポーツ・レクリエーションに関する事
（歴史、文化、スポーツ・レクリエーション、生涯学習など） |
| 9. 地域経済に関する事（産業振興、観光、農業、雇用など） |
| 10. 人権や平和に関する事（人権、男女共同参画、多文化共生、平和など） |
| 11. その他 [] |
| 12. 関心がない |

問 38. 越谷市のまちづくりのために、あなた自身ができることがあるとすれば、次のどれですか。

(複数回答可)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する |
| 2. 町内会・自治会の会員（役員）として活動する |
| 3. ボランティア活動に参加する |
| 4. NPO法人などの市民活動団体のスタッフとして活動する |
| 5. 民生委員・児童委員として活動する |
| 6. PTA・保護者会の会員（役員）として活動する |
| 7. 市の審議会等の委員として活動する |
| 8. NPO法人などの市民活動団体への経済的支援（寄附など）を行う |
| 9. その他 [] |
| 10. できることはない |

多文化共生のまちづくりについておたずねします。

問 39. あなたは近くに住む外国人市民とどのようなつき合いがありますか（外国人市民の方は、日本人市民とのつき合いについてお答えください）。（〇は1つ）

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 親しくつきあっている | 4. 近くに住んでいない、または近くに |
| 2. あいさつをする程度のつきあいがある | 住んでいるかどうかわからない |
| 3. 近くに住んでいるが、つきあいはない | 5. その他〔 |
| | 〕 |

問 40. あなたは今までに、近くに住む外国人市民との関係で困った経験はありますか。
（外国人市民の方は、日本人市民との経験についてお答えください）。（複数回答可）

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 家・部屋からの声・物音 | 5. 地域活動 |
| 2. ことばの行き違い | 6. その他〔 |
| 3. ごみの出し方 | 7. 特になし |
| 4. 駐車・駐輪・交通マナー | 〕 |

問 41. あなたは「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。（〇は1つ）

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1. 聞いたことがあります、意味も理解している | 3. 聞いたことがない |
| 2. 聞いたことはあるが、意味はよく知らない | |

問 42. 外国人市民と日本人市民が共に暮らしやすい「多文化共生のまち」づくりのために、市が力を入れるべきだと思うことは何ですか。（複数回答可）

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1. 外国人市民に対して、日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる | 5. 外国人と日本人の交流やイベントを行う |
| 2. 日本人市民に対して、諸外国の文化や生活情報を紹介する | 6. NPO やボランティアの育成と支援を行う |
| 3. 外国人市民に対して、日本語の学習を支援する | 7. 外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う |
| 4. 日本人市民に対して、多様な言語の学習を支援する | 8. 多文化共生施策は、必要ない |
| | 9. その他〔 |
| | 〕 |

スポーツ・レクリエーションの実施状況についておたずねします。

問 45. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか（ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます）。(○は1つ)

1. 週に3回以上	4. 3か月に1～2回程度
2. 週に1～2回程度	5. 年に1～3回程度
3. 月に1～3回程度	6. 行っていない -----▶ 問 45-4 へ

問 45-2. 問 45 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 気分転換・気晴らし	7. 試合や大会に参加したいから
2. 運動不足解消	8. 学校のサークル活動等で行っているから
3. 美容、肥満解消	9. スポーツ教室や講座に参加しているから
4. 家族のふれあい	10. その他〔
5. 友人との交流	11. 特に理由はない
6. 健康、体力維持・増進	〕

問 45-3. 問 45 で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

1. 疲れにくくなった	7. 血圧が下がった
2. 冷え症が改善した	8. 食欲が出た
3. よく眠れるようになった	9. 便秘が解消した
4. 運動不足が解消した	10. 健康への効果は感じられなかった
5. 通院回数が減った	11. その他〔
6. 適正体重に（近く）なった	〕

問 45-4. 問 45 で「6」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから	6. 年をとったから
2. 費用がかかるから	7. スポーツ・レクリエーションが好き
3. 身近に適当な場所や施設がないから	でない（興味がない）から
4. 健康上の理由から	8. その他〔
5. 一緒に行く相手、指導者等がないから	9. 特に理由はない
	〕

問 46. **皆さんに伺います。**今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。**(複数回答可)**

比較的軽いスポーツ	野外活動	競技的スポーツ
1. 軽い体操	1. スキー・スノーボード	1. 陸上競技
2. 軽い球技 (キャッチボール等)	2. 海水浴	2. 水泳競技
3. ウォーキング	3. スケート	3. 野球・ソフトボール
4. ジョギング	4. 登山	4. サッカー
5. ゲートボール・グラウンドゴルフ	5. キャンプ (オートキャンプを含む)	5. バレーボール
6. ボウリング	6. ハイキング	6. バスケットボール
7. プールを利用した運動	7. サイクリング	7. バドミントン
8. ダンス	8. ゴルフ	8. テニス
9. 室内運動器具を使って行う運動	9. 釣り	9. 卓球
10. その他 []	10. その他 []	10. 柔道、剣道、空手、相撲
11. 特になし	11. 特になし	11. ボクシング、レスリング
		12. 弓道、アーチェリー
		13. その他 []
		14. 特になし

越谷市の施策についておたずねします。

問 51. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中から**それぞれ5つまで**選び、下の□内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					



- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1. 青少年の健全育成 | 21. ごみ・し尿の処理対策 |
| 2. 防犯対策 | 22. 公営住宅の整備などの住宅対策 |
| 3. 交通安全対策 | 23. 水害や地震などの災害対策 |
| 4. 消費者の保護対策 | 24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策 |
| 5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進 | 25. 工業の振興対策 |
| 6. 国際交流 | 26. 商業の振興対策 |
| 7. 生活習慣病などの保健衛生対策 | 27. 農業の振興対策 |
| 8. 地域医療や救急医療体制の整備 | 28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策 |
| 9. 児童福祉の充実 | 29. 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 |
| 10. 障がい者(児)福祉の充実 | 30. 生涯学習(公民館活動等)の充実 |
| 11. 高齢者福祉の充実 | 31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備 |
| 12. 介護保険の充実 | 32. スポーツ・レクリエーションの振興と施設の整備 |
| 13. 駅周辺の整備 | 33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動の充実 |
| 14. 土地区画整理事業などの市街地整備 | 34. 上水道の整備 |
| 15. 生活道路や都市計画道路の整備 | 35. その他 [] |
| 16. 道路の維持管理状況 | 36. 特になし |
| 17. バス路線等公共交通網の充実 | |
| 18. 公園や緑地の整備 | |
| 19. 下水道(公共下水道や排水路)の整備 | |
| 20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全 | |

問 52. **問 51 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」**について、どのような対応(対策)を

望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて **7月3日(金)**までにご投函ください。

令和2年度 市政世論調査結果報告書

発行年月： 令和2年11月

発行： 越谷市 市長公室 広報広聴課
〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
電話 048(963)9117 (直通)

調査実施： 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052 さいたま市浦和区本太2-2-36
SUNCREST 302
電話 048(887)3790

